閲覧用

平成31年 3月定例会（
3月 1日 開会
3月22日 閉会

飯綱町議会 会議録

平成31年3月飯綱町議会定例会 会議録目次

○招集告示	1
○応招・不応招議員	2
第 1 号 (3月 1日)	
○議事日程	3
○本日の会議に付した事件	5
○出席議員	5
○欠席議員	5
○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名	5
○事務局職員出席者	6
○開会及び開議の宣告	7
○町長あいさつ	7
○会議録署名議員の指名	13
○会期の決定	14
○諸般の報告、質疑	15
○議案第1号の上程、説明、質疑、討論、採決	20
○議案第2号の上程、説明、質疑、付託	21
○議案第3号から議案第7号の一括上程、説明、質疑、付託	24
○議案第8号の上程、説明、付託	30
○議案第9号から議案第14号の一括上程、説明	33
○議案第15号から議案第25号の一括上程、説明	36
○議案第26号から議案第27号の一括上程、説明、質疑、討論、採決	51
○諮問第1号の上程、説明、質疑、討論、採決	53

○請願の付託	55
○陳情の付託	55
○散会の宣告	55

第 2 号 (3 月 4 日)

○議事日程	56
○本日の会議に付した事件	56
○出席議員	56
○欠席議員	57
○地方自治法第 1 2 1 条の規定により説明のため出席した者の職氏名	57
○事務局職員出席者	57
○開議の宣告	58
○議案第 1 5 号の質疑、付託	58
○議案第 1 6 号の質疑、付託	132
○議案第 1 7 号の質疑、付託	133
○議案第 1 8 号の質疑、付託	133
○議案第 1 9 号の質疑、付託	135
○議案第 2 0 号の質疑、付託	136
○議案第 2 1 号の質疑、付託	136
○議案第 2 2 号の質疑、付託	137
○議案第 2 3 号の質疑、付託	137
○議案第 2 4 号の質疑、付託	138
○議案第 2 5 号の質疑、付託	139
○散会の宣告	140

第 3 号 (3 月 6 日)

○議事日程	141
○本日の会議に付した事件	141
○出席議員	141
○欠席議員	141
○地方自治法第 1 2 1 条の規定により説明のため出席した者の職氏名	141
○事務局職員出席者	142
○一般質問一覧表	143
○開議の宣告	144
○一般質問	
原 田 幸 長	144
原 田 重 美	163
青 山 弘	179
風 間 行 男	197
渡 邊 千 賀 雄	215
○散会の宣告	229

第 4 号 (3 月 7 日)

○議事日程	230
○本日の会議に付した事件	230
○出席議員	230
○欠席議員	230
○地方自治法第 1 2 1 条の規定により説明のため出席した者の職氏名	230
○事務局職員出席者	231
○開議の宣告	232

○一般質問	
伊藤 まゆみ	232
瀧野 良枝	244
清水 均	266
○散会の宣告	284

第 5 号 (3月22日)

○議事日程	285
○本日の会議に付した事件	286
○出席議員	286
○欠席議員	286
○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名	286
○事務局職員出席者	287
○開議の宣告	288
○諸般の報告	288
○常任委員会審査報告、質疑	288
○常任委員会付託案件に対する討論、採決	300
○議案第9号の質疑、討論、採決	324
○議案第10号の質疑、討論、採決	325
○議案第11号の質疑、討論、採決	326
○議案第12号の質疑、討論、採決	327
○議案第13号の質疑、討論、採決	328
○議案第14号の質疑、討論、採決	328
○議案第28号の上程、説明、質疑、討論、採決	329
○議案第29号の上程、説明、質疑、討論、採決	333

○議案第30号の上程、説明、質疑、討論、採決	325
○発議第1号の上程、説明、質疑、討論、採決	339
○発議第2号の上程、説明、質疑、討論、採決	340
○議員派遣の件	342
○閉会中の継続審査・継続調査の申し出について	343
○町長あいさつ	343
○閉議及び閉会の宣告	345
○予算決算常任委員会 審査報告書	346
○総務産業常任委員会 審査報告書	348
○福祉文教常任委員会 審査報告書	356
○会議録署名	362

飯綱町告示第14号

平成31年3月飯綱町議会定例会を、次のとおり招集する。

平成31年 2月22日

飯綱町長 峯村 勝盛

1 期 日 平成31年 3月 1日

2 場 所 飯綱町役場 議場

○応招・不応招議員

応招議員（15名）

1番	清 水 均	2番	風 間 行 男
3番	中 島 和 子	4番	目 須 田 修
5番	瀧 野 良 枝	6番	原 田 幸 長
7番	石 川 信 雄	8番	荒 川 詔 夫
9番	伊 藤 まゆみ	10番	青 山 弘
11番	樋 口 功	12番	渡 邊 千賀雄
13番	原 田 重 美	14番	大 川 憲 明
15番	清 水 満		

不応招議員（なし）

平成31年3月飯綱町議会定例会

(第 1 号)

平成31年3月飯綱町議会定例会

議事日程（第1号）

平成31年3月1日（金曜日）午前10時開会

町長あいさつ

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 会期の決定

日程第 3 諸般の報告

報告第 1号 損害賠償の額の決定についての専決処分の報告について

日程第 4 議案第 1号 北部衛生施設組合理約の変更について

日程第 5 議案第 2号 新町建設計画の変更について

日程第 6 議案第 3号 飯綱町牟礼駅前広場条例

日程第 7 議案第 4号 飯綱町駐車場条例の一部を改正する条例

日程第 8 議案第 5号 飯綱町国民健康保険税条例の一部を改正する条例

日程第 9 議案第 6号 飯綱町社会体育等施設条例の一部を改正する条例

日程第10 議案第 7号 飯綱町給水条例の一部を改正する条例

日程第11 議案第 8号 平成30年度飯綱町一般会計補正予算（第8号）

日程第12 議案第 9号 平成30年度飯綱町からまつの丘地区汚水処理場管理事業特別会計
補正予算（第1号）

日程第13 議案第10号 平成30年度飯綱町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）

日程第14 議案第11号 平成30年度飯綱町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）

日程第15 議案第12号 平成30年度飯綱町介護保険事業特別会計補正予算（第3号）

日程第16 議案第13号 平成30年度飯綱町飯綱公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）

日程第17 議案第14号 平成30年度飯綱町スキー場事業特別会計補正予算（第3号）

日程第18 議案第15号 平成31年度飯綱町一般会計予算

- 日程第 19 議案第 16 号 平成 31 年度飯綱町からまつの丘地区汚水処理場管理事業特別会計
予算
- 日程第 20 議案第 17 号 平成 31 年度飯綱町訪問看護ステーション特別会計予算」
- 日程第 21 議案第 18 号 平成 31 年度飯綱町国民健康保険事業特別会計予算
- 日程第 22 議案第 19 号 平成 31 年度飯綱町後期高齢者医療特別会計予算
- 日程第 23 議案第 20 号 平成 31 年度飯綱町介護保険事業特別会計予算
- 日程第 24 議案第 21 号 平成 31 年度飯綱町農業集落排水事業特別会計予算
- 日程第 25 議案第 22 号 平成 31 年度飯綱町飯綱公共下水道事業特別会計予算
- 日程第 26 議案第 23 号 平成 31 年度飯綱町住宅地造成事業特別会計予算
- 日程第 27 議案第 24 号 平成 31 年度飯綱町水道事業会計予算
- 日程第 28 議案第 25 号 平成 31 年度飯綱町病院事業会計予算
- 日程第 29 議案第 26 号 町道路線の廃止について
- 日程第 30 議案第 27 号 町道路線の認定について
- 日程第 31 諮問第 1 号 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて
- 日程第 32 請願
- 請願第 1 号 政府に対し「消費税増税中止を求める意見書」の提出を求める請願
- 請願第 2 号 75 歳以上の医療費負担の原則 2 割化に反対する意見書採択につい
ての請願
- 日程第 33 陳情
- 陳情第 1 号 全国知事会の「米軍基地負担に関する提言」の主旨に基づいて、地
方自治の根幹を脅かす日米地位協定の見直しを国に求める意見者を
提出する事を求める
- 陳情第 2 号 奥山等のスギ・ヒノキ放置人工林を、森林環境譲与税（仮称）で順次計
画的に皆伐を進め、天然林に戻すことを求める陳情書
- 陳情第 3 号 「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求め

る陳情

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（15名）

1番	清水均	2番	風間行男
3番	中島和子	4番	目須田修
5番	瀧野良枝	6番	原田幸長
7番	石川信雄	8番	荒川詔夫
9番	伊藤まゆみ	10番	青山弘
11番	樋口功	12番	渡邊千賀雄
13番	原田重美	14番	大川憲明
15番	清水満		

欠席議員（なし）

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町長	峯村勝盛	副町長	合津俊雄
教育長	馬島敦子	監査委員	山本孝利
農業委員会長	清水藤一	選挙管理委員長	三ツ井吉次
総務課長	原章胤	企画課長	徳永裕二
税務会計課長	馬島豊	住民環境課長	梨本克裕
保健福祉課長	山浦克彦	産業観光課長	土屋龍彦
建設水道課長	森佳也	教育次長	桜井俊次
飯綱病院事務長	大川和彦	総務課長補佐	高橋秀一

総務課財政係長 藤 澤 茂 行

事務局職員出席者

事 務 局 長 高 橋 吉 人 事 務 局 書 記 荒 井 智 雄

開会 午前10時00分

◎開会及び開議の宣告

○議長（清水満） 皆さんおはようございます。

議員の皆さん、議会基本条例に基づき、議会の最重要事項でございます政策サポーター会議、15名のサポーターさんと夜遅くまでの政策づくり、大変ご苦労様です。

理事者の皆さん、また職員の皆さん、平成30年度事業の追い込み、更には31年度事業計画づくり、大変ご苦労様でした。

議会も町部局も住民福祉向上に力を合わせ、更なるご努力を期待しております。

ただいまの出席議員は全員であります。

これより平成31年3月飯綱町議会定例会を開会いたします。

◎町長あいさつ

○議長（清水満） 峯村町長より発言を求められておりますので、これを許可いたします。

峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 平成31年3月飯綱町議会定例会の開会に当たりましてご挨拶申し上げます。

議員各位におかれましては、3月定例議会を招集いたしましたところ何かとご多用の中、定刻どおりにご参集いただきまして厚く御礼申し上げます。

今年は、平坦地では比較的雪の少ないシーズンであったと感じております。スキー場周辺では例年並みの降雪があり、水不足の心配はないように思っておりますが、雪解けが早すぎて凍霜害等の発生を危惧しているところであります。

また、昨年譲渡いたしましたいいづなリゾートスキー場は、スノーマシンを増設するなど、雪の確保を図り順調に運営しているとのことであります。4月にはゴルフ場も新しい経営者により運営されていきます。飯綱東高原の新しいイメージ創り、新たな誘客、新たな施設整備に

期待を寄せているところであります。

さて、今3月議会にご提案申し上げます案件は、報告1件、条例関係等で6件、一般会計補正予算など補正予算関係で7件、新年度予算関係で11件、人権擁護委員の諮問で1件、その他3件の計29件でございます。その内の主なものにつきまして、関係施策、予算等についてご説明いたします。

まず、新年度予算について申し上げます。一般会計予算は総額を86億4,000万円とし、前年対比で9億7,000万円の増額といたしました。

昨年から継続しております役場庁舎の建設、地方創生交付金を活用した小学校の跡地利用に伴うハード事業の実施、福井団地入口の三本松地籍における道の駅的な機能を備えた直売所の建設、防災無線のデジタル化、原田地区における若者定住住宅の建設などが主な要因となっております。過去に無い大型の当初予算であり、今後の財政運営を見通した中での対応が必要と考えております。

今後の起債の償還計画など財政運営についてまず申し上げます。平成17年に合併いたしましたが、合併当初の起債残額は250億円程、基金は20億円程でありました。起債と基金の差額は230億円程でありました。平成31年度末においては、起債の総額を156億7,000万円、基金の総額を43億6,000万円、それぞれ見込んでおります。起債と基金の差額は113億1,000万円あります。合併して14年目を迎えておりますが、毎年7億5,000万円程の償還を行ってきた訳ですが、今後においても減債基金の繰入れ等により計画に基づいて償還していくことにしております。保育園や中学校を新築する中においても、申し上げましたような財政の健全化を図ってきたこととなります。財政面におきましても、合併効果というものが数字として表れていると思っております。

今後の財政健全化については、庁舎などの大きな事業が終了してくること、スキー場等の問題が解決したこと、起債の中身においても交付税措置率の高い起債が主体であること等を踏まえ、益々好転していくと考えております。

不安材料としては、大幅な人口減少に伴う税収及び交付税の減額であります。人口減少を抑

制し、農業を中心とした産業の振興等により税収の確保に努めてまいります。

それでは歳出の主なものについて申し上げます。

総務費では、庁舎建設で新築工事費 4 億 2,807 万 5,000 円など、関係費用を計上いたしました。本体は 2 年程度で竣工させたいと考えております。

防災無線のデジタル化は法律に基づき行うもので、平成 31 年度から 2 カ年で実施いたします。31 年度は 3 億 5,200 万円の工事費を計上しております。

飯綱町の大きな財産として豊かな自然環境や景観があります。これをどう守るか、議会からも要望されております景観条例の制定等も含め検討してまいりました。景観を守り維持していくためには、住民の皆さんの理解や協力が不可欠であります。そのために住民の皆さんとともに景観計画を策定することとし、そのための費用 720 万円を計上いたしました。

交通対策として、i バス I C カードを導入して、利用者の利便性を向上させることといたしました。長野市との連携中核事業の一環として取り組むわけですが、利用者増につながってほしいと望んでおります。他にも、例えば赤塩から西地区までとか、町内の拠点間を巡回するバスの運行試験やデマンドバス料金の値下げなど、いろいろな対応策を講じていく計画であり、そのための費用も計上しております。

企画費においては、旧三水第二小学校を拠点とした、しごとの創業関連で 1 億 5,000 万円程、旧牟礼西小学校を中心とした自然の中の暮らし魅力創造発信関連で 1 億 900 万円程を計上いたしました。小学校の跡地利用を目指したものでありますが、いずれも地方創生推進交付金を受けて実施するものであり、地域の活性化など大きな成果に結びついてほしいと願っております。なお、旧西小学校のグラウンドにつきましては、サッカーくじ t o t o の補助を予定する中で、人工芝にする計画であります。長野パルセイロと包括連携協定を結び、ジュニア中心のグラウンドとして活用していく計画です。細部については今後パルセイロと詰めていきますが、地元の子供たちの利用、またその他のスポーツの利用、ジュニアの大会等の開催に伴う地域の活性化など、幅広い効果が出るよう利用方法など十分検討してまいります。

衛生費におきましては、長野広域連合、北信保健衛生施設組合、北部衛生施設組合の負担金

は、それぞれ関係の施設建設が完成または一部の業務を終了したこと等により、前年を下回る額となっております。

民生費におきましては、社会福祉法人等の支援において、飯綱町社会福祉協議会へは前年を上回る 2,600 万円程を計上しております。地域福祉の推進など、増大する社会福祉協議会の役割に対応したものであります。また、社会福祉法人林檎の里が塩ノ入地区に建設する施設補助として 500 万円計上しております。国庫補助事業として実施される事業ですが、全体の事業費は 5,000 万円程と伺っております。

高齢者、65 歳以上への助成になりますが、自動車の自動ブレーキに対する補助として 150 万円計上いたしました。県警からも要望をいただいたものですが、高齢者の交通事故原因として、ブレーキとアクセルの踏み間違いは依然として高い比率のようであります。飯綱町の高齢者の運転免許所持率、また自動車の保有率は県下でも非常に高い水準にあります。自動ブレーキは新車購入時に合わせ補助するものですが、6 万円程高くなるということであり、その半額の 3 万円を補助するものであります。当面 2 年間の補助を考えておりますが、新年度は 50 台分を予算計上いたしました。

同じく民生費の補助で、昨年要望をいただきました人工透析患者通院費の支援であります、52 万円を計上いたしました。人工透析以外で通院が多くなる患者への対応や助成額等については、今後検討していきたいと思っております。

次に、衛生費の保健衛生費であります、一般質問でも何回かご提案がありました、休日におけるガン検診を実施するための費用、インフルエンザ予防接種の助成を高校生まで拡大する費用、おたふくかぜ一部助成、風しん抗体検査、定期接種委託などの関係費用を計上いたしました。

農業費につきましては、農業振興費として葯採取機購入補助と貯蔵料補助で 83 万 6,000 円を計上いたしました。春先の花粉づけは極めて大切な作業であるとの判断から実施するものであります。実施時期がとても短い期間であることから、作業員の確保など課題もありますが、日本一のりんごの町を目指す一環として考えております。

世界に誇る力強い産業基盤の確立という中で、新規事業として信州大学工学部、長野県立大学と連携した機能性食品開発やGAP取得団体等への支援で216万4,000円、農業拠点施設整備として、三本松周辺に道の駅的な農産物直売所を建設することにいたしました。現在ムーちゃんという直売所のある一帯になりますが、大きな面積をご協力いただけることになりましたので、4、5年の事業として各種の施設等をニーズに応じて整備していきたいと考えております。新年度は直売所の建設関係として、1億4,093万円を計上しております。

農地費では、倉井用水、普光寺用水の取入れの自動化など、防災減災三水地区基本計画を作成しますが、そのための費用700万円を計上いたしました。

林業関係では、新年度から森林環境譲与税が交付されますが、これを財源として実施する境界確認など、関係費用260万円を計上しております。なお、森林環境税は年額1人1,000円を平成36年度から課税されることになっております。

商工費におきまして、新たに仕事を始める創業支援として100万円を計上いたしました。100万円を上限として補助するものですが、要望数に応じた予算対応を考えております。

観光費で損失補償費を1,295万円計上しております。飯綱ゴルフコースを平成30年度に譲渡いたしました。それに伴う株式会社オーガニックリゾートへの損失補償であります。契約がもう1年残っているものを、ご協力をいただく中でスキー場を含め解決できたわけであり。算出根拠は今までの利益実績額の平均額といたしました。

土木費では、町単工事予算を昨年並みに確保し、できるだけ地元の要望に応えるよう対応しております。また、新規の道路工事としては夏川地区、坂上地区、山崎線、風坂汐水線、倉井でございますが予定しております。

人口増対策の一環として、東黒川原田地区に若者定住住宅の建設に着手いたします。土地を造成して5軒分に分譲と賃貸住宅として1棟2世帯の住宅5棟の建設を行うものであります。いずれの工事も長野県住宅供給公社に委託して実施するものであります。予算上の形としては、出来上がった物件を住宅供給公社から買い上げる方式となっており、公有財産取得としております。平成31年度は、敷地造成及び住宅2棟の建設等で1億4,208万円計上しております。

教育費におきましては、平成 30 年度に補正計上いたしました小学校と中学校のエアコン工事が平成 31 年度に実施されます。多くの市町村で一斉に工事が発注されますので、機器の確保や工期等が懸念される面もありますが、できるだけ今期の夏から利用できるよう努力したいと思っております。保育園や児童館におきましても、暑さ対策について個々の事情に応じた予算計上を行い、対応しておりますのでお含みいただきたいと思えます。

保健体育総務費として、マレットゴルフ場の建設費用 1,775 万 2,000 円を計上いたしました。長年要望されていた事業を予算化したものですが、利用しやすいふれあいパークに建設することにいたしました。大会等を誘致できる 36 ホールの規模となっております。

最後に 10 月からは消費税が 10 パーセントに引き上げられます。予算計上におきましては、それを見込んだ計算をしております。また、消費税引き上げに伴い、幼児教育の無償化が実施されますが、保護者にとりましては歓迎されることであり、適切な事務処理を進めて対応していきたいと思っております。ただ、公立の保育園においては、保護者が負担していた分はその自治体が負担する内容となっております。消費税を財源として相応の財源を配分してくれると考えておりますが、不確定な点もあり今後注視していきたいと考えております。

特別会計について申し上げます。スキー場事業会計が平成 30 年度で廃止になりますので、8 会計となり、総額では 37 億 5,476 万 3,000 円となっております。

公共下水道会計において、農業集落排水事業で実施しております袖之山処理場と牟礼西部処理場を公共下水道へつなぎこむ、管渠工事やマンホールポンプ設置などを実施するために 3 億円の工事費を計上しております。農業集落排水事業を公共下水道事業に集約するための工事であり、国庫補助事業として進めていきますが、完成には 2 年程掛かると予想しております。

その他の会計ですが、国民健康保険事業、介護保険事業など、各会計とも歳入、歳出とも大きな変動もなく前年並みの予算計上となっております。

企業会計ですが、病院事業会計はここ数年極めて堅実な経営内容となっており、院長をはじめとした関係スタッフの努力が数字に表れており評価しております。平成 31 年度では、医師の確保など体制の強化、充実を図る中で更なる健全経営を目指していく方針であります。

水道事業会計は、給水人口等の減少など経営環境には厳しいものがあります。一般会計からの支援は引き続き継続していく考えであります。今年10月からの消費税のアップも控えており、水道料金の値上げをどうしていくか検討していく計画になっております。水道水源をどうするかという大きな問題もありますが、水道は生活には極めて重要なインフラであり、将来のあるべき姿を構築する中で慎重な対応をしていく所存であります。

平成30年度一般会計補正予算（第8号）ですが、総額で3億6,581万3,000千円の減額であります。庁舎建設を31年度に延ばし、工事費3億3,560万6,000円を減額したことが主な原因であります。

その他で小学校の冷房装置関係費用でキュービクル設置が必要となり、3,584万円計上しております。

スキー場事業会計で国等へ支払います借料ですが、譲渡した後の借料は会社に払っていただいておりますが、それまでの賃借料は町が支払うこととなります。その関係費用を計上いたしました。

条例関係ですが、牟礼駅前に整備しております駅前広場や駐車場に関する条例で2件、国民健康保険税条例における課税の限度額や軽減の所得基準を変更するものなど、組合規約の変更1件、条例5件を提案しております。

その他としまして、新町建設計画の変更、町道の廃止、認定など3件、人事案件として人権擁護委員の推薦に関しまして1件上程しております。

なお、最終日に契約関係で2件追加提案申し上げる予定にしておりますので、お含みいただきたいと存じます。

以上、主なものにつきましてご説明申し上げましたが、いずれの案件につきましても十分にご審議をいただき原案どおりのご決定いただきますよう、お願い申し上げます。開会の挨拶といたします。

◎会議録署名議員の指名

○議長（清水満） これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程はお手元に配布のとおりであります。

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は会議規則第119条の規定によって、6番、原田幸長議員、7番、石川信雄議員、8番、荒川詔夫議員を指名します。

◎会期の決定

○議長（清水満） 日程第2、会期の決定を議題とします。

本定例会の会期等について、議会運営委員長の報告を求めます。原田議会運営委員長。

〔議会運営委員長 原田重美 登壇〕

○議会運営委員長（原田重美） 13番、原田重美でございます。

本日招集されました平成31年3月飯綱町議会定例会の会期及び日程につきまして、説明申し上げます。

2月22日、午前9時より議会運営委員会を開催し慎重に審査をいたしました。

その結果、会期は本日から3月22日までの22日間といたします。

日程案につきましては、会期決定後、諸般の報告、議案説明、質疑、委員会付託を行い、一部案件につきましては採決まで行います。

また、本会議2日目の4日は会議時間を1時間繰り上げて、午前9時より各予算の質疑及び委員会付託を行います。

一般会計予算の質疑については、款ごとに行い、各特別会計予算の質疑につきましては予算書の順に行います。

一般質問は、6日と7日に会議時間を1時間繰り上げて午前9時より行います。通告者は8名です。質問者におかれては1問1答方式にのっとり、1問ずつ質問されるよう町長から提案されておりますので、ご配慮をお願いします。

各常任委員会審議は、7日、8日、11日に開催し、予算決算常任委員会は18日に開催しま

す。

22日の最終日は、時間を3時間繰り下げ午後1時より本会議を再開し、委員長報告、議案採決等を行う日程にいたします。

以上申し上げ、議会運営委員長の報告といたします。

○議長（清水満） お諮りいたします。

本定例会の会期等については、議会運営委員長の報告のとおりにしたいと思えます。

これにご異議ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認めます。

よって、本会議の会期等につきましては、ただいまの報告のとおりと決定しました。

◎諸般の報告、質疑

○議長（清水満） 日程第3、諸般の報告を行います。

監査委員から平成30年11月分から平成31年1月分までの一般会計、特別会計及び企業会計の例月出納検査の結果について、議長の手元に報告書がまいっておりますので、ご報告いたします。

○議長（清水満） 報告第1号 損害賠償の額の決定についての専決処分の報告については、地方自治法第180条第1項及び第2項、町長の専決処分事項に関する条例第1号の規定による専決処分の報告案件であります。

説明を求めます。原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇・説明〕（報告第1号）

○総務課長（原章胤） それでは報告第1号につきましてご説明申し上げます。

報告書並びに議案の提案説明書1ページ上段をご覧ください。

報告第1号につきましては、地方自治法第180条第1項の規定による町長の専決処分事項に関する条例第1号に該当するもので、車両衝突事故に起因する損害賠償の額の決定についての

専決処分の報告でございます。

事故発生年月日は、平成 30 年 11 月 8 日、相手方は（ 1 6 文 字 削 除 ）にお住いの（4文字削除）様で、事故の概要につきましては、公用車で町道K 2－16 号線、横手地区から国道 18 号線へ右折する際、国道 18 号線から町道K 2－16 号線に右折してきた相手車と交差点で衝突したものであります。

損害賠償の額は、車両が 209,910 円、対人が 59,959 円であります。

専決処分日は、平成 31 年 2 月 7 日でございます。

以上、よろしく願いいたします。

○議長（清水満）

質疑を行います。

質疑のある方おられますか。荒川議員。

○8 番（荒川詔夫） 議席ナンバー 8 番、荒川詔夫です。

ただいま、総務課長から事故の概要並びに額の報告がございました。私は、ただいまの関係法令に基づきますが、議会が町長に委ねた専決処分ということで、質問行為そのものについて場合によっては疑義を持たれるかもしれませんが、結果の是非及び専決処分の行為について私は問うものではなく、ただいまの報告だけでは分からない面もありますので、そこを中心に何点かにわたってお尋ねをいたします。

まず 1 点は、相手方の車両と公用車の車両の損害賠償額はどのようになっているかお聞かせいただけますか。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 車両の損害額でございますが、公用車につきましては 122,763 円です。

相手車ですが 246,953 円でございます。

○議長（清水満） 荒川議員。

○8 番（荒川詔夫） 2 つ目として、相手方の車両と公用車の過失割合はどのようになっている

かお聞かせいただけますか。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 過失割合でございますが、飯綱町につきましては85パーセント。相手に
つきましては15パーセントということでございます。

○議長（清水満） 荒川議員。

○8番（荒川詔夫） 公用車の加入保険、どんな保険に加入されておったか。聞きたいことは、
当該加入保険について事故の多寡と掛金の相関関係、どのようになっているかお尋ねします。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 公用車の保険につきましては、町村会におけます災害共済事業の公有自
動車共済に加入しております。

事故の多寡と掛金の関係につきましては、掛金は変わらないということでございます。

○議長（清水満） 荒川議員。

○8番（荒川詔夫） 昨年の11月8日に残念ながら物損だけではなく人身事故も起きたというこ
とで、事故当時の職員の現場での対応とそれから当然事故が発生すれば役場の窓口等に報告す
ることになっておりますけれども、そこら辺の対応状況についてお聞かせいただけますか。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えいたします。事故の発生の時間でございますが、
夕方ございました。横手のイチゴハウスの作業が終わってからの事故でございます。現場で
の対応でございますが、きちんと相手方に謝罪をいたしまして、十分な対応をしたと思ってお
ります。

また、事故があったことについて、所管課には報告をしております。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 補足でございますが、事故につきましては11月8日の午後5時10分頃ということございまして、当然警察にも一報を入れており、事故処理をしたということで報告をいただいております。その後に要綱に沿って、総務課に報告書をいただいているところでございます。

○議長（清水満） 荒川議員。

○8番（荒川詔夫） 先般も大きな交通事故があつて、残念ながら失職というケースにつながっているわけですが、こういう事故が起きると役場の町長はじめ大変いろいろ扱いについて労力を費やされたり、対応を余儀なくされたりすると思うわけですが、今般の事故を踏まえて、交通事故防止の観点から講じた措置、そしてまた今後一層の交通事故防止に向けた新たな対応、そこら辺の考え方をお聞かせいただけますか。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 当然、事故が起きた場合は全体に関わることでございます。掲示板等で周知しまして、特に冬場は早く夕暮れになりますので、早めのヘッドライトの点灯の呼びかけ等々を行っているところであります。また、毎週行っております課長会議等でも周知徹底を図っているところでございます。

今後につきましては、交通安全等の講習会も計画していかなければいけないと今の時点では思っているところでございます。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 全体の考え方ということでございますので私が答弁すべきだと思いますが、議員がご指摘の残念な事件の時にも職員を全員招集しまして、被害者も大変ひどい目に遭うわけですが、交通事故というのは加害者も非常に大変なことになるという話をさせていただくなど、今、総務課長から申し上げましたとおり、日頃の話が大事だということで積み重ね

てきております。

ただ、どうしても何か月に一度ぐらいにこのような報告書が上がってきます。事件を起こしますと勤勉手当などについても何らかの影響を与えるようなシステムになっているわけですが、個々の職員の意識をしっかりと改革してもらおうということと、併せてやはり定期的な研修、講習を積み重ねていくことが大事だと思って取り組んでいきたいと考えています。

○議長（清水満） 他に質疑のある方おられますか。伊藤議員。

○9番（伊藤まゆみ） 9番、伊藤まゆみです。

確か9月の定例会においても損害賠償の報告があったというところで、それからすぐにこのようなことがあったわけですが、私もいつもその交差点を使っておりますけれども、十二分にも十三分にも注意を払っているわけですが、何よりそれほど見通しが悪い所ではないという中で起こっている。前の案件から今回の案件が起きるまでの間にどのような措置がなされたのか。起こされた方は異なると思いますが、先ほど町長がおっしゃったとおり、日々注意を重ねていくということ、また町民の皆さんは役場の職員の皆さんに大きな期待を寄せていらして、このような事件があると大変大きく落胆をされるということもありますので、その辺の自覚というものももう少し強く持ってきていただきたいと思いますが、その2点お聞かせいただきたいと思います。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 自覚ということと9月定例会から間もなくこの3月定例会でまた専決ということですが、いずれにしましても町長が申したとおり、課長会議や各課の朝礼等も含めて交通安全に対する意識の啓発、とにかく日々の積み重ねが一番大事だと思っております。

○議長（清水満） 他に質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、本報告を終了します。

◎議案第 1 号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（清水満） 日程第 4、議案第 1 号 北部衛生施設組合規約の変更についてを議題といたします。

本案について提案理由の説明を求めます。梨本住民環境課長。

〔住民環境課長 梨本克裕 登壇・説明〕（議案第 1 号）

○住民環境課長（梨本克裕） それでは、議案第 1 号 北部衛生施設組合規約の変更についてご説明申し上げます。議案の提案書説明書の 1 ページの下段をご覧ください。

この件は、長野広域連合のごみ処理施設が本日 3 月 1 日から本格稼働したことにより、北部衛生施設組合におけるごみ処理業務が終了することになったため、北部衛生施設組合規約の一部を変更するものでございます。

主な変更の内容としましては、組合の共同処理する事務について、ごみ処理の部分を削除するものでございます。

変更期日につきましては、平成 31 年 4 月 1 日でございます。

関係法令としましては、地方自治法第 290 条の規定により議決を求めるものでございます。

以上、ご審議のほどよろしく申し上げます。

○議長（清水満） これから質疑を行います。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了します。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終結し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[起立多数]

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第1号 北部衛生施設組合規約の変更については、原案のとおり可決されました。

◎議案第2号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（清水満） 日程第5、議案第2号 新町建設計画の変更についてを議題といたします。

本案について提案理由の説明を求めます。徳永企画課長。

[企画課長 徳永裕二 登壇・説明]（議案第2号）

○企画課長（徳永裕二） それでは、議案第2号 新町建設計画の変更についてご説明申し上げます。新旧対照表及び議案の提案説明書をご覧くださいと思います。

まず、議案の提案説明書の2ページ上段をご覧ください。変更理由でございますが、平成30年4月に東日本大震災等に伴う合併市町村に係る地方債の特例に関する法律が施行され、旧合併特例債の発行可能期間が5年延長されましたが、旧合併特例債を活用して新庁舎建設事業等を進めていくに当たっては、新町建設計画の期間の延長が必要であることから今回変更するものでございます。

主な変更内容につきましては、計画の期間を平成32年度から平成37年度に延長、面積、人口と世帯など主要指標の時点修正、財政計画の歳入歳出に係る基準値等の時点修正でございます。なお、元号につきましては、変更後の計画の中で「平成」を新たな元号に読み替える旨の規定がされております。

関係法令は、市町村の合併の特例に関する法律第5条第7項の規定により、議会の議決を経て計画を変更ができるとされています。

要点といたしましては、今回の見直しは基本方針や施策を修正するのではなく、まちづくり計画に掲げる施策等を実行する期間やその財源として旧合併特例債を活用できる期間を5年間延長するために計画の期間を変更するとご理解いただきたいと思ひます。

引き続き、新旧対照表で主な変更箇所をご説明申し上げます。先日の議会全員協議会において説明をさせていただいておりますので簡単にご説明いたしますが、よろしくお願ひいたします。

まず、1ページをご覧いただきたいと思ひます。計画の期間を15年間から20年間に変更しております。以下のページ以降、下線部分に変更箇所になりますが、面積、人口と世帯及び将来人口の推計について、現時点に合わせて数値の修正や文言の修正等、必要最小限の変更としております。以上を変更、修正したものが議案書ということでお手元に配付の飯綱町まちづくり計画、新町建設計画となります。

また、この内容につきましては、既に2月19日に長野県との協議も終了しております。なお、財政計画につきましては、総務課よりご説明申し上げます。

○議長（清水満） 財政計画について、藤澤係長から説明をお願いします。

〔財政係長 藤澤茂行 登壇・説明〕（議案第2号）

○財政係長（藤澤茂行） それでは、財政計画部分につきましてご説明申し上げます。前回、全協で申し上げたとおりでございますが、改めてお願ひしたいと思ひます。

平成30年度から37年度の財政計画を見直ししております。こちらは推計で設定しておりますので、推計方法をご説明申し上げます。

町民税、各種地方譲与税、各種交付金については、30年度の予算で固定してございます。普通交付税につきましても、30年度の見込みの額で固定し、そこに公債費の予定数の増減に対する交付税算入率を加増しているということで調整をしております。

収入ですが、国庫・県の支出金については、平成30年度の予算で固定をしております。町債につきましては、こちらの策定が30年11月現在の状況によってということでございますので、その時点でこれから起債する分り得るものを加増しております。臨時財政対策債につきまし

ては、31年度までは2億400万円の計算をしております。それ以降は2億円で固定しております。その他分担金等は、29年度の実績で固定をしております。

以上が歳入に対する推計の方法で簡易の推計方法をとっております。

歳出も同様でございます。簡易の推計方法をとっております。

人件費は、29年度の実績で固定をしております。物件費から補助費につきましては、29年度までの実績の過去5年程度の増減率を加算してそれぞれ推計してございます。公債費につきましては、これから予定をしております起債等の元利償還金を計算しまして加えているということでございます。積立金につきましては、収支均衡で作っておりますのでゼロ計上でございます。投資及び出資、繰出金、充用金につきましては、平成29年度の額で固定をしております。数字が動いております普通建設事業費につきましては、基が29年度の実績額、こちらに起債の関係がございますので、増えた分はほぼ建設の方にまわるということになりますので、加増して調節しているということになります。災害復旧費については、31年度より固定にしております。

先ほど課長から説明がありましたように37年度までの期間の延長が主眼でございますので、昨年の11月時点で推計し得る中身を入れております。これから31年度の予算が提案されますが、そちらとは差異がございます。推計方法は以上のとおりに行っているということでございます。

期間の変更が主題でございますので、財政の収支、収支均衡を原則にそれぞれ調節をして、37年度まで設定しております。数字につきましては、議案のとおりでございますのでよろしくお願いたします。

○議長（清水満） これから質疑を行います。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了します。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第2号は、総務産業常任委員会に付託し審査することにしたと思います。

ご異議ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認めます。

したがって、本案は総務産業常任委員会に付託し審査することに決定しました。

◎議案第3号から議案第7号の一括上程、説明、質疑、付託

○議長（清水満） 日程第6、議案第3号 飯綱町牟礼駅前広場条例、

日程第7、議案第4号 飯綱町駐車場条例の一部を改正する条例、

日程第8、議案第5号 飯綱町国民健康保険税条例の一部を改正する条例、

日程第9、議案第6号 飯綱町社会体育等施設条例の一部を改正する条例、

日程第10、議案第7号 飯綱町給水条例の一部を改正する条例、

以上、条例の制定1件、条例の一部改正4件を一括して議題としたいと思います。

なお、質疑、委員会付託は議案ごとに行います。

議案第3号から議案第7号の提案理由の説明を求めます。徳永企画課長、議案第3号、議案第4号の説明をお願いします。

〔企画課長 徳永裕二 登壇・説明〕（議案第3号、第4号）

○企画課長（徳永裕二） それでは、議案第3号 飯綱町牟礼駅前広場条例の提案理由についてご説明申し上げます。議案書及び議案の提案説明書の2ページ中段をご覧くださいと思います。

まず、議案の提案説明書になりますが、制定理由でございますが、平成26年3月に策定しました牟礼駅周辺整備計画に基づき、本年度、地方創生推進交付金を活用し駅前広場を整備しており、この広場の設置及び管理等に関し必要な事項を定めるものでございます。

主な制定内容につきましては、名称及び位置、施設、占用及び使用の許可等で、施行期日は

平成 31 年 4 月 1 日でございます。

次に、議案書をご覧いただきたいと思いますが、議案書最終ページをご覧ください。議案書の最終ページの附則第 2 項にありますように、本条例にその内容を統合したことから飯綱町自転車等駐車場設置及び管理条例は廃止することとしています。

引き続き、議案第 4 号 飯綱町駐車場条例の一部を改正する条例の提案理由についてご説明申し上げます。こちらは新旧対照表及び議案の提案説明書の同じ 2 ページの下段をご覧くださいと思います。

まず、議案の提案説明書でございますが、改正の理由でございますが、駅前広場の整備に当たり、新たに有料駐車場も整備しておりまして、今までございました無料駐車場に加え、この有料駐車場の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものでございます。

主な改正内容につきましては、提案説明書に記載のとおりであります。名称及び位置につきましては新旧対照表をご覧くださいと思います。新旧対照表の 4 分の 1 ページの名称及び位置、第 2 条をご覧くださいと思います。

まず、無料駐車場が今までも 2 か所ございましたが、これを区別しまして、駅前の大きい駐車場を第一駐車場としてございます。それから、駅東側上段の小さい駐車場を第二駐車場としております。今回設置する有料駐車場も 2 か所ございまして、1 か所は駅西側、三信家具さんの隣になりますが、こちらを第三駐車場としております。もう 1 か所は、今まで駐輪場がありました付近でございまして、こちらを第四駐車場としております。

施行期日につきましては、平成 31 年 4 月 1 日でございます。

以上で提案いたしました案件 2 件の説明といたします。ご審議のうえ、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○議長（清水満） 梨本住民環境課長、議案第 5 号の説明をお願いします。

〔住民環境課長 梨本克裕 登壇・説明〕（議案第 5 号）

○住民環境課長（梨本克裕） それでは、議案第 5 号 飯綱町国民健康保険税条例の一部を改正する条例についてご説明申し上げます。議案の提案説明書により説明をさせていただきます。

3 ページの上段をご覧ください。

改正の理由としましては、国民健康保険法施行令の一部改正によるものでございます。

主な改正内容でございますが、国民健康保険税の基礎課税額等に係る課税限度額について引き上げるもので、医療分につきまして課税限度額を 58 万円から 61 万円に引き上げるものであります。国民健康保険税の軽減措置につきましては、5 割軽減の対象となる世帯の軽減判定所得の算定において、被保険者数に乗すべき金額を 27 万 5,000 円から 28 万円に、2 割軽減の対象となる世帯の軽減判定所得の算定において、被保険者数に乗すべき金額 50 万円から 51 万円に引き上げるものでございます。軽減される所得上限額が拡大されることにより対象の世帯の件数も数件ですが増えると思われれます。また、3 番目としまして医療保険分、後期高齢者支援分の世帯別平等割額、特定継続世帯と言いますが、その金額を改定するものでございます。

施行日につきましては、平成 31 年 4 月 1 日でございます。

以上、ご審議のほどよろしく申し上げます。

○議長（清水満） 桜井教育次長、議案第 6 号の説明をお願いします。

〔教育次長 桜井俊次 登壇・説明〕（議案第 6 号）

○教育次長（桜井俊次） それでは、議案第 6 号 飯綱町社会体育等施設条例の一部を改正する条例をお願いします。議案の提案説明書 3 ページの中段及び新旧対照表の最後から 2 枚目、これによりまして説明を行います。

最初に議案の提案説明書の 3 ページをお願いします。改正理由としましては、旧牟礼西小学校及び旧三水第二小学校のグラウンドを社会体育施設から外し、跡施設利用を進めていくためでございます。具体的には、旧牟礼西小学校グラウンドにつきましては、長野パルセイロとの連携による活用を予定しており、旧三水第二小学校グラウンドにつきましては、校舎の跡地活用が「しごとの創業拠点」から駐車場としての活用を予定しております。

主な改正内容につきましては、社会体育等施設使用料の区分からグラウンドの使用料を削除するものでございます。

施行期日につきましては、公布の日からお願いするものでございます。

続きまして、新旧対照表をお願いします。議案第6号でございますけれども、第8条関係につきましては使用料を定めておりますが、その中で改正前を見てくださいとグラウンドが1時間500円となっておりますが、これを削除するものでございます。

ご審議のほどよろしく願いたします。

○議長（清水満） 森建設水道課長、議案第7号の説明をお願いします。

〔建設水道課長 森佳也 登壇・説明〕（議案第7号）

○建設水道課長（森佳也） 議案第7号 飯綱町給水条例の一部を改正する条例の提案説明をいたします。提案説明書の3ページ下段をお願いします。

改正の理由ですが、学校教育法及び水道法の改正に伴うもので、主な改正内容につきましては、学校教育法の改正に伴う根拠条項等の整備及び水道事業の布設工事監督者並びに水道技術管理者に関する規定を加えたものであります。

施行期日は、平成31年4月1日からとなっております。

よろしく願いたします。

○議長（清水満） 議案第3号 飯綱町牟礼駅前広場条例について質疑を行います。

質疑のある方おられますか。石川議員。

○7番（石川信雄） 第13条の括弧4ですが、露天商または行商その他これらに類する行為とあります。今まで牟礼駅利用の活性化を図る意味でいろいろなイベントがあった際に、飲食の提供等があったりしたイベントがあったと思いますが、今後そういったものをやる場合には町長の許可が必要ということで一切そのようになるかと思いますが、その解釈でよろしいでしょうか。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えします。議員のおっしゃるとおり、条例第13条のただし書きにありますとおり、「町長が特に必要と認めて許可したとき」ということとなりますので、議員がおっしゃたとおり、許可を得てイベント等を行っていただくということでお願いしてまいりた

いと思っております。

○議長（清水満） 他に質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第3号は、総務産業常任委員会に付託し審査することにしたと思います。

ご異議ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認めます。

したがって、本案は総務産業常任委員会に付託し審査することに決定しました。

○議長（清水満） 議案第4号 飯綱町駐車場条例の一部を改正する条例について質疑を行います。

質疑のある方おられますか。風間議員。

○2番（風間行男） 2番、風間行男ですが、駅前駐車場で多くの住民から高齢者の駐車スペースを確保してほしいという要望がありますが、その辺は今回の整備の中で計画されているかお伺いします。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えします。今回の駐車場整備に当たりまして、特に高齢者専用という駐車場は設けてございません。高齢者の方も一般の方と同じように駐車場をご利用いただきたいと思っております。

ただ、障がい者等の駐車場ということで、障がい者の方、妊婦の方等が止めていただくスペースを2台、駅前に設ける予定をしております。以上でございます。

○議長（清水満） 質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第4号は、総務産業常任委員会に付託し審査すること
したいと思います。

ご異議ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認めます。

したがって、本案は総務産業常任委員会に付託し審査することに決定しました。

○議長（清水満） 議案第5号 飯綱町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について質疑
を行います。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第5号は、福祉文教常任委員会に付託し審査すること
したいと思います。

ご異議ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認めます。

したがって、本案は福祉文教常任委員会に付託し審査することに決定しました。

○議長（清水満） 議案第6号 飯綱町社会体育等施設条例の一部を改正する条例について質疑
を行います。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第6号は、福祉文教常任委員会に付託し審査することにしたいと思います。

ご異議ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認めます。

したがって、本案は福祉文教常任委員会に付託し審査することに決定しました。

○議長（清水満） 議案第7号 飯綱町給水条例の一部を改正する条例について質疑を行います。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第7号は、総務産業常任委員会に付託し審査することにしたいと思います。

ご異議ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認めます。

したがって、本案は総務産業常任委員会に付託し審査することに決定しました。

○議長（清水満） ここで、暫時休憩に入りたいと思います。再開は11時20分とします。

休憩 午前11時10分

再開 午前11時20分

◎議案第8号の上程、説明、付託

○議長（清水満） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

日程第 11、議案第 8 号 平成 30 年度飯綱町一般会計補正予算（第 8 号）を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇・説明〕（議案第 8 号）

○総務課長（原章胤） それでは、議案第 8 号 平成 30 年度飯綱町一般会計補正予算（第 8 号）をご説明申し上げます。議案書並びに議案の提案説明書 4 ページからご覧ください。

補正の概要でございますが、3 億 6,581 万 3,000 円を減額いたしまして、補正後の予算額を 78 億 4,530 万 3,000 円とするものです。なお、繰越明許費の設定につきましては、以下の 9 件でございます。また、債務負担行為の補正につきましては、庁舎建設事業の工事期間と総事業費の変更により、平成 30 年度当初で設定させていただきました 31 年度の債務負担行為限度額を全額廃止し、31 年度で新たに債務負担行為を設定させていただきます。地方債の補正につきましては、事業費が固まりましたので記載のとおり限度額を変更するものであります。

それでは、主な歳入補正を申し上げます。

10 款、地方交付税では、普通交付税の算出につきましては、通常調整率が適用されまして減額されます。ただ、今国会の補正予算の成立によりその適用が無くなりました。追加で 415 万 1,000 円が増額交付されるものでございます。

14 款、国庫支出金でございますが、小中学校の普通教室棟への W i - F i 事業が認定されなかったことにより、公立学校施設整備費国庫負担金 455 万 4,000 円を減額するものでございます。また、エアコン整備費では事業費が増額しますので、臨時特例交付金 739 万 2,000 円の増。多世代交流施設事業費の確定によりまして、推進交付金が 1,000 万円の減額するものでございます。

17 款の寄付金でございます。ふるさと応援寄付金の実績見込みによりまして、4,200 万円減額するものでございます。

18 款、繰入金でございます。小中学校の W i - F i 整備事業の国庫補助事業不採択によりまして、学校建設基金 1,666 万 6,000 円減額するものでございます。また、庁舎建設事業費の確定によりまして、庁舎建設基金 1 億 4,100 万 6,000 円を減額するものでございます。

21 款、町債でございます。庁舎建設事業費等の確定によりまして、合併特例事業債の減額で 2 億 4,910 万円でございます。小中学校エアコン整備事業費の増によりまして、学校教育施設等整備事業債に 3,630 万円。旧三水第二小学校改修事業及び東高原みんなの森整備事業を合併特例債から、まち・ひと・しごと創生交付金事業債に振替で 4,380 万円。合計で 1 億 6,200 万円の減でございます。

主な歳出でございます。2 款、総務費、財産管理費、庁舎建設事業で事業費確定によりまして、3 億 3,560 万 6,000 円減額するものでございます。総務基金費、ふるさと応援寄付金の実績推計によりまして、基金積立金を 2,800 万円減額するものでございます。交通対策費、入札によりまして、多世代交流施設の施工管理委託費ほかで 2,000 万円の減でございます。諸費、ふるさと納税事業で寄付金の減からそれに係る報償費等で 1,400 万円減とするものでございます。

4 款、衛生費でございます。清掃費、北部衛生施設組合でございますが、事業費の確定により 800 万円減額するものでございます。

7 款、商工費でございます。観光費、民間企業へのスキー場用地等の売却によりまして、指定管理料が減となったことから 349 万 4,000 円をスキー場特別会計に繰り出すものです。

6 ページ 10 款、教育費でございます。小中学校教育振興費、情報システム費ですが、先ほどから申し上げております小中学校の W i - F i 事業の国庫事業不採択によりまして、総額 1,990 万 5,000 円減額するものでございます。また、エアコン設置事業では、キュービクル等の設置費用が必要になってきたということで、小中学校併せて 4,418 万 1,000 円増額するものでございます。なお、14 款、予備費は財源調整であります。

以上、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（清水満） お諮りします。

ただいま議題となっております議案第 8 号は、質疑を省略し、予算決算常任委員会に付託し審査することにしたいと思います。

ご異議ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認めます。

したがって、本案は予算決算常任委員会に付託し審査することに決定をしました。

◎議案第 9 号から議案第 14 号の一括上程、説明

○議長（清水満） お諮りします。

日程第 12、議案第 9 号 平成 30 年度飯綱町からまつの丘地区汚水処理場管理事業特別会計補正予算（第 1 号）、

日程第 13、議案第 10 号 平成 30 年度飯綱町国民健康保険事業特別会計補正予算（第 3 号）、

日程第 14、議案第 11 号 平成 30 年度飯綱町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 1 号）、

日程第 15、議案第 12 号 平成 30 年度飯綱町介護保険事業特別会計補正予算（第 3 号）、

日程第 16、議案第 13 号 平成 30 年度飯綱町飯綱公共下水道事業特別会計補正予算（第 3 号）、

日程第 17、議案第 14 号 平成 30 年度飯綱町スキー場事業特別会計補正予算（第 3 号）

以上 6 件は補正予算案件であります。

これより一括して 6 件の提案理由の説明を受け、最終日 3 月 22 日に質疑・討論・採決を行いたいと思います。

ご異議ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認め、議事を進行いたします。

議案第 9 号から議案第 14 号の提案理由の説明を求めます。森建設水道課長、議案第 9 号、13 号の説明をお願いします。

〔建設水道課長 森佳也 登壇・説明〕（議案第 9、13 号）

○建設水道課長（森佳也） 議案第 9 号 平成 30 年度飯綱町からまつの丘地区汚水処理場管理事業特別会計補正予算（第 1 号）の提案説明をいたします。提案説明書の 6 ページ中段をお願いいたします。

補正前の予算額 173 万 2,000 円、補正予算額 6,000 円、補正後の予算額 173 万 8,000 円。歳入の主なものは、繰越金の 6,000 円であります。

歳出補正の内訳は、汚水処理施設管理 29 万 4,000 円を減額し、基金に 30 万円を積み立てることとしました。よろしくご審議をお願いします。

続きまして、議案第 13 号 平成 30 年度飯綱町公共下水道事業特別会計補正予算（第 3 号）の説明をいたします。提案説明書の 8 ページ中段をお願いいたします。

補正前の予算額 3 億 1,553 万 1,000 円、補正予算額 206 万 2,000 円の減額、補正後の予算額 3 億 1,346 万 9,000 円。

歳入の主なものは、国庫補助金 260 万円を減額し、繰越金 53 万 8,000 円増額いたしました。

歳出の主なものは、総務管理費に 53 万 8,000 円を増額し、管渠建設費を 260 万円減額いたしました。また、繰越明許の設定では、管渠建設費、公共下水道管路施設実施設計業務委託の関係で 3,240 万円を繰越しといたします。この理由は、袖之山地区及び牟礼西部農業集落排水施設を公共下水道につなぎこむための財産処分に関する認可取得に不測の日数を要し、事業執行に必要な工期がとれなかったため、繰越明許とさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○議長（清水満） 梨本住民環境課長、議案第 10 号、11 号の説明をお願いします。

〔住民環境課長 梨本克裕 登壇・説明〕（議案第 10、11 号）

○住民環境課長（梨本克裕） それでは、議案第 10 号 平成 30 年度飯綱町国民健康保険事業特別会計補正予算（第 3 号）についてご説明申し上げます。議案の提案説明書により説明をさせていただきます。議案の提案説明書の 6 ページ下段をご覧ください。

まず、補正予算の概要でございますが、補正前の予算額 14 億 1,614 万 7,000 円に対しまして、300 万 5,000 円を減額し、補正後の予算額を 14 億 1,314 万 2,000 円とするものでございます。

主な補正内容でございますが、歳入においては県支出金の 4 件については当初予算作成時の額を現段階で見込める額に合わせたことにより、合わせて 304 万 2,000 円の減。雑入で 3 万 7,000 円の増と合わせまして、300 万 5,000 円の減とするものでございます。

歳出については、歳入の300万5,000円の減を予備費で調整するものでございます。

続きまして、議案第11号 平成30年度飯綱町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）についてご説明申し上げます。議案の提案説明書の7ページ中段をご覧ください。

補正予算の概要でございますが、補正前の予算額1億5,400万9,000円に対しまして、161万9,000円を増額し、補正後の予算額を1億5,562万8,000円とするものです。

主な補正内容でございますが、歳入については後期高齢者医療保険料の増により、213万5,000円が増額となります。一般会計繰入金につきましては、事務費負担分及び保険基盤安定負担金の額の確定により、51万6,000円の減額となります。

歳出においては、広域連合納付金の額が確定したことにより、161万9,000円を増額となります。以上、ご審議のほどよろしく申し上げます。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長、議案第12号の説明をお願いします。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇・説明〕（議案第12号）

○保健福祉課長（山浦克彦） 議案第12号 平成30年度飯綱町介護保険事業特別会計補正予算（第3号）について提案説明いたします。提案説明書の7ページ下段をお願いいたします。

補正概要ですが、今回、1,256万9,000円を増額をして、補正後の予算額を12億3,247万5,000円とするものです。

主な補正内容ですが、歳入につきましては平成30年度の追加交付金として、介護給付費国庫負担金で247万5,000円、国庫補助金の調整交付金で81万5,000円、地域支援事業交付金は減額の150万円、保険者機能強化推進交付金で182万7,000円、支払基金交付金の介護給付費分で386万1,000円、地域支援事業分で58万5,000円、介護給付費の県負担金で217万1,000円、県補助金の介護給付費は減額の75万円、一般会計繰入金は介護給付費で178万8,000円、地域支援事業は減額の32万2,000円、介護給付費の準備基金繰入金で161万9,000円でございます。

また、次ページに歳出がございますが、保険給付費におけるサービス費へ1,430万円、地域支援事業の食の自立支援事業へ84万9,000円、高齢者介護慰労金は減額の258万円とするものです。以上、ご審議のほどよろしく申し上げます。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長、議案第 14 号の説明をお願いします。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇・説明〕（議案第 14 号）

○産業観光課長（土屋龍彦） それでは、議案第 14 号 平成 30 年度飯綱町スキー場事業特別会計補正予算（第 3 号）について、提案理由を説明させていただきます。議案の提案説明書 8 ページをご覧ください。

補正前の予算額は 5,052 万 1,000 円、補正予算額は 22 万 3,000 円の減額、補正後の予算額は 5,029 万 8,000 円でございます。

補正内容でございますが、歳入につきましては諸収入が 371 万 7,000 円の減、一般会計からの繰入金が 349 万 4,000 円の増でございます。諸収入の減につきましては、平成 30 年度当初予算計上時は平成 30 年度におけるいづなりリゾートスキー場の管理を指定管理者に行わせる予定でしたが、指定管理者の応募は無く、最終的に平成 30 年 4 月以降のスキー場の管理を町が直営で行うことになりました。よって、指定管理者から受領する予定だった土地貸付料の全額となる 371 万 7,000 円を減額し、不足分を一般会計から繰り入れるものでございます。

歳出につきましては、使用料及び賃借料が 22 万 3,000 円の減でございます。平成 30 年 12 月、町からファースト・パシフィック・キャピタルへのスキー場事業者の変更に伴い、町は白馬観光と従業員宿舍兼格納庫の敷地に関わる土地賃貸借契約を平成 30 年 12 月 31 日に合意解除をしたため、3 か月分の土地借上料 22 万 3,000 円を減額したものでございます。

以上で提案をいたしました案件の説明といたします。ご審議のうえ、ご決定を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（清水満） 以上で説明を終了します。

◎議案第 15 号から議案第 25 号の一括上程、説明

○議長（清水満） お諮りします。

日程第 18 から日程第 28 までは、平成 31 年度飯綱町一般会計、特別会計、企業会計の予算案件であります。

予算案件 11 件を一括して議題としたいと思います。

なお、議案ごとの質疑及び委員会付託については、本会議 2 日目の 3 月 4 日に行いたいと思います。

ご異議ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認め、議事を進行します。

議案第 15 号から議案第 25 号の提案理由の説明を求めます。原総務課長、議案第 15 号の説明をお願いします。

〔総務課長 原章胤 登壇・説明〕（議案第 15 号）

○総務課長（原章胤） 議案第 15 号 平成 31 年度飯綱町一般会計予算について、ご説明申し上げます。議案の提案説明書別冊 1 をお出してください。

3 ページをご覧ください。一般会計の 31 年度当初予算額は 86 億 4,000 万円で、前年度比 9 億 7,000 万円、12.6 パーセントの増となっています。

4 ページと 7 ページをご覧ください。当初予算の概要ですが、予算が増加した主な要因は平成 33 年度まで予定している役場庁舎建設事業に今年度は 1 億 4,953 万 5,000 円の増でございます。

平成 32 年度まで予定している防災行政無線デジタル化事業に 3 億 2,255 万 2,000 円の増でございます。

人口増対策事業として、原田地区の住宅建設に 1 億 3,772 万 6,000 円の増でございます。

総合戦略推進交付金事業の「しごとの創業・交流拠点整備事業」、旧三水第二小学校の改修工事に 3,677 万 4,000 円の増でございます。

新規事業といたしまして、推進交付金事業の「いきがい創造プロジェクト事業」、旧牟礼西小学校健康・スポーツゾーン整備に 4,417 万 2,000 円。

推進交付金事業の「世界に誇る力強い産業形成事業」、三本松周辺農業拠点整備に 1 億 4,978 万 1,000 円。

「廃校を活用した地域住民交流事業」、旧牟礼西小グラウンドの整備に1億4,084万2,000円など、地方創生事業を含めた大きな事業の予算化によるものでございます。

それでは、最初に歳入を申し上げます。提案説明書別冊1の9ページをご覧ください。

町税収入は10億2,434万6,000円で、前年度当初予算に比べて1,396万4,000円、1.3パーセントの減となっています。

内訳でございますが、町民税が所得の減少を見込み4億7,361万2,000円で2.4パーセントの減。固定資産税は、平成33年が評価替えの年になることから、前年度並みの4億6,147万9,000円、0.1パーセントの増。軽自動車税では、登録台数の推移から自家用の登録台数増を見込み4,317万5,000円、2.2パーセントの増。町たばこ税は、健康志向、電子たばこなどの普及から販売本数の減を見込み3,600万円、前年度比9.1パーセントの減でございます。入湯税は、納税者数を微減と予想し1,008万円、4.5パーセントの減としています。

続きまして10ページをご覧ください。地方交付税は31億7,000万円で、前年度当初予算が31億5,500万円でございますので、1,500万円増を見込んでいます。これは、普通交付税については、合併算定替え縮減4年目で算定基準から70パーセントが減少されますが、平成31年度普通交付税の算定で、引き続き「まち・ひと・しごと創生事業」に対応した取組に応じた算定がなされる。また、町村合併で面積の拡大に伴い広域化を反映した算定が継続される。また、新規の算定といたしまして、小中学校の冷房設備に係る光熱水費の算定などが追加されたことで、前年度と同額の29億円を普通交付税で見込んでいます。特別交付税では、地方創生推進交付金に係る各種事業の経費ほか、地域おこし協力隊員の配分増を見込み1,500万円増の2億7,000万円を見込んでおります。

続きまして11ページをご覧ください。地方債発行額は、繰越予定額2億4,160万円を含め16億720万円を予定しており、前年度と比較し6億8,370万円の増となっています。このうち、交付税で元利償還金が保障されている臨時財政対策債の発行額は2億3,000万円で、地方債発行額全体の14.3パーセントを占めております。また、普通債12億4,270万円のうち、交付税措置のある合併特例債は、主に庁舎建設事業、道路整備事業、小学校統合関連事業、多世代交

流施設事業に 5 億 8,320 万円。その他、防災行政無線デジタル化の緊急防災・減災事業債 3 億 5,800 万円予定しております。推進交付金事業の「まち・ひと・しごと」創生交付金事業債で 1 億 3,670 万円などを予定しております。

戻りまして、6 ページ及び 7 ページをご覧ください。国庫支出金は 7 億 630 万 5,000 円で、障がい者総合支援負担金、社会資本整備総合交付金、地方創生道整備推進交付金の増及び参議院議員選挙費委託金により前年度比 9,620 万 4,000 円、15.8 パーセントの増となっています。県支出金は 3 億 5,967 万 8,000 円でごさいます、前年度比 464 万円、1.3 パーセントの増でごさいます。その他でごさいます、地方消費税率の改正によりまして、地方消費税交付金を 1 億 9,600 万円見込んでごさいます。

基金繰入金では 11 億 3,413 万 5,000 円を見込み、前年度比 4 億 6,396 万円、69.2 パーセントの増であります。主な内訳は、財政調整基金から 6 億 6,400 万円、減債基金 6,282 万 5,000 円、ふるさと応援基金 5,000 万円、地域振興基金活用計画に基づき地域振興基金 4,280 万円、子育て支援に子育て応援基金 1,732 万 5,000 円、庁舎建設に庁舎建設基金 2 億 8,618 万 5,000 円、デイサービスセンターほか福祉施設改修に地域福祉基金 950 万円をそれぞれ繰り入れる予定であります。

それでは、歳出について予算項目ごとの重点事業等につきまして、議案の提案説明書別冊 2 をご用意いただきたいと思います。

町長の挨拶の中にも触れておりますが、新規事業及び主な事業のみをご説明申し上げます。それでは、5 ページをお願いします。

2 款 総務費、庁舎建設事業でごさいます。平成 33 年度までを予定しています庁舎建設事業は、平成 31 年度から本格的に事業を展開してまいります。庁舎新築等工事費に 4 億 2,807 万 5,000 円計上いたしました。

続きまして、6 ページをお願いします。下段の交通災害共済推進事業では、特に高齢の方で交通事故が多くなってきていることから、70 歳以上と中学生までの対象範囲を高校生まで公費負担分を拡大しました。

続きまして、7ページをお願いします。下段の防災対策費、緊急防災・減災事業債を活用して、32年度までの事業の防災行政無線のデジタル化に3億5,200万円を計上しました。

続きまして、9ページをお願いします。下段のiバス運行事業では、iバスのくるるICカード導入に対する負担金を新規で1,092万9,000円を計上しました。

続きまして、10ページをお願いします。上段の鉄道軌道安全輸送設備等整備事業では、新規にしなの鉄道の車両更新、これは8年間事業でございますが、それに係る負担金については交付税措置のある地域鉄道対策事業債を活用してまいります。

続きまして、11ページからは総合戦略事業になります。中段の推進交付金を活用する「しごとの創業・交流拠点整備事業」、旧第二小学校の改修に1億1,124万円を計上いたしました。下段「自然の中の暮らし創造発信事業」の拠点整備でございますが、旧牟礼西小学校の改修に7,938万円を計上しております。

続きまして、12ページをお願いします。中段のいいづな「いきがい創造プロジェクト事業」で健康スポーツエリアとして、旧牟礼西小特別教室棟の整備費に1,998万円を計上いたしております。また、都市部住民や企業等を対象としたヘルスツーリズム等の構築、実証実験費用に1,700万円を計上しました。

続きまして、13ページをお願いします。上段の「廃校を活用した地域住民交流促進事業」では、AC長野パルセイロと連携し、地域内外の人々の交流の場づくりと廃校活用の促進、旧牟礼西小学校グラウンド整備に1億3,380万円を計上しております。下段でございますが、「住み慣れた地域に住み続けられる町形成事業」では、町内拠点間巡回バスの構築実験に900万円、多世代交流施設の駐車場整備等に1,550万円を計上しております。

続きまして、18ページをお願いします。下段の公害対策費で、北川地区の上流、ソブ川の周辺で鉄分等がみられることから、その水質調査費として13万円計上しています。

続きまして、22ページをお願いします。下段の地域福祉推進事業として、65歳以上を対象に平成32年度までの限定で先進安全自動車の購入補助150万円を新設しました。

続きまして、24ページをお願いします。中段の介護保険支援対策事業では、人工透析患者の

通院費助成を新規で 52 万円計上しています。

続きまして、27 ページをお願いします。上段の予防接種費では、新規に 6 か月以上 18 歳未満を対象に任意インフルエンザ予防接種の一部助成として 388 万 6,000 円を計上しました。また、下段の病院施設費では、飯綱病院の経営安定を図るため、繰出基準を基に 3 億 6,400 万円を計上しました。

続きまして、30 ページをお願いします。中段の 6 款、地域農業担い手育成・支援事業で、農業後継者就農支援金、元気な農業者育成事業補助金、共同利用農業機械等導入事業補助金に、それまでの補助単価を見直し総額 1,430 万円を計上しました。

続きまして、31 ページをお願いします。下段の総合戦略事業の推進交付金を活用した「世界に誇る力強い産業形成事業」では、新たに三本松周辺に農業拠点施設の建設費用として 1 億 4,093 万円を計上しました。

続きまして、35 ページをお願いします。上段の 7 款、商工振興対策事業では、地域振興基金を活用しプレミアム商品券発行事業として、新たに一般世帯を加えて 1,200 万円を計上しました。また、空き店舗活用事業として、その改修・家賃補助に 172 万円を計上いたしました。

続きまして、38 ページをお願いします。上段の 8 款、橋りょう長寿命化修繕事業では、道路ストック総点検の道路橋定期点検結果に基づきまして、3 橋の修繕設計に 1,500 万円を計上しました。

続きまして、39 ページをお願いします。下段の住宅管理費では、人口増対策の国庫補助事業、原田地区における住宅建設事業に 1 億 4,208 万円を計上しました。

続きまして、40 ページをお願いします。中段の 10 款、通学対策費、通学路の危険個所に防犯カメラを設置するために 84 万 5,000 円を計上しました。

続きまして、42 ページをお願いします。上段の小学校統合関連事業で、合併特例債を活用し牟礼小学校駐車場の増設整備に 2,006 万円を計上しました。

続きまして、44 ページをお願いします。上段の南部保育園費では、空調設備設置工事に 463 万 3,000 円を計上しました。

続きまして、46 ページをお願いします。中段の総合戦略事業の推進交付金を活用した「もっと自分らしく輝く i ママ事業」として、子育て支援センター建設に向けた設計等の委託費に 1,580 万円を計上しました。また、下段の児童クラブ一般管理費で、町内 4 児童クラブに空調設備の設置に 206 万 1,000 円を計上しています。

続きまして、48 ページをお願いします。下段の運動場管理運営費では、新規にふれあいパークマレットゴルフ場の整備に 1,775 万 2,000 円を計上しました。

以上、一般会計の説明について申し上げます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（清水満） それでは、暫時休憩に入りたいと思います。再開は 13 時 5 分でお願いしたいと思います。

休憩 午前 11 時 58 分

再開 午後 1 時 5 分

○議長（清水満） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。森建設水道課長、議案第 16 号の説明をお願いします。

〔建設水道課長 森佳也 登壇・説明〕（議案第 16 号）

○建設水道課長（森佳也） 議案第 16 号 平成 31 年度飯綱町からまつの丘地区汚水処理場管理事業特別会計予算の提案説明をいたします。予算書の 199 ページからですが、説明には別冊 2 の 51 ページで説明させていただきます。

予算の総額は、歳入歳出それぞれ 174 万 6,000 円です。

歳入内訳の主なものは、使用料・手数料で 166 万 3,000 円、繰越金 5 万円、財産収入の基金の利子で 3 万円です。

歳出の主なものは、汚水処理施設管理費で電気代が 35 万 7,000 円、機器修繕で 41 万円、維持管理費で 42 万 3,000 円、総額 134 万 5,000 円です。職員給与費で 30 万 1,000 円、職員 1 か月分の給与であります。また、基金の積立てとして 10 万円を計上しております。よろしく願いします。

○議長（清水満） 大川飯綱病院事務長、議案第 17 号の説明をお願いします。

〔病院事務長 大川和彦 登壇・説明〕（議案第 17 号）

○病院事務長（大川和彦） 議案第 17 号 平成 31 年度飯綱町訪問看護ステーション特別会計予算についてご説明いたします。議案の提案説明書別冊 2 の 52 ページをご覧ください。

平成 31 年度の事業目的は、昨年に引き続きまして在宅に出向いての訪問看護サービス、介護支援サービスを提供することとしております。

平成 31 年度の予算総額は 4,725 万 7,000 円で、対前年 712 万 1,000 円の減でございます。

収入内訳は、訪問看護ステーション事業収入として 3,192 万 6,000 円、繰入金 640 万円、繰越金 890 万円、諸収入として 3 万円、寄付金 1,000 円を予定しております。事業収入の内訳ですが、訪問看護として 1,380 万円、居宅介護支援として 367 万 6,000 円、介護収入計で 1,747 万 6,000 円でございます。医業収入で 1,440 万円、こちらは訪問看護の関係になりますが見込んでおります。平成 31 年度は、介護保険での訪問看護の利用者の増を見込んでおります。

続いて事業支出でございますが、総額で 4,725 万 7,000 円でございます。衛生費で 4,724 万 6,000 円、諸支出金として 1,000 円、予備費として 1 万円を予定しております。衛生費の訪問看護ステーション費の 4,724 万 6,000 円は、主に人件費等でございますが、対前年 712 万 1,000 円の減となっております。この減少となった要因でございますが、平成 30 年度に予定しておりました訪問看護車の車庫の工事が、検討を重ねてまいりました結果、31 年度に見送ることとなったために減額となっているものでございます。以上でございます。

○議長（清水満） 梨本住民環境課長、議案第 18 号と 19 号の説明をお願いします。

〔住民環境課長 梨本克裕 登壇・説明〕（議案第 18 号、19 号）

○住民環境課長（梨本克裕） 議案第 18 号 平成 31 年度飯綱町国民健康保険事業特別会計予算についてご説明申し上げます。予算書では 239 ページから、議案の提案説明書別冊 2 では 53 ページをご覧ください。議案の提案説明書に基づいて説明させていただきます。

国民健康保険の関係は、制度改正により県も一緒に運営を責任主体として行うようになり 2 年目となっております。

予算総額につきましては 13 億 5,881 万 9,000 円でございます。前年対比 1,390 万 3,000 円の

増となっております。

主な歳入は、国民健康保険税が 2 億 5,275 万 6,000 円、内訳としましては一般被保険者分、それと退職被保険者等を合わせたものでございます。県支出金が 9 億 4,989 万円、繰入金 1 億 486 万円 6,000 円、繰越金が 5,000 万円、諸収入が 111 万 5,000 円でございます。

歳出の関係ですが、次の 54 ページをご覧くださいと思います。主な歳出は、総務費が 3,106 万 6,000 円、ここには総務管理費、それから徴税費、運営協議会の会費、趣旨普及費等が含まれたものでございます。保険給付費が 9 億 3,813 万円、国民健康保険事業納付金が 3 億 4,751 万円、これが県へ納める納付金の額でございます。保健事業費が 1,390 万 8,000 円、諸支出金が 186 万 1,000 円、予備費として 2,634 万 4,000 円でございます。

続きまして、議案第 19 号 平成 31 年度飯綱町後期高齢者医療特別会計予算についてご説明申し上げます。予算書では 269 ページからでございます。提案説明書では 55 ページになります。

予算総額は 1 億 5,609 万 3,000 円で、前年対比 208 万 4,000 円の増でございます。

主な歳入は、後期高齢者医療保険料で 1 億 434 万 2,000 円、一般会計繰入金で 5,143 万 7,000 円でございます。

主な歳出については、議案の提案説明書別冊 2 の 55 ページをご覧ください。総務費で 1,212 万 3,000 円、長野県後期高齢者医療広域連合への納付金で 1 億 4,361 万円でございます。

以上、ご審議のほどよろしく申し上げます。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長、議案第 20 号の説明をお願いします。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇・説明〕（議案第 20 号）

○保健福祉課長（山浦克彦） 議案第 20 号 平成 31 年度飯綱町介護保険事業特別会計予算について提案説明いたします。別冊 2 の 56 ページをご覧ください。また、予算書では 289 ページから 334 ページになります。

平成 31 年度は、第 7 期介護保険事業計画の中間年度でございます。平成 31 年度介護保険給付費につきましては、平成 29 年度の実績、平成 30 年度見込み額を基にそれぞれ記載のとおり見込んでいます。

予算総額は12億5,316万3,000円、前年比6,359万6,000円の増でございます。前年比率は53パーセント増となっております。

歳入につきましては、予算書の290ページの歳入の予算表をご覧くださいと思います。保険料については2億5,086万9,000円、65歳以上の第1号被保険者の保険料でございます。特別徴収と普通徴収が入っております。使用料及び手数料は403万8,000円、介護予防教室等における利用料、食の自立支援事業、お元気くらぶ、おやじさんくらぶ等でございます。国庫支出金につきましては、負担金と補助金を合わせて2億9,065万3,000円、介護給付費に係るもの及び地域支援事業、介護予防、日常生活支援、総合事業等に係る負担金等になります。支払基金交付金は3億1,634万3,000円で2号被保険者の保険料になります。保険給付費の27パーセントになります。県支出金は、負担金と補助金を合わせて1億7,392万1,000円でございます。居宅関係給付費の12.5パーセント、施設関係給付費の17.5パーセント、地域支援事業、介護予防事業交付金、包括的支援事業、任意事業でございます。繰入金につきましては2億1,733万2,000円です。一般会計繰入金は2億33万2,000円と準備基金繰入金1,700万円からとなっております。

歳出につきまして予算書305ページからですが、別冊2の提案説明書の56ページの主要事業の概要をご覧ください。括弧内の金額は前年比の増減額となっております。

1款 総務費は、職員の給与関係経費でございます。2款 保険給付費は6,601万7,000円増の11億2,153万7,000円となっております。主に介護サービスに対する保険給付として、要介護者及び要支援者を対象とする給付費、国保連合会への審査支払手数料、高額介護、高額医療合算サービスに係るもの、特定入居者介護サービスとして、食費、居住費に対して利用者の負担を軽減するものです。4款 地域支援事業は576万9,000円増の7,146万1,000円。主に要介護状態になることの予防と高齢者の自立支援を目的に実施するものです。

主要事業の概要としまして、総合事業（介護予防・生活支援サービスや一般介護予防）に係るもので382万2,000円増の5,373万8,000円。食の自立支援（配食サービス）、訪問型や通所型のサービス、お元気くらぶ、高齢者介護慰労金等でございます。任意事業につきましては、

適正化、家族介護支援等でございますが、15万円減の411万2,000円となっております。家族介護者のリフレッシュ、家族介護支援、家族介護用品の支給等でございます。生活支援・介護予防サービスの基盤整備事業は、生活支援・介護予防サービスコーディネーター2名分等で250万円増の1,171万4,000円となっております。地域包括ケアシステムの構築に向けて、認知症総合支援84万4,000円、地域ケア会議の推進9万4,000円、在宅医療・介護連携事業27万3,000円を計上しております。

9款 地域包括支援センター費では、880万5,000円減額の2,454万2,000円です。減額は、給与関係で社協職員を1名減によるものと職員の育児休暇によるものです。ケアマネジメント業務、総合相談、権利擁護、介護、介護予防支援に係る事業のほか、育休代替介護支援専門員等の賃金、社会福祉協議会からの派遣職員1名の負担金となっております。

一般会計繰入金は2億33万2,000円で、介護給付費、地域支援事業給付費等での繰入金1億9,906万1,000円。低所得者保険料軽減分、保険料所得10段階のうちの1段階の保険料率0.5を0.45に軽減している分ですが、127万2,000円となっております。以上、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（清水満） 森建設水道課長、議案第21号、22号、23号、24号の説明をお願いします。

〔建設水道課長 森佳也 登壇・説明〕（議案第21号、22号、23号、24号）

○建設水道課長（森佳也） 議案第21号 平成31年度飯綱町農業集落排水事業特別会計予算の提案説明をいたします。予算書の335ページから、提案説明書別冊2の57ページで説明をいたします。

予算総額は、歳入歳出それぞれ3億7,098万4,000円です。前年度より355万4,000円の増であります。

収入の主なものは分担金で40万1,000円、使用料及び手数料で5,295万4,000円、一般会計繰入金で3億1,371万6,000円、繰越金90万、地方債300万を見込んでおります。

歳出の主なものですが、農業集落排水事業の総務費で総額4,390万2,000円です。主な支出は、汚泥のコンポスト負担金で1,300万円、公営企業会計移行業務委託等で792万円、消費税

1,100万円、職員給与で975万5,000円を見込んでおります。

続きまして、農業集落排水処理施設管理費ですが、総額3,700万4,000円で主な歳出は各処理場施設の電気代で1,369万3,000円、施設等の修繕で755万4,000円、施設の管理委託で928万6,000円、工事費で倉井処理場の電気等設備で108万円を見込んでおります。

続きまして、個別排水処理施設管理費ですが、総額672万5,000円で主な歳出は個別浄化槽の維持管理委託で267万1,000円、汚泥処理費で355万6,000円、修繕費で44万円です。

最後に小規模農業集落排水施設管理費ですが、総額118万4,000円で主な歳出は処理施設等の修繕費で36万7,000円、処理場の維持管理委託で38万5,000円です。

公債費では、総額2億8,216万9,000円で起債の元金で2億3,183万円、利子の償還で5,033万9,000円を計上しております。よろしくお願いたします。

続きまして、議案第22号 平成31年度飯綱町飯綱公共下水道事業特別会計予算の説明をいたします。予算書の359ページから、提案説明書別冊2の58ページで説明をいたします。

予算総額は、歳入歳出それぞれ5億6,400万1,000円です。歳入の主なものは分担金で86万円、使用料及び手数料で1億1,763万4,000円、国庫補助金で1億5,000万円、一般会計からの繰入金は1億3,859万6,000円です。繰越金300万円、地方債で1億5,390万円を見込んでおります。前年対比で2億8,301万2,000円の増額となっています。

歳出の主なものですが、総務管理費で総額2,121万2,000円、主なものは電算の委託で79万5,000円、企業会計システムの導入で143万円、公会計移行業務で390万5,000円、下水道台帳の補正で151万8,000円、消費税で1,000万を見込んでおります。職員給与費ですが、1,248万9,000円を見込んでいます。

処理場管理費で総額5,857万7,000円の主な歳出は、クリーン飯綱の保守管理委託で2,365万1,000円、汚泥運搬処理費として1,045万、施設の修繕費で261万3,000円、工事費としてばっ気装置の修繕と活性炭の交換等で1,145万9,000円を見込んでいます。

管渠管理費ですが、総額1,176万5,000円、内訳は管路内の清掃に100万、マンホール周辺の修繕工事で204万、マンホールポンプ内の汚泥引抜で66万、マンホールポンプ場の保守管理

費で94万5,000円、国道18号線のマンホールの高さ調整に330万円を見込んでいます。

続きまして、管渠建設費ですが総額3億1,000円です。これは、袖之山及び牟礼西部農業集落排水施設を公共下水道に接続するための管渠工事費ということで、3億円ほど見込んでおります。

公債費の総額1億5,994万7,000円は、元金の償還で1億3,206万1,000円、利子の償還で2,788万6,000円を計上いたしました。よろしく願いいたします。

続きまして、議案第23号 平成31年度飯綱町住宅地造成事業特別会計予算の提案説明をいたします。予算書383ページから、提案説明書別冊2の59ページで説明をいたします。

予算の総額は歳入歳出それぞれ270万円。歳入は一般会計からの繰入金で270万円です。

歳出は造成地の区画確定業務に250万円、土地の維持管理に要する経費として20万円を計上いたしました。よろしく願いいたします。

続きましては、議案第24号 平成31年度 飯綱町水道事業会計予算の提案説明をいたします。予算書395ページから、提案説明書別冊2の60ページからお願いいたします。

最初に予算書の397ページをご覧ください。事業の予定量ということで、給水戸数4,190戸、うち牟礼地区が2,580戸、三水地区が1,610戸です。また、年間総給水量は112万立方メートルです。牟礼地区が69万立方メートル、三水地区が43万立方メートルです。また、一日平均給水量は3,070立方メートルを見込んでいます。牟礼地区に1,890立方メートル、三水地区に1,180立方メートルです。

それでは、別冊2の60ページをお願いします。収益的収入、支出それぞれ3億2,940万2,000円で、その内訳は牟礼会計で2億569万8,000円、三水会計で1億2,370万4,000円です。主な収益は給水収益で牟礼会計が1億3,487万2,000円、三水会計が7,056万円です。他会計負担金は、牟礼会計が1,753万5,000円、三水会計が2,652万5,000円です。

営業外収益ということで7,553万8,000円です。うち他会計補助金として、牟礼会計は1,000万円、三水会計には880万円を見込んでおります。

主な支出は、施設の維持管理費及び企業債の利息の支払いであります。まず、営業費用で総

額 2 億 8,889 万 3,000 円の主なものですが、人件費で牟礼会計が 1,780 万 9,000 円、三水会計が 1,159 万 7,000 円です。減価償却費といたしまして、牟礼会計が 1 億 603 万 9,000 円、三水会計が 6,578 万 2,000 円です。維持管理費で牟礼会計が 4,282 万 2,000 円、三水会計が 2,901 万 8,000 円です。

営業外費用で企業債の利息になりますが、牟礼会計が 1,308 万 2,000 円、三水会計が 888 万 4,000 円です。消費税を牟礼、三水それぞれ 400 万円ずつ見込んでおります。

主な事業ですが、牟礼地区は沈殿池導水の修繕で 200 万、ろ過汚泥計及び P H 計の修繕で 100 万、配水池の修繕で 220 万、管路の修繕で 550 万、量水器、減圧弁等で 330 万円を見込んでおります。また、三水地区につきましては、清水窪の深井戸の洗浄で 280 万、沈殿池の仕切弁修理で 110 万、次亜塩素酸ポンプ修理 4 台分で 140 万、水中油分計攪拌機等の修繕で 115 万円を見込んでおります。

資本的収入ですが、新規加入負担金等で 114 万 9,000 円です。会計別では、牟礼会計が 68 万 2,000 円、三水会計が 46 万 7,000 円の収入を見込んでおります。

支出につきましては、3 億 417 万 6,000 円です。会計別の内訳は、牟礼会計が 1 億 7,505 万 5,000 円、三水会計が 1 億 2,912 万 1,000 円です。浄水施設の改良費で牟礼会計が 550 万、三水会計は 2,867 万 4,000 円です。配水管の布設費で牟礼会計が 1 億 133 万 3,000 円、三水会計が 4,822 万円。営業設備費等が牟礼会計は 315 万、三水会計が 434 万 7,000 円。配水池等の拡張費といたしまして、牟礼会計が 1,009 万 8,000 円、三水会計は 935 万円です。主な事業といたしましては、牟礼地区でしなの鉄道の高架水管橋更新工事実施設計で 674 万、布設替え工事費で 8,855 万、この布設替えに伴う接続工事で 550 万、それから浄水場の経年劣化等の工事で 550 万円を見込んでいます。また、三水地区につきましては、国道工事に伴う管路設計委託で 470 万、それに伴う工事費として 3,488 万円、倉井地区の配水管工事で 864 万円、その他浄水場の油分計の交換、流量計の更新等で 1,944 万円です。

企業債の償還といたしましては、9,350 万 4,000 円。牟礼会計が 5,497 万 4,000 円、三水会計が 3,853 万円であります。

資本的収入が資本的支出額に対して不足する額の 3 億 302 万 7,000 円は過年度損益勘定留保資金で補填をいたします。よろしくお願ひいたします。

○議長（清水満） 大川飯綱病院事務長、議案第 25 号の説明をお願いします。

〔病院事務長 大川和彦 登壇・説明〕（議案第 25 号）

○病院事務長（大川和彦） 議案第 25 号 平成 31 年度飯綱町病院事業会計予算についてご説明いたします。予算書は 431 ページから 464 ページでございます。議案の提案説明書別冊 2 の 61 ページによりご説明申し上げます。

平成 31 年度は、収支共に 23 億 5,000 万円の均衡予算となっております。

収入の内訳でございますが、医業収益は 19 億 285 万 3,000 円、医業外収益が 3 億 4,530 万 8,000 円、介護収益で 1 億 183 万 9,000 円を見込んでおります。対前年 1,400 万円の減でございます。医業外収益のうち、1 億 9,540 万 6,000 円が一般会計からの繰入金で 3 条予算への配分額でございます。前年比で 2,812 万 9,000 円の減となっております。

続いて支出ですが、医業費用は 22 億 6,268 万 8,000 円、医業外費用が 6,681 万 2,000 円、予備費、特別損失が 2,050 万円を見込んでおります。前年との比較ですが、医業費用が 2,052 万 4,000 円の減、医業外費用が 347 万 6,000 円の減、予備費、特別損失で 1,000 万円の増でございます。合計は収入と同様に 1,400 万円の減でございます。

続きまして資本的収支ですが、資本的収入は 2 億 4,879 万 4,000 円で対前年 4,405 万 6,000 円の増でございます。資本的支出では 3 億 7,221 万 4,000 円で対前年 5,728 万 4,000 円の増でございます。差引きマイナス 1 億 2,342 万円の収支不均衡予算となっております。収支で不足する額につきましては、損益勘定留保資金で補填をいたします。

資本的収入の内訳でございますが、企業債が 8,000 万円、他会計負担金が 1 億 6,859 万 4,000 円、寄付金、投資償還収入でそれぞれ 10 万円を予定しています。なお、他会計負担金は全額一般会計からの繰入金となっております。繰入金は 3 条と 4 条を合わせて 3 億 6,400 万円で、前年と比較し 1,407 万 3,000 円の減となっております。

資本的支出ですが、企業債償還金が 2 億 8,901 万 5,000 円で対前年 2,718 万 5,000 円の増。

設備改良費では8,009万9,000円で対前年3,009万9,000円の増となっております。平成31年度設備改良の主なものでございますが、空調設備の改修及び医療機器整備で主なものは検査システム、透析装置ほか6品を予定しております。長期貸付金につきましては、看護師修学資金の貸与金でございまして、今後ともこれを活用して将来の看護師確保に努めてまいります。平成31年度は、30年度に引き継ぎまして現在2名の利用が確定している状況でございます。以上、よろしく願い申し上げます。

○議長（清水満） 以上で説明を終了いたします。

◎議案第26号から議案第27号の一括上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（清水満） 日程第29、議案第26号 町道路線の廃止について、

日程第30、議案第27号 町道路線の認定について、

以上2件を一括して議題とします。

なお、質疑、討論、採決は議案ごとに行います。

議案第26号、議案第27号の提案理由の説明を求めます。森建設水道課長。

〔建設水道課長 森佳也 登壇・説明〕（議案第26号、27号）

○建設水道課長（森佳也） 議案第26号 町道路線の廃止についてを提案説明をいたします。

町道路線の廃止について、道路法第10条の第3項の規定により、町道路線を下記のとおり廃止することについて議会の議決を求める。

町道廃止路線、K1-1号線。起点、飯綱町大字豊野字大日影4945-2。終点、飯綱町大字平出字行人塚2953-2。道路総延長、2,951.1メートル。道路幅員、18.4から7.5メートル。平成31年3月1日提出、飯綱町長 峯村勝盛です。

この内容ですが、町道K1-1号線は駅前から団地を通り三本松までの道が町道認定されておりましたが、駅前整備で道路の整備をするため、区域の変更、起点の変更がございました。これに伴う再認定のため、今回、この路線を廃止とするものであります。提案説明書の裏には路線図が載っておりますので確認をお願いいたします。

続きまして、議案第 27 号 町道路線の認定について提案説明をいたします。議案書を朗読させていただきます。

町道路線の認定について、道路法第 8 条第 2 項の規定により、町道路線を下記のとおり認定することについて議会の議決を求める。

町道認定路線 1、K 1-13 号線、これが先ほど廃止した K 1-1 を認定することにより K 1-13 ということとなります。起点が飯綱町大字豊野字大日影 4925-5。終点が飯綱町大字平出字行人塚 2953-2。道路延長が 2,990 メートルとなります。38.9 メートルが増となります。道路部分の幅員は 18.4 から 7.5 であります。

また 2 点目ですが、M 3-503 号線につきましては、飯綱町大字牟礼字中島 830-3 から飯綱町大字牟礼字中島 807-5 でございまして、139.5 メートルの延長があります。幅員は 7 から 4 メートルでございます。平成 31 年 3 月 1 日提出、飯綱町長 峯村勝盛でございます。

これにつきましては、新たに道路認定するという事で、先ほど議案第 26 号により廃止する路線を現況に合わせて 38.9 メートル延長が伸びたということで再認定するものです。また、M 3-503 号線は、四ツ屋表町の農協の下の道であります。こちらも図面を見ていただければと思います。よろしく申し上げます。

○議長（清水満） 議案第 26 号 町道路線廃止について質疑を行います。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了します。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終了し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数。

したがって、議案第 26 号 町道路線の廃止については、原案のとおり可決されました。

○議長（清水満） 議案第 27 号 町道路線の認定について質疑を行います。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了します。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終了し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数。

したがって、議案第 27 号 町道路線の認定については、原案のとおり可決されました。

◎諮問第 1 号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（清水満） 日程第 31、諮問第 1 号 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇・説明〕（諮問第1号）

○町長（峯村勝盛） 諮問第1号 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて、下記
のものを人権擁護委員として推薦したいので議会の意見を求める。

住所 上水内郡飯綱町大字牟礼 468 番地 4、氏名 中村芳人、生年月日 昭和 23 年 10 月 7
日。平成 31 年 3 月 1 日提出、飯綱町長 峯村勝盛。

現在、人権擁護委員をお勤めいただいております中村先生を任期満了に伴い再任したいので、
議会に提出したものでございます。中村先生についてご質問がありましたら細かく事務局から
申し上げますが、教職を退任された後、人権擁護委員としてご活躍いただいている方でござい
ます。以上でございます。

○議長（清水満） これから質疑を行います。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了します。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終了し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

議会としての意見は、適任、不適任によって行います。

本案は、適任とすることに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数。

したがって、諮問第1号 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについては適任と決

定いたしました。

◎請願の付託

○議長（清水満） 日程第 32、請願に入ります。

本日までに受理した請願は、お手元に配布した請願書の写しのとおりです。

所管の常任委員会に付託しましたので報告します。

◎陳情の付託

○議長（清水満） 日程第 33、陳情に入ります。

本日までに受理した陳情は、お手元に配布した陳情書の写しのとおりです。

所管の常任委員会に付託しましたので報告します。

◎散会の宣告

○議長（清水満） ここでお諮りします。

3月4日の本会議は、会議規則第9条第2項の規定により、会議時間を1時間繰り上げて午前9時に開くことにします。

ご異議ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認め、3月4日の本会議は午前9時に開くことに決定しました。

本日はこれにて散会いたします。ご苦勞様でした。

散会 午後 1時50分

平成31年3月飯綱町議会定例会

(第 2 号)

平成31年3月飯綱町議会定例会

議事日程（第2号）

平成31年3月4日（月曜日）午前9時開会

- 日程第 1 議案第15号 平成31年度飯綱町一般会計予算
- 日程第 2 議案第16号 平成31年度飯綱町からまつの丘地区汚水処理場管理事業特別会計
予算
- 日程第 3 議案第17号 平成31年度飯綱町訪問看護ステーション特別会計予算
- 日程第 4 議案第18号 平成31年度飯綱町国民健康保険事業特別会計予算
- 日程第 5 議案第19号 平成31年度飯綱町後期高齢者医療特別会計予算
- 日程第 6 議案第20号 平成31年度飯綱町介護保険事業特別会計予算
- 日程第 7 議案第21号 平成31年度飯綱町農業集落排水事業特別会計予算
- 日程第 8 議案第22号 平成31年度飯綱町飯綱公共下水道事業特別会計予算
- 日程第 9 議案第23号 平成31年度飯綱町住宅地造成事業特別会計予算
- 日程第10 議案第24号 平成31年度飯綱町水道事業会計予算
- 日程第11 議案第25号 平成31年度飯綱町病院事業会計予算
-

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（15名）

1番	清 水 均	2番	風 間 行 男
3番	中 島 和 子	4番	目 須 田 修
5番	瀧 野 良 枝	6番	原 田 幸 長
7番	石 川 信 雄	8番	荒 川 詔 夫

9番	伊藤 まゆみ	10番	青山 弘
11番	樋口 功	12番	渡邊 千賀雄
13番	原田 重美	14番	大川 憲明
15番	清水 満		

欠席議員（なし）

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町 長	峯村 勝盛	副 町 長	合津 俊雄
教 育 長	馬島 敦子	監 査 委 員	山本 孝利
農業委員会長	清水 藤一	選挙管理委員長	三ツ井 吉次
総務課長	原 章胤	企 画 課 長	徳永 裕二
税務会計課長	馬島 豊	住民環境課長	梨本 克裕
保健福祉課長	山浦 克彦	産業観光課長	土屋 龍彦
建設水道課長	森 佳也	教 育 次 長	桜井 俊次
飯綱病院事務長	大川 和彦	総務課長補佐	高橋 秀一

事務局職員出席者

事 務 局 長	高橋 吉人	事 務 局 書 記	荒井 智雄
---------	-------	-----------	-------

開議 午前 9時00分

◎開議の宣告

○議長（清水満） おはようございます。

これより平成31年3月飯綱町議会定例会を再開いたします。

本日は会議規則第9条第2項の規定により、会議時間を1時間繰り上げて行います。

本日の議事日程はお手元に配布のとおりであります。

◎議案第15号の質疑、付託

○議長（清水満） 日程第1、議案第15号 平成31年度飯綱町一般会計予算を議題とします。

はじめに町長の施政方針を含め、総論的な観点で予算全体に関わる質疑を行います。

質疑のある方おられますか。原田議員。

○13番（原田重美） 13番、原田です。細かな質問に入る前にお願いというか、少し苦言を呈したいわけですが、三本松の直売所関係で非常に町民も議会も大きな関心を持っているわけで、私も一般質問でもやるわけですが、その準備の中で既に素々案的な図面が住民の中に出ています。

この間も全員協議会でまちづくり協議会の組織ではどのようなことやっているという説明があったけれども、このような何か大きな予算を伴う、あるいは長年にわたって非常に大きな予算が投入されているものの論議を今回もしていかなければいけないわけで、そういう大事な図面が町民の検討の中で出たとしても、我々議会にもそのぐらいの図面は出してもらったということが、私は必要だったと思うわけです。それを出してほしいわけですが何か不都合はありますか。町長に考えてもらいたい。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えいたします。三本松の直売所の図面でございます

が、まだ配置図等の最終的なところが少し動いている状況でございます。最新の図案についてお持ちの方というのは、3月1日に地主の方に用地交渉に行きましたので、まだ若干修正がありますが、修正前の図面を地主さんにお渡しした経緯がございます。

素々案の三本松の図面につきましては、まずは議会に提出して、議員の皆さんに説明したいと考えております。今、その配置図の最終的な修正を行っているところで、最終日の全協までには仕上がってくる予定ですので、そのときに議会に説明をしていきたいと考えているところでございます。以上でございます。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） 今の土屋課長の説明で、私も知り合いからもらったわけですが、素々案ということで関係者だとは思いますが、「お前知らないのか」と言われてしまった。今日から予算審議をやらなければいけないわけですね。是非、出してもらいたい。町長どうですか。何か都合悪いですか。部外秘だと言うのであれば部外秘でいいけれども、我々は大きな予算を審議していくわけですから、どういう考え方でいるかというものが分かっていないと十分な予算審議もできない。土屋課長も慎重に構えているとは思いますがどうですか。出してください。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 今、課長が申し上げましたとおり隠すつもりは全く無いので、現在ボーリング調査をやっていますけれども、ボーリングの結果、大幅に移動ということもあることを承知の上でご覧いただきたいと思います。

○議長（清水満） 他にございませんか。大川議員。

○14番（大川憲明） 14番、大川です。初日の町長施政方針の中で言われた当初予算86億4,000万円ということで、その件について1つ伺いたいと思います。

予算を組んだときはこれでやっていくと、そして37年にはこのぐらいになるという説明が係長からありました。だから大丈夫だとは私も思いますけれども、でもこの当初予算の86億4,000万円は、昨年と比べれば確かに9億7,000万円、昨年は76億7,000万円。町の標準財政規模か

ら見れば、47、8億から見ればかなり多くなっていると思うわけです。

そんな中で一番心配なのは、31年度末には起債と基金の差額は113億1,000万円で、合併当時は230億あったものがこれだけ減ってきたというのも分かります。努力してきたのもよく分かりますけれども、だから、今回のこの予算も大丈夫だろうと思うし、努力していると思うわけですが、飯綱町は合併して特例債がきていますので、このぐらいの大きな予算も組めるのだと思います。しかし、37年度以降の特例債が使えなくなったときに飯綱町まちづくり計画のとおり返済できていけばいいですが、合併当時は1万3,000人の人口、そして今は1万1,000人ほどの人口になっております。このまちづくり計画の中で、37年度の予算は70億600万円ぐらいで済むという予想になっておりますが、この間にまず人口が減ってくる。そうすると、37年度以降は人口も減ってくるから交付税も減っていくと思います。それと、この間に予算の中で建物などの維持管理、ランニングコストというのはどのぐらいしっかり見てあるのか。今回の予算書を見ても、本来は是非来年度やらなくたっていいという仕事も私には見受けられるわけです。私は、省けるものは省いたほうがいいのではないかと浅はかな頭の中でそう思っただけですが、それについて町長、本当に大丈夫でしょうか。その辺の町長の考えをお聞きしたい。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 大変、先を見たご質問をいただきありがとうございます。全く心配ないと私は思っておりますし、それなりの数字をお示ししたつもりではおりますけれども、議員おっしゃるとおり人口の減少等々によって税収や交付税など、そういうお金が減ってくることは十分予想されます。したがって、これからいろいろ議会からもご要望が出てくると思えますけれども、補助などを付けるというのはかなり慎重に対応していく必要があるだろうということは、まずありがたい質問をいただきお答えすることです。

なぜ今やるのかというお話でございますけれども、それぞれ耐用年数が到達するなど一定の役目を終えたものについて、終了したり建て替えたりするという時期で、今たまたま庁舎や三

水公民館の跡地の利用、学校の統合などが一致したことも予算が一気に膨らんできた要素にはなっていると思います。

ただ、とにかく将来子どもたち、若者に借金を背負わせる、負担をさせるというお考えを平然と申し上げてくる人がいるわけですから、私どもが建設しているのは建設国債でございます。赤字国債を発行して職員の給与や町長がやろうと思った若者の福祉政策、そのときのその人たちの時代にしか使えないものを国債、借金してそれで予算を確保してくるのは正に赤字国債で、今もらった給与の額を将来の人たちに負担させることはあってはならないことだと思います。しかし、学校や保育園の耐用年数が50年だとすれば、それを何で今の人たちだけで負担をするのか。50年使う人たちが平等に負担すべきというのが建設国債だと私は承知しています。

したがって、箱物でいろいろ心配だという発想をされる方もいるかと思いますが、私どもは公のスキー場とゴルフ場の建物を今回そういうことで処分をさせていただいた。この隣の福祉センターも2、3年後には取り壊しをさせていただきます。三水公民館については、何で建て替えていると言え、深沢地区の活性化、ある意味では商店街の活性化という意味で、やはり大きな一つの拠点になるべきものだろうということで建て替えました。緊急的な必要もなく建ててきているというつもりはございません。必要に応じたものを最小限度の形で建設したいということでやってきておりますが、その建設もあと2～3年で終了すると思います。

したがって、これからはそういう大きな事業が無いのと併せてこの町の人口対策をどうしていけば良いかということ、そして老人福祉、若者の福祉、そういう福祉行政と予算の確保のバランスをどう取っていけば良いのかが大きな行政課題だと思っています。

借金は、このままのペースであと10年もすると、今のペースで必ず返していける計算をしてございますけれども、恐らく借入れと貯金はほぼ同じになるような数字が出てくるだろうと思っています。そういう意味では、財政的に無理な財政運営をしているつもりはございませんので、ご理解いただければと思います。

○議長（清水満） 大川議員。

○14 番（大川憲明） 今、町長のお話を聞いてうまくいくのだろうとは思いますが、何かをつくるに当たって、例えば失礼かもしれないけれど今の歴史ふれあい館の上に天体望遠鏡を付けました。しかし、今の町民会館のグラウンドは、夏になると毎日ナイター設備に電気がついて、あそこではよく見えないわけです。本来だったらあのようなものを造るのであれば、例えば上村にするなど過ちの無いような建物を造っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（清水満） 荒川議員。

○8 番（荒川詔夫） 8 番、荒川詔夫です。今の大川さんの質問と若干ダブる部分もありますけれども、再度、私なりに質問させていただきますので町長から考え等をお聞かせいただきたいと思います。

まず、歳入について、ただいま大川議員が質問されたとおり、31 年度の一般会計の当初予算額というのは、以前に比べると大幅に増額されている。この裏付けは、それぞれ今も町長からご答弁がございましたように箱物の建替え時期だとか、そういうところに遭遇して特段急ぎよ実施をするということではなく、積立金等もする中で取り扱ってきているということで、そのような中で大幅に膨れ上がったということは私も一定の理解をさせていただきます。

しかし、私は部分的ですけれども自分で考えてみますと、歳入別の 4 大財源の構成比率がどうなっているかという、いただきました資料を見ますと大きい順から地方交付税の 37.3 パーセント、2 番目に多いのが町債 14.5 パーセント、3 番目に多いのが繰入金 13.3 パーセント、それから町税の 12.0 パーセントということで、この 4 大財源のトータル比率は全体の 100 に対し 77.4 パーセントになっております。

それで、地方交付税並びに 2 番目の町債というのは依存財源となっております。さらに地方交付税、あるいは町税も先ほど大川議員の指摘のとおり、25 年度以降のいただいた資料を見ると順次右肩下がりになってきている情勢にあります。いわゆる借金の借入状況というのは、これもいただいた資料によりますと 25 年度以降はおおよそ 70～80 億、そのような中で推移してきたわけですが、今般、先ほどの結局大幅に膨れ上がった理由を見ますと、やはり町債の倍程度になっております。それから、繰入金は財政調整基金や庁舎建設の基金の繰入金が増

加となっているわけです。

2つ目に、86億4,000万円の財源の自主財源と依存財源の構成比率を見ますと、自主財源は31.1パーセント、それから依存財源は68.9パーセントということで、一般的に言われている3割自治。この3割自治というのが今まで私が見る限り、おおよそ飯綱町の依存財源とそれから自主財源の比率というのはそう大きく変わっていない。今までもずっとおおよそ簡単に言えば3割自治の体制になっているということになるので、そういうことで私も承知しております。

それから、少し古いデータですけれども、平成28年度の決算によります飯綱町の標準財政規模は約48億500万円程度。だから、おおよそこの範囲の標準財政規模ではないかと歳入については私なりに分析をさせていただきました。

それから、歳出について、まず1点目は歳出の性質別構成比率を見ますと義務的経費の割合が29.4パーセント、2番目に物件費だとか補助費、繰出金、積立金、予備費等々のトータルと、先ほど申しました義務的経費を含めた準義務的経費の割合は70.6パーセントとなっており、要は準義務的経費の比率が高いということになり、そして経費の普通建設事業費の比率は23.4パーセントということがうかがえたわけでございます。

それで、先ほども大川議員の町債の現在高と基金の状況について、議会の初日に合併当時と31年度末の見込み起債残額について、いわゆる230億から130億に減ったということで、今後、減債基金の繰入れ等により償還をしていきたいと町長からご挨拶がされまして、私もこの町長の報告の中で、確かに減ってきており非常に努力されたという結果はそのとおりだと思っております。

今まで申し上げたことを踏まえると、やはり31年以降の予算の状況というのは、先ほど大川議員も言われましたように人口減少や少子高齢化によって歳入財源の縮小や飯綱町の標準財政規模等々から勘案しますと、今後、財政規模というのは縮小せざるを得ない状況で、まちづくり計画の中の37年までの財政計画の中でも、やはり財政規模は70億程度と報告があって、そのようなことと思っております。

以上、私なりに分析しながら31年度歳入歳出の予算編成に当たって、これから質問をしたい

わけですけれども、31年の10月には消費税が値上げされるということで閣議決定されまして、過日、衆議院本会議を通過しながら参議院に送付されたという結果になっております。

まず、消費税の件と、それからもう1つは地方創生の交付金、これが5カ年ということで31年度が最終年度だということで、16億程度、小澤副町長が鋭意努力されながら国の交付金をいただいたということで、最終年度に地方創生の16億の原資のうちどのくらい残金が残っているか、そこら辺を含めながら31年度の予算編成に当たって、歳入歳出額は予測し得る金額を全て計上された予算であるということで理解してよろしいか、そこら辺をまず1点伺います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） どういうご質問か分かりかねるところがあったわけですが、ご質問は最後の2つだということで消費税の対応はご挨拶で申し上げましたけれども、歳出で町は関係してくるわけですが、10月以降は10パーセントで灯油でもガソリンでもその他紙でもコピー代でも計上してございます。いわゆる特会における水道料金等々にこの10パーセント、今の条例では自動的に10パーセントになると水道会計の条例では決めておりますけれども、それと併せて値上げをした方が良くはないかという水道会計の健全化という意味では、今後検討していかなければいけないと思っています。

もう1つは、この10パーセント導入で幼児教育が無償化されるという大きな事業がございまして、私立の幼稚園・保育園については、国と県とその自治体で補助するという事になってございます。例えば飯綱町では大地さんなどが出てくると思いますが、一般的な公立の保育園の場合、言い換えれば飯綱町が保護者の分を負担するとなってございます。国で一定の財源措置をしていただきたいと思いますと思っておりますが、給食費については自前でやりなさいという方針で動いております。

今の保育料については、保育料と給食を一緒にいただいております。したがって、所得税非課税世帯、住民税非課税世帯における保育料が無償だという方が今現在いらっしゃいます。その方の給食費も無償です。しかし、理論どおりにいきますと今度は保育料を別枠にして、給食

費は別枠で徴収しなさいという考え方になります。そうすると、無償化になってもその立場の方にとっては給食費だけ余計に取られるように変わっただけという話になるわけで、これは十分に考えなければいけないと思っています。ここら辺も10月までにはっきりしなければいけないと思っていますが、そうすると給食費も含めてこの際面倒を見てしまう、そうするとそれは消費税とは関係のない自治体が独自に政策としてやることとなります。これにもまた大きなお金が動いていきます。そういう意味で、この10パーセント導入後の検討が必要と思っています。

地方創生事業も小澤さんが総務省から来ていただいて、当初計画19億ぐらいが一部減額あったり、また期限も5年が3年になったり2年になったりというようなことで減額をしてきた点もありますけれども、再申請もしてございますから最終的には元の19億程度になると思っています。もう1年、32年度事業として予定していることもございますので、そこら辺も終わって最終的な金額が出てくると思いますけれども、国庫補助で国から半分入ってきましたし、ソフト事業等々においては4分の1を特別交付税で措置いただけるという制度も出てきて、そのため特交は増えてきている状況が数字として表れてきております。

あと、議員が心配された今年の予算の歳入は本当に入ってくると考えていいのかという質問ですが、まがりなりにも議会に予算書として提出申し上げた数字は確実なもの、しかもそれをやや少なめに計上して申し上げているので、入らないような予算書にはなっていないということとは自信を持って申し上げたいと思います。以上でございます。

○議長（清水満） 荒川議員。

○8番（荒川詔夫） 聞き逃したかもしれませんが、10月の保育の無料化、3歳から5歳、それから未満児の取扱いについて、私も新聞報道で中身を知っておるわけですが、そういうものの国庫支出金の通達と言いますか、国からの予算提示というものはあったのでしょうか。また、そのことによって31年度の予算の中に計上されているか、そこら辺をお聞かせいただけますか。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。今の幼児教育無償化に伴う財源、国からの交付金でございますけれども、予算書の歳入の中で今回見込んでございます。8款の地方特例交付金で1,000万ほど計上させていただいてございます。実際の影響額につきましては、もう少し1,300万～1,500万ぐらいいくのではないかとということでございます。

先ほど町長が申されたとおり、3歳以上児につきましては保育料が無償化で食事代は別ということですが、3歳未満児につきましては従前どおりということですが、住民税非課税世帯は保育料を無償化にするという国の方針でございますので、そこら辺を加味しますと1,300万～1,500万ぐらいの影響が出るのではないかと考えます。ただ、それについては全て特例交付金で見られるかがまだ不透明なところでございますので、1,000万ほどを見込ませていただきました。それで、特例交付金では食事代は交付されませんので、そこら辺も見込みながら1,000万ということで見込ませていただきましたので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（清水満） 荒川議員。

○8番（荒川詔夫） ただいま、31年の予算の中に国庫支出金として約1,000万円計上されたという答弁いただいたわけですが、私が聞きたいことはどんな算定根拠なのか。今は世帯の所得の区分によってそれぞれ保育料というものは定められている。そこが1,000万との兼ね合いでどんなふうこれからなるかという、国がどういう措置をしてくれるのかをもう少しお聞きしたい。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。算出根拠でございますけれども、保育料につきましては4,600万ほどを見込んでございます。そのうち、3歳以上児は半年分しか保育料を徴収しませんのでその半分、それと未満児につきましては、先ほど申し上げたとおり通常どおり。ただ、一部例外はありますけれども通常どおりというようなことから、保育料の影響額につきましては、そこら辺を見込みながら国はそのうちの食事代を除いた部分ということで約1,000万と算出してございます。ただし、新聞報道でもございましたけれども、31年度は半年分につ

きましては国で措置をするということでございますけれども、32年度以降につきましては地方交付税で基準財政需要額に盛り込むという方針が出されておりますので、この特例交付金につきましては31年度分のみということ承知してございますので、よろしく申し上げます。

○議長（清水満） 少し細かい所まで入ってきておりますけれども、町長の施政方針と総論的なものでご質問ございましたらお願いしたいと思います。荒川議員。

○8番（荒川詔夫） 32年度以降は70億程度の財政規模、縮減が想定されるわけでございます。それで、今後の歳出額削減の考えはどんなお考えで、そしてまた町民にどういうものを委ねるのか、もし考えがございましたらお聞きしたいと思います。要するに全ておんぶに抱っこというわけにはいかない。今後、財政を切り詰めるということは、ある程度住民に負担を求めるといことも町長は多分お考えになっている。そういう視点でどういう考え方でいるかお聞きしたいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） まず、標準的財政規模とは言いませんけれども、次年度以降、かなり予算の総額が減少していくのではないかというのはおっしゃるとおりだと思います。ちなみに、今年の予算を見ていただければお分かりのように、庁舎関係で5億ほど、そして防災行政無線のデジタル化で3億5,000万ほど、これでもう8億5,000万。学校を2つ直すために3億。これらの関係でもう10億からのお金が出てくるため、これの整理がついていけば減っていくということがお分かりになると思います。

それから住民負担を求めるといことですが、これから財政運営していくのに住民負担をお願いしていきたいと申し上げたいところですが、私は前にも申し上げましたとおり、行政のやるべき究極的の仕事は貧富の格差の是正だと思っています。ある意味では、これからますますこの格差が付いていく世の中にあって、私の過去の答弁が適切かどうか分かりませんが、昔は秋になるとみんなサンマを焼いているような匂いがして、みんなが秋だなと思うくらいに生活が平均化していたような雰囲気から、今は明日のご飯にも困る家と高級乗用車が2台

も3台もある家というような格差が出てきている。こういうときにどのように住民負担を考えていけば良いかというのが大きな行政の課題として、これから取り組んでいくべきだと思っています。お金の負担という住民負担もあるだろうし、いわゆる人夫と言いますか、一部の工事や一部の事業などについては、地元で少し力を出していただいてやってもらうというような考え方など、そういう中で少しでも節約するような方向というのを考えていかなければならないだろうと思っています。

今のところ、今のサービスの中ではこれ以上住民に負担していただくということは必要ないと思っています。

○議長（清水満） 他にございませんか。原田議員。

○13番（原田重美） 13番、原田です。今2人の議員から予算総額の伸びの大きさについて将来すごく不安がある、心配があるという話がありました。私も正直言って、前回の予算も大きくなって、今年もそれを更に10億円近く大きくなるような予算になったということで、事業を集中してやらなければいけないタイミングにいるということは分かるわけですが、やはり将来については非常に不安を持っています。

町長は、挨拶の中でもそういうことにはしっかり対応していくということですから、是非しっかりやっていただきたいと思います。

それで、別冊1の4ページ中段あたりに「既存事業については必要性・緊急性を十分精査し、予算を組んでいる」と記述してあります。つまり、必要性・緊急性を十分精査とありますが、具体的に何を精査して、落とすものは何だったのか、減らすものは何だったのか、その辺のところはどういう精査をやられたのか、それをお聞きしておきたい。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） お答えを申し上げます。今年度の編成の中では主だって精査した結果、具体的に減少しているという予算は無かったように記憶しています。

今、議会からもご指摘がありまして、事業の評価というものを秋に実施してございます。そ

の事業効果、必要性等々、今後に向けて拡大・縮小・取りやめ、そのような評価の仕方でやってきているわけですが、いずれの事業もまだ道半ばというようなことで終了しようという事業はございません。ただし、例えば必要と思われる冬の除雪関係の予算などは、昨年と同程度の予算計上をしていくということで同じような予算規模で動いておりますけれども、既存事業の中でも町単で区長さんや組長さんから山ほど申請が重なっている地元の足元道路や水路の改修等々については、昨年度より予算を 50 パーセントぐらいアップして、ここ 3 年ぐらいで少し整理していこうということでやりますけれども、3 年経つとまた元の金額にまで落とさせてもらうという運営でやってきております。

あと、子供たちへの福祉医療費の助成、子育ての皆さんたちの支援事業、そして育成資金で学校教育等々の支援を少ししていこうというものについては、ある意味では拡大の既存事業になります。拡大の方向はあっても減少の方向は無いと捉えています。ただ、対象数が減ったことによる予算の減少はありますけれども、具体的に一つひとつを予算査定していく上で、非常に時間も掛かるわけですが、全ての事業について必要性を予算査定の中でやり合いますので、そんな結果として積み上げてきたのが今回の予算だにご理解いただければと思います。

○議長（清水満） 原田議員、平成 31 年度の予算のポイント、増減等については、今の資料の 7 ページありますので参考をお願いしたいと思います。原田議員。

○13 番（原田重美） これからの予算というのは人口減少の中で税収も減るし、自主財源も減っていくという中で、今年組まれている予算もやはり公債費の比率というのは大きいです。1 割以上になりますか。そういうものが 12.6 パーセントという予算の上昇につながって表れている現状です。

町長も挨拶の中でも申されていましたが、要するに基金もどんどん減ってきているわけですが、これから減債基金等の積み増しについてももしっかり考えていかないと、今は何となく飯綱町にはゆとりがある、財政にゆとりがあるという雰囲気が漂っているわけです。このまま本当に行って良いのかどうか。有利なものを使ったとしても借金はやはり返済していかなければいけない。こういう意味においては、それをどう手当していくかということをしっかり考

えてもらわないといけない。その一つには減債基金の積立てがあるとと思いますが、町長はどのように具体的に考えてやっていかれるつもりかお聞きしたい。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 公債費に対応する減債基金の積立て、これは決算で必ず減債基金か財政調整基金への積立てをやってきております。

ただいまの若干余裕のある雰囲気は漂っているというのは、非常に赤信号の考え方であります。そういう雰囲気が見えたとすれば私の対応が悪いので、今後改めていきたいと思っておりますけれども、今までの減債基金の積立てを是非ご覧いただきたい。どのくらい減債に積立てきているか。それは、これから後に償還金のピークを迎えるに向かって積立てをやってきた経過でございます。年度ごとにどのくらい引くのかというものを計画表として表してございますので、ご覧をいただきたいと思っております。

もう1点、その公債費は今おっしゃるとおり7億から8億ぐらいの間に推移してきておりますが、この公債費は一般会計の公債費でございます。ご挨拶に申し上げましたとおり財政調整の借金や今回の合併特例債など、一般会計で借り入れている起債は非常に交付税の措置率が高い借金でございます。したがって、極端に言いますと例えば7億の借金を返すうち、その6割ぐらいは元利ともに交付税措置を受けている。したがって、7億のうち4億円ほどは交付税措置をされてくる。残りの3億が自主的な財源の確保によって返済をしているというふうにご覧いただきたいと思っております。繰り返しになりますけれども、本当に余裕のあるような雰囲気というのは今後そのようなことのないように心掛けますので、よろしく申し上げます。

○議長（清水満） 他にございませんか。原田議員。

○13番（原田重美） もう1点だけお聞きしたいと思っております。今度の予算には関係ないということになるかもしれませんが、スキー場民営化に伴って売却代金が予算財源になるのはまだ先ということになるわけですか。

もう1つ、民営化に伴って今まで町有地だったものが民有地になり固定資産税が入ってくる

と思いますが、これはどのくらいになるのか。これも新年度予算というより、もう少し先になるのでしょうか。その辺を確認させてもらいたいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） スキー場の売上金は1億4,500万ほどあったわけですが、9,000万円は基金に積んでございます。したがって、何かに使うというときは基金から繰り入れて使用したいと思っておりますが、その残りの5,000万ほどは既にいろいろ売る前に工事をやりました。崩れたものや照明など、そういう費用に充当させていただいたということでございます。

固定資産税につきましては、あまり正確に申し上げると若干問題もあると思っておりますが、私は700～800万ぐらいの計算が出てくるのではないかと考えております。あくまでも課税標準額の1.4パーセントが固定資産税でございますが、ここは償却資産ももちろん固定資産税の対象になります。スノーマシンを増設されたとかこういうものは償却資産になりますので、そのように投資をしていただいたのにも税金がかかっていくようになると思います。土地と家屋につきましては、1月1日現在の所有者に対して課税されるようになってございます。したがって、正確な所有権移転が1月以降になっているものもございまして、フルに税金をお願いするようになるのは32年以降だと思っております。以上でございます。

○議長（清水満） 他に質疑ございませんか。

それでは、これから款別の質疑を行いますので前に進めさせていただきたいと思っております。

歳出の質疑をお願いしたいと思います。

第1款 議会費、予算書40～42ページ。

質疑ございますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 進行します。

次に第2款 総務費、予算書42～78ページ。

質疑のある方おられますか。石川議員。

○7番（石川信雄） 7番、石川です。提案説明書の別冊2の9ページ中段でございます。総務費の企画費ですが、今まで景観については都市計画法との関連性から建設水道課でやっていくということだったと思いますが、今回の予算でこれが総務の担当になっております。どうして総務に切り替えられたのか、ご説明をお願いしたいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 景観については確かに建設水道課で取り組んできた経過がございます、それなりに研究をしてはきましたけれども、景観というものについては企画で取り組んでもいろいろな考え方もあるのではないかとということで、まだ正確に窓口をどっちにすると決めたわけではないわけですが、予算的には今回その計画段階の調査ということで企画にあげさせていただきました。これはすぐに条例化をするということではなくて、住民の皆さんと協議をしながら、素晴らしい景観が飯綱町の大きな一つの財産という意識を高めてもらおうという計画をこれから進めるものでございます。

別の一面としては、景色だけを取り上げて景観というわけではなく、その景観という言葉のニュアンスの中には、ある意味では人もいるというような、いわゆる良い景色の中に秋になれば笛の練習の音が聞こえるとか、または子どもたちが夕方に走り回っているとか、そういう全体のものが景観だという県の担当のお話も伺う中で、この段階においては企画でやろうという経過の中で、総務費に予算的には計上させていただきました。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 景観計画策定業務委託料として700万円計上されております。これは、業務委託ということですので業者をお願いするということでしょうけれども、今の町長の説明ですと住民懇話会など、住民の意見を吸い上げていくということですが、業務委託した場合にどの程度住民レベルまで委託業者が入っていくのか、あらかじめ分かっている部分がありましたらお伺いしたいと思います。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） それではお答えします。平成31年度につきましては、ワークショップや講師を招いてのセミナーなどを開催する予定としております。その際には住民全ての皆さんにお知らせするような機会を設けさせていただきまして、住民の皆さんの意見をしっかり聞きながらこの景観計画というものに取り組んでまいりたいと思っております。よろしくお願いたします。

○議長（清水満） 他に質疑ございませんか。青山議員。

○10番（青山弘） 10番、青山弘です。別冊2の5ページをお願いします。一番下段の庁舎建設事業の5億4,668万5,000円ですけれども、以前、補正で30年度分を全部次に送ったということをお聞きしたわけですが、今年の予算は5億4,600万ほど使う、債務負担行為のところから32年から33年度で8億8,100万使うということでもありますけれども、この合計金額が庁舎のために使うお金だと解釈してよろしいでしょうか。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 庁舎建設の関係でございます。庁舎建設につきましては、この5ページのところに書いてあります予算の5億4,600万が31年度でございます。それで、32、33年度までの計画ということでございますので、32、33の事業費、債務負担でございますが8億8,000万円ということで、合わせまして14億ほどが庁舎建設事業となります。債務負担ですから32、33は一番のマックスの限度額になります。マックスということで含めまして14億ということでございます。

○議長（清水満） 青山議員。

○10番（青山弘） 今まで住民説明会などで説明してきた金額というのは10億、11億という話しだったわけですが、少し金額が大きかったので質問させていただきました。13億使うというわけではなくて、これをマックスと考えているという解釈でよろしいわけですか。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） そのとおりでございます。

○議長（清水満） 青山議員。

○10番（青山弘） それでは違う質問をお願いします。別冊2の10ページをお願いします。一番上の段の鉄道軌道安全輸送設備等整備事業でありますけれども、ここの中で8年間お金を出していかなければいけないということがございますけれども、これだけだとよくその内容が分からなくて説明願いたいわけですが、8年でいったい何台車両を買うのか。1台幾ら掛かるのか。その負担というのは何パーセントを町がするのか。これを質問させていただきたいと思えます。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） それではお答えします。車両の台数につきましては全部で52車両。しなの鉄道では2019～2026年度までに52車両の整備を予定しておりまして、車両の購入費ですと約100億円ということです。

この財源についてでございますけれども、国が3分の1、しなの鉄道が3分の1、残る3分の1が県と沿線市町の負担でございます。要するに沿線市町は全体の6分の1を負担するようになります。このうち飯綱町の負担については5.2パーセント、全体の6分の1のうちの5.2パーセントが飯綱町の負担ということで、新車両の購入に関してはそのようになっております。よろしく願いいたします。

○議長（清水満） ここで、暫時休憩に入りたいと思います。

休憩後、引き続き総務費から始めさせていただきたいと思えます。

それでは10時20分まで休憩にします。

休憩 午前10時 4分

再開 午前10時20分

○議長（清水満） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

総務費 42 ページから 78 ページ。

質疑のある方おられますか。石川議員。

○7 番（石川信雄） 7 番、石川信雄です。議案の提案説明書別冊 2 の中段になりますが、11 ページです。

仕事の創業・交流拠点整備事業について、第二小の跡地利用ということで予算計上されております。過日、事業コンテストのプレゼンテーション等がございました。その中でそれぞれ特色を持ったプレゼンだったとっております。グランプリ、準グランプリとありましたけれども、町としてあのような事業に対して個別に支援できるものは支援していった方が良いのではないかと考えておりますけれども、町はあのような事業コンテストを通して、どうやって今後組み入れてやっていく予定かをお伺いしたいと思います。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） それではお答えします。一昨日に事業チャレンジということで開催したわけですが、それぞれの皆さんにご参加をいただきまして大変ありがとうございました。

石川議員のご質問でございますけれども、グランプリ、準グランプリ、その他に発表された方がいらっしゃいますが、こういった方の個別の支援ということでございますが、正しくここで発表していただいた方がこの学校跡地活用ということで、そこのテナントであったり、コワーキングであったり、そういう所をご利用いただく形で是非お願いしていければと思っております。

そのような中におきまして、昨年、平成 29 年度でグランプリを取られました小野さんのシードル工場でございますけれども、小野さんにつきましても創業に当たっては現在無償という形で、試験的に家賃はいただきずに創業をしていただいて、そういった支援もさせていただいているところでございます。今年もグランプリ、準グランプリを取られた方、また参加いただいた方も学校の中をお使いになるときには、家賃面であったり、設備面であったり、町がご協力

できるところは協力させていただき予定しておりますので、よろしくお願いたします。

○議長（清水満） 大川議員。

○14番（大川憲明） 14番、大川です。2点ほど伺います。10ページから13ページの間でお聞きします。最初に、地域おこし協力隊員の活動内容が町民から見れば全然見えならしいです。だから、予算を組むに当たって町民にどうやって知らせめるか、考えているか、まずお聞きします。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えします。主には広報紙「いづな通信」におきまして、去年も1人1回以上は必ず報告をさせていただいておりますので、ご覧をいただければ活動内容はそこに全部書かせていただいております。

ただ、植田隊員はキッチンカーを使っているいろいろなイベントに出掛けて行くなどしていますので全町に行ったりしていますけれども、中には活動する箇所が偏っている隊員もおります。例えば赤塩焼の富高隊員は比較的赤東地区での活動が多くなります。そのようなことで町民全員の皆さんに顔を合わせる機会は少ない場合もありますけれども、広報紙等により活動をしっかりお知らせさせていただいておりますし、今後もそういう形で進めてまいりたいと思っております。

○議長（清水満） 大川議員。

○14番（大川憲明） 私は広報紙を読んでいるから分かりますけれども、議会報もそうですが、町民は、ましてや少々年を取った人たちは、読む気にならなくてそのまま捨ててしまう方もいます。分からないのが現実だと思います。だから、読むのではなくて他の方法を考えていただけないかと私は思います。

2点目は、今のiバス、要するに公共交通の促進事業ですけれども、iバスを導入するに当たって、町は長野電鉄へ確か当時4,800万ぐらい支援して町の中を長野電鉄のバスが走っていたと思います。それで、今この予算の13ページまでの中に、この公共交通の促進事業に当た

って、幾らぐらいかけてiバスと言うか、要するに足を守る予算を組んでいるか。簡単に言えば4,800万より増えたかどうか。その当時、5,000万を超えるということで何とかしてiバスで町の足を守るということで取り入れた事業のはずです。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えをしたいと思います。主にiバス事業ということでお願いしたいと思います。

今、議員から4,800万ぐらいというお話もございましたけれども、平成29年の実績でおおよそ6,000万円、iバスの補助金ということで長電バスさん、それから飯綱ハイヤーさんに補助金を出しております。これは、実際に掛かる経費から運賃収入を引いたものを補助金という形でお出ししているわけですが、6,000万で現在iバスの運行をさせていただいております。ただ、この6,000万でございますけれども、全てが一般財源というわけではございません。80パーセントを特別交付税で財源としてはいただいております、そのような中でiバスを運行させていただいているのが現状でございます。

○議長（清水満） 大川議員。

○14番（大川憲明） 今、6,000万と。当初それですね。バス代とかいろいろなものがあったから6,000万いったと思います。当初、確か5,000万を超えそうになっていたときに、要するに長野電鉄に対し5,000万になりそうになったので、これでは困るということで何とか町でできるように安くあげたいというので、当時の首長さんは考えて始めた事業だったと私は思うわけです。

というのは、そのiバスをつくったときに私は設立委員会の副会長やっていて、そういう話から始まったもので、だから今6,000万だけれど、最初は6,000万でいいですけども、徐々に減っていくのが普通だと思うわけですが、今でも6,000万という変な感じがするのでお聞きしたい。町長どう思いますか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 議員の記憶は正しいと思います。確か5,000万を少し割るぐらいの負担できたものを、もう少し便利の良いもので利用方法を考えるということでiバスを入れたわけです。

今、残念ながらお客さんが減って維持費が上がってきています。これは、大きくはバスの転落事故等々からバスの運行に対していろいろ法律的にも厳しいものが出てきたり、運転手さんのなり手がいなかったり、今、課長から申し上げました6,000万というのは、維持費で毎年6,000万掛かるということで、それを今年度の予算の中でもいろいろ試行しているところです。

極端に言いましたけれども、赤塩から西地区までバスがそのまま行く、今は真ん中で降ろされてしまうけれど、そういう利便性を上げることや長野電鉄のバスですけれど牟礼長野線の中には貨客混載をやるとか、今の70歳以上はICカード200円でどこまでも行けるとか、そういうことをやって利用率を上げようと思っているわけですが、公共交通を先ほどの話の節約をしていくというのは動脈を切るようなもので、これは大きな一つの課題として取り組んでいきたいと思っています。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） その6,000万ですけれども、少し補足をさせていただきたいと思いますが、29年の実績で約6,000万になっているわけですが、このうち長電バスの長野牟礼線への補填が1,000万ほど含まれておりますし、先ほど議員からもお話がありましたとおり車両の更新も1台行っておりますので、その辺の補助金も含まれて6,000万ということでございます。

iバス自体につきましては、今年度の予算の説明書別冊2、9ページの一番下になりますが、iバス運行費補助金ということで4,760万、これがiバスのデマンドと定時定路線バスを含めた実際の運行の補助金というものでございますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（清水満） 他にございませぬか。石川議員。

○7番（石川信雄） 7番、石川です。議案の提案説明書別冊2の13ページの上段でありますけ

れども、廃校を活用した地域住民交流促進事業の中でグラウンド整備費として1億3,380万が計上されております。6～7年前だったと思いますが、東高原のグラウンドも芝グラウンドにするということでt o t oの補助を使うという計画があったと思いますが、今回もそのt o t oの補助金を使う見込みで計上されておりますけれども、そのt o t oの補助金申請が採択される可能性というのは100パーセントとお考えでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） いろいろな面からも、もちろん長野パルセイロの関係者からも応援をしてもらって何とか通そうと思っていますけれど、とても100パーセントというわけにはいかなくて、場合によっては残念ながら次年度以降に見送りということになれば、私は事業も見送りたいと思っています。

○議長（清水満） 伊藤議員。

○9番（伊藤まゆみ） 9番、伊藤です。予算書の61ページになります。提案説明書でいけば12ページの一番上段に関わってくる問題ですけれども、確かこの町内木材を利用した木工関係の地域おこし協力隊員の方、金曜日にご挨拶をされた方が担当されると思いますが、旧西保育園の跡地を利用していくという説明を以前受けたと思いますが、14項に使用料及び賃借料が103万円、建物の借上料として60万、工事請負費が54万とありますが、この辺の詳細をお聞かせいただきたいと思います。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） それではお答えします。環境に優しい木材利用促進事業の関係の14節、15節でございますけれども、14節の使用料につきましては、先日自己紹介がございましたけれども荒木隊員が活動するための車両のリース料が主なものでございますし、建物の借上料につきましては、荒木隊員が住むための住宅の家賃を町で負担しておりますので、その関係になります。あと、工事請負費につきましては、旧西保育園の一部改修を予定しておりますけれども、

その拠点となる所の整備の工事費ということで計上させていただいているところでございます。

○議長（清水満） 伊藤議員。

○9番（伊藤まゆみ） その西保育園の整備費の具体的な所、床の補強になるのでしょうか。それともどのようなものになるのでしょうか。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） 現在、設計者に見積もり等もお願いしているところでございますけれども、具体的には議員ご存じかどうか、旧西保育園は玄関から入った右側に給食室があったわけですが、そこは土間なので直接機械を置いたりできると思いますが、そこだけでは狭いため、その奥の部屋も一部改修し、床にそのまま機械を置けないものですから、床を撤去したり、若干給食室から向こうの部屋を広げるようなことをしたりしなければならないということで、今予定しているところでございます。

○議長（清水満） 総務費ございませんか。石川議員。

○7番（石川信雄） 7番、石川です。別冊2の議案の提案説明書12ページの中段です。いろいろな「いきがい創造」プロジェクト事業の中で、都市部住民や企業等を対象としたヘルスツーリズム等の構築及び実証実験費とあります。

普通、いわゆるヘルスツーリズムと申しますと、温泉ですとか病院の人間ドックですとか、そういったものをコンテンツとしてメニューに織り交ぜながら構築していくわけですがけれども、飯綱町におけるそのヘルスツーリズムというものを、どのようにお考えになっていますでしょうか。また、飯綱病院がその事業に加わっていくのかをお伺いしたいと思います。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） それではお答えします。今回、この事業の中で予定をしておりますヘルスツーリズム等でございますけれども、この事業は主には旧牟礼西小学校の改修に充てていく事業として予定しているところでございます。

西小学校につきましては、自然ですとか健康、スポーツといったようなコンセプトの中で進めていく予定をしているところをごさいます、今回のこのヘルスツーリズムに関しましてはスポーツ合宿、小学生から大人までのスポーツ合宿であったり、アクティブシニア向けのサッカー、観光体験ツアーであったり、怪物の学校という仮称を付けてごさいますけれども、トップアスリートを招いて1日授業をしていただくような企画を作っていきたい。また、企業向けのスポーツ体験キャンプですとか、こういったものを今考えて来年度に向けて準備をしているところをごさいます。

○議長（清水満） 他にございませんか。瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 5番、瀧野良枝です。所管ですが、まちづくり会社に関連するところですのでここで共有したいと思います。別冊2の6ページ中段です。

ふるさと納税事業の関係ですが、先般の全協でこれまでのコンサルティング会社からまちづくり会社に切り替えをするということと、あと総務課の事務の削減になるということでまちづくり会社に移管されると説明を受けたと思いますが、予算的には昨年度からそれほど金額は変わっていないわけですけれども、その費用対効果、今までのコンサルティング会社、先般の全協ではふるさと納税の金額がだんだん下がってくる部分があるから更に評価をしてほしいという要望もありましたが、今までのコンサルティング会社と同レベルのノウハウ、実績があるのか、若しくはそれ以上のものが望めるのかどうかについてお答えください。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） このふるさと納税事業につきましては、小布施町さんに研修に行ってきたわけですけれども、臨時職員を1名採用して対応しているということで、基本的にふるさと納税について今まで総務課の職員が兼務で行って来ました。やはりリピーターを増やすには苦情処理をいかに素早く対応していくか。返礼品の質もあるわけですが、それを兼務ではやはり限界があるということで今回そのような協議をさせていただいて、まちづくり会社ができるということの中で、そのノウハウを継承していきポイントをつなげていっていただきたいという

ことです。いずれにしましても、今の体制のままでは同じ轍を踏んでいってしまうだろうと考えております。

それで、このふるさと納税の支援業者は東京の業者ですが、委託費が約 11 パーセント掛かってございますので、町に経済投資と言いますか、お金を落とす意味でも 11 パーセントを有意義にまちづくり会社に使っていただければと思っております。

○議長（清水満） 他にございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 進行したいと思います。

次に第 3 款 民生費、予算書 78～102 ページ。

質疑のある方おられますか。荒川議員。

○8 番（荒川詔夫） 8 番、荒川です。議案の提案説明書別冊 2 の 22 ページの下段、ここに先進安全自動車購入補助金 150 万円、新規、31 年度から 32 年度限定ありますが、このことについて質問させていただきます。

このことは既に説明がありまして大変良いことだと思っております。私は警察から勧められたというのではなくて、まず主体的には住民の安全を第一に導入したということの方が非常によろしいのではないかと思います。そこは私の感想ですけれども、質問したいことは 50 台 150 万円ということで、おおよそその安全装置が 6 万余、その半額の 3 万円ということで 50 台分の 150 万。これはそのとおりですけれども、50 台をはじき出した考え、算出根拠をお聞かせいただけますか。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） 説明いたします。65 歳以上という枠ですが、税務の新規登録車の台数というものをまず確認させていただきました。ただ、税務では登録だけなので年齢枠の区分が取れませんでした。そのような中で、車の登録につきましては 29 年度中、乗用車が 466 台、貨物が 281 台で合計 747 台。うち新車台数につきましては 299 台ということでした。65 歳以上

と限定したときにどのぐらいの方が購入されるのか想定が難しいことから、一応 50 台という設定をさせていただきました。

○議長（清水満） 荒川議員。

○8番（荒川詔夫） 次に2点目として、この予算書を見ると先ほど申しましたけれども32年度までの限定という考え方について、なにゆえ2カ年で補助をしていきたいのか、そこら辺の考えについてお聞かせいただきたいと思います。私は、多分2年経過すると安全装置というのは一般的に普及するので、恐らく価格ももっと低廉になるという考え方ではないかと思もするわけですが、そこら辺の2カ年という限定の考え方、どのようにしてそういうふうにお決めになったかお聞かせいただけますか。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） 説明させていただきます。国土交通省では、大型車両について安全装置というものを毎年限定で実施しています。この安全装置の補助については、先進地で豊田市がありまして、県では石川県、また北海道では1つ取り組んでいる自治体があります。

ただ、どの自治体も限定的でこの10月の消費税関係も加味しているわけですが、今後どういう動きを国が行ってくるか。高齢者の事故が最近多い。逆走もあるなど事故も多いということで、国の施策の考え方がこれから出てくるかどうか未定です。そういうこともあり、実施している各自治体では1年という基準で更新するという形で行ってきていると考えます。

飯綱町についても、この消費税の関係ですが10月から上がりますけれども、この関係と事故の抑制も図るために2年間ということで考えました。単年の更新という形も考えられると思いますが、消費税増税の前の31年、32年という形で取らせていただきました。

○議長（清水満） 他にございませんか。荒川議員。

○8番（荒川詔夫） 今のことについて、あまり理解できないわけですが、もう少し後で質問させていただくことにします。

このような非常に良い制度だということで、このことに限定するわけではないですが、

今の世の中のシステムというのは申告主義、知っていて早く手を挙げた人はその恩恵に浴するけれども、全く情報を知らなくて見逃す、これは申告主義ですから仕方ない面もあるわけですが、そのような良い制度を住民の皆さん方にどのようにお伝えしながら、いつから恩恵を得られるか。時期を含めて広報の在り方、周知徹底の仕方を含めてお聞かせいただけますか。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） 予算が成立しましたら4月から要綱を定めて実施という形で考えていますが、周知については広報紙と無線放送を考えています。ただ、広報紙については4月については行政の連絡事項が大変増えますので、できない場合には別紙で入れる可能性もありますけれども、何らかの方法では周知していきたいと考えています。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 議員さんがおっしゃった2カ年というのは、確かに2年ほどすると標準装備に世の中なるのではないかという流れの中で2年にしたことも一つございます。それと、周知ですが、本当は可能であれば自動車会社に周知してあげることが一番徹底できるわけですが、農協などでも車を買ったところで飯綱町でしたら65歳以上の方は補助あるというようにできますが、おっしゃるとおり知っている知らないでは損してしまったということの無いように徹底したいし、あまりに申込みが多いということになれば、また議会とご相談をしたいと思います。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 2番、風間行男です。お願いですが、確か4月に老人クラブの総会等がありますから、高齢者の事故防止でしたらそこで連絡などをしていただければありがたいと思いますのでよろしくお願いします。

○議長（清水満） 他にございませんか。瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 予算書83ページをお願いします。障害者総合支援給付事業の83ページの

上から4項目目です。

訓練等給付の就労移行支援というのが276万、昨年が1,080万ですのでこれが減額。その下の就労継続支援B型というのが3,600万から4,560万に増額。少し下りまして就労継続支援A型というのが昨年32万だったのが420万と金額の上下があるわけですけれども、これは対象者が変化したということでしょうか。それとも何か重点施策が変更されたということでしょうか。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） 説明いたします。利用されていた方が障がい者の施設に移行したという人数的な変動もあります。そんな関係で実数を加味して数字を作ったところです。お願いいたします。

○議長（清水満） 他にございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 進行します。

第4款 衛生費、予算書102ページから115ページ。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 進行します。

第5款 労働費、予算書115ページから116ページ。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 進行します。

第6款 農林水産費、予算書116ページから136ページ。

質疑のある方おられますか。石川議員。

○7番（石川信雄） 議案提案説明書別冊2の31ページをお願いいたします。一番下段の世界に誇る力強い産業形成事業の農業拠点施設整備（三本松周辺）について、何かと話題になってい

る計画ですけれども、今現在の計画ですと町が経営にどのぐらい、施設建設まではいいですが、その後の経営について主にお伺いしたいと思います。今の規模ですと、既存の直売所等に経営も移譲していくというお考えかと思いますが、実際に経営といったことを考えますとしっかりした事業体に経営移管、または委託した方が良いのではないかと考えるわけですが、そういったお考えは担当課ではないのでしょうか。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） 直売所の運営をする事業体をしっかりしたところに任せたらどうかということでございますが、正しく議員のおっしゃるとおり、これから直売所というのは非常に経営が難しくなってくると思っておりますので、本当にしっかりした人材、あと経営面でもしっかりした事業体に任せていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） これからやろうとする大切な施設ですので、私の基本的な考えも一部申し上げたいと思いますけれども、農業で何とかこの町を活性化していこうという方針の中では、やはり直接消費者の方に売るという現場の確保はまず大事だと思っております。

素晴らしい所は10億の売上げ、四国のすごい所は20億も売り上げている先進地もあるわけですけれども、今度、三本松まで入れると町内には大きく3か所、個人でやっている人も入れれば4か所ほどの直売施設があるわけですが、願わくはトータルとして10億、20億ぐらいの売上げをカウントできるような場所になってほしいと思っております。

そういう中で、今回の三本松地籍においては、おっしゃるとおり設備投資までは町が行い、あとの経営は民間を中心にしてお願いしたいということで今進んでおりますし、強いて言うならば仮称ですけれどもまちづくり会社的なものという方向でいるとご理解いただきたいと思っております。

今のさんちゃんにしても、振興公社にしても、なかなか経営がスムーズにいくというのには、

非常に難しいものがございます。しかし、町の施設をお貸しするということですので、住民の皆さんにとってみれば町民のための施設であってほしい。そこに勤めている社員のための施設ならその会社で施設をつくれればいいという考えになると思います。それは極めて至極当然なことだと思うわけです。

しかしながら、公の施設だから公の立場の者が経営に当たるかと言えば、これは残念ながら経営ということになると公務員にはなじまない面が多々あります。町として、町の施設を貸している、利用してもらっているのだから、大きな意味では住民の利益につながるように町が指導的な立場に立っていたいという状況を維持しつつ、経営の中身の考え方は極めて民間主体の取組を行っていただきたい。これは非常に欲張りな会社運営になると思うので、議員おっしゃるとおり、そのスタッフ体制づくりが非常に大事になるし、そこが議会でも心配をされているところの一つだと思っています。

今、こういう方向でこういうリーダーを構えて、こういうふうにするということまで煮詰まっておりますけれども、十分にご意見を踏まえて対応していきたいと思っております。

○議長（清水満） 他にございませんか。大川議員。

○14番（大川憲明） 議案説明書の28ページ、その最後に老朽化した設備というので計画的更新を5カ年で141万3,000円とあります。これに野村上加工所の冷蔵庫と書いてありますけれども、5カ年計画とは何ですか。要するに5カ年も掛かってやる。

それで、予算書の120ページには141万3,000円が載っているということは、5カ年計画ではないのでは。単年度の予算ではないですか。それと、もし5カ年とするのであれば、先ほどから話が出ております三本松の直売所の加工所を造るのであれば、そこにも適用できるようなものを野村上へ一時的に入れておくという考えもあって、古いから5カ年経っても、三本松でそういうのができたらいいというのではなくて、継続的に使えるような業務用冷蔵庫を買うとしても、そういうことを考えながらやっていただきたいと思うわけですが、その辺をよく分かるように教えてください。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えいたします。この5カ年計画というのですが、既存の三水農畜産物直売加工施設、野村上加工所、りんごパーク大豆加工施設の施設、設備、備品が古くなってきておりまして、5年ほど掛けて少しずつきれいにしていこうというものでございます。

具体的には、31年度につきましては三水農畜産物直売加工施設と直売所のバックヤード、その冷凍冷蔵庫が非常に古くなってきて壊れそうだということで、1台ずつで2台分の予算を計上させていただいております。既存の施設については、少しずつ計画的に修繕をいたしまして、新規の加工所や直売所につきましては、「世界に誇る力強い産業形成事業」で予算の計上をさせていただいております。以上でございます。

○議長（清水満） 大川議員。

○14番（大川憲明） 説明は分かりました。ただ、三本松へ加工所を造る予定ですよね。その時点でも、例えば野村上にしてもさんちゃんにしても加工所がありますが、そういうところは統一しない予定ですか。バラバラにそのままやってくださいということですか。その辺をお聞きします。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） お答えいたします。まず、三本松の所に造る加工所でございますが、これについてはこれから詳細を決めていくわけでございますけれども、基本的にはフルーツ加工所ということで、販売用のりんごジュースの加工をする場所がこれまでございませんでしたので、そういった販売用りんごジュース等を含めたフルーツ関係の加工所を三本松の所に整備をしていきたいと考えております。

あと、野村上加工所や三水農畜産物直売加工施設でございますが、例えば味噌とかアップルパイなど、それぞれ特徴のあるものを、それぞれの加工団体が作っていただいておりますので、施設についてはこれから有効かつ効率的に利用できるようにいろいろと加工団体の皆さんとも

相談しながら考えてまいりたいと思っております。以上でございます。

○議長（清水満） 大川議員。

○14 番（大川憲明） 三本松の所はりんごジュースを作るだけの所ではないでしょう。今言った野村上にしてもさんちゃんの加工所にしても、もう既に味噌にしても販売していますよね。いろいろな物を作っています。そういうものもこの三本松に入れるべきではないですか。

例えば、一昨日の土曜日の発表会を私も聞きに行ったわけですが、牛乳や卵が駄目なお子さまがいるからといって、その無いサブレなどを作るという説明をした人もいたし、今言っている三本松にもそういうものを作れば、是非、三水の人が自分で使いやすい、販売しやすい場所を造った方が良くと思うわけです。

是非、三水第二小学校や牟礼西小学校の跡地で作るのではなくても、そういうところで6次産業が全部できるような形にすれば良いのではないかと私は思うわけですが、そういうものは三本松では作らないということですか。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） 三本松の直売所につきましては、平成 32 年度の事業でございますのでまだ詳細は決まっておりません。ただ、6次産業化推進協議会では、りんごジュース等を中心に生産するという計画ですが、りんごジュースだけではございません。

議員のご提言のできるだけ集中させた方が良くということ、こちらの方でも理解はしています。ただ、地方創生事業で加工所に掛けられる事業費というのが、おおむね施設と設備で6,000万円程度でございますので、たくさんの加工品を作るというのは事業費的に難しいと思います。やはり、既存の加工所も十分使えますので、今ある施設を有効に使いながら加工施設を整備していきたいと考えております。以上でございます。

○議長（清水満） 大川議員。

○14 番（大川憲明） 関東一の農産物直売所と言われた群馬県の川場村の農産物直売所へ当時の議員が視察に行ったことがあります。何しろ関東一売上げが多い。だから小布施の所など問題

ではないぐらいの所でありました。

そこに行った時に話を聞いたら牛乳も作ったりして売っていました。作っているところを見せるというのもすごく直売所の売上げを増やす原因だと聞きました。そこでは地ビールもあったし、そういうものを生産しながらその場所で売る。各々のこれから創業しようとする土曜日のあの人たちが、見えないところで作ったものを直売所へ持って行って売ったのでは、お客さんが見たとき、ちょっとぱっとしないのではないかと思います。例えば、本職のプロの菓子屋さんが見たときに、見た目が悪かったら下手な作り方ぐらいにしか思わないと思います。

そういうためにも、私は三本松にりんごジュースだけではなく、そういうものを作っているのを見せながら直売所の運営をするようにした方が良いのではないかと思いますがお聞きします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 貴重なご意見としてお伺いをしたいと思います。私も川場の道の駅には何回かお邪魔をして、あれだけのスケールにするのには恐らく 20 億、30 億。素晴らしいなと憧れて見てきましたけれど、今の町の財政力だとそこまでの投資はできません。

しかし、おかげさまで土地については広いエリアをご協力いただくという、第 1 弾、第 2 弾、第 3 弾と話に乗っていただけるような雰囲気を感じておりますので、その時期には民間のお金もお願いする中で対応していくというような知恵を絞って、今の理想の農村公園にはしばらく時間を掛けて考えていきたいと思っています。しかし、おっしゃる意味は非常によく理解できました。

○議長（清水満） 他にございませんか。清水議員。

○1 番（清水均） 1 番、清水です。提案書の 31 ページと予算書の 127 ページ一番下でございますが、世界に誇る力強い産業形成事業。

昨年、トップセールスとして海外へ行ってこられました。その成果と今年はどのような予定をしているかということをお聞きします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） タイにトップセールスでお邪魔をしてきましたけれど、私は印象として、今持って行けばどんどん売れるという印象よりも、あれだけ日本の商品、なおかつ飯綱町のりんごという独自のスタイルでデパートでも売るなどいたしましたけれども、非常に良い意味で農家に経験してもらおうと、やはりりんご作っていて誇りだなと思ってもらえるような雰囲気を感じました。

したがって、トップが行くよりも第2弾、第3弾で行っていただくなら農家に行っていたほうがいいかと思っておりますけれども、予算査定の中でもいろいろやりとりをして、もう少し農家も本当に海外で研修したいのであれば、ヨーロッパのイタリアなどでやっているようなりんご作りも非常に興味があるというご意見も結構強いと聞きますので、31年度は海外のトップセールス等については予算を組みませんでした。

なお、国内については、やはり飯綱のブランドということで国内の市場については1カ所、2カ所トップセールスをやりたいと思っております。

○議長（清水満） 他にございませんか。石川議員。

○7番（石川信雄） 議案の提案説明書別冊2の34ページの中段でございます。森林総合整備事業の右の森林環境譲与税関連事業で、これは新規ということでもありますけれども、対象区域は全体の何割程度を想定されているのか。また、単年度では厳しいと思いますが、先々何カ年計画でやっていく予定なのかをお伺いしたいと思います。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それでは、森林環境譲与税の関係についてお答えいたします。

これにつきましては、平成31年度が新規でございます。皆増の事業でございます。具体的に行う内容につきましては、民有林の意向調査や境界確認の委託ということで260万円を予算計上してございます。

具体的にこの森林環境譲与税が創設されて、干ばつとか森林を育てるための人材育成、担い手の確保等々の本格運用が平成 36 年度でございます。ただ、それまでに平成 31 年度から 35 年度ぐらいまでは、この民有林のそういった境界の明確化等の条件整備をまず優先的に実施をいたしまして、実際に森林環境譲与税をご負担いただく平成 36 年度から本格的な運用をしていく予定でございます。以上でございます。

○議長（清水満） 他にございませんか。渡邊議員。

○12 番（渡邊千賀雄） 12 番、渡邊千賀雄ですが、予算説明書の 31 ページの世界に誇る力強い産業形成の一番下段ですが、今、町としても非常に力を入れている ICT 農業の研究、それとそれにまつわる信大イチゴ研究、この辺の取組状況と今後の農業拠点施設整備のつながり、地元の農産物を売っていくという中で非常に注目を浴びるなど、力を入れている分野だと思うわけですが、信大イチゴ研究についての現在の取組状況と今後の展開について、どのようになっているのかお聞きします。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えいたします。まず、信大イチゴの関係の実証実験に関わる平成 31 年度の予算計上額でございますが、全体で 730 万円の予算を計上してございます。

具体的には、灯油代、消耗品、電気料等の需用費が約 100 万円。あと、信大への事務委託が約 300 万円。工事請負費ということで、イチゴの温度管理のオートメーション増設ということで 300 万円ほど工事請負費を計上してございます。

このイチゴの関係でございますが、まだ平成 31 年度で 2 年目でございます。30 年度の結果としては、飯綱町の気候、気象がこのイチゴの栽培には非常に合っているというのは、今のところ分かっております。

具体的には、信大のイチゴの実証実験は長野市内などいろいろな所で行っているようですが、やはりこの飯綱町では夏の涼しさとかも含めて、イチゴの実証実験としては結果的に

は非常に良い状況でございます。

今後、この信大のイチゴ栽培をこれからどうやって広げていくかということでございますが、こういった栽培を通して農家の皆さんに見ていただいたりとか、信大のイチゴを栽培しているような企業に進出をしていただいたりとか、そういうことによってこういった新しい作物の普及をできるよう進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（清水満） ここで、暫時休憩とさせていただきます。11時30分から再開いたします。

休憩 午前11時19分

再開 午前11時30分

○議長（清水満） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

農林水産費を続けます。

前段、原田重美議員から資料提出の要請があり皆さんのお手元へ配っておりますので、土屋産業観光課長から説明を求めます。土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇・説明〕

○産業観光課長（土屋龍彦） 先ほど、原田議員から要望がございました30年度の三本松直売所の全体の敷地計画図でございます。ただ、これは先ほどもお答えしたとおり、この図面も今現在、実はまだ修正をしているところでございまして、この図面から修正したものを全協のときに議員の皆さんにお出しして詳細を説明していきたいと思っております。この図面は、これからまた変わっていくものでございますし、地主さんの名前も入っておりますので、他の方には見せないように是非よろしくお願ひしたいと思います。以上になります。

○議長（清水満） 他に質疑ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 進行します。

次に第7款 商工費、予算書136ページから142ページ。

質疑のある方おられますか。目須田議員。

○4番（目須田修） 4番、目須田です。別冊2の資料で36ページ上段、中段をご覧ください。

リゾートスキー場周辺及び関連施設についてお伺いします。

まず1、水芭蕉園の駐車場と水芭蕉園そのものですが、これはF P Cに管理を譲渡したものでないのでしょうか。ご回答ください。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えいたします。水芭蕉園及び水芭蕉園駐車場につきましては、ファースト・パシフィック・キャピタルに売却したものではありません。また、管理もファースト・パシフィック・キャピタルに任せているわけではございません。以上でございます。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） それではお伺いします。まず1に水芭蕉園の木道の整備は完了されたのかどうか。そうであればいつなのか、お答えください。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） お答えいたします。まず、水芭蕉園の木道の修繕の関係でございますが、これにつきましては老朽化して損壊が激しく危険なところを毎年、おおむね100万円前後くらいの予算を付けさせていただいて修繕をしているところでございます。30年度の修繕については終了しております。

31年度の木道の修繕につきましては100万円を予算計上してございます。以上でございます。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） そうすると、案内板等も作られるということですが、一般に水芭蕉園という定義づけ、あるいはネーミングにすると、その季節2週間くらいの来客しか見込めないことになるので、できれば将来は湿地植物園、非常に良いものがあります。ですので、湿地植物園とすれば野鳥も来ていますし木もありますので、もう少し通年利用者があるのではないかといいことでご提案しておきます。

それから、別れてしまった施設でトイレが今度は別の会社ということになるのですが、これは担保されているのですか。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） 目須田議員の年間通して湿地植物園にしたらどうかというご提言ですけれども、実は東高原のエリア研究会の皆さんからもそういったご提案がされておりまして、本当にあそこには素晴らしい自然環境があるので、四季を楽しめるような形にしたらどうかという貴重な提言をいただいておりますので、これから考えてまいりたいと思っております。

トイレの関係でございますが、これまでトイレにつきましてはスキー場のレストハウスのトイレを使わせていただいておりますので、これについてはファースト・パシフィック・キャピタルにも依頼をして使わせていただけるようお願いをしております。ファースト・パシフィック・キャピタルも四季を通して施設を有効利用していきたいというお話をされておりますので、町からもお願いしてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） トイレという部分でこれから依頼をして利用できるような形ということによろしいですね。

それで連動していきます。今度はその下の段で登山道の整備ということで予算が計上されておりますが、今までは予算がここに提示されなかったものについて、31年度からなぜ計上されることになったのか。

2つ目は、今までこの登山道の部分を町の業務であると認識されていたのかどうか、お答えください。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えいたします。まず、今回登山道の整備の業務委託ということで58万7,000円の予算を計上させていただいております。

これにつきましては、今まで登山道の整備につきましては飯綱岳友会の皆さんがボランティアで整備をしていただいております。ただ、この霊仙寺・飯縄山の登山道の整備につきましては、例えば飯縄山でしたら長野市が長野市側の登山口からの登山道の整備をきちんと長野市が責任を持って行っておりますし、信濃町についても信濃町の登山口から登る霊仙寺山の登山道の整備というのは信濃町がしっかり行っておりますので、こういった登山道の整備につきましてもしっかりと行政が責任を持っていった方が良いということを町が判断いたしまして、31年度の予算で登山道の整備業務委託費用を予算計上いたしました。以上でございます。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） それではお伺いします。今回のこの予算計上の数字は何を基準に算出されたのかお伺いします。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えいたします。内訳でございますが、一つが霊仙寺山の登山道の整備の業務委託で18万7,000円でございます。主な内容は、登山道の草刈りということで飯綱岳友会に見積りを依頼いたしまして、見積内容は1回あたり6人～7人、年2回で計13人の方に1日出ていただいて草刈りをやっていただきます。具体的には、労務費・保険料・資材費等で18万7,000円という見積りをいただきましたので、それで予算計上してございます。

続いて、飯縄山・霊仙寺山登山道の整備業務委託ということで39万9,300円を予算計上しております。これにつきましては、戸隠登山道整備組合から見積りを取っております。具体的な内容としては、1回当たり5人で飯縄山と霊仙寺山の稜線、ここを年1回草刈りするというところで、戸隠登山道整備組合の単価で1日当たり3万円掛ける5人分で、諸経費と消費税が別途掛かり15万円です。

もう一つが飯縄山の原田新道の草刈りを年1回、1回当たり6人で行うということで、3万円掛ける6人で18万円。諸経費、消費税別途で18万円ということで見積りをいただいております。

ます。その金額を基に予算計上させていただいております。以上でございます。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 算出基準は分かりました。それは、業務委託する業者ということを想定されてそこに見積りをお願いしたのでしょうか。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） お答えいたします。正直なところ、どこと契約するのかというのはまだ分かりませんが、あくまでもこういった登山道の草刈りをやっていただけたところというのは限られておまして、飯綱岳友会と戸隠登山道整備組合であればこういった登山道の草刈りができるというお話を聞いておりましたので、ひとまずそちらから予算を計上するために見積もを取らせていただきました。以上でございます。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） まだ予定の範囲内ですので参考までにお聞きしておきます。岳友会は高齢化されて非常に登山する参加者も減り、ましてや草刈りというのは大変であるということをお聞きしております。そういうところに発注して大丈夫なのかどうか。孫請けにならないのかどうか。今後を心配しております。

それからもう1つは、F P Cの管理部門、つまり登山道、今の原田新道と霊仙寺山に行く間のこの登山道の整備は担保されているのかどうか。この2つをお答えください。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） お答えいたします。まず、岳友会の方が非常に高齢化していて大変なのではないかと目須田議員がご心配されている件ですけれども、こちらからお聞きしたときも会員が高齢化してきて大変だというお話は聞いております。ただ、見積りを出していただいたということは請けていただけたということだと考えております。孫請けとかそういったことは無いと思っております。

あと、両方の登山道の登山口は、どうしてもファースト・パシフィック・キャピタルの所有するスキー場になっておりますので、そこまでの道が担保されているかどうかですが、要はグレンデのところをしっかりと草を刈ってもらえるかどうか、そういった意味合いだと思っておりますが、これにつきましてもまだお約束はしていないわけですが、このファースト・パシフィック・キャピタルでもオールシーズン自然を楽しんでもらえるということを強く言っていたいておりますし、この飯縄山や霊仙寺山の登山についても非常に強い興味を持っていただいておりますので、町としても国有地の登山道の部分についての整備はしっかり行政で行いますので、その登山口までの整備についてはファースト・パシフィック・キャピタルにお願いをしてまいりたいと思っております。以上です。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 最後の答弁がとても大事なのですが、町の費用を使って登山道を2本草刈りして整備ができた。だけれども、こちらから登っていくところがつながっていないとなれば、要するに無駄なものになってしまうので、まずその除草を発注する前にF P Cの確認を取っていただきたい。これをお願いしておきます。以上、私の質問を終わります。

○議長（清水満） 他にございませんか。原田議員。

○13番（原田重美） 提案説明書の36ページです。ノルディックハーフマラソンの国際大会がここで行われるということですが、この話は去年も要望があるけれども何とかできないかというお話しをさせてもらったことがありまして、いろいろ体制がなかなか難しいということでしたが、今年は国際大会が初めて行われるということで期待もするわけですが、主催はどこで、これに伴う経済効果とか観光客の見込みとか、どんなような大会になっていくことが期待できるのか説明をしてもらいたいと思います。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） お答えいたします。まず、ノルディックハーフマラソンの関係でワールドカップを開催するというので、31年度の予算はこれまでよりも補助金を上げて84

万 8,000 円の予算計上をさせていただいております。

それで、今このノルディックハーフマラソンの大会を平成 25 年度から毎年行っているわけですが、参加者は確実に上昇しているということと、あともう 1 つ注目すべきところは宿泊パックということで、地元の宿泊事業者に宿泊する方が毎年確実に増えております。平成 29 年度で言いますと、262 人の参加で約 80 人の方が飯綱町のペンションに宿泊をいただいております。

今回、そのハーフマラソンのワールドカップということで、主催者につきましてはこれまで同様に実行委員会の皆さん、民の皆さまが中心になって行っていただく予定でございます。観光協会の皆さんとか、あと長野市内のハーフマラソン、ノルディックウオーキングの有志の方とか、そういった皆さんで実行委員会を構成していただけて行っていただく予定でございます。

このノルディックマラソンのワールドカップというのが、日本で初めての開催でございますので、できるだけ外の方にも発信をして、これまで以上に多くの方に参加していただけるような形にしていきたいと思いますと考えておりますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

○議長（清水満） 原田議員。

○13 番（原田重美） 分かりました。日本で初めての国際大会であるということで、これに関しては我々の方の観光というのは、いわゆるインバウンド関係、非常に希薄な観光地であると思っております。

このハーフマラソンで外国の皆さんがどの程度みえるのか私も知らないけれども、できるだけ外国の人たちがここを認識してもらうことができるような、マラソンもそうだしイベント的なものもやるのであれば、そういうものにもきちんと目を向けて、いわゆるインバウンド人口の増加につなげていくというようなものに持って行ってほしいと思います。その辺の考え方はどうですか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） インバウンドは本当に今、飯綱町は残念ながら傘礼駅で降りる人はいない

というような状況ですが、受入れをしていくにもいろいろな課題、語学から始まって宿泊施設、トイレの整備などいろいろあると思いますけれど、オリンピックも控えていることですしインバウンドも誘客の一つとして取り組んでいきたいと思っています。

○議長（清水満） 他にございませんか。伊藤議員。

○9番（伊藤まゆみ） 9番、伊藤です。概要説明書の資料2の35ページ上段です。プレミアム商品券、この内容について今年は一般にも拡大したということですがけれども、詳細な説明をお願いしたいと思います。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それではプレミアム商品券についてお答えいたします。まず、利用の開始時期でございますが、今年の10月1日から利用開始ができるようにしてまいりたいと考えております。

まず、国の補助金で対応する低所得、子育ての部分でございますが、これについては700万円の予算を計上してございます。具体的には低所得、子育ての方につきましては、額面5,000円の商品券を4,000円で販売し、割引率がちょうど20パーセントになるわけでございますが、それを5セット買えるようなイメージでおります。具体的には900世帯の方が5冊買えるといったイメージで予算の要求をしてございます。これにつきましては全額国庫補助金でございます。

続いて一般の部分でございますが、これにつきましては500万円の予算を計上してございます。利用開始時期は全く同時期でございます。一般世帯につきましては従来どおり額面6,000円の商品券を5,000円で販売し、割引率で17パーセントになります。一般世帯につきましても最高5セットまで買える計画でおります。具体的に一般世帯につきましては1,100世帯が5冊買うという計画で500万円の予算の計上をしてございます。以上でございます。

○議長（清水満） 他にございませんか。石川議員。

○7番（石川信雄） 7番、石川です。提案説明書別冊2の35ページになります。商工振興対策

事業の中の創業支援補助金新規事業 100 万円でございますけれども、こちらは上限いくらでしょうか。あと、事業計画書の提出とか審査等がきちんとしたものになっているのかどうか、そこから辺のシステムについてお伺いしたいと思います。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えいたします。空き店舗の活用、創業支援の関係でございますが、31 年度に二つの事業を新規で行う予定でございます。

1 つ目が創業支援の補助金で 100 万円を予算計上してございます。これにつきましては、補助対象経費の 2 分の 1 で補助限度額が 100 万円ということで、ひとまず 1 件分の予算を計上してございます。補助対象につきましては、創業に伴う設備とか備品の購入、あと広告宣伝費等でございます。基本的にこの審査につきましては、商工会等々とも相談しながらしっかりと商工会の相談を受けて行う条件を付けたりとか、あともう 1 つ、先ほど企画からの事業チャレンジの話もございましたが、そういった事業チャレンジでそれなりの結果を残した人にもこういった事業が使えるような形にしていければと考えております。予算が成立したところで詳細な要綱をつくっていきたいと思っております。

2 点目でございますが、平成 31 年度に空き店舗の活用事業の補助金ということで、これまで空き店舗を利用するときにも補助金を出していたのですが、平成 31 年度は新たに空き店舗を改修するものに対しても新規に補助金を出す予定でございます。これについても 100 万円を予算計上してございます。補助率は改修に要する経費の 2 分の 1、補助限度額が 100 万円でございます。補助対象物件でございますが、これについては空き店舗だけではなくて校舎の内部を改修するなど、そういった費用についても対象にして、三水第二小学校とか西小学校の空き教室の利用にも使えるような形を考えていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（清水満） 他にありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） それでは、ここで暫時休憩に入りたいと思います。再開は 13 時でお願いしま

す。

休憩 午前 11時59分

再開 午後 1時00分

○議長（清水満） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

進行します。

第8款 土木費、予算書143ページから150ページ。

質問のある方はおられますか。大川議員。

○14番（大川憲明） 議案説明書の37ページ、一番下の8款2項1目のところの委託料600万
ですけれども、草刈り、伐採、枝払い等の作業の委託料と書いてありますが、これは東高原の
道路は関係ないのでしょうか。

○議長（清水満） 森建設水道課長。

〔建設水道課長 森佳也 登壇〕

○建設水道課長（森佳也） 今、おっしゃられた枝払い等につきましては一応他の町道というこ
とですが、一部使わせていただいて枝等は撤去しているときもありますが、ほとんどは東高原
以外の町道です。よろしくお願いします。

○議長（清水満） 大川議員。

○14番（大川憲明） 次のページの38ページの橋梁修繕工事の実施計画で3つの橋と書いてあ
りますけれども、これは具体的にどこの橋のことでしょうか。東黒川からも西黒川からも区長
の名前で東西黒川の公民館から下がり西黒川の方へ上がっていく道、あの橋を何とかしてほ
しいと長い間申請が出ているはずですが、それで、そこは町長も皆さんもご存じだと思うけれど、
H鋼を掛けてその上に鉄板を置いてあるだけの橋で、車も人もそこを歩いていく非常に危険な
橋なわけだけど、いろいろと無理で橋が直らないというのが現状です。それで、ここはどこな
のかご提示くださいということです。

○議長（清水満） 森建設水道課長。

〔建設水道課長 森佳也 登壇〕

○建設水道課長（森佳也） 今年までの3年間に道路橋梁の関係の点検が全て終わりました。その中で、ここは早めに直した方が良いという橋が全部で8～9橋出てきました。それで、今回この予算に盛ってあります橋につきましては、役場前の鳥居新橋、それから三水庁舎に入っていく斑尾大橋、もう一点は西黒川の丸山橋が一番危険だということで、設計にかける予定であります。

それで、今の大川議員さんの質問の橋につきましては、危険度はガードレールが古いため、そこは単独費で今年度修繕をかけますが、橋自体は診断から申しますと申し訳ございませんがすぐに直さなければいけない、5年以内に直さなければいけないところには入っていないものですから、今回はその3橋ということで計画しております。

○議長（清水満） 大川議員。

○14番（大川憲明） 今の橋の件は土台がしっかりしているから大丈夫だという考えですね。

それでは次の39ページ、原田地区の周辺道路改修工事が新規であって、ここの部分を詳しくお話いただきたいわけですがどのようにやっているのか。

○議長（清水満） 森建設水道課長。

〔建設水道課長 森佳也 登壇〕

○建設水道課長（森佳也） 原田地区の周辺道路ということで、まず1点は現在原田地区に造成と言いますか、これから若者定住住宅を5棟10世帯の場所の水路側の道路、黒川のほうから流れてくる大きな水路ありますが、あの水路の横の道は都市計画上道幅が狭いということで、あそこを若干拡幅します。

それから、周辺ですので山本食品さんの舗装をかけたその下の砂利の道。一生懸命転圧をかけたわけですが、冬が終わったら行ってもらえれば分かるとおりにあらわれておりますので、あそこを何とか改修したいということで予算計上させていただきました。

公有財産購入費の原田地区の建設工事ということですが、建設工事の整備というものにつきましては、来年度、プラス2棟4世帯の工事を行います。33年度までに10棟を造りたいという計画でいます。反対側の農地付き住宅のようなものは、来年度に分筆をかける予定であります。

す。以上です。

○議長（清水満） 他にございませんか。青山議員。

○10番（青山弘） 10番、青山弘です。別冊の37ページ中段をお願いします。土木総務費の中の委託料の100万円ですけれども、道路占用台帳データ整備業務で新規となっております。道路占用で町が貸し出している台帳を作るとのことだと思いますが、この貸し出している土地の代金が幾らなのか教えていただきたいという質問です。

○議長（清水満） 森建設水道課長。

〔建設水道課長 森佳也 登壇〕

○建設水道課長（森佳也） まず、道路占用台帳のデータ整備というのは、議員さんおっしゃるとおり、NTT、中部電力、それから個々や業者などに使用料をいただいているもの、もちろんいただいなくても占用の申請書が出てきたものをデータ化するというものでございます。

収入につきましては、予算書の24ページ中段の4、土木使用料、占用料950万がこちらに収入としてございます。

○議長（清水満） 他にありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 進行します。

第9款 消防費、予算書151ページから154ページ。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 進行します。

第10款 教育費予算書、154ページから189ページ。

質疑のある方おられますか。風間議員。

○2番（風間行男） 2番、風間行男です。この教育費の中で、今後、先生方の働き方改革等に充当するのはどのくらい含まれているか。改革できる可能性があるかどうかお伺いしたい。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。先生方の働き方改革というご質問でございます。

県から働き方改革の関係で県内同一步調ということで通知が来てございます。

1つは、夏休みに7日間連続して休暇を取るよにとということ。それと2点目が留守番電話の対応。いわゆる時間外に留守番電話を設置して先生方の負担を軽減する。時間外でも結構電話が来たり、あるいは早朝来たり、電話の対応をとということ。それと3つ目は時間外をどれくらい行っているのか。それを把握するための、例えばタイムレコーダーを入れて行うというよなこと。この3つは県内同一步調を合わせてということであります。

ただ、今回の予算の中には予算が必要なもの、例えばタイムレコーダー、あるいは留守番電話等につきましてはまだ盛ってはございません。これは、実際に留守番電話は学校でどのような対応、どれくらい経費が掛かるのか、そこら辺をまだ見積もってございませんので、必要があれば補正で議会にご相談をしてみたいと思っております。

また、タイムレコーダーにつきましては、既に牟礼小ではタブレットを使った先生方の時間の管理、あるいは中学校ではパソコンを使って行っている。それと、三水小はタイムレコーダー的なものが入っているということがありますので、そこら辺はもう一度確認をしながら行ってまいりたいと思っております。

いずれにしましても、そのようなことで働き方改革につきましては考えていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○議長（清水満） 馬島教育長。

〔教育長 馬島敦子 登壇〕

○教育長（馬島敦子） 少し補足をさせていただきます。今、次長が本来だったら学校の職員がやるべきではない仕事を学校職員の仕事から外していこうということで具体例を挙げました。

それ以外にも、例えば40ページの上段にスクールソーシャルワーカーによる相談事業実施とか、41ページの各小学校のところに加配の講師のところの学習支援員とか児童介助員とか、それから町費の理科専科の教師とかありますが、これらは町独自で雇っているもので、いちばん

は子供のためですが、それがひいては教職員の業務改善にもつながっていくと考えています。

是非ともその辺をご理解いただいてご協力いただければと思います。以上です。

○議長（清水満） 他にございませんか。荒川議員。

○8番（荒川詔夫） 8番、荒川です。提案書別冊2の41ページについて端的にお伺いします。

小学校の加配講師で、41ページの中段に三水小学校の加配講師が31年度は13名とあります。ただいま風間議員の質問の中で、教育長から若干これに関連するお答えがあったかと思うのですけれども、30年度は17名、31年度はここに書いてあるように13名で対応したいということ、先ほどとも関連があると思いますけれども、原因をまずお聞かせいただけますか。

○議長（清水満） 馬島教育長。

〔教育長 馬島敦子 登壇〕

○教育長（馬島敦子） お答え申し上げます。去年よりも実質数が減っているのは、学級減によるものです。三水小学校の場合は、本来であれば全クラス1学級ですけれども、第二小学校で10人に満たないクラスを経験していた子供たちが、環境が急に変化して困らないように、激変緩和ということで町費の担任を雇って2クラスにしていました。それが、諸事情により人数が少ない学年を1クラスにしたり、来年度からは激変緩和の必要がなくなるからです。

今後、三水小学校に入学してくるお子さんは、ほとんどがさみずっ子保育園で一緒に活動しているお子さんです。だから、小学校に入って2クラスに分ける必要がないという意味で講師の数が減ってきています。

それから、支援員については基本的に低学年のお子さんに手厚くということを考えています。お子さんによってはマンツーマンで付く場合もあれば、必要に応じてTTに入ることもあります。一方で支援員の存在が子供の自立を妨げたり、集団の中で子供たちがお互いに学び合ったり助け合ったりしていくことの妨げになる場合もないわけではありません。

そういった意味で、本当に必要なところは手厚くするけれども、子供の自立を促すというところで削った場面もございます。そういうことで、結果として今年は13名になったということです。

○議長（清水満） 荒川議員。

○8番（荒川詔夫） 理由は分かったわけですが、今年の4月1日から両校に統合するというところの大きな理念として、各学年複数クラスにすることが非常に望ましいということでした。

それでは、大体一学級はどれくらいの人数が良いのかと教育委員会にお聞きしたら、そういう基準というのは未定であるということでしたが、できる限り複数クラスでやっていきたいといけれども、今の教育長のこのお答えの中で私が少し疑問に思うことは、激変緩和措置をしないということです。ただ、実用に応じたクラス編成をせざるを得ない情勢のために人員を減らしたということですが、そこら辺の考え方がもう少ししっかりしているのかどうか。

そしてまた、具体的には31年度から多分、牟礼小学校は各学年複数でそのまま移行すると思うけれども、三水小学校の場合はどうでしょうか。

○議長（清水満） 馬島教育長。

〔教育長 馬島敦子 登壇〕

○教育長（馬島敦子） お答え申し上げます。あり方検討委員会から準備委員会に至るまで、7～8年の歳月をかけて議論し、牟礼小学校は2クラス分の人数がいるので問題ないですが、三水小学校の場合は正規の人数でいくと全て単学級になってしまうという中で、2学級で始めました。

子供たちが新しい環境の中でも戸惑うことなくやれるということでは一つの成果があったと思っています。ただ、開校してからの新しい学校の在り方については、3年を目途に見直しをしようと思っています。今年で1年終わりましたので、来年度、再来年度と経ったところで、全体をもう1回見直してより良い方向へ改善していこうということは考えています。しかし、三水小学校に関しては実際に開校してみましたところ、例えば三水第一小学校のお子さんは、今まで二十人ぐらいで授業をやっていたけれども、第二小学校と合併して三水小学校になったら1クラスが学年によっては12人とか13人とかになってしまいました。少人数学級は良い面もあるけれども、学習活動が活発にやりにくい面もあるという声が実際に現場から上がってく

るようになりました。

例えば、たまたま1つのクラスの先生が出張でみえないから、今日は特別に2クラス一緒に授業をやるということで、二十数人で授業をやったらとっても活気があり、子供たちが元気よくて良かったという声も実際に現場から聞かれています。

それから、運動会や音楽会などいろいろな行事をやるにしても、体育の授業などは今、合同でやったりもしているわけですが、いろいろなことを考えたときに25人を切るようなクラスは、もう2クラスに分けない方が良いのではないかと判断しております。

実際に今2クラスある学年は、大体26人とか27人とか30人近くいますが、来入児は今のままでいくと多分25人を切ります。それを2クラスにすると、1クラス10人くらいです。子供たちが元気よく学ぶにはもう少し人数がいた方が良いのではないかと考えます。では、13人なら良いのか、15人なら良いのかというのはなかなか難しいところですが、その辺は実情を見ながらまた考えていきたいと思っています。当初から何人以上と決まっていたわけではないですが、一つの目安としては26人くらいを一応考えてやっていました。以上です。

○議長（清水満） 荒川議員。

○8番（荒川詔夫） 今の説明を私は理解したけれども、私は、例えば29年12月の定例会で須田議員から一般質問されたように、いわゆる29年度飯綱町全体の出生数というのは40人切っているわけです。ただいまの馬島教育長の答弁の中で、やはり2校で全体40人を切っているということになると、我々もどのように学校の在り方というのを考えたらいいか、そこら辺を非常に今心配しているところなので、そこら辺を含めてもう一度お聞かせいただきたい。

○議長（清水満） 馬島教育長。

〔教育長 馬島敦子 登壇〕

○教育長（馬島敦子） 今、議員がご指摘になったように、29年度は出生数が40を切るという大変少なくなっています。ただ、30年度は多分50名を超えていると思います。30年度から6年間逆算していったとき、基本的にはだんだん減ってってしまうわけですが、教育委員会の政策もそうですけれど、町全体の取組の中で飯綱町の人口がどう推移していくかという

こともまた注視してかなければいけないと思います。それから議員がおっしゃるように、もしこのまま本当に飯綱町の子供たちの数が減り続けるのであれば、今2校になった学校をさらに1校にした方がよいのかどうか、人数の推移によってはまた組上に上ってくることを思っていますが、今現在のところでは、すぐ一つにしようというふうには考えておりません。

○議長（清水満） 他にありませんか。荒川議員。

○8番（荒川詔夫） 8番、荒川です。それでは、議案提案説明書の別冊2の40ページ、通学路の危険箇所の防犯カメラ設置事業について若干お尋ねします。

これについて、確か新聞でもある程度考え方が掲載されたと思いますが、改めてお聞かせいただきたいわけですが、飯綱町の子供は宝だという観点で、子供たちのいわゆる防犯対策、交通対策含めて厳格に取り組まれてきているということですが、それはそれで大変結構なことだと思っております。

お聞きしたいことは防犯カメラの設置箇所について、その危険とはどんな所を指しているのかお聞かせいただけますか。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。危険場所ということでございます。この設置に当たっては、長野中央警察署の生活安全課と昨年10月に場所を見て歩きました。危険箇所が何カ所かあったわけですが、その中で予算的な面もございまして3カ所を一応選定してございます。ただ、実際に付ける段階になりまして、もう一度検討しまして設置を進めていきたいと思っております。ですので、予算的には3カ所を今のところ予定しております。

○議長（清水満） 荒川議員。

○8番（荒川詔夫） 危険箇所が3カ所だということで、それは分かりました。それで、計上額も3カ所分ということで、更にその3カ所を今後もう一度見直ししながら設置をしていきたいということですが、一体どういうところが危険箇所なのか、場所を教えてくださいたいと思います。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） 言葉足らずで申し訳ございません。危険箇所ということで、小学生は比較的早めに下校しますが、中学生が帰宅する頃は暗い夜道ということになりますので、そこら辺を考えながら危険場所を考えてまいっております。

ですので、県道沿いの暗い場所を重点的に考えているところでございます。よろしくお願ひします。

○議長（清水満） 荒川議員。

○8番（荒川詔夫） 今、危険箇所とは暗い箇所で県道沿いということで、私もある程度分かったわけですが、それでは防犯灯と防犯カメラ、その関係というのはどのように捉えての防犯カメラ設置なのかお聞かせいただけますか。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。防犯灯との関係でございます。暗い所ということでありますので、防犯灯が付いていない、あるいは防犯灯と防犯灯の間隔が広い所を想定しております。ですので、子供たちの通学路になっております県道沿い、あるいは防犯灯のあまりない区間で考えているところでございます。よろしくお願ひします。

○議長（清水満） 荒川議員。

○8番（荒川詔夫） 私が質問したのは、設置しようとする所は防犯灯で充実強化しても良いのではないかという思いの中で質問させていただいたわけです。なかなかこういう世の中ですので、そうは言っても非常に飯綱町も広域で暗い所もあるし、危険な場所は結構あるけれども、そこら辺をどのように捉えて今回設置に踏み切ったかということを質問したわけです。

それでは、まだまだ設置場所も未定ということですが、時期はいつ頃か、そして管理はどのようにするのか、そこら辺をお聞かせいただけますか。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。設置時期でございますけれども、やはり防犯灯を付けるには条例等の制定が必要になってきます。県内を見ますと、小海町で通学路のための防犯灯の条例を作っておりますので、当町も条例となりますと議会にお諮りしながら行ってまいりたいと思っておりますが、今議会には上程できなかったもので、条例となりますと6月以降の議会に上程しましてお願いをしたいと思っております。

それから管理の関係でございます。防犯カメラは、動画が撮れる防犯カメラを今予定しております。カメラの中に2週間映像が保存できるということで、2週間経つと書き換えになっていってしまうという設定になっております。ですので、2週間以内に町でデータを取りに行つて、個人情報関係がございましたので町で管理をさせていただき、何かあったときには情報提供と言いますか、警察等々と連携をしながら行ってまいりたいと思っております。そこら辺につきましても条例等でまた定めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

○議長（清水満） 他にございませんか。大川議員。

○14番（大川憲明） 今の荒川さんの質問で私も少し聞いておきたいわけですが、ただいま言われたところによると町で管理するということですね。ただ、その中でも心配なのは、防犯カメラというものは住民のプライバシーの問題が一番大きいと思います。それで、警察と一緒に3カ所を決めたということですが、危険だからといって飯綱町中に防犯カメラを付けられたら大変なことです。危険な場所とは一体どこかとわざわざ荒川さんは聞いたと思います。危険な場所というのは、誘拐されそうな場所とか何も無かったら川に落ちそうな場所とか、そのように言ってもらえればある程度分かるわけです。でも、ただ単に警察と話し合つてここが良いから付けるというのは、町の行政を預かる人間の自主性が無いような気がします。自分たちできちんと考えて、「ここは確かにいろいろな人が出入りして、いろいろな問題があったからこういう所に付ける」とか、そういうのであれば良いけど、警察の言いなりになってその場所に勝手に付けると言われると私は非常におかしいと思う。そこをまず一点お聞きしたいです。

○議長（清水満） 馬島教育長。

〔教育長 馬島敦子 登壇〕

○教育長（馬島敦子） ただいまのご質問にお答えさせていただきます。確かにどこに設置するかというのは大変難しい問題です。飯綱町は面積が広くて、暗い所と言ったらほとんど暗い所になりますが、暗いからといってほとんど人通りの無い所に付けてもあまり意味がありません。でも、何かあったとき、身に危険が及んだときに「助けて」と大声を上げたら誰かにすぐ声が届く所は人通りも多いだろうし、そういう所に付けると、今おっしゃったようなプライバシーの問題などいろいろ出てきて、町民の皆さんも監視されているみたいで嫌だと思われるかもしれません。

大変に難しく、まだ検討中ではありますが、最優先としたいのは、過去において高校生が不審者に追い掛けられて怖い思いをした場所とか、中学生が、知らない人がいつまでも後を付いてきて怖い思いをした場所など、人家が切れていて人目に付かないような所など、過去の例なども見ながら慎重に選びたいと思います。

また、それについては教育委員会だけで決めるのではなくて、いろいろな方面の方のご意見なども伺って最終的には決めたいと思っていますので、その節はよろしくお願いします。

○議長（清水満） 他にございませんか。大川議員。

○14番（大川憲明） それでは、議案説明書の48ページ、ふれあいパークマレットゴルフ場の整備ということでお聞きしたいと思いますが、初日の町長の挨拶の中にもありましたけれども、ここで長年要望されてきた事業を予算化する。総額177万5,000円。工事費は1,625万となっていますけれども、ふれあいパークのマレットゴルフ場というのはスポーツやるには、いっぱい集まるには良いと思います。

ただ、心配なのは、このマレットゴルフ場は牟礼村時代にもありました。いまだにコースの跡もあります。私たちもいろいろな人と話して、一体何であそこにあったマレットゴルフ場がつぶれてしまったのか。それが分からなくては36ホールを整備して大会を誘致したいと言っても、それが果たしてできるのか。何で牟礼村時代にあったものがつぶれてしまったのか。そこから辺が分かったら教えてください。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） これは、牟礼村時代からいる人の方が分かると思うので申し上げますけれど、確かにあそこに整備しました。しかし、あその場所は排水がうまくいかなくて、いつもぐちゃぐちゃしていたのと、もう1つは上のゴルフ場からボールがたまに飛んでくるということで、嫌煙されて使わないような経過になりました。

今回、そこら辺の手を打つのと、今度は野球場のバックネットの裏辺りをマレットゴルフ場にするわけですが、そちらの方を中心に整備して、議員の心配された昔の方にも一部コース整備をするとなっておりますけれども、そこら辺を踏まえた上で工事対応したいと思っています。

○議長（清水満） 大川議員。

○14番（大川憲明） この大会を実施するために36ホールも果たしているのですか。というのは、ゴルフのきちんとした大会でも27ホールあれば長野県大会ができています。そういうことを考えたときに、36ホールもあの狭いところにどういうコースを整備するのか。図面があったら本当は見せてもらいたい。やることに反対ではないけれど、それに一番大事なことは大会を運営するのであれば今の会員数を増やさなければ駄目だと思います。

先日の土曜日の午前中です。ある人に聞いたら、小玉地区では「名前だけでいいから頼むから会員になってくれ」と、女性5人に頼んで歩いた人がいるそうです。名前だけでは大会の運営はできないと思います。そのようにして人を増やそうとする努力は分かるけれど、もっとその辺をしっかりと要望している人たちにお願いした方が良いのではないかと思います。

例えば、私はゲートボールをやっていますが、マレットゴルフと違ってゲートボールは長野県大会という組織がきちんとできあがっています。そのために、北信予選などを全部勝ち上がっていったのがやるから、例えば、飯綱町でやらせていただいている飯綱オープンほど大きな場所ではなくても県大会をやるわけです。そこから勝ち抜いた2チームずつ8チームで、それで勝ったのが北信越大会とか全国大会に行くようになっているので、私はそう考えたとき

に 36 ホールも果たしているのかどうか、その辺の考えをお聞きしたい。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） お答えします。確かに、私も陳情・要望があったときに 27 ホールでも良いのではないかというお話を申し上げましたけれど、豊野、小布施、信濃町、長野、須坂、全て 36 ホールでなければ大会を持って来られない。

それと、毎週木曜日に信濃毎日新聞にスポーツの大会の上位入賞者の記事が出ます。確かに信毎の紙面の半分以上がマレット大会の入賞者。下の方に今のゲートボールがある。マレットゴルフの愛好者人口というものは非常に多いということは紙面でも伺えました。

そのようなことや、会のメンバーの代表的なメンバーの皆さんたちがペンション等々へのお客さんの誘致も本当に一生懸命やりたいということや、何よりも高齢者のスポーツ振興によって何とか健康で長生きしてほしいということへの一助になればという意味で 36 ホールにいたしましたけれど、議員が危惧されているような点も関係者へ強く話をしたいと思います。

○議長（清水満） 他にございませんか。風間議員。

○2 番（風間行男） 2 番、風間行男ですが、予算説明書別冊 2 の 49 ページですが、牟礼海洋センターの体育館について、今後リハビリ等に使えるようになるか、お考えがあるかないかをお伺いします。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。リハビリということでありまして、パワーリハビリは深沢に多世代交流施設を造っておりますので、そちらに移動する予定で考えてございます。ただ、その後リハビリの関係、どのような内容のリハビリになるかは承知しておりません。

○議長（清水満） 風間議員。

○2 番（風間行男） 福井団地にありますが、これは福井団地の皆さんのみで一般の人が使

えないと聞いています。今の海洋センターの体育館辺りだったら、四ツ屋、福井、牟礼近辺の人たちが健康増進のために使えるのではないかとということでお伺いしたわけですが、今後検討していただけるかどうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 大事なご質問だと承知しております。うれしいことは、特に高齢者の男性がいろいろな集まりになかなか出席が鈍いという中であって、リハビリの機械をいじってパワーアップするというについては誠に出席率が高い。

農業をやっているから、毎日歩いているから結構体力を使っているというのは、それは全然違う話で、やはりいろいろな筋肉を使うというのは、骨折とかいろいろな意味でも強い体になるということで、私はこれからの健康づくりの一つはパワーを付けるリハビリだという思いがしております。

そんなことで、今度の交流施設、第二小、西小、いわゆる拠点と思われるような地域にパワーリハビリの機器を整備していくと考えておりますけれど、体育館の中に一部作ってしまいますと、そのエリアが専属的に他のスポーツの場としては使いづらいという点もございますので、そこら辺は違ったパワリハの施設、機械もあるだろうから、移動性のあるようなものであれば体育館への設置みたいなことも考えたいけれども、議員おっしゃるとおりのパワリハ等々の機器の整備はやはり今後進めていきたいと思っています。

○議長（清水満） 他にございませんか。瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 5番、瀧野良枝です。説明書40ページの一番上です。先ほど、スクールソーシャルワーカーということで、教職員が本来やるべきでないことはそこに振り分けるというご説明もありましたが、昨年度と比べますと中学相談委員会で5万7,000円計上されていたものが、今度は教育支援委員会として強化されたものと理解しましたが、具体的にどのような問題点というものを捉えて、どのようなものを目指していくのかという説明をお願いします。

○議長（清水満） 馬島教育長。

〔教育長 馬島敦子 登壇〕

○教育長（馬島敦子） ご質問にお答えします。今、スクールソーシャルワーカーについて質問していただきましたけれども、これはあくまでも教職員の仕事をそのまま置き換えるという単純なことではありません。いろいろな問題を抱えていらっしゃるお子さんは少なくとも学校だけの問題ではなくて、家庭の問題とかいろいろありますので、家庭訪問をしたり、それから何か緊急性があるときにすぐに駆けつけたり、それから保護者の相談にのったりしてもらいます。このように幅広く対応するには担任一人ではとても手が回りません。また、専門的な知識があり経験も豊富な先生をお願いすることによって、子供も保護者も学校での出来事やクラスのことと担任にはなかなか話しづらいことでも、スクールソーシャルワーカーという第三者の人だったら安心して話せるということも考えられます。

そういったことを含めて、相談活動、それから支援活動に力を入れていきたいと思いき来年度から実施したいと思っています。よろしく申し上げます。

○議長（清水満） 他にありませんか。瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 予算書上は見つからなかったのですが、今、各学校からの連絡網というのがメールで一斉に配信されるようになっていまして、予算書上では情報システム費になるのでしょうか。

お聞きしたいのは、以前は「オクレンジャー」というものだったのが、今は少し安くなったということで、メールを見たら空メールを送り返すというシステムになっていますが、そのシステムが例えば受信だけではなくて、保護者側から送信もできるシステムになっているのか。

例えば、学校の休みの連絡とか、そういったものをわざわざ教職員が来る時間まで待っていて皆さんが電話しなければいけないというのを、今後システム上、変えていけるのか。もう1つは、保育園の関係もこういったメール送信システムになるという説明があったわけですが、その部分の補足もいただければと思います。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。まず、システムが改修できないかというところ
でございます。そこら辺につきましては、今後検討させていただきたいと思っております。今ですと、
一方的なことだけで返信はできない形になっております。そこら辺は検討させていただきたい
と思っております。

それから、費用につきましては、小学校の管理費の委託料の中に盛っております。

それから、保育園の関係につきましても 31 年度から行ってまいりたいと思っております。31
年度予算につきましても、保育園の一般総務費の管理費の中に盛っておりますので、31 年度
から実施してまいりたいと思っております。よろしく申し上げます。

○議長（清水満） 他にございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 進行します。

第 11 款 災害復旧費から第 14 款 予備費、予算書 189 ページから 191 ページ。

質疑ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 進行します。

地方自治法施行令第 144 条による予算に関する説明書、予算書 192 ページから 197 ページ。

質疑ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） それでは、以上で歳出の質疑を終わりにいたします。

続いて歳入の質疑を行います。

第 1 款 町税から第 21 款 町債、予算書 18 ページから 39 ページ。

歳入全般で質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 進行します。

最後に全体を通して質疑のある方おられますか。原田議員。

○13番（原田重美） 別冊2の議案説明の46ページ。「もっと自分らしく輝くiママ事業」で、これは多分、子育てあるいは親育ちとか、そういうお母さんも一緒に育ってほしいという事業だろうと思いますが、主要事業の概要を見ると新規が集中しているわけです。この新規事業をそれぞれ説明してください。測量調査、設計委託の1,580万円も含めてこの部分を説明していただきたい。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） それではお答え申し上げます。新規事業ということでございます。

まず、RPA在宅ワーク実証実験委託ということでございます。これにつきましては、RPAというのはロボティック・プロセス・オートメーションということで、前回の議会のときに目須田議員さんからお話があったところでございますけれども、いわゆるパソコン上においてロボットでデータを作るという、簡単に申し上げますとそうですけれども、それを在宅でママさんたちがそのシステムを組むと言いますか、ロボットを作ると言いますか、そういうような事業の実証実験でございます。既に2月にこのセミナーを行ってございます。12名ほどのママさんが参加されました。その実証実験を行ってまいりたいと思っております。結構、ママさんの収入が得られるということで、単価が高いようでございますので、これをやっていきたいと思っております。

それから次に、二拠点移住促進移住PR映像制作委託ということでございます。二拠点移住というのは、昨年、千葉県の流山市からご家族が1カ月ほど体験移住をされまして、小学校にも区域外で入ったり、保育園にも入園されたりということで、これはその流山市との、企画とも連携しながら移住に向けた事業でございます。また、その移住PRの映像の作成委託ということで、町内への移住の関係の映像を作ってまいりたいと思っております。

それから、その下の長野県立大学連携事業ということでございます。これにつきましては、今、支援センターを造るための検討委員会を開いておりますけれども、そちらに県立大学の先生が委員として入っていただいております。現在は委員として入っていただいております。

れど、もう少し何か連携ができないかということで、括弧にあります乳幼児プログラムだとか親育ち講座等々を県立大学と行ってまいりたいと思っております。

それから、拡充及び継続につきましては平成 31 年度と一緒にございます。

それから、一番下の測量調査、設計委託 1,580 万円でございます。これは、子育て支援センターとワークセンターを兼ねた施設を平成 32 年度に建設を予定してございます。その設計委託でございます。建設につきましては、全員協議会の際にご説明をさせていただきましたけれども、現在そのような方向で進んでおります。以上、よろしく申し上げます。

○議長（清水満） 他にございませんか。原田議員。

○13 番（原田重美） 44 ページの保育園費の中で、南部保育園は新規で空調設備設置工事 463 万 3,000 円ということで、空調を設備するということが分かるわけですが、その下のりんごっ子保育園は扇風機設置工事 54 万 8,000 円とあるのですが、扇風機設置工事とは何ですか。南部は空調設置工事ですごく差がある話だけどういう施設の環境になっているのですか。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。昨年の夏、本当に暑くて各園を回って歩きました。さみずっ子保育園につきましては、空調が整っておりますので何ら心配は無いわけですが、りんごっ子と南部はどうかということで、暑い中、園長先生等に話を聞きました。

やはり、南部保育園につきましては、構造上、明かり取りがだいぶ上にありまして、そこからかなり光が入ってきて部屋が暑くなってしまうということでした。北側の窓を開けても風通しが構造上よくなく、暑くて駄目だということです。いろいろ天井を張るとか検討したわけですが、やはり防火関係のこともありますので、そうするとエアコンが一番良いのではないかとということで今回予算計上させていただきました。

りんごっ子保育園につきましては、各部屋に扇風機が一台ずつ天井に付いております。あそこは南部保育園よりも若干標高が高かったり、あるいは構造上北側の窓を開けるとかなり涼しかったりということです。ただ、あの部屋に一つの扇風機だと少し足りない。遊ぶところと畳

の寝るところがあるわけですが、遊ぶ方には確かに入っていて、寝る方には入っていません。寝る方に付けていただければエアコンまでは必要ないという現場の声でありましたので、今回予算計上させていただきました。よろしくお願いします。

○議長（清水満） 他に質疑はございませんか。荒川議員。

○8番（荒川詔夫） 8番、荒川です。別冊2の43ページで、民生費の児童福祉費の会計について若干お尋ねします。今まで保育士の確保というのは非常に大変であったということで、現状の保育士の充足、そこら辺の状況についてまずお聞かせいただけますか。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。充足ということでございます。本年度、退職される保育士も何名かいます。募集をして応募はあったわけですが、途中で辞退をされたという方が2名いました。

充足という点では、何とか現場の方では今の現有体制で行っていただいているというのが正直なところでございます。ですので、充足しているかと言われますと少し足りない。全国的に保育士が足りないという状況がございまして、当町の保育園につきましても何とか臨時の保育士をお願いしながらやっているという状況でございますので、充足という点ではもう少し保育士が欲しいところでございます。よろしくお願いします。

○議長（清水満） 荒川議員。

○8番（荒川詔夫） 今、現状をお聞きしました。やはり、なかなか保育士さんの確保も議員のなり手と同じように大変だと思います。まず問題は、今の臨時職員や嘱託職員の賃金水準、そこら辺の算出根拠を教えてくださいと思います。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） 臨時保育士の賃金の算出根拠ということでございます。近隣の市町村に確認、あるいは一般事務とは違い資格を持っている職員ですので、一般事務よりは高めと言

いますか賃金は高く設定をしております。そんなことで、平成 31 年度も最低賃金が上がりましたので、そのベースアップ分は今回臨時の保育士についてもお願いしながら予算計上してございます。よろしく申し上げます。

○議長（清水満） 荒川議員。

○8 番（荒川詔夫） 今、31 年度の臨時職員、あるいは同じく嘱託職員についてはアップ等も加味して算出したということですが、飯綱町の保育士の臨時職員の賃金水準は、他の市町村と比較対照してどんな位置づけになっているかお聞かせいただきたいと同時に、最後に保育士、これはもちろん正職員を含めての話ですが、職務改善の今後の考え方というものもございましたらお聞かせいただけますか。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） 他市町村との賃金水準ということでございます。今、細かな資料を持っていないためはっきりした数字は申し上げられませんが、お隣の信濃町さんと比べてみますと飯綱町の方が良い状況でございます。長野市とは比べていないわけですが、信濃町さんとはそのような状況でございます。

ですので、それほど低いということではないわけですが、やはり臨時職員というよりも正規の保育士に来ていただきたいということが一番の願いでございます。よろしく申し上げます。それと、職務改善につきましては総務課長からお願いしたいと思います。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 臨時職員等の賃金の関係でございますが、これは全国的な制度になってきます。国が国家公務員、臨時職員も雇用している中で、会計年度任用職員という形で国は制度を作っているという中で、地方も 32 年 4 月 1 日から、来年度から会計連動任用職員制度に移行していきなさいという通達がございまして、各市町村それに向けて条例整備等々していかなければいけない。また、飯綱町も今年度の早い時期に条例改正をご提案申し上げていく形にな

りますので、基本的に大きく変わっていくとお考えいただければと思います。

○議長（清水満） 馬島教育長。

〔教育長 馬島敦子 登壇〕

○教育長（馬島敦子） 人材確保について一言申し上げたいと思います。本当に一番大事なのが人材ですけれども、飯綱町というところは大変環境も素晴らしいですし、子供たちがいる保育園の環境も決して悪くないと思うわけですけれども、受験していただくということになると、地元の方がいらっしゃればいいですが、他の地区からはなかなか来ていただけないのが現状としてはあります。

ただ、先ほども申し上げたように長野県立大学と提携を結びまして、これからいろいろなことで私たちが助けてもらうけれども、飯綱町の保育園を県立大学の学生さんの実習の場とか、学習の場として開放していきたいと思っています。実際、今年も既に2度ほど県立大学の学生さんが飯綱町の保育園に来てくださいました。保育園を見て、「広い」とか「きれい」とか声をあげ、子供たちと一緒に遊ぶ様子を見てとても一生懸命やったださっています。今後、ますます飯綱町の保育について理解をいただいて、優秀な人材を集められるように努力してまいりたいと思います。以上です。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 保育士だけを特に優遇していくという措置はできません。手に職があるような保健師、社会福祉士、介護士など、役場を運営していくにはいろいろな有資格の人たちが集まって行政を運営しているので、今、教育長が申し上げましたとおりいろいろな手を使って広く応募の輪を広げていくというのが、ご説明申し上げたとおりですが、そういう職員も含めて今後の給与の在り方と処遇、私は最も大切なのは一般行政職だと思っておりますけれども、いろいろな技術がある人たちもいなければ本当に今の役場というのは回っていかないもので、答弁になるか分かりませんが、全体を見た職務改善をこれからしていかなければと思っています。

○議長（清水満） 中島議員。

○3番（中島和子） 3番、中島和子です。提案説明書別冊2の11ページから13ページまで、新規事業とともに私がお聞きしたいことは地域おこし協力隊のことですけれども、多岐にわたって新規事業とともに協力隊員が配置されているわけですが、午前中の質問にもあったわけですが、協力隊員の活動が見えてこないというお話もありましたが、それぞれの皆さんのパワーに期待したいということで採用されたと思います。現在、結構たくさんいらして、これは国の予算ということで受け入れられていると思いますが、もちろん面接もして採用されていると思います。

それで、これまでにこの協力隊員さんが地域に移住とまではいかななくても、起業へのお手伝いなど、そういうことをされたことがあるのかということと、期間中に活動の大きな成果はどのようなものがあるのか、それをお聞きしたいです。

それともう1つ、12ページの一番下段の「多世代の地域住民が交流できる新たな場づくりプロジェクト」、ここにある協力隊員というのは、この間新しくみえた3名の中からも見えてこなくて、どういうマネジメントをされるのか、その辺をお聞きしたい。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） 一番先に来た地域おこし協力隊は既にお辞めになりまして、今、移住されて町内にお住まいです。栄町で少しご商売を始めたりもしたわけですが、そこはやめられて今町内には住んでいらっしゃいます。

その後おいでになって既に辞められた方はお二人いらっしゃいますけれども、そのお二人に関してはこちらに移住、起業することなく、お生まれになったところにお帰りになったりされております。

本年中に地域おこし協力隊の任期3年を満了する方がお二人おりまして、一人は赤塩焼の富高隊員ですが、地域おこし協力隊としては任期が満了するわけですが、引き続き集落支援員という同じ国の支援を受けて、特別交付税が措置される制度ですが、できれば赤東地区の集落支援員として残って、赤塩焼を引き続き進めてもらいたいということで考え

ています。

もう一人、上田隊員も任期になってくるわけですがけれども、今、本人といろいろと話をしているところで、できれば町内で起業してもらいたいと思っています。町内での起業に当たっては100万円という支援もされることになっておりますので、是非そういうものを有効に活用しながら町内で起業してほしいということで進めさせていただいております。

それから、その後の質問ですが、「多世代の地域住民が交流できる新たな場づくりプロジェクト」ということで、これにつきましては深沢地区の多世代交流施設ができた後の維持管理、運営に係る事業費を計上させていただいております。この関係でございますが、3月一杯を目途に作成中ですが、飯綱町多世代交流施設、これは仮称でこれからまた名称募集等していきたいと思っておりますが、その管理運営基本計画というものを今作っております、施設の運営、その施設の部屋でどういうことをやって地域をどう活性化していくか、それには商店を巻き込んだり、地域を巻き込んだりしながらいろいろなことをあの施設でやっていきたい、そういう計画を今作っています。

その中で、社会福祉協議会さんにも大きく関わってもらっているわけですが、なかなか社協さんも手が回らなかったり、職員ではなかなか手が回りづらかったりするところがありまして、これは地域おこし協力隊を新たに募集していきたいと思っています。その深沢地区にできる多世代交流施設を拠点として、地域の活性化に取り組んでいただくという方を今後募集していきたいということで検討させていただいております。

○議長（清水満） 他にございませんか。目須田議員。

○4番（目須田修） 先ほど質問しました36ページの公園整備事業で、もう少し具体的に担当課長にお伺いしたいわけですが、答弁されたものの内容を確認します。飯縄、霊仙寺、この2つの登山道の整備についてですが、有料で新規委託することは、つまりは町の業務であると答弁されています。ということは、公に整備をするということになってきますので、その場合の登山道ができたということに対するPRについてはどのように考えているのかということ。

もう1つは、その登山道の整備に関するクレーム、それから案内、これに対するレシーブ機

能はどうなっているのか。安全対策と事故等に対するレシーブ機能はどうなっているのか。これが準備してあるのかどうかお聞かせください。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） お答えいたします。まずPRの件ですけれども、これにつきましては国立公園の連携会議がございます。その中で、各自治体からも登山道の関係、整備についてもいろいろ打ち合わせをしながら、山を楽しむようなことも計画にありますので、そういった広域と連携しながら登山の楽しみをPRできるようなものをまた考えていきたいと思っております。

あと、安全対策でございますけれども、町からすると他の登山道の鼻見城址とか髻山の登山道の管理のときもお願いしているわけですが、必ず事業の内容を写真付きで出している、どういった管理をしたのか、きちんと登山道を管理していただいたかというものをしっかりと町に報告していただいて、把握するような形で安全対策等は考えていきたいと思っております。

あと、クレームの対応ということでございますが、何か不具合があれば町にこういうことがあったので直してほしいといった連絡がございますので、そういったものについては、国立公園内ですので、環境事務所等々と相談しながら対応してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） 私としては最後の質問にさせていただきますけれども、先ほどiママ事業のところでは新規事業が幾つか並んでいるのをお聞きしたわけですが、その中にいわゆる親育て、親育ちと言いますか、こういう流れの中で今、非常にショッキングな事件として世間を騒がせております児童虐待、こういう問題に対してここでは共通した事業が何か入ってくるのかと思ってお聞きしたという意味もありました。

ただ、今回の予算の中で、あれは2月になってマスコミを騒がせ大変な問題になっていると

ということけれども、我が町ではあのような事件はないだろうと思いますが、教育、民生あるいは福祉、この辺のところを含めて今回の予算で、それに関連して今後この事業をやっていく中でそういうものにも対応していくみたいなものがあるかどうか。私は見つけることができなかったので担当部局としてお考えがあるかどうか、教育長に是非お願いします。

○議長（清水満） 馬島教育長。

〔教育長 馬島敦子 登壇〕

○教育長（馬島敦子） ただいまのご質問についてですけれど、例えば虐待防止についてこういうことに幾らとか、具体的に事細かに分けて予算を組んでいるわけではありません。

ただ、これから飯綱町が一番力を入れていきたいのはそういった部分です。現在、新しく子育て支援センターを造るのと並行して、ソフト面もどんどん計画をしているわけですけれども、その中で先ほど申しましたように乳幼児の育児プログラム、親育ち講座など、年間を通して計画しています。内容は、子供の発達について、または発達障害について、または食育について、それから子どもとメディアの関係について、それから産後うつ、そこからつながる虐待についてなどです。そういったものをお父さんやお母さん、保育園の先生、それからおじいちゃんやおばあちゃんにも参加してもらい、計画的にやっていきたいと思っています。

今、子供が小学生・中学生になって噴出してきた問題に対応しようと思ってもなかなか対応しきれません。まだ赤ちゃんが生まれる前、お母さんが妊娠されたそのときからお母さんたちのケアや支援が必要だということを今一番強く感じています。

例えば、産後うつは妊娠中に始まっていますので、やはりそういったお母さんが孤立して自分を責めたり自分を追い込んだりすることのないように、いろいろな面でサポートしていけるように力を入れてやっていきたいと考えています。

○議長（清水満） 高齢者、福祉関係で山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） 福祉関係で説明させていただきます。虐待等対策地域協議会という組織ですけれど、福祉を中心として教育委員会も入って組織立てがされています。全体は町

長を筆頭として組織されていますけれど、福祉関係ですとか保健、医療関係者、教育関係者、警察、司法、児童関係、相談所関係などが入って構成されています。

それで、一般質問でもいただいているわけですが、最初は個人の問題から担当部局でスタートします。予算的なものは出てこないわけですが、担当の個別ケースとして扱っていきまして、その上に実務者、関係する機関が携わって連携をしていくという形です。

家族構成にもよりますが、父、母、子供という世帯もありますし、そこに親御さんがついているというケースもありまして大変複雑化しています。そんな中で相互に連携を取ってやっているという形です。だから、高齢者のおじいさん、おばあさんについては、介護であったり、包括であったり、担当を決めて対応していく。また、お子さんについては、学校現場も入っていますし、DVの関係は保健師も入って総体的に協議しているという形なので、予算で言えば、子供とは違いますけれど、高齢者の場合は措置と言って一時的に避難をかけるという関係の予算計上はさせていただいています。以上です。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 民生費をお願いします。説明書45ページの一番下ですが、ワークセンター託児業務保育士賃金等というところで、昨年度は業務委託という形で出ていましたが、今度は保育士賃金ということですから直接雇用するという認識で良いのかという部分と、昨年の業務委託は182万7,000円でしたが、賃金になりますと294万5,000円ということで、金額アップの理由も教えていただければと思います。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。まず1点目でございますけれども、平成30年度は委託ということで、平成31年度からは直営と言いますか、町で保育士を雇用しまして託児をやっていきたいと思っています。それは、今後ワークセンター、子育て支援センターを造っていく関係もございまして、平成31年度から直営でやっていきたいということです。

それから、委託料よりも賃金の方が上がっているということでございます。この委託料につ

きましては、保育士1名でワークセンターの託児を行っていただいた委託料ということでございます。ですので、託児が多くなりますと実質的には町の保育士が行って託児をしていたということがございますので、今後は予約を取っていきたいと考えております。そうでないと保育士が託児に何人必要かというところがございますので、そこら辺も加味しながら、若干高くなってしまうかもしれませんが、そんな理由で賃金が上がっているということでございます。よろしくをお願いします。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 7番、石川です。議案提案説明書別冊2の35ページ中段になります。一般観光費でありますけれども、観光協会補助金ということで拡充になっております。

先日、全協でいただいたこちらの資料ですが、この枠内に観光協会事務局機能は公社へ委託、駅業務はまちづくり会社へ移管とあります。そうであるならば、観光協会という存在自体の必要性も問われるのではないかと思うわけですが、予算措置とこういった町で考えて進めております公社関係ですけれども、ズレがあるのではないかと思います。

これから総会もあると思いますが、一体、町は観光協会ときちんとした打ち合わせをしてきてこの予算措置になっているのか。そこら辺を改めてお伺いしたいと思います。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えいたします。まず、前回の全協で説明いたしました観光協会の事務局が新しい振興公社、法人の中に事務局が入ることについてでございますが、今町が考えているものは、観光協会が新しい振興公社、新しい法人に観光協会の事務局機能を委託するといったイメージでございます。

今回、この当初予算の中でなぜこの観光協会の補助金が拡充したかという理由でございますが、これまで観光協会の事務局長の部分については人件費のみの補助であったわけですが、事務局長についても社会保険に加入してもらえるようにということで、事務局長の社会保険の事業主負担分を加えたために拡充という形になっております。以上でございます。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 今の説明を聞いておりますと、行ったり戻したりという予算の在り方だと思いますが、非常に不透明な部分を感じるわけですが、観光協会の在り方については今までも旅行業を登録してというお話もございました。未だにそういったこともされておられませんけれども、実際、こうやって体制が変わるときにはもっと徹底した議論を重ね、その上で予算配分していただきたいと思うわけですが、少し今の課長の説明では納得できない部分が多いと感じるのが正直なところですが、町長の考えをお伺いしたいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 前にまちづくり会社を設立というご提案を申し上げたときに、石川議員からも「あまり大きくするのはどうか」とか、「経営は町か、民間か」というご質問をいただいたのですが、今でも飯綱町へお客さんが来てもらって、農産物を買ったり食べたりしていただいて、豊かな自然の中で体験なりお泊まりをいただく、観光協会は観光協会、公社は公社、農業団体は農業団体、別個にそれぞれ居を構えてやっているというのは一つにした方が良いのではないかというのは今でもあるわけですが、しかし、それはトップになる人の立場になると話が大き過ぎてしまって、とてもではないがカバーしきれない。

でも、流れとしては東京でお客さんを募集するのは慣れている観光協会で行ってもらおうか。ここに着いたら、農家の農産物の収穫とか作業というのは農業関係のところを受けてもらうか。そして、泊まりはまた観光協会、ペンション組合。連絡、協調を取ればと言いますが、これがなかなか難しい。一つの会社であれば、「今日はこうする」と言えるわけですが、お願いをして歩くとなると、「私たちはその時期は稲刈りで忙しくてとても人を受けている時間はない」となる。そういう中から、今、石川議員が心配されるような状況というものが少し出ているわけですが、ひとまずこのような形でスタートをさせてもらって、どういう協力体制で動くところなるかといったサンプルの動きを1年～2年する中で、「これだったらみんなで一つになってやっていける」という時点で、もう一步スムーズな、すっきりとした形にしていければと思って

おりますが、今、やはり過渡期だというふうにご理解いただければと思っております。

○議長（清水満） 渡邊委員。

○12番（渡邊千賀雄） 12番、渡邊千賀雄です。予算書の21ページの6款、地方消費税交付金に関連することをお聞きしたいと思います。今、消費税の増税が10月1日から行われるという中で、このことに対して町も対応されてこの辺の予算も組まれたと思います。

一方、消費税に関しては中止論や据え置き論があるわけです。それは、結局10月1日の段階にならないと分からないかもしれないけれど、現在の予算編成は2パーセント引上げの予算で組み立てているわけです。その予算の組立て方の数字と例えば中止になった場合の予算に対する影響、その辺の考え方をお聞きしたい。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 予算書の21ページ、歳入の地方消費税交付金でございます。31年度予算は1億9,600万円。この内訳でございますが、8パーセントの消費税での地方消費税交付金につきましては1億350万円。これは、平成30年の決算見込みから出した数字でございます。

それで、議員お尋ねの31年10月1日から消費税が2パーセント上がった場合、国が地財計画の中で社会保障財源分に当てるということで、それが飯綱町に対しては9,250万円ということできております。だから、例えば2パーセント上げない場合には9,250万円が来ないという形でご理解いただければと思います。

○議長（清水満） 他にございませんか。渡邊議員。

○12番（渡邊千賀雄） 9,250万が来ないということですが、前年度比で去年よりも800万増えているわけです。この数字はどういうことになるのかお聞きしたい。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 説明不足で申し訳ございません。昨年度と比較しまして800万円増で1億9,600万円でございます。それで、8パーセントから10パーセントに上がった場合ということ

とでございますが、地方消費税分の換算率が1.7パーセントから2.2パーセントに変わります。その社会保障分ということで800万円とご理解いただければと思います。

平成30年度も社会保障分については交付いただいています。私、先ほどと違う説明をしてしまいすみませんが、地財計画で31年度も社会保障分は継続するというのでありますので、どちらかというとなら800万円、1.7から2.2に増えた800万円ということでご理解いただければと思います。

○議長（清水満） 樋口議員。

○11番（樋口功） 11番、樋口功です。町とは別団体になりますけれども、商工会につきまして、この庁舎移転との関わりで、今ある場所について取り壊しになった場合にどのような対応を考えていらっしゃるか。別団体ですので「そちらで考えなさい」ということなのか。何か分かるような情報があれば教えていただきたいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 基本的にはかなり前から協議がございまして、飯綱福祉センターを取り壊してしまいますから、私どもは1案、2案ということで他の場所もご提案申し上げたりしたわけですが、今の時点では新しい庁舎の一角に入っていたらこうと思っています。これは、商業・農業は大きな産業の一つであるし、行政と一緒に取り組むことによって商工会の活躍の場も広がるのではないかという考え方からそのような方向で考えています。これにつきましては、商工会の役員の皆さんもある程度承知してもらっております。

○議長（清水満） 他にありませんか。清水議員。

○1番（清水均） 1番、清水です。確認しておきたいと思いますが、飯縄山というのがあります。それで、「飯縄山」の字が「縄」と「綱」の両方があるわけですが、飯綱町まちづくり計画は「綱」で、他は全部「縄」ですけど、どちらかはっきり確認しておきたいと思います。

○議長（清水満） 原総務課長。

○総務課長（原章胤） 飯縄山の漢字表記でございますが、国土地理院では「縄」という形で、

観光パンフレットも「縄」の「飯縄」を使っているかと思います。ただ、行政の飯綱町は「綱」という形になりますけれども、基本的に国土地理院の山の総称の漢字を使う場合には「縄」を使っているということで、その違いです。

○議長（清水満） まだあるかと思いますが、委員会でも細部にいろいろ質疑があると思いますので、この辺で進めさせていただきたいと思います。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第 15 号は、予算決算常任委員会に付託し審査することにしたと思います。

ご異議ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認め、本案は予算決算常任委員会に付託し審査することに決定しました。

ここで暫時休憩に入ります。再開は 15 時からとします。

休憩 午後 2 時 4 6 分

再開 午後 3 時 0 0 分

◎議案第 16 号の質疑、付託

○議長（清水満） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程第 2、議案第 16 号 平成 31 年度飯綱町からまつの丘地区汚水処理場管理事業特別会計予算を議題といたします。予算書 201 ページから 216 ページ。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了いたします。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第 16 号は、総務産業常任委員会に付託し審査することに

したいと思います。

ご異議ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認め、本案は総務産業常任委員会に付託し審査することに決定しました。

◎議案第 17 号の質疑、付託

○議長（清水満） 日程第 3、議案第 17 号 平成 31 年度飯綱町訪問介護ステーション特別会計予算を議題といたします。予算書 219 ページから 235 ページ。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了いたします。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第 17 号は、福祉文教常任委員会に付託し審査すること
したいと思います。

ご異議ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認め、本案は福祉文教常任委員会に付託し審査することに決定
しました。

◎議案第 18 号の質疑、付託

○議長（清水満） 日程第 4、議案第 18 号 平成 31 年度飯綱町国民健康保険事業特別会計予算
を議題とします。予算書 239 ページから 266 ページ。

質疑のある方おられますか。伊藤議員。

○9 番（伊藤まゆみ） 9 番、伊藤まゆみです。私が確認したところによりますと、来年度、県

下で県の納付金の関係が上がる自治体が多いとお聞きしたわけですが、飯綱町においては226万と下がっているということがあるわけです。保険給付費も下がると見込まれている状態で、これはどのような分析の中でこういうものが出てきたのかというところをお聞かせいただきたいと思います。

○議長（清水満） 梨本住民環境課長。

〔住民環境課長 梨本克裕 登壇〕

○住民環境課長（梨本克裕） お答え申し上げます。今、議員さんがおっしゃったとおり、当初予算ベースで比較すると昨年度より226万4,000円ほど低くなっているわけですが、実際には当初予算以降に今年度変動がありまして、実際の今年度の納付金につきましては3億2,575万8,682円となっております、約3億2,500万円です。

今年度の予算ベースの3億4,751万円というのは、県から示された金額ということですので、当初予算ベースの比較でいくと昨年度より低くなっているわけですが、実質としましては2,200万円ほど飯綱町も納付金の額が増えているというのが現状でございます。

○議長（清水満） 他に質疑はありませんか。伊藤議員。

○9番（伊藤まゆみ） 実際の納付金の額が下がったというお話でしたけれども、この辺がなぜ下がったのかというところは承知されておられますでしょうか。

○議長（清水満） 梨本住民環境課長。

〔住民環境課長 梨本克裕 登壇〕

○住民環境課長（梨本克裕） 下がった原因ですが、昨年度、当初予算を組む段階においては、制度改正によって新たなものが始まっていくということで、はっきりとした金額が見込めなかったということがありまして多めになってしまったわけですが、実際のところは今申し上げたとおりの3億2,500万円ほどで県から納付の通知が来ましたので、その分をお支払いするということです。

来年度の分については、県から今の段階において、「来年度の納付金はこの金額です」というものが示されておりますので、その金額に合わせたということですので、以上です。

○議長（清水満） 他に質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了いたします。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第 18 号は、福祉文教常任委員会に付託し審査することにしたいと思います。

ご異議ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認め、本案は福祉文教常任委員会に付託し審査することに決定しました。

◎議案第 19 号の質疑、付託

○議長（清水満） 日程第 5、議案第 19 号 平成 31 年度飯綱町後期高齢者医療特別会計予算を議題といたします。予算書 269 ページから 286 ページ。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了いたします。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第 19 号は、福祉文教常任委員会に付託し審査することにしたいと思います。

ご異議ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認め、本案は福祉文教常任委員会に付託し審査することに決定しました。

◎議案第 20 号の質疑、付託

○議長（清水満） 日程第 6、議案第 20 号 平成 31 年度飯綱町介護保険事業特別会計予算を議題といたします。予算書 289 ページから 334 ページ。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了いたします。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第 20 号は、福祉文教常任委員会に付託し審査するにしたいと思います。

ご異議ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認め、本案を福祉文教常任委員会に付託し審査することに決定しました。

◎議案第 21 号の質疑、付託

○議長（清水満） 日程第 7、議案第 21 号 平成 31 年度飯綱町農業集落排水事業特別会計予算を議題といたします。予算書 337 ページから 357 ページ。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了いたします。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第 21 号は、総務産業常任委員会に付託し審査するにしたいと思います。

ご異議ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認め、本案は総務産業常任委員会に付託し審査することに決定しました。

◎議案第 22 号の質疑、付託

○議長（清水満） 日程第 8、議案第 22 号 平成 31 年度飯綱町飯綱公共下水道事業特別会計予算を議題といたします。予算書 361 ページから 381 ページ。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了いたします。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第 22 号は、総務産業常任委員会に付託し審査することにしたいと思います。

ご異議ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認め、本案は総務産業常任委員会に付託し審査することに決定しました。

◎議案第 23 号の質疑、付託

○議長（清水満） 日程第 9、議案第 23 号 平成 31 年度飯綱町住宅地造成事業特別会計予算を議題といたします。予算書 385 ページから 394 ページ。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了します。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第 23 号は、総務産業常任委員会に付託し審査することに

したいと思います。

ご異議ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認め、本案は総務産業常任委員会に付託し審査することに決定しました。

◎議案第 24 号の質疑、付託

○議長（清水満） 日程第 10、議案第 24 号 平成 31 年度飯綱町水道事業会計予算を議題といたします。予算書 397 ページから 429 ページ。

質疑のある方おられますか。石川議員。

○7 番（石川信雄） 7 番、石川です。水道事業会計は、10 月の消費税増税に伴い値上げも検討するとのことですが、そういった場合のシミュレーションですとか、あと水道会計の一本化の問題もあるかと思いますが、そういった情報開示につきましては、進捗状況を含めて今後どのようにお考えでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） まず、消費税の増税に伴う税率の導入については、私はそのまま 10 月から導入せざるを得ないと思っています。しかし、それに合わせて水道料金自体の値上げをしていくというのは、少なくとも今年度は同時に値上げをしていくのは厳しいという判断をしています。

いずれにしても、委員会を開催するなりして検討・議論をしていかなければならないですけども、基本的に一番大切なライフラインの一つですから、極めて慎重に対応したいと考えております。

一本化についても、事業を統一するには 1,000 万円くらいのお金が掛かるわけですけど、やはり統一するメリットというのもありますもので、合わせて統一していくことも検討材料の

一つとしてやっていきたいと考えています。それは、水道水源、いろいろな人のご理解をいただかなければ一気に飛び跳ねた答弁はできません。関係者の同意をいただく中で、水道水源をやはり確保していかないといけない。いろいろな所を掘ってみてもソブが出てくるなど、良い水が確保できないということも現実的には続いておりますので、そこら辺も含めて、事業の統一化も検討していきたいと思っています。

○議長（清水満） 他に質疑はございませんか。風間議員。

○2番（風間行男） 2番、風間ですが、土橋水源については今後どのような考えでおられるかお伺いしたい。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 今年度、少し予算計上してあり、そのような関係がありますのでお答え申し上げますけれども、やはりチャレンジ、トライをして良い水が出るか、確保したいというのと、信濃町、中野市さんとの協議も同時に進めておりますので、何とか確保できればと期待しております。

○議長（清水満） 他にございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了します。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第24号は、総務産業常任委員会に付託し審査することにしたと思います。

ご異議ございませんか。

○議長（清水満） 異議なしと認め、本案は総務産業常任委員会に付託し審査することに決定しました。

◎議案第25号の質疑、付託

○議長（清水満） 日程第 11、議案第 25 号 平成 31 年度飯綱町病院事業会計予算を議題とします。予算書 433 ページから 464 ページ。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了します。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第 25 号は、福祉文教常任委員会に付託し審査することにしたと思います。

ご異議ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認め、本案は福祉文教常任委員会に付託し審査することに決定しました。

◎散会の宣告

○議長（清水満） 3 月 6 日の本会議は、会議規則第 9 条第 2 項の規定により、会議時間を 1 時間繰り上げて午前 9 時から開くことにします。

ご異議ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認め、3 月 6 日の本会議は午前 9 時に開くことに決定しました。

以上で本日の日程は全て終了しました。

本日はこれにて散会いたします。ご苦勞様でした。

散会 午後 3 時 19 分

平成31年3月飯綱町議会定例会

(第 3 号)

平成31年3月飯綱町議会定例会

議事日程（第3号）

平成31年3月6日（水曜日）午前9時開会

日程第 1 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（15名）

1番	清水 均	2番	風間 行男
3番	中島 和子	4番	目須田 修
5番	瀧野 良枝	6番	原田 幸長
7番	石川 信雄	8番	荒川 詔夫
9番	伊藤 まゆみ	10番	青山 弘
11番	樋口 功	12番	渡邊 千賀雄
13番	原田 重美	14番	大川 憲明
15番	清水 満		

欠席議員（なし）

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町 長	峯村 勝盛	副 町 長	合津 俊雄
教 育 長	馬島 敦子	監 査 委 員	山本 孝利
農業委員会長	清水 藤一	選挙管理委員長	三ツ井 吉次
総務課長	原 章胤	企画課長	徳永 裕二

税務会計課長	馬 島 豊	住民環境課長	梨 本 克 裕
保健福祉課長	山 浦 克 彦	産業観光課長	土 屋 龍 彦
建設水道課長	森 佳 也	教 育 次 長	桜 井 俊 次
飯綱病院事務長	大 川 和 彦	総務課長補佐	高 橋 秀 一

事務局職員出席者

事 務 局 長	高 橋 吉 人	事 務 局 書 記	荒 井 智 雄
---------	---------	-----------	---------

一般質問一覧表

順	議席	氏名	発言事項
1	6	原田幸長	1. 防災減災について
			2. 空き家対策について
			3. 終活について
2	13	原田重美	1. 地方の人口減少対策と中枢中核都市構想と飯綱町のあり方について
			2. 農業の6次産業化拡大について
			3. 平成31年度一般会計予算案について
3	10	青山弘	1. 飯綱町まちづくり計画の変更についての疑問
			2. 企業会計の課題について
4	2	風間行男	1. 観光施設の指定管理について
5	12	渡邊千賀雄	1. 水道事業の将来について
			2. 芋川日向地区の産廃処分場問題について
			3. 児童虐待問題について
6	9	伊藤まゆみ	1. ネオニコチノイド系農薬の不使用による特別栽培について
			2. 認知症のケアに「ユマニチュード」技法の普及を
			3. 骨髄バンク登録等に支援を
7	5	瀧野良枝	1. 公共施設のマネジメント計画は
			2. 財源確保の方策は
8	1	清水均	1. 移住者を増やし、人口減少時代の“幸せ”な地域づくりについて
			2. 三本松農産物直売所の内容について
			3. 天狗の館の利用者増加策及び観光施設の利活用について
			4. 新年度予算について

開議 午前 9時00分

◎開議の宣告

○議長（清水満） 皆さんおはようございます。

傍聴者の皆さん、おいでいただきましてありがとうございます。

これより本日の会議を開きます。

本日は会議規則第9条第2項の規定により、会議時間を1時間繰り上げて行います。

本日の議事日程はお手元に配布のとおりであります。

◎一般質問

○議長（清水満） 日程第1、一般質問を行います。

質問の順序につきましては、お手元に配布の一覧表のとおりであります。

一問一答方式による活発な分かりやすい質問・答弁を期待しております。

なお、質問事項はあらかじめ通告しておりますので簡潔に発言されるようご協力願います。

◇ 原 田 幸 長

○議長（清水満） 発言順位1番、議席番号6番、原田幸長議員を指名します。原田幸長議員。

〔6番 原田幸長 登壇〕

○6番（原田幸長） 議席番号6番、原田幸長です。通告に従い質問させていただきます。

初めに、防災・減災についての質問をさせていただきます。

平成30年は、全国で地震、豪雨、台風、猛暑等の自然災害が多発し、気象庁は、現在、世界的な異常気象であり、温暖化が続けばどの地域でもこういった災害が起こる可能性があるという警告を発しています。

飯綱町にも可能性が当然あります。台風や地震をなくすことはできませんが、被害を最小限に抑えることはできます。先備えの策を取ることが課題と考えますが、町の取組の姿勢をお伺

いたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） おはようございます。今日は傍聴者の方もいらっしゃって、本当に緊張しております。よろしくお願いいたします。

議員お尋ねの防災に関するものでございますけれども、ご質問のとおり、地震のようにいつ来るか分からない災害、そして、去年は非常に多かったわけですが、大雨、台風など、ある程度事前に予測ができる災害、災害にはそれぞれ特徴がございます。

しかしながら、大原則として対応しているのは、町には地域防災計画がございます。それに基づき、職員の初動、招集、警戒本部、いろいろ災害対策本部等々の段取りを付けるシステムも定められております。それによって、今対応しているというのが現状でございます。

○議長（清水満） 原田議員。

○6番（原田幸長） 阪神淡路大震災で、倒壊した家屋の下から多くの方が助けられました。8割は隣近所の方によるものとしています。

また、去年の西日本豪雨災害のとき、親しくしている町内会長が来たから早期避難をしたけれども、そうでなければ避難しなかったと語っている高齢者の方がおられました。普段からの隣近所の人間関係、地域の絆をしっかりとつくるのが非常に大事だと考えます。

自主防災計画や自主防災組織が絵に描いた餅にならないようにすべきと思いますが、その点はいかがでしょうか。お伺いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 細かな点につきましては、それぞれの担当から申し上げたいと思いますけれども、先ほど申し上げましたとおり、防災というのは非常に範囲が広く対応しなければなりません。発生した場合等々において、総務課、消防がどういうふうに出るかというような、そういう総務課で対応するような面。

そして、在宅老人、在宅でいろいろ介護を受けているような皆さん等々を含めた、地域の力を使った災害の対応策。これは福祉、社協というような面に対応しております。

また、学校教育、保育園等におきましては、それぞれの部署で避難訓練または教育を受けること等によって、いざというときの避難というものについて日頃から学習をしている。

そういう中で進めてきておりますが、議員がおっしゃるとおり、極めてその中で地域としての認識、教育、普及、PR、これは非常に大事な今時代になっていると思います。

しかしながら、何と言ってもご自分の安全はまずご自分で守っていただくということを大原則としながら、地域としてその防災、地域としてみんなを安全に守ることができるように、これは日頃の防災訓練等々によって、やはり普段の切れることのない、地味ですけれども、毎年そういう学習の場、PRの場を設定して取り組んでいかなければ積み重なっていかないと考えていますが、細かい点がございましたら、担当からまたお答えを申し上げます。

○議長（清水満） 原田議員。

○6番（原田幸長） 分かりました。平成26年に作成されました飯綱町地震ハザードマップ。このハザードマップ上では、信濃川断層帯による地震で全壊棟数率割合30パーセント以上40パーセント未満の危険度は、マップ上では最高値の危険度を表しているわけです。ここに凡例として書いてあるわけですが、倒壊率割合30パーセントから40パーセント未満がサーモンピンクと言いますか、その色で識別をされているものでございます。そのマップを見ますと、平出区と番匠区が最高のランクの30パーセントから40パーセントの倒壊率ということで該当しております。私の自宅や町長のご自宅も該当しているわけですが、全壊棟数の30パーセントから40パーセントに含まれるかどうかは別として、地震ハザードマップ上で表されている以上、訓練の仕方も工夫が必要ではないかということをお伺いしたいと思います。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 議員お尋ねの件でございますが、やはり訓練が大事だということでございまして、その防災訓練は9月に行っております。この訓練を受ける対象者は住民の皆さんで

ございます。それで、いろいろと運営していくのは、それぞれの自治体にある消防団または地域の自主防災組織の役員という形になりますが、この役員さんと消防団は任期があり代わっていくという中で、皆さんがそういう自主的な、危険がある防災訓練は必要だという立場で訓練をしていただくのが大事だと思います。

防災訓練のマンネリ化というのがありますけれども、主催する側にとっては毎年役員さんが代わっていきますので、その意味ではやる側に立っていただくというのも一つの経験になるかと思っております。そんなようなことで、防災訓練は大事だということでございます。

それと、先ほど議員がお尋ねの件でございますが、それについては今、町では重点地区を指定して防災訓練を行っておりますけれども、それも含めて検討していきたいと思っております。

○議長（清水満） 原田議員。

○6番（原田幸長） 避難所として、平出区、番匠区の方は町民会館や牟礼B&G海洋センターが指定されています。あつてはならないことではありますが、近々に仮に地震が起こったとして、避難所としての備えはあるのでしょうか。お伺いいたします。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 町では、毎年備蓄品等々の整備ということで食料品または備品等を予算の範囲内で整備している状況でございます。

○議長（清水満） 原田議員。

○6番（原田幸長） 体制も同じように整えて、そして備蓄品もそろっているという解釈でよろしいでしょうか。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） はい。

○議長（清水満） 原田議員。

○6番（原田幸長） 昨日の新聞で、「災害時、障がい者や高齢者受入れ福祉避難所開設、公表2

割」という見出しで報道がありまして、全国調査の市を対象とした報道がございました。長野市も公表はしていないとのことでしたが、公表する公表しないは別としまして、飯綱町が被災した場合、障がい者や高齢者受入れの福祉避難所の設置はあるのか伺います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 正式に福祉避難所として指定している記憶はございませんけれども、実は飯綱病院の新しくなっている今の病棟、私どもは通称A棟というのですが、そして健康管理センターの間に昔の飯綱病院B棟というものがございます。あそこを大規模に改修するときには、病院の施設を取りやめさせていただいて、私ども行政の施設として改修いたしました。

その考え方は、あそこをいわゆる病弱の人等の避難所として活用するために事業を導入して改修したことで、極めて有利な借金ができまして、お金を返済するときには7割を国で補助しましょうという資金を活用して、あの施設を直してきた経過もございます。そのようなことで、私はその場所へどうだろうということで病院とすぐ協議に入る予定にしております。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 補足でございますけれども、まず主体的には飯綱病院の隣のB棟ということでございます。それと、地域防災計画の中でうたっている福祉避難所というのは、それほど数はないわけですが、一応収容人員100名ほどということで、それぞれの地区のサービスセンターまたは民間で行っております施設。例えば、「サラダスクエア」、「あおぞら」等々の施設を含めて10施設ですけれども、収容人員約100名ということで防災計画には掲載させていただいております。

○議長（清水満） 原田議員。

○6番（原田幸長） 分かりました。その場合ですが、地震があつて被災をして、そして集合場所に集まって移動をして避難所に入った。一般避難所に入ったとして、そこから避難生活が始まるわけですが、避難生活に困窮する場合には、そういったところへ一般避難所から移ってい

ただくという解釈でよろしいでしょうか。事前に入った時点で既にそちらのB棟や介護福祉施設に移動されるのか。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） お答えさせていただきます。福祉避難所の訓練も福祉事業所さんと年に1回くらい行っているわけですが、一般の避難所の対応で、そこで高齢者であったり、障がい者であったり、認知の者であったりという問題が多々出ますので、そういう方については一般避難所からの福祉避難所への移行という形で見させていただくという構図になっています。

○議長（清水満） 原田議員。

○6番（原田幸長） 分かりました。昨年7月の西日本豪雨で多くの高齢者が犠牲になりました。岡山県倉敷市真備町では、浸水した地域のほとんどがハザードマップ上で危険性が予測されていたにもかかわらず、住民の多くがこのハザードマップの内容を十分に理解していませんでした。私もこのハザードマップ、26年に発行されたものですがなくしてしまいまして、先月総務課さんからいただいてまいりまして見たところでありました。

自分の命は自分で守ることが基本中の基本でございます。鳥居川消防署には2台の救急車があるとのことですが、災害時に本当に重傷な人が使えなくなるかもしれません。また、警察や自衛隊はすぐには来ることができない。行政でできることにはどうしても限界があることをはっきりさせ伝えることにより、災害を我が事とすることができ、真剣に向き合える一因になると考えますが、その点についてお伺いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 非常に良いご指摘だと思います。皆さんもご記憶されていると思うのですが、平成17年10月に合併して飯綱町が誕生し、平成19年の確か7月の十何日だと思いますけれど、新潟のあの地震がきて、三水村役場の旧跡地の地震計では6強の震度があったというこ

とで、信濃毎日新聞のトップに大きく記事が出ました。あれは正しく一気に、何と云うか、最高の訓練の場みたいなふうになったわけでございます。

私は総務課長をやっておりましたけれども、NHKから電話がくる、その他にも電話くる、そして情報を収集しようとしても、とにかくパニック状態という感じで全然情報が入ってこない。どこかで火事が起きているのか、誰が怪我をしているのか。また同じ程度のあのすごい地震がきたとすれば、今度はスムーズに動けるということは恐らくないのではないかと思います。また大きな混乱を招いて落ち着くのは、24時間、48時間経過後という感じになるのが現実だと思います。

その意味では議員おっしゃるとおり、この経験を踏まえてまずご自分で安全を確保し、そして次に家族、地域というような具合でやっていくことが当然の反応として、災害が起きた場合にはそういう動きをするということが体に染みこむような教育と訓練が大事で同感でございます。

○議長（清水満） 原田議員。

○6番（原田幸長） 分かりました。東日本大震災のとき、釜石東中学校の生徒は地震後すぐ高台を目指して避難行動に移り、これを見た小学校、保育園の児童も続き、市民もこれに続き、そして全員が高台に避難ができました。30秒後に津波が押し寄せてきましたが、間一髪で多くの子供たちと市民が助かりました。いわゆる「釜石東中学校の奇跡」と呼ばれております。この例を見ても本気の防災教育が重要と考えますが、防災教育の取組状況を伺います。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 防災教育の取組状況ということでございます。一応、町民を対象としましては出前講座を設けまして、消防担当、消防署を講師に予定しております。

毎年9月に実施いたします自主総合防災訓練については全町で取り組んでおりまして、消防署、消防団、区、組、自主防災組織が連携して行っているところでございます。

地区の自主防災組織または役員さんに対しましては、年3回、区長組長会があるわけですが、

そのときに時間を割いていただきまして、防災教育の講習会を開いているところでございます。

それで、学校関係、保育園におきましては毎年避難訓練を実施しておりまして、特に中学校では、総合的な学習の時間で防災教育に取り組んでいるということで、生徒さんが町内の危険箇所を歩いて、自ら災害発生時の対処方法や危険箇所等の防災マップをつくって、自分たちの町はどこが危険かという認識を高めたというところでございまして、それぞれの分野において取り組んでいる状況でございます。よろしく申し上げます。

○議長（清水満） 原田議員。

○6番（原田幸長） 今、お聞かせいただきました飯綱中学校の取組につきましては、2月15日の新聞報道で私も知りました。

飯綱中学校の1年生75人は、地域の危険な場所や避難場所をインターネット上の地図にまとめた防災マップをつくり、保護者向けの発表会を開いたという記事の内容でございました。18日にはテレビでも紹介がありました。

私は、この報道を見まして改めて災害時における備えは大事だと痛感をいたしました。町民の皆さまも、自分の身は自分で守ることの大切さを感じ取られ、触発されたのではないかと思います。

このような防災教育は続けていってほしいと思うわけですが、飯綱中学校の1年生が地域の防災マップづくりというのは、来年度も予定されているかどうかお聞きしたいと思います。

○議長（清水満） 馬島教育長。

〔教育長 馬島敦子 登壇〕

○教育長（馬島敦子） ご質問にお答えします。中学校の防災教育というのは、1年限りのものではなく、これからずっと継続していきたいと思っています。

実は今年、中学生が地域に出て自分たちの地域の危険箇所を中心に調べたわけですが、そこには地域の方も一緒に参加していただき、地域を歩いたということです。そういうことによって、地域の人もそれから子供たちも地域の実情を共有できるという利点があったと思います。

私も、先ほど議員がおっしゃった発表を一緒に聞いたわけですが、議員のお住まいの平出地区についても発表があつて、崖崩れが起きやすい所とかを実際に子どもたちが写真で示しながら発表しておりました。

今後は中学校の課題として、これを更に地域との連携を深めてやっていきたいということを伺っております。また、そういうことを教育委員会としてもバックアップしていきたいと思っております。以上です。

○議長（清水満） 原田議員。

○6番（原田幸長） この取組はすごく良いことだと私は思います。是非、地域の方々にも大勢参画していただいて、子供たちは1年生ということで、小学生から中学生に上がった段階で、見る目も違う、環境も違う、そういった中で養っていくものというのは非常に大切になってくるのではないかと感じますので、是非とも続けていっていただければという願いを込めまして次に移ります。

安心・安全な地域づくり、土台づくりが重要であることは破壊された被災地のがれきの山、遺体が安置されているのを見れば一瞬で分かります。防災・減災が町政の柱の一つにならないと考えると、町内の危険箇所の点検・整備の現状についてお伺いいたします。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 危険箇所の点検・整備の状況でございますが、総務課としましては関係機関、建設水道課及び産業観光課になりますが、連携いたしまして箇所の把握に努めており、県等の機関を通じて点検を所管の課で行っているところでございます。

また、整備につきましても建設、林務担当が各部署と連携しまして、治水・砂防等に組み入れているところでございます。

○議長（清水満） 原田議員。

○6番（原田幸長） 従来から国の防災機関や基本計画があり、自治体が立てる地域防災計画などがあります。それに加え、町会、自治会やマンションの管理組合などの地域コミュニティが、

災害時の避難方法などを自ら立案する地区防災計画が平成 25 年の災害対策基本法の改正で創設されました。これは、東日本大震災で自治体の行政機能がマヒしたのを教訓に 26 年 4 月に導入されました。地域の特性に応じ、地区の範囲や活動について柔軟に規定できる制度となっております。

災害発生時には、自治体や消防の公助が行われますが、より減災に大きな役割を担うのは自助であり共助であります。この視点に立てば、市区町村よりも小さな地域コミュニティでつくる地区防災計画の必要性が浮かび上がってまいります。この地区防災計画を立てる単位は、町会や自治会、企業やNPO法人、商店街、学校、医療、福祉施設なども主体となることができます。

内閣府による地区防災計画策定状況の全国調査が初めて公表されました。昨年 4 月 1 日時点で、地区防災計画が市区町村の地域防災計画に反映されているのは、23 都道府県の 40 市区町村 248 地区で反映されております。素案作成に向けて活動中なのが 40 都道府県の 123 市区町村の 3,427 地区であります。素案作成段階にある地区を抱えた市区町村数が全国に 1,741 ある自治体の 1 割にも満たず、計画策定のための説明会開催や町内会への呼び掛けをしているのは全体の 15 パーセントの 260 自治体で、73 自治体は制度自体を知らない状況でありました。制度の普及、啓発活動について、「行う必要はあるが行えていない」と答えた自治体は全体の約 6 割に及んでおります。

公明党の昨年春の 100 万人訪問調査運動で、アンケート調査の記載の中に「平出区は 150 軒ほどで 13 伍長に分かれておりますが、防災マップがなく避難時に集合場所等決めていないので、伍長毎に防災マップの作成を望みます」とか、「一度災害が発生したことを想定して、避難所への行き方などを確認させてほしい」などの声がありました。

今後、各地域で地区防災計画の策定が進むことが全体の災害対応力の向上につながると考えますが、これに関する認識、また地域への周知方法などを伺ってまいりたいと思います。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 地区防災計画の点でございますが、議員お尋ねのとおり地区防災計画は市町村防災計画の中に規定されるというものでございまして、やはり先ほどからお話があります大規模な災害が発生した場合、公助というものが行き届かない場合が想定されます。そこで、議員がおっしゃるとおり自治会などの各地域単位で、居住者などが自発的に要配慮者への支援体制、また安否確認のルール、現在、飯綱町では社協を通じて災害時住民支え合いマップを作成しておりますが、それもつくっていく必要がある。また、避難所運営のルール等々地域独自のやはり基準というものが必要になってくると思います。災害時の協力体制に混乱が生じないよう、共助のための共通ルールの計画書ということで、町では認識しているところでございます。

先ほどの周知、今後の進め方ということでございますが、ご存じのとおり飯綱町も地区防災計画というところまでは至っておりませんが、その前段として社協を通じた災害時住民支え合いマップの作成。これは、全体で50地区あるわけですが、今現在41地区でそのマップが作成されております。あと9地区が作成中ということでございまして、まずはその50地区の災害時住民支え合いマップを作成していくのが第一だろうと思っております。それから地区の防災計画、いろいろな避難所の運営ルール等々に持っていった方が良くということで、周知については、まずは区長組長会でご説明申し上げて、それから地区に入っていくのが筋と思っております。

○議長（清水満） 原田議員。

○6番（原田幸長） 分かりました。前段で申しましたように防災・減災が町政の柱の一つになっていただくことを要望しまして、次の質問の空き家対策についてお伺いいたします。

町では、空き家対策の「住もうプロジェクト事業」の一環で、移住環境の整備を進めています。国は、平成26年12月に空き家対策特別措置法が施行されました。それで、県は移住ポータルサイト「楽園信州空き家バンク」というサイトを立ち上げました。これは、県と民間の団体、宅建協会と契約をして、空き家情報のサイトを立ち上げ、町もふるさと回帰支援センター楽園信州推進協議会に入り利用されていると思っておりますが、このサイトから町へ空き家を賃貸あるいは売買して移住された方がいれば、どのような経緯で移住ができたか教えていただきたい

と思います。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えします。現在の楽園信州のシステムでございますけれども、平成 27 年度に新しいシステムが導入されまして 3 年ほど経過しているわけでございます。楽園信州空き家バンクを利用した賃貸、それから売買により移住された方は残念ではございますが、今のところ当町においては無いという状況でございます。

どのような課程というところで、若干、この楽園信州空き家バンクの仕組みを簡単にご説明させていただきたいと思っております。町に空き家の所有者等から貸したいとか売りたいの申し出をいただきますと、まず町の空き家バンクに登録させていただきます。所有者の意向もございまずし、全件ではありませんけれどもこの中から楽園信州の空き家バンクにも登録しているところございまして、システムにより空き家の利用希望者から借りたいとか買いたいという申し込みがありますと、今議員からもお話がありましたとおり、物件を登録した市町村ですとか不動産会社に連絡が来るというシステムになっておりまして、連絡を受けたところがその申込者と連絡を取って契約等を進めるという流れになっているところでございますが、今のところ当町についてはそういったものが無いという状況でございます。

○議長（清水満） 原田議員。

○6 番（原田幸長） 分かりました。楽園信州空き家バンクを利用しての反響をお聞きしようと思いましたが、無さそうなので平成 30 年の移住の現状を分かる範囲で教えていただきたいと思います。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） 本年度、電話や対面で町が仲介しまして貸借された物件が 3 件ございました。移住された方は、不動産会社による不動産情報を見て物件を選んでいる方が多いのかなと思っております。現在も 1 件、町で仲介をしているものがございますが、今のところ本年

度3件という状況でございます。

○議長（清水満） 原田議員。

○6番（原田幸長） 分かりました。楽園信州空き家バンクで空き家の所有者と入居希望者が楽園信州のサイトで契約まで進めるのかということをお聞きいたします。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えします。楽園信州空き家バンクのシステムでは、契約まで進むことはできないことになっております。

サイトで物件情報を確認していただき、そのサイト上のフォームに空き家について質問したい、また空き家を見たいなどのお問い合わせ内容を入力していただきますと、物件を掲載している市町村、先ほども申し上げましたけれども、市町村ですとか不動産会社にメール等で連絡が来るシステムとなっております、実際に現地などを確認していただき、契約ということになりますと当町では町内の不動産会社に仲介をしてもらい契約をしていただくという方法を取っているところでございます。

○議長（清水満） 原田議員。

○6番（原田幸長） マッチングができるには契約の部分が一番大事になってくると思います。

平成29年度の行政報告書では、今後の課題として移住希望者とのマッチングを積極的に進め、併せて不動産会社との連携等によりニーズに合った物件情報の提供を目指すとあります。これに関しまして、不動産会社との連携にどうたわわれているのですが、これはもう進んでいることなのでしょうか。お伺いいたします。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えします。やはり、不動産の賃貸や売買に関しましては不動産会社の方が圧倒的に件数ですとか情報量を持っておりまして、楽園信州や町の空き家バンクだけでは登録ですとか情報量が少なく、移住希望者からの要望に応えることが難しい状況となっております。

おり、町内の不動産会社も紹介し、ニーズに合った物件情報を提供させていただいているところでございます。そういう形で不動産会社と連携を図りまして、情報提供させていただいている状況でございます。

○議長（清水満） 原田議員。

○6番（原田幸長） 分かりました。都会で田舎暮らしに憧れている人たちは、飯綱町という看板に憧れている方や、この地であれば信用がおける、そのようなことで行政のホームページを閲覧していくと思われれます。民間と協定を結んで契約まで進めるようなシステムを構築し、都会からの人たちの流入を促進する。私は、定住の促進になると考えます。

先ほども答弁ありましたように、個人個人では売買の成立はできないということでありまして、宅地建物取引主任者の免許を有する者が仲立ちとなって、それで紹介をして契約まで結んでいけるというお話でした。そういったことで、町の中で宅地建物取引主任者の免許を有しているところというのは数多くあるのかお聞きしたいと思います。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えします。先ほど、町でも町内の不動産会社も紹介してというようにご答弁をさせていただきましたけれども、主には今、町では町内の3社、3つの不動産会社と連携を取らせていただいて、いろいろと事業、空き家対策を進めさせていただいているところでございます。

○議長（清水満） 原田議員。

○6番（原田幸長） 町ホームページ上や電話相談等のときに、賃貸・売買に関しまして宅建協会等を案内して仲介や契約書の作成までしてくれるのでしょうか。そしてまた、併せてその際には手数料とか、物件ごとで違うとは思いますが、もし手数料を払うとしたら幾らくらいになるのかということをお聞きしたいと思います。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えします。町に問い合わせですとか相談があり、賃貸や売買の契約ということになりますと、先ほど申し上げたとおり町内の不動産会社に仲介をしてもらうということになりますので、町の場合ですと、町内の不動産会社をお願いをしまして、その仲介、契約書の作成等をしていただく方法を取っているところでございます。

大変申し訳ございませんが、今のところ手数料がどのくらいかということ把握してございませんけれども、やはりその際には手数料が必要になり、その負担を皆さんがされている部分があるので、その負担という面は大きいとは思っております。

○議長（清水満） 原田議員。

○6番（原田幸長） 分かりました。民間業者でございますので、手数料は必ず払うものというふうに思います。手数料がネックとか障がいとなって進まない、成立しないケースというのがあるのではないかとと思いますが、恐らく空き家とか管理が容易にできていないという方については、そういった手数料というものはわずかな金額ではないかと想像されるわけです。

町で契約が成立した場合には、手数料の補助をしますという方法も取れるのではないかと考えます。平成29年度の移住体験用住宅利用者は10件で、これは延べ人数ですが101名との報告があります。これらの方々が全て移住していただければ大変ありがたいと思います。もし、手数料の補助について考えることがあるかどうか、その辺をお聞きしたいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） これは政策の問題ですので私からお答えを申し上げますけれども、今の提案の単なる手数料を支援していきこうというのは、少し今の制度の中では難しいと言いますか、工夫しなければならないと思いますが、現実としてこちらにUターンなりIターンで来られた人については、住宅取得の補助とか、借り賃の2年か3年は月額幾ら補助しますという制度は現実的に今実施してございます。そういう枠の中になるべく入っていただければ一番ありがたいわけですが、いわゆる私どもも人口増は大きな目標としているところでございますので、その手数料が一面ではそういう不安もあるということだと思わなければならないわけですが、どの程度障が

いになっているか。現実的にまだつかんでおりませんので、そこら辺を見た上で今後の検討材料とさせていただきたいと思います。

○議長（清水満） 原田議員。

○6番（原田幸長） 少しの件数であっても人口増対策だと考えますので、取組に期待をしたいと思います。

国では、空き家対策総合支援事業というのがあります。この補助対象の市町村、空き家対策特別措置法に対し2つの条件があります。1つは空き家対策等計画を策定していること。2つ目として協議会を設置する地域の民間業者との連携体制が取られていること。この2つの条件がクリアできれば補助金が出ると聞いております。町の状況はいかがでしょうか。

○議長（清水満） 森建設水道課長。

〔建設水道課長 森佳也 登壇〕

○建設水道課長（森佳也） 現在、空き家対策総合支援事業特別措置法の中のこの事業であります。町では策定しておりません。

○議長（清水満） 原田議員。

○6番（原田幸長） 分かりました。空き家対策の調査等にもこの補助金が出るということでありましたので、今年調査をされるとお話を聞きしましたので、この支援事業に町が入られているかどうかということをお聞きをいたしました。

続きまして、長野市の建築指導課では、「空き家対策～ひと事じゃない空き家の話～」として、先月このような冊子を発行いたしました。内容は、「あなたも空き家の所有者になるかもしれない」、「所有者になった場合どうしたらよいのか」の対応や、「空き家管理適性度簡易チェックシート」、「空き家に関する専門の相談窓口一覧」などが記載されています。町でもこのようなものを参考に空き家対策に役立てていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えいたします。前の質問で少し補足をさせていただきたいと思

ますけれども、空き家台帳の整備の関係ですけれども、これにつきましては地方創生推進交付金を活用しております、先ほど議員がおっしゃった補助事業もあるわけですが、恐らくどちらも2分の1という国の補助かと思えます。

ただ、地方創生推進交付金は、その補助の残りに更に特別交付税という措置がありまして、地方創生推進交付金を使う方がより有利にその事業を展開できるものですから、できるだけこちらの事業を優先して今やっているところでございます。

今ご質問のありました、長野市で作成されているという資料でございますけれども、長野県の空き家対策支援協議会などでも似たようなパンフレットを作成しております。自前で作成するというよりもこういったものを活用させていただきまして、周知につきましても、例えばですけれども固定資産税の納税通知書と一緒に郵送できないかなど、そんなことも検討していけたらと思っているところでございます。

○議長（清水満） 原田議員。

○6番（原田幸長） 分かりました。先月20日の新聞報道では、移住希望地として長野県が2017年～2018年と2年連続で1位となったことが報じられました。飯綱町にもそのような波が来ることを期待し次の質問に移ります。

最近、盛んにマスコミ等で「終活」ということが言われるようになりました。終活というのは、自分の葬儀の準備などを生前から行う部分ともあります。自分の人生の最期をどう迎えるか生前から準備することは、一人ひとりの命の尊厳が保たれ、自分らしく生きられる社会を構築していくためにも必要ではないでしょうか。

近隣の須坂市では、自分の人生を振り返り、どのような最期を迎えたいかなどを記すエンディングノートを薦めています。自分らしい人生の締めくくり方を考える終活が関心を集める中で、支援しようと独自のノートを考案し、名称を「すざかマイ・ノート」としています。

他の自治体では、認知症の早期受診と治療を啓発するパンフレットに、いざというときに備えて自分の思いや望みなどを書きとどめる「私の思い出綴り」を収録しています。そういうことで、老いへの不安が和らいだと高齢者を中心に好評のようであります。

エンディングノートは遺言状ではないのですが、自分が死んだときや病気や老化によって意思を伝えられなくなったときに備え、伝えるべきことを書きとどめておくノートです。遺言状が主に財産配分を記し、法的拘束力を持つものの、葬儀後に開封されることが多いのに対し、エンディングノートについては夫婦や親子などの間で生前に内容を確認し合ったりするケースも多く、連絡する知人のリスト、自分史、思い出、伝えたいメッセージ、銀行口座、加入している保険のリストといった備忘録的な内容も書き残しておくノートでございます。体裁や書式は自由であって、専用のノートブックや書き方とノートの部分がセットになった書籍も販売されております。また、独居老人の増加に伴い、自治体やNPOが希望者に無料で配布するケースが増えています。

飯綱町も高齢化社会を迎えております。このエンディングノートの推進で、自分の人生をしっかり歩んで行くためにも活用していただきたいと考えますがいかがでしょうか。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） お答えいたします。エンディングノートにつきましては、大変良いものだと理解はしてございます。現在ですと、市販のものですとかホームページ上で検索できて無料でいただけるという状態でございます、それを活用しまして社会福祉協議会は、現在「老いの支度と健康寿命講座」という講座を開いています。この中でエンディングノートの活用ということで、老いの支度という形で受講生を募って開催しております、現在まで、25年から開催してまして、77名の方が受講しているという状態でございます。そのため、町独自の施策は控えている状態ですが、市販のものであったり、その無料サンプルを使ったりして受講生に対して必要性は周知しているという段階でございます。

○議長（清水満） 原田議員。

○6番（原田幸長） 分かりました。次に、長野市では敬老祝事業として昭和46年より77歳及び100歳の長寿を記念し、長野市営業写真館協会を通じて高齢者写真撮影事業を展開しております。撮影される方は無料で遺影等に使われているようです。年配者はきちんとした写真を撮

る機会が少ないのではと考えます。

飯綱町でも記念撮影の推進を図るべきと思いますが、その点について伺います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 私も敬老の日にはいろいろな所にお呼ばれをして、地区の喜寿、米寿、そして99歳の白寿、100歳のお祝いと回って歩くわけですが、ご指摘のとおり、賞状とそれぞれの記念品があるのですが、写真というのも非常に面白いなというイメージは持ってございました。

商工会の女性部で、良いときの記念として、女性が主に対象として考えておられるようにしたけれども、和服のスタイルというのはよくあるけれども、洋装で一緒にお化粧したり髪もいろいろしたりしますので、例えば88、77の姿を写真に収めて、非常に女性として良い一瞬を過ごせるというような実はご提案もございまして、そんなことも良いと思いました。

子供の数は少ないわけですが、お年寄りの数は増えるばかりでございますので、予算的にどうだという問題もございまして、何歳でやるかという問題もございまして、そういうことによって若返っていただけるようなものについての支援というものも大事な事かと思っております。すぐに今年度からというわけにはいきませんが、大いに参考にしていきたいと思っております。

○議長（清水満） 原田議員。

○6番（原田幸長） 分かりました。是非、私たちも徐々にそういう年齢に近づいてきておりますので、取組に期待して私の質問を終わらせていただきます。

○議長（清水満） 原田幸長議員、ご苦労様でした。

暫時休憩に入りたいと思っております。再開は10時10分をお願いします。

休憩 午前 9時56分

再開 午前10時10分

◇ 原 田 重 美

○議長（清水満） 休憩前に引き続き、会議を再開します。一般質問を続けます。

発言順位 2 番、議席番号 13 番、原田重美議員を指名します。原田重美議員。

〔13 番 原田重美 登壇〕

○13 番（原田重美） 議席番号 13 番、原田です。通告に従いまして質問させていただきます。

私は、一応 1、2、3 と 3 つの質問を予定していたわけですが、予算関係につきましてはこの間、初日でもいろいろ質問させていただきましたし、委員会でもやりたいと思っていますので、今日の質問では一般質問の最後の方は削除させてもらうことになろうかと思っております。よろしくをお願いします。

それでは、1 番目の質問でございますが、地方の人口減少対策における中枢中核都市構想と飯綱町の在り方関連という形での質問でございます。

今や東京一極集中の掛け声というものが掛け声倒れに終わってしまっていて、全然是正されておられません。そういう中で、地方の人口が減り続けて活力が減退する中、国は地域経済や住民生活を支える拠点として、長野市、松本市など全国 82 市を中枢中核都市に選定し、国が事業展開を認定すれば財政支援をしていくということの発表が昨年末に新聞報道されました。私も関心を持ったわけでありまして。

当飯綱町におきましても、合併当初の人口が約 1 万 3,000 人余、これが現在は 1 万 1,000 人余と 2,000 人くらい減少している状況です。人口減少に歯止めがかからず、持続可能な自治体づくりが大きな課題になっております。町にとって、新しいこの施策がどのように期待でき、好ましい影響があるのか。構想の展開に関心を持っている者として、町長の受け止めをまずお聞きしたいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） お答えを申し上げます。まず、長野市と松本市が中枢中核都市の指定を受けたわけでございます。私、この目的というか、それはいわゆる東京に行かなくてもその手前、

東京に行かなくても東京と同じとはいきませんが、かなりの部分で都会を感じさせるような中核都市を国はつくろうという目的だと解釈しております。

金沢とか新潟市とか仙台とか浜松とか、これは長野市と違って行ってみるともう一步スケールの大きい都市だという雰囲気強く受けます。そういう意味で、いわゆる長野市が本当にミニ東京というような都市の顔を持ってくれる場所になると、大学等も非常に有名な大学等々も、例えば誘致してあるという状況になってくれば、東京まで行く必要はない。横浜まで、名古屋まで行く必要はなくて、長野で学校も行けたり十分若者も楽しめたりするエリアもあり、就職先もあるというふうに長野市が力を付けていただければ、飯綱町の住民にとっても、それこそ飯綱町の環境の良いところに住んで長野市等々へお勤めをしていただいて、そして飯綱町でまた農業をやりながらお勤めに出る。ある意味では、私はそういう理想的な状況になるのではないかという思いをしております。

今後の質問もございますけれど、飯綱町自身の発展というのは、また違った政策の中で取り組んでいけばいいだろうと思っています。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） 町長も、要するに長野市等が地方のミニ中核都市になっていくことには歓迎していくという考え方を持っておられることが分かりました。

それで、長野市は2016年に長野地域連携中枢都市圏の協約を飯綱とか周辺8市町村、9くらいになるのかもしれませんが結び、いわゆる医療、福祉、産業振興、住民生活の支援、公共交通、これらの事業が進んでいると思いますが、この中枢中核都市というのが新たにそこに上乘せした事業みたいな形で始まるのですが、これは今までやっている広域都市圏、長野市を中心としたこれとの違いというか、事業展開はどういうふうになるのですか。私もよく分からないのですが、その点はどんなふうに認識されていますか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 私の認識では、先ほどのご質問にお答えしましたとおり、中枢中核都市と

いうのは一言で言えば、「長野市さん頑張って都市的な顔にどンドンなってください」と、これが中枢中核都市。連携中枢都市というのは、「飯綱町さんと長野市と組んで仲良くやって、この地域として一つの盛り上がりをしていきましょう」ということで、ある意味では長野圏域と一緒にしたスタイルで発展していこうということで整理をしていただければと思います。

極端に言うと、中枢中核都市の長野市の取組というのは、「これからどうやって長野市が動いて行くのか僕たちも期待して見させていただきたい」、はっきり言えばそういうスタイルで、連携中枢は長野市と飯綱町で、「200円でどこまでも行けるバスというのを飯綱町でも発行したいから長野市さん何とか一緒に協働してやってほしい」、「それでは、こういうことを条件で挙げてきてください」、「それでは、10月からスタートしましょう」ということで去年の10月、70歳以上でございますけれども、どこまで乗って行ってもマックス200円でバスが乗れるという、これは連携中枢の中で取り組んだことでございます。そのように私は理解しています。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） その辺のすみ分けが、若干資料を読んでも少し分かりにくい部分があるわけですが、連携中枢都市圏、長野市を中心としたこの事業というのも飯綱町は相当何項目かにわたっていろいろな事業が展開されているわけですが、これはそれなりに大きな効果を上げていると考えるおられますか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） これは正直に言って、まだまだ具体的に大きな成果として姿を現わしていないというのが私の判断でございます。まだスタートして間もないということもございませけれども、どうも取組方がもう一つ理解できない。

良い例では、バスのような例が一つ、なるほどあのようなことができるのかということですが、今連携してやっているのは、ジビエ料理で解体してそれを料理に肉として提供するところにも協定させていただいたし、消費者センター、消費者の苦情や要求など、いろいろなものについての処理をするようなのも長野市さんと一緒です。全部の項目でいくと、正式にまた言わ

なくてははいけませんけれども、20～30の間くらいは長野市さんとそういう協定を結んで今進んでいるわけですが、各々についてもっと展開していくというのは、それぞれの担当者とそして長野市の受入れというかが一緒になって取り組んでいくということを、やはり連携を密にして今後充実させていかないとはいけないという点をご指摘のとおりあると感じています。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） 連携中枢都市での今後も更にいろいろきちんとしたものに確立させていかなければいけないということで、まだまだそういう段階だということで理解しますが、そこで今度の新たな上乗せ的な中枢中核都市構想というのに一番期待できるものは何でしょうか。

例えば、人口増とか産業の振興とかを考えても、国が、今まで口先だけと言ってはいけな
いかもしれないけれど、そのような印象を受けざるを得ない。官庁の移転とか企業の地方分散あ
るいは企業を誘致しやすいとか、こういうことをしっかりやっていってくれなければ、我々の
人口も増えていかないし、まち・ひと・しごと総合戦略というのも、国は閣議決定して書いて
きているけれども、それが果たして我々のまちづくり・地域づくりに本当に役立っていくのか
という点が私は心配です。

町長は、今度の中枢中核、82の核になる市があってその周辺があってという流れの中で、我々
としては何を求めることができるか。何をやってほしいか。財政的な問題、その他の施策、こ
れについては、町長どういうふうにお考えになりますか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 前段に申し上げましたとおり、私はある意味では、あくまで中枢中核都市
の関係の費用をどの部門にどうやって使っていくのかというのは、長野市の手腕にかかっている
と思っています。長野市が都市的要素をどう補強していけば、長野市はもっと都市的な力を
蓄えた都市として発展していけるのか。それにはもっと駅前の整備だろうとか、大きな地下街
でもつくらなければ駄目だろうとか、議員おっしゃるとおり、総合大学を徹底的に誘致してこ
なければ駄目だとか、良い場所だから徹底して環境省はこちらに来てもらうとか、そのために

場所を開発し、道路をつくり電車網を整備するということを長野市さんがどうやって取り組むかだと思えます。

それを傍観しているというのは、いささか私どもも積極性が無いわけですが、長野広域という、長野市とゴミや老人ホーム等々の運営については組合をつくって動いている一面もごございます。そして、今の中核連携で、1対1で契約をして動いている事業もごございます。そういう中で、こういう都市的なものが備われば飯綱町の子供たちも東京へ行かなくて、今の半分くらいはこちらで住むようになるかもしれないというような、そういう話し合い、協議の場については、いろいろな意味で積極的に意見を出していきたいと思っています。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） 飯綱町としても、この2つの事業を連携させる中で存続していけるまちづくりにつなげていきたいという思いかと思えますけれども、そういう意味では今町長も触れられましたけれども、やはりこの新しい施策に対しても、我々が地方の自治体、飯綱町なら飯綱町が意欲的に今後取り組んでいくことは当然なことでありますけれども、この中核中核都市というのが、単なる屋上屋的な連携都市の、屋上にまた屋上をつくっているみたいな事業にならないように、しっかり国や県、そして契約を組んでいろいろやっていく長野市には言うべきこととは言い、そして自分たちのやるべきことはやっていくという姿勢を是非持ち続けていかなければ、この国の言う新たな事業も展望が開けてこないだろうと私は思っております。

その点について、町長もしっかり意識していただきたいと思えます。この項の最後の質問になりますが、町長その辺の決意をお願いします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 再三申し上げておりますとおり、連携すべきところは連携し、そしてこちらの要望・意見を言うべきところは意見を言う。加藤市長もそのようなことを希望されていると再三おっしゃっておりますし、そういう意味では議員がご指摘のような考え方で進んでいきたいと思っています。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） それでは、1項目の質問は以上で終わり、2つ目の質問に入っていきたいと思えます。

新たな直売所を核にした農業の6次化産業の拡大についてということで通告してありますが、この事業は三本松周辺におきまして、大型農産物の直売所建設事業が新年度から具体化するわけでありまして。

町長就任時の公約から6年余り経っている中で、関係住民との作業の積み重ねを経てここまで集約されたということで、このことに関しては、私は一定の評価をしておりますとともに、今後について成り行きに注目をしているところであります。

この事業は、私はあえて農村公園という計画と直売所構想という大きな枠で進んでいく事業だと思って質問をいたします。

まず、まだ構想は極めて流動的だとは思いますが、複数年にわたるという全体計画の現在描いているものは何かというのが一つ。それから、その総事業費、計画予定事業費。それからオープン時の事業はどんなことが行われ、それがいつスタートするのかというのが3点目。それから、販売内容もいろいろ多彩なものを考えておられるわけですが、その中身についてどういう人たちに活躍してもらうのか、携わってもらうのか。この4点についてまず説明をいただきたいと思えます。

○議長（清水満） 総論的に町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 私も農村公園的なものになれば良いと思っております。直売所があったり、せっかくの場所ですから町の中を紹介する観光案内所的な要素もあったり、その場で桃やりんごのジェラートやアイスクリームが食べられるような工場があったり、願わくはおいしい飯綱米、おそばも食べられるようなエリアがあったり、りんごが採りたい人はりんごを採っていただけのような観光農園みたいなものもあったり、全体プランとしてはそういうような一大農村公園になればというイメージはありますけれど、ご指摘のように、「町長、少し予算が潤沢に動

いているような雰囲気を感じて」という非常に厳しいご指摘をいただきました。そんな財政的な面も含めると、全体プランはそういうことであっても、それが10年掛かろうが15年掛かろうが、本当にお客さんのニーズはものすごく高まっているという中でつくっていけばいいのではないかと考えています。

それは、横手の直売所、おそば屋をやってきた経験の中で思いました。直売所を増築するのは、どうやっても今のままでは販売のスペースが狭すぎる。お客さんのレジが少なすぎる。レジを2つ増やし、売り場面積も2倍にしよう。それは需要と言いますか、そういう要望の中でつくっているわけですから、つくってすぐ予定どおりの集客・売上が上がっていく。物を先につくっておいて、誰をどのように呼べばいいかと考えるのはもうやめようという方針でございますので、少し長い時間が掛かるだろうとご理解いただきたいとします。

したがって、最低限度事業費としては、今、地方創生事業の国庫事業の50パーセント補助を導入する中で何とかやろうと考えておりますので、直売所また加工所程度のものについては、総事業費2億円程度だろうと考えております。あと、県と協議をさせていただいて、県にも資金的に援助をいただくような形で、道の駅のような機能、24時間トイレ、また緊急の情報案内所等々も、県の認可が下りてくれば実施をしたいと思っておりますけれども、町としては現時点では2億円程度の事業費かと思っております。あと、どのようなものをいつ、通年営業するからどのようなものを売る等々については、担当の課長のから申し上げたいとします。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えいたします。まず、日程的なスケジュールの関係でございますが、先ほど町長からも話があったとおり、地方創生交付金を使いまして、農産物直売所、フルーツ加工所の建設を計画しております。

整備時期でございますが、農産物の直売所につきましては平成31年度、フルーツ加工所につきましては平成32年度を予定しております。

農産物直売所の事業費につきましては、工事費に監理業務等の委託業務を含めると、平成31

年度予算で約1億4,000万円を計上しているところでございます。

直売所の建設予定地は、現在ある農産物直売所「ムーちゃん」の北側の隣接地で、直売所の建物の竣工につきましては平成31年度末を予定しております。

そして、三本松地籍のこの新しい直売所のオープンでございますが、平成32年の4月下旬を目安にオープンしたいと考えております。

それで、町長から話のあったとおり、将来的には直売所一帯で道の駅の指定を目指しているわけでございますが、これについては、県・国等の補助金等の関係もございまして、整備時期については未定でございますが、できるだけ早期に道の駅エリアの整備を進めていきたいと考えております。

そして、立地でございますが、あの場所は長野市や福井団地に近いといった好立地の場所でございますので、先ほど「どのような人たちを対象に」というお話がございましたが、やはりそういう長野市や福井団地の皆さんの日常買いといったものをまず対象に考えていきたいと思っております。

また、あの場所は北信五岳を見渡せる非常に美しい景観がございまして、買うだけではなくて農村公園的な滞在する楽しみをうたった直売所にしていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） いろいろな内容が含んでいる正に観光体験農場。販売からそういうものまで、それから道の駅までという計画で構想が広がっていくということで、大変な大規模なものになると思いますが、ここで聞きしておきたいのは、あれを整備するということは、あの一帯、今のところ私は一町歩程度の面積ということを知っているわけですが、今の既存の直売所がどうなるかという点においては、今の「ムーちゃん」はもちろん潰すわけですね。いつ潰していくのか。それから、「四季菜」とか、「さんちゃん」とか、農家レストランもあそこにあるわけですが、そういう既存店の扱いはどうなっていくのかお聞きしたい。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

[産業観光課長 土屋龍彦 登壇]

○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えいたします。まず、道の駅の整備を予定している面積でございますが、直売所の「ムーちゃん」の現在ある敷地も含めて約 8,323 平米に道の駅として整備をしていきたいと考えています。

現在の、この「ムーちゃん」の直売所の施設をどうするのかということでございますが、あの施設自体は牟礼農産物加工組合の皆さんの組合所有でございますので、どのようにするのかということについては、まずは組合の皆さんと相談して、壊していくのか、また壊した場合にはその後どうするのか、それともあの施設をそのままひとまず使うのか、組合の皆さんとじっくり話をしながら、より良いものにしていきたいと考えております。

あと、既存の直売の組合の皆さんとの関係をどうするのかということでございますが、これまで町は、6次産業化推進協議会、委員会を中心に町の直売事業の在り方について検討をしてまいりました。そのときには、町内に一つの大きな直売所をつくるのではなく、既存の直売所を生かしながら、連携しながらそれぞれの直売所を活性化していくといった話でまとまってきたというものがございます。これから既存の直売所の組合員の皆さんと丁寧に時間を掛けてしっかりと話し合いをしながら、町内の農産物事業がより良い方向に進むように努力をしていきたいと考えております。基本的には6次産業化推進協議会の中では、三本松の直売所も含め、直売所「さんちゃん」、横手直売所「四季菜」も一つの法人で運営していくといった方向性は出ているところでございます。以上でございます。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） いろいろな方面から心配する声は聞こえてくるわけですが、直売所ではないけれど農家レストランは、「さんちゃん」もあるというようなことで、あそこで営業を展開していってもらうという考え方ですか。その点はどうでしょう。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

[産業観光課長 土屋龍彦 登壇]

○産業観光課長（土屋龍彦） 農家レストラン「日和」につきましては、「日和」を運営している

組合の皆さんとこれからまたじっくりと話し合っていきたいと思っていますけれども、あの施設は、町が飯綱町の農産物を活用して飯綱町の郷土料理などを提供していきたいという意味合いで整備したものでございます。やはり「さんちゃん」の直売所と連携して非常に良い相乗効果を生んでいるところでございますので、当然どのような形になってもあそこの直売所で農家レストランは運営をしていくということになりますが、基本的には、これからまた詳細は詰めていくところではございますが、「日和」の運営についても、新しい法人が運営していくようになるのではないかと町では考えています。以上です。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） 分かりました。それでは先に進みますが、1日の全員協議会で説明を受けたわけですが、全体の運営組織と言いますか、これは飯綱町まちづくり協議会という名のものに含めていろいろやっていく、展開していくとこういうことですが、三本松を経営するのは新たに組織されるふるさと振興公社、これは株式会社化する計画のようですが、つまり直売所を運営していく、経営していくのは新しくできるふるさと振興公社ということでよろしいでしょうか。その場合に、そういうことならそれはそれで良いと思いますが、ふるさと振興公社というものは農作業支援とか遊休荒廃地の活用とか、いろいろ農業支援の事業も一緒にやっていく。これは負担過剰で、果たして経営がそれらを含めたものの中でやっていくということでのいいかどうか少し心配。

それから、このまちづくり協議会というのは新しくできる振興公社、行政である役場、あるいは観光協会とか関係の観光業者、スキー場とか大学等々の関連とか、そういう形の中で展開されていくということですが、このもう一方でできるふるさと振興公社と連携していくというふうになっているまちづくり会社というのも、この事業内容を見ると非常に脆弱な感じがするわけだけど、この辺大丈夫ですか。

ふるさと振興公社の心配な点、まちづくり会社の心配な点、この中にはJAの参画というのは一言も出てこないけれども、これは無視しているということでしょうか。この経営体、組織体について、町長あるいは担当課でもどんなふうにお考えですか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） まず、ふるさと振興公社でございますけれども、大丈夫かというお話です。

この件につきましては、飯綱町が目指す農業を基盤として大きく発展していきたいという事業を伸ばしていく中では、生産だけ一生懸命やっている法人を育てていけば大丈夫だという時代から、いわゆる6次産業的な東京まで行っていろいろなものを買っていただくような人たちを確保するとか、飯綱町へ都市との交流で来ていただいて、泊まっていたら、おいしいものを食べて、お土産でりんごや桃やトウモロコシをたくさん買っていってもらうというストーリーを描いた場合に、やはり総合商社的なニュアンスを持った会社が本当はベターだろうと思われました。

しかしながら、今議員が心配するように、それほど荷の重いことを引き受けてくれるようなところがあるのかというご心配で、正しく構想は良いとしても、それを受けてくれる人がなかなかいないだろうというのが今の現実の中で、事務当局でいろいろ思案した中で、まちづくり協議会的なものを立ち上げて、いわゆる一つの会社ではないけれど、密に連絡を取り合って当面やっていくというスタイルでスタートさせていったらどうかというご提案です。

したがって、ふるさと振興公社も得意な面と不得意な面があるでしょうけれども、そこら辺を他の団体の観光協会であり、または今度新しくつくるまちづくり会社、ここの支援をいただくような形で、振興公社が例えば三本松地域の新しい直売所の経営の主体となっていくかどうかという意味で、新しいスタイルの振興公社だにご理解いただければと思っております。

あと、少しまちづくり会社が脆弱ではないかということもございました。まちづくり会社が主に受ける事業は、一言で言いますと、いわゆる学校の後の跡地利用の運営・維持管理、そこら辺をまちづくり会社に受けてもらってやってこうというのが一つの大きな目標で立てております。しかし、いろいろな意味で、町の大事な公共施設であった学校を、今度は売るわけではなくて管理を指定でやってもらうような組織ですから、ある程度しっかりしてもらわなければ困るといふのと、町が「そういう方法でやってもらっては、少し本来の目的の学校の跡地利用

と違ってきているからやめてほしい」という強い指導力を持った状況の会社にしておかないと、その会社が1人でどんどんいろいろな方へ行ってもらっては困るというのが、私の長としてのスタンスでございます。

したがって、まちづくり会社もどういう形態の会社にするか、そこも今検討しているところでございますけれども、話が複雑で恐縮ですが、ふるさと振興公社へは町は90パーセントを超える出資をして営業責任を持っております。今度のまちづくり会社についても、ある意味では町が入っていけば三セクです。こういうふうに三セクという時代はもう終わったのではないかと。民間に任せるなら民間に任せていくという時代。または、町が参画してもお付き合い程度の参画でいいのではないかとという考え方が主流にはなってくるわけですが、いざ公共的な施設をお貸しするということになってくると、話は少し逆の話になってくるという。そこをどういうふうに整合性を取って会社の形として動かすか。これが現場として悩んでいるところであり、皆さんにも何だか分かりづらいと思ったことだと思います。

ただ、基本は三本松のときの営業もそうだし、直売所もそうだし、「日和」もこれからどうするか、いずれにしてもやっている農家の収入になるようにどうすればいいかということで考えているのであって、それだけは皆さんに理解いただけるように、経営がそれぞれ分かれて動いているようだといっても、昔より進んだのはどこの直売所に持って行ってもらうでも、農産物を買ってもらって結構です、しかも場合によれば担当官が3つの直売所を回って歩いて、品物の調整をして歩くくらいのサービスも考えている、そういう連携をすることによって、素晴らしいメリットがあるということも一つ気に留めていただく中で、課長から話がありましたけれども、丁寧に説明をして、理解というよりも「よし、それでやっつけよう」というふうになるような体制でスタートしたいと思います。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） 町長の正に決意だと思いますが、それを実現して行ってほしい。これを強く要望します。

そこで、まず直売所関連、これは大きな事業で何年にわたっていくのかという問題はまだまだ

だこれからということになります。いよいよ直売所関係も第一期工事的なものは来年4月の下旬にオープンさせるという計画であります。それに向けて、しっかりスタートしていってもら体制をつくってもらわなければならないわけでありまして。

それで、最初につくっていく直売所関連でございますが、現在の町内の直売所は正直言って冬季閉鎖の実態と言って過言ではありません。年間を通して客を集め、農家所得向上につながる多彩な販売品を揃え、おいしい、安全、多彩、こういった飯綱町ならではの食文化が発信できる魅力的な直売所にする戦略が求められると思います。

そういう意味で、いろいろなやり方が工夫されると思うわけですが、例えば販売品目的に申しますと、果樹・米の主力製品、地場産品のりんごとか桃の加工、これだけではなくて地産地消を意識した安全な野菜類の提供、このための生産拡大、これをまずやっていかなければいけないだろう。そのために大規模農家もそうありますが、小規模あるいは高齢者世帯に生産を担ってもら生産技術、販売支援がポイントです。そういう意味においては、JAの参画というのが一つも無く、例えばこの協議会の中に入ってくると考えてもいいのでしょうか。こないというのは少し不満であります。ということで、そういう魅力的なものが売っていける、そういう展開をしてほしい。

それから、我々の土地の雪は特別豪雪地帯ではありませんが、雪国の地の利を生かした雪中野菜とか、米、りんごそういうものも含めて、これを十分生かさないと手はない。ふるさと振興公社の現在の雪室はどの程度の活用になっていますか。今後、直売所に併せて雪室施設の有効利用、拡大、これらも図っていくことが大事ではないかと思うわけですが、いかがでしょうか。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えいたします。まず、議員からのご提案のとおり、町は直売所への出荷を基本として兼業農家、女性農業者等の小規模農家の皆さんに少量多品目栽培をしていただいたり、あと高齢者の皆さんが生きがい農業をしていただいたりすることを行いながら、農業者の裾野を広げ、多くの方が農業で収入を得られる仕組みを、直売所を中心

に構築していきたいと考えております。

そういったときに販売技術の支援ということで、J Aから協力していただけたらどうかといったご提案ですが、現在ふるさと振興公社もJ Aに出資していただいておりますので、新しい法人になってもJ Aからは出資をお願いしていきたいと考えております。正にそういう技師等がいらっしゃいますので、販売技術の支援をしていただいたり、あと農業の担い手の育成をしたり、そういったものについてもJ Aと一緒に新しい法人で行っていったらどうかと考えているところでございます。

そして、直売所に米、りんご、桃だけでなく、そういった地元野菜の販売というのは、その直売所の魅力向上につながっていきますので、まずはそういった技術指導はJ Aさんをお願いし、あと大切なのは、直売所の販売スタッフがしっかりと農家とコンタクトを取りながら声掛けをして、「こういったものをつくったらどうですか」とか、そういった提案ができるような、そういった直売所を目指していきたいと思っております。やはり、直売所の従業員というのは消費者と最も近い場所におり、ニーズも十分把握していると思っておりますので、そのような形になっていければと思っております。

あと、雪室の関係で、今どのような状況かということでございますが、現在横手の直売所のすぐそばに雪室があるわけでございますが、今、そこにはりんごとそばを入れているということで、常に一杯に入れているということでございます。りんごにつきましては、おおむねゴールデンウィーク明けくらいまで雪室に入れたりんごを販売して、そばについてはお盆くらいまで雪が残っておりますので、お盆ぐらまでそばを入れて保管しております。やはり、雪室というのは湿度とか温度が非常に良い状態であるということで、品質も良く販売も好調のようでございます。雪室の建設等々については、今のところそういったものはございませんが、雪も町にとっては財産でございますので、そういった雪を活用した農産物の付加価値の向上についてはこれからも研究してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） 今、土屋課長からはスタッフの話も出ました。これはかなり重要なことで

す。というのは、全国的にもいろいろ展開している直売所で成功しているのは、いろいろな要素がありますけれど、優秀なスタッフ、経営者、これがいるところはとても成功している感じを私は受けています。

以前にこちらへ講演に来てもらった「さいさいきて屋」、ここでもいろいろ話題になっています川場村の直売所、そういうところには全部中心になる素晴らしい営業マンがいる。私の方も是非そういうところに力を入れていってほしいという感じを覚えます。よろしくお願ひしたいと思います。

それから次の質問に移りますが、リゾートスキー場は民営化されまして、今年は雪もほどほどにあって成績を上げているという報告が町長からあったわけですが、この農村公園直売所の関連においてもF P C会社、ファースト・パシフィック・キャピタル、ここの社長さんの話でも、通年の展開という意味で地元の皆さんと手を取り合ってやっていくつもりであるということの決意表明もあったわけですが、このF P Cとの連携、誘客等における接点を持ってやっていくとか、その他東高原も含めて全体の人の動き、物を動かす、観光客を連れてきてもらう、このような様々な分野でお知恵を借りたり、資金の協力も得たり、協議をやっていってもらうのも必要ではないかと考えるところではありますが、町長、可能でしょうか。可能な限りやってほしいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 議員のすぐ先を見たご提案に恐縮しますが、私は本当にやっていきたいと思っています。ファースト・パシフィック・キャピタルの日野社長にお会いしていろいろ話をすることがございますが、まだ去年12月にスキー場を取得して、やっと雪をつくって、そしてこの4月から今度はゴルフ場の経営もあの会社でやっていただきますから、今その準備に大あらわという最中がございますので、時を見て、議員がおっしゃるようなお話というのは是非話に乗ってもらいたいと思っています。また、それに応えるだけの人脈と資金力をお持ちの会社だと思っています。時を見て話をしたいと思っています。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） 正に今から何でもしろというのは、それは逆に失礼かもしれないけれども、近い将来、この計画が進んでいく中では、当然F P Cとの関連も生まれてくるだろうと期待をしたいところでございます。

それから、あそこは町長もご承知のように妙高・戸隠連山国立公園の展望が素晴らしい所で、周辺は桃畑、りんご畑、また一茶の碑もある三本松ということで、飯綱町の中でも特筆すべき景観の地であろうかと思うわけですが、そういう意味で建物配置等もそういう展望を生かした形の配置ができるように工夫していただきたい。

それから、昔少し論議があったことを記憶しているわけですが、あそこは残念ながら電柱が並んでいるわけですね。これは、あそこから見ると大変邪魔なわけです。今度、直売所農村公園的なものができるに当たっては、例えば地中化するとなると大変な費用で町の負担も大きいという問題もあります。ありますけれども、景観を生かすという意味では何か工夫ができないかという思いがあるわけですが、景観を生かすという意味でのその辺のところはどうでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） ご指摘のとおり福井団地の入り口、通称三本松地籍とよく言いますが、一茶の句碑もあり、確か「父ありて あげぼの見たし 青田原」というような句碑がここに書いてあると思いますけれど、そういう文化的な意味、そして景観が素晴らしい所だと思います。電柱については、地中化というのは町の中を中心に進めているようなので非常に難しいということですが、今、脇の方に迂回させるルートを中部電力と協議してほしいということで進めさせてもらっております。是非、議員がおっしゃるような、あの素晴らしい景観を生かした地域の農村公園にしていきたいと心掛けていきます。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） それでは最後に申し上げますが、時代はいよいよこの5月1日から新元号、

新天皇が誕生しまして新しい時代に入っていく。直売所事業がそういうことと時を同じくしていくということになりますが、商工業も含めて、先ほどのまちづくり協議会、これらのものができたら農業と農村の飯綱戦略というものを確立していただきたいと思います。

新年度予算においても、「世界に誇る産業形成事業」、この中に直売所が位置づけられているわけでございます。町長も十分認識しておられるとは思いますが、食と農業の展望、6次産業化の核と位置づけ、今から関係者による戦略検討会議というものを積極的に進めてほしいと私は思っております。町長のお考えを最後にお聞きして私の質問を終わるようにいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） ご意見のような考え方を基調にしながら、先ほども申し上げましたが、やはり箱物をつくっておいて後から利用を考えるというのではなく、事業を進めていく中で、いわゆる必要性の高まったものからどうやっていけば良いのか取り組んでいくということで、少し長い年月が掛かるかもしれませんが、良い農村公園になるような、そういう基本姿勢で臨んでいきたいと思っておりますので、一段のご協力をお願いしたいと思います。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） 以上で終わります。

○議長（清水満） 原田議員、ご苦労様でした。

暫時休憩に入りたいと思います。再開は11時20分にしたいと思います。

休憩 午前11時 9分

再開 午前11時20分

◇ 青 山 弘

○議長（清水満） 休憩前に引き続き、会議を再開します。

発言順位3番、議席番号10番、青山弘議員を指名します。青山弘議員。

〔10 番 青山弘 登壇〕

○10 番（青山弘） 議席番号 10 番、青山弘です。通告に従い順次質問いたします。また、傍聴の皆さん、直売所の話は終わったわけですが、残っていただいております。分かりにくい話をしますが、大変ご負担だったらごめんなさい。最初に謝っておきます。

最初に、私の一般質問に登場する計画ですが、今回変更しようとしている飯綱町まちづくり計画・新町建設計画、新町建設の基本理念、あるべき姿を「飯綱のふところに抱かれた豊かなこころのふるさとをめざして」としています。これを話の中では「まちづくり計画」と言わせていただきます。

第 1 次飯綱町総合計画後期基本計画、理念と目標はまちづくり計画と同じで、基本計画は 24 年度から 28 年度まで、これを「第 1 次総合計画」と言わせていただきます。第 2 次飯綱町総合計画、現在進行中のまちづくり計画、29 年度から 33 年度まで、基本理念、あるべき姿を「あふれる自然 共に豊かな暮らし創生」とし、理念・目標を第 1 次と変えています。「第 2 次総合計画」と言わせていただきます。他に第 1 次・第 2 次の計画には実施計画というものがあ、3 カ年の計画として策定し、各施策の進捗状況や財政状況等を考慮して毎年度見直しをしております。

議案第 2 号で変更しようとしているまちづくり計画について疑問があります。平成 29 年からの第 2 次総合計画が現在進行中の飯綱町のまちづくり計画だと思っていました。ところが、飯綱町まちづくり計画・新町建設計画というものが別にあ、今回これを変更するという事です。どうもこの 2 つの計画の関係というか、位置づけが分かりにくい。2 つは別の物ですか。今回変更したいというまちづくり計画と第 2 次総合計画の関連性、まちづくり計画が合併前に作成、総合計画 1 次・2 次がありますが合併後の作成です。まちづくり計画の新旧対照表が配られ、この内容を見ると、概況の部分では統計的な数字、将来の人口推計や財政計画は 37 年までの数値が変更されています。第 1 の序論から始まり、第 3、第 7 までが略となっています。略は変わらないという意味だと思いますが、まちづくり計画は町のホームページに載っていません。ネットで探しましたがダイジェスト版があるだけでした。この 2 つの計画の関連

性と位置づけ、まちづくり計画をどのように使っていたのかをお尋ねします。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） それではお答えいたします。まちづくり計画と第2次総合計画の関係ということでございますけれども、まちづくり計画は合併後に新町を建設するに当たり、合併協議会において策定した計画でございます。新町を建設していくための基本方針、それからそれを実現するための主要施策等で構成されております。この計画の実現を図ることにより、旧牟礼村・旧三水村両村の速やかな一体性を確保し、地域の均衡ある発展と住民の福祉を目指そうとするものであります。

これに対しまして総合計画でございますけれども、これは新町「飯綱町」のマスタープランでありまして、本町のあらゆる計画の基本となるものでございます。総合計画につきましては、議員からも少しお話がありましたけれども、基本構想、町の将来像を実現するための施策や理念などの今後10年間の大綱、それから基本計画、基本構想を実現するための具体的施策、それと実施計画、基本計画で定めた施策の向こう3年間の具体的な計画、これらで構成され、施策のより具体的な内容を示す計画として位置づけられ、本計画を基に個別事業について詳細な計画を立案・実施することにより、理念の実現に向けたまちづくりを進めるためのものでございます。

このように、まちづくり計画は合併後速やかに両村の住民の一体感の醸成が図られ、両村の各地区の格差を是正し、地域の均衡ある発展が図れるように、その方針や施策を定めた計画でございます。この計画に記載されている施策のみが合併特例債を発行できる事業の対象とされているところでございます。

どちらかと言いますと、合併特例債や合併特例交付金などもそうですけれども、この速やかな一体性の確保ですとか、地域の均衡ある発展、こういったために認められている財源とお考えいただければよろしいかと思っております。

例を申し上げますと、中学校の改築や庁舎の建設など、こういったものは両村の住民の一体

感の醸成を図るための施設の整備でありますし、道路改良などはその各地区の格差の是正、各地区の均衡ある発展を図るということで実施している事業で、合併特例債を活用しているものでございます。

旧合併特例債につきましては、合併市町村がその限度額までどのような事業にも発行できるというのではなく、そのまちづくり計画に記載されている旧村、両村の一体感を醸成する、何度も繰り返しになりますけれども、各地域の均衡ある発展を図る事業のみに発行できる起債であるということで、まちづくり計画というものが存在するものでございますので、よろしくお願いいたします。

○議長（清水満） 青山議員。

○10番（青山弘） まちづくり計画は、27年の12月に変更し32年までの15年間の計画でしたが、今回は更に5年延ばすということでもありますけれども、合併特例債が使える期間を37年まで延ばすための変更だということは分かりました。

合併前のまちづくり計画にあるあの基本理念・基本目標というのは、第2次の総合計画のものとは今違うわけです。この前の第1次の計画のものとは一緒でした。そして、これは両方も生きているという今の解釈で良いと思うわけですが、そうすると1つの町に2つの計画があって、その基本理念と基本目標というのが違うというのは、これはおかしくありませんか。まちづくり計画にあるあの公共施設の統廃合についても、現在は飯綱町公共施設等総合管理計画で行われています。現在、使われていないという言い方が良いのか悪いのか。どこにこの計画があるのか分からないこのまちづくり計画は、既に用が済んでいるものではないのかと思うわけです。もし使うとすれば、新旧対照表の略の部分はもちろん、こういうふうの基本理念や基本目標が変わったという他のものとの整合性を取らなければいけないのではないかと私は考えるわけですが、お答えをお願いします。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） それではお答えします。まず、総合計画とまちづくり計画の理念等が

違うというお話でございますけれども、先ほども申し上げたとおり、そのまちづくり計画というのは、合併前にその合併協議会が策定したものでございまして、これにつきましては、先ほども申し上げた両村の速やかな一体性の確保ですとか、地域の均衡ある発展を目的に策定されたものでございます。そのときに定めた基本理念等でございます、合併特例債を使った事業などに関しては、この計画に基づいて進めているところでございます。

一方で、第2次総合計画につきましては、第1次があり、今第2次ということになっておりますが、第1次で定めた計画の振り返りをきちんとしまして、第2次ということで計画を策定しているところでございます。この際にまた新たな基本理念ですとか基本目標を定めまして、10年間やってきたことを振り返った上で、新たな飯綱町のまちづくりに関しての理念・目標を定めて行っているところでございます。

このまちづくり計画でございますけれども、繰り返しになりますが、その合併特例債を使っていく両村の速やかな一体性の確保や地域の均衡ある発展、この目的に該当し合併特例債をどうしても活用すべき事業が出てきた場合などでない限り、その内容は改正をするものではないと考えているところでございます。

○議長（清水満） 青山議員。

○10番（青山弘） 大変こだわって申し訳ないですけども、基本理念と基本目標が違うのは、私はどうも納得ができないと思っているわけです。そして、これは報告ではなくて議決案件なわけです。こことここを直したので認めろというのは少し乱暴な気が私はするわけですけれども、総務産業常任委員会に付託されている案件でございますので、次に進ませていただきたいと思っております。

（1）のまちづくり計画の財政計画は、第2次総合計画の財政見込みよりも30年以降の金額が膨らんでいるのはなぜでしょう。新しく作った財政計画は、まちづくり計画にあるものよりも金額が多いということですけども、それはどうしてかという質問です。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤）　今回申し上げております飯綱町まちづくり計画につきましては、先ほど企画課長が申しました合併特例債を活用する場合に必要となるものであるということで、今回、合併特例債の5年間延長を受けまして、まちづくり計画を変更するものです。

それで、その計画変更につきましては県との協議が必要ということの中で、適用期間におきます財政見通しについてまとめさせていただいたのが今年の11月、そして12月に県へ提出したところでございます。

一方、第2次総合計画の財政見通しでございますが、第2次総合計画につきましては平成28年度に策定しておりまして、平成30年までの実施計画を基に財政見通しを立てさせていただいております。31年度以降については推計ということでありまして、当時想定されていない事業、これを反映してきたため数値が変わっているということでございます。

○議長（清水満）　青山議員。

○10番（青山弘）　私も、いつから第1次総合計画の実施計画というのが第2次総合計画の実施計画に変わったのか、これの資料を探していたわけです。そうしたら、平成25年の12月には26年から28年分の実施計画と財政見通しを作って、26年の12月には27年から29年分の実施計画と財政見通しを作って、それで28年の12月には28年から30年度分の実施計画と財政見通しを作って、飯綱町のホームページに載せていました。28年の12月からはホームページにはありません。これは作らなかったのか、作る必要がなかったのかお尋ねいたします。

○議長（清水満）　原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤）　ホームページの関係でございまして、多分29年からホームページへの掲載を失念していたのかと思っておりますが、ホームページに載せさせていただいたものは3年分の実施計画でございまして、実施計画は現在も策定しているところでございます。ただ、その当時と言いますか、平成29年に町長選挙が予定されておりまして、首長が決まる前に実施計画を策定するのはどうなのか。現実ではないということの中から策定時期をずらしたということで、申し訳ありませんが今現在のままになっているということで、策定時期をずらした関係

で、失念しているというところでございます。

○議長（清水満） 青山議員。

○10番（青山弘） 30年の3月時点で作成した30年から32年までの実施計画というものはあるわけです。去年、頂戴しました。ただ、そこには財政見通しとか財政計画というのが無いです。きっと別のところにはそういう資料があるとは思いますが、実施計画というのは基本計画で定めた施策に従い、財政計画に基づき具体的な取組や事業の内容を定めます。3カ年の計画として本書とは別に策定し、各施策の進捗状況や財政状況等を考慮して毎年度見直しをしますとなっています。3年間のローリング方式による毎年度見直しとなっているので、財政見直しも見直しをして財政計画を作成しなければいけないと思いますがどうですか。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 第2次総合計画では、向こう5年の施策に対して財政見通しを示させていただいておりまして、それをより現実にするために3年間に実施計画というものを策定しているわけでございます。

それで、昨年にお示しさせていただきました3年間の実施計画でございますが、財政見通し・財政計画を見直す必要がある、作らなければいけないということですが、3年間の実施計画の最初の表の集計があるわけですが、それが3年間の総計表になるわけです。それが一つの財政見通しということでご理解いただければと思っています。

○議長（清水満） 青山議員。

○10番（青山弘） 毎年度見直す実施計画の作成時点、30年3月と遅かったわけです。その前は12月。それで、今予算議会ということでもありますけれども、前のように12月に作成していただきたいと思っております。そして、実施計画と併せて財政見通しも作成していただきたいと思っております。これは要望であります。

財政見通しの地方債、特に合併特例債の限度額についてですけれども、合併特例債の限度額は48億1,000万。48億だと思っておりますが、今年度末の借入額見込みが約36億5,000万円になる

と思います。まだ、11億6,000万ほど枠が残っていると思いますが、来年度は3億9,000万ほどの合併特例債を使うという計画でありました。あとどれくらい庁舎建設で合併特例債を使う予定なのかお尋ねいたします。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 庁舎建設につきましては合併特例債を使う予定でございまして、庁舎建設は平成33年度までの計画で一応予定しております。予算ベースでの合併特例債では、平成32、33年で合計6億4,250万円。庁舎建設では6億4,250万円を計画する予定でございます。

○議長（清水満） 青山議員。

○10番（青山弘） 分かりました。きちんと残額のところの内輪になっているので了解いたしました。

（2）のまちづくり計画における財政計画では、31年度予算が81億に対して、今回提出の31年度予算案では約86億円になっております。この金額の差は何か。また、飯綱町規模の自治体における予算額の適正金額はどのぐらいと考えるかを質問したいと通告いたしましたけれども、議会2日目の予算審議の冒頭に他の議員さんが質問いたしましたので予算規模については質問いたしませんけれども、基金の積立てについてお考えをお聞かせいただきたいと思えます。

31年度は11億3,400万円余の基金の繰入れをします。基金は減少し、28年には全体で55億円あったものが43億円ぐらいまで減りそうです。そのため、町の町債に対する基金の割合は悪化してきています。基金はどのぐらい積立てがあれば良いのか。基準はあるのかについてお伺いします。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 基金の関係でございまして。基本的に基準というものは無いわけですが、地方財政法の第7条では、決算剰余金が生じた場合にはその2分の1を下らない範囲において

減債基金またはその他の積立てをしなければいけないという法的な規定がございます。

ただ、議員お尋ねの件でございますが、合理的な基準はないわけですが、総務省において平成 29 年に基金の関係で地方公共団体の基金状況のアンケート調査をしたというのがございます。その結果を見ますと、全国の町村 927 町村あるわけですが、その基金総計が出ておりまして、その基金の総計が 3 兆 746 億円、単純に 927 で平均しますと 1 町村約 33 億 1,600 万という基金総額の数字になります。これはあくまでも全国の平均的なものということでございますが、一説には標準財政規模以上あればとかいろいろありますけれども、基準は決まっていないということをご理解いただきたいと思えます。

○議長（清水満） 青山議員。

○10 番（青山弘） 先日、第 1 次総合計画の冊子を見ていましたら、平成 22 年の基金の残高は 29 億円でありました。そして、そこには 28 年度には 40 億円にするという目標がありました。他のページでも 40 億以上の確保を目標と書いてございました。そうすると、26 年にはもう目標を達成していたことになりまして、来年度末で基金を取り崩してもそれぐらいの基金が残るという予算になっていましたので、心配ないと自分では納得したわけでありました。

それでは、次の質問でありますけれども、3 番のまちづくり計画における公共施設の統合整備について、今回は略となっています。変更しないということですが、飯綱町の公共施設等総合計画では、更新・統廃合・長寿化などを計画的に行うとしています。

管理に関する基本的な方針では、計画期間が 27 年から 56 年度の 30 年間、緊急に対応が必要な取組を短期目標期間に位置づけるということで、5 年程度としています。中期期間が 10 年程度としています。

公共施設等総合管理計画は、国に策定を要請されてつくったものだと思いますが、短期が 5 年程度という期間は長すぎないか、また中期期間が 10 年程度というのも長すぎないか。十年一昔というように、10 年も経つと環境が大きく変わってしまいます。次の見直しは 33 年になるかと思うのですが、期間を短くするよう検討をお願いします。

全庁的な取組体制の構築及び情報管理・共有方策の項目では、公共施設に関する情報は各課

の横断的な連携を密にするということで情報共有を強化し、公会計管理台帳などと併せて財政管理を所管する部署で一元管理する体制としているということです。

公共施設再編の検討に当たっては、総務課が主体となり各課と連携して全庁的な取組を進めていきます。その後も総務課が主体となり、公共施設の効率的な配置の検討審議を継続的に行っていくとあります。公共施設の効率的な配置の検討審議はしたのか。結果はどうなったのかお答えをお願いします。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 現在、町では地方創生交付金を活用いたしまして、いろいろな事業を展開しているところでございまして、公共施設のおかれている状況、これを包括的に考え、やはり適切なタイミングで検討していくことが最善であろうということで、今現在は検討をしていないところでございます。

○議長（清水満） 青山議員。

○10番（青山弘） 最初に質問するつもりだった項目があるわけですがけれども、時間を見ると自分が予定していたよりも遅れていますので、少し飛ばしてをお願いします。

この計画を策定した28年の3月には、本町の保有する建物を含め公共施設、一般会計分ですがけれども100施設あるということでした。県内団体との比較においても、人口に比べて建物総床面積が広くストックの総量が多い状態にあるということでした。どこまで減らすことができたのかお尋ねします。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 先ほど申しました地方創生交付金を活用しまして、種々の施策を実施しているところでございまして、学校では旧第二小学校、旧牟礼西小学校の跡地活用ということで行っております。そのようなことから、旧三水第二小学校または旧牟礼西小学校については用途廃止ということになっておりまして、建物自体は存続しているということでございます。

また、旧赤塩保育園または東黒川の下水道処理場、これについても建物は残っておりまして、用途変更という形でございます。

除却という形になると、さみずっ子保育園の下にありましたテニスコートのトイレの管理棟程度ということございまして、それと今現在、多世代交流施設がございまして、三水公民館を除却しておりますが、また新たに公共施設ということですよ。

そのようなことから、逆に地方創生交付金を活用いたしまして、「日和」または新規就農住宅等の建設がございましたので、28年当時の100施設より若干増えて、105施設ということでございます。

○議長（清水満） 青山議員。

○10番（青山弘） 管理費があまり増えないようにお願いしたいと思います。この資料の中にも、将来全部管理していかれないと書いてあるわけですが、増えたということですが、あまり管理費が増えないようにお願いしたいと思います。

車で走りながら見ているだけですが、道路のひび割れが大変目に付きます。多いです。道路の更新費用の推計というのは、町が保有している道路面積に更新単価1平方メートル当たり4,700円を掛けて15年。これは一応15年で更新するという仮定でありますけれども、これで割った金額が計算上の1年当たりの整備額になると思いますが、この値というのが6億6,900万円になります。これが年間の整備必要額になると思います。

来年度予算の道路維持費、道路新設改良費、地方道改修費の合計が3億3,400万円です。整備必要額の50パーセントになるかと思うわけですが、昨年よりは147パーセント近い伸びですが、まだ予算配分が少ないのではないかと思うわけです。これはどういった順番で更新していくのかお答え願います。

○議長（清水満） 森建設水道課長。

〔建設水道課長 森佳也 登壇〕

○建設水道課長（森佳也） それぞれ道路施設につきましては、交通量によって路盤の厚さ、それからアスファルトの厚さ等が違っております。そのような関係で、順番と言いますか、何年

でというのではなくて、われわれ建設課としては現場を見て、現場の悪い状況、箇所を重点的に直していくというような形で動いております。

○議長（清水満） 青山議員。

○10番（青山弘） この間、町長がここ3年ぐらい多くお金をかけ、またしばらく直さないとおっしゃったと思いますが、3年ぐらいでひどく割れているようなところの町道は直すということとでありますか。

○議長（清水満） 森建設水道課長。

〔建設水道課長 森佳也 登壇〕

○建設水道課長（森佳也） 今、町長がこの間申されたのは、五岳道路の関係が平成29年から33年の間に建設サイドで約5億円きます。それから農林サイドで数億円、これは県の農地課でやるわけですががきます。その五岳道路の部分のお金、それから米山線、旧豊田村と下赤塩の道路の改修、それから平出の丹霞郷の中の道路改修ということで5億ほどのお金が3年間でくるということで、大きな伸びになるということです。

他の箇所につきましては、例年より2割、3割ほど増していただいたので、危険箇所またはひび割れ等で傷んでいる箇所に充てていく予定でおります。よろしくをお願いします。

○議長（清水満） 青山議員。

○10番（青山弘） それでは次の質問に移ります。次に、企業会計の課題についてですけれども、まず地方公営企業についてですが、保有する資産の老朽化に伴う大量更新の到来や人口減少等に伴う料金収入の減少等により経営環境が厳しくなっていますが、公営企業が住民の日常生活に欠くことのできない重要なサービスの提供を将来にわたり安定的に継続することが可能となるように、総務省では中長期的な経営の基本計画である経営戦略等を策定することを要請してきております。32年度までに策定するよう通知が来ていることと思っておりますけれども、この経営戦略とは具体的にどのようなものなのか。また、この経営戦略の策定というものが進んでいるのかお尋ねいたします。

○議長（清水満） 森建設水道課長。

[建設水道課長 森佳也 登壇]

○建設水道課長（森佳也） まず、経営戦略ですが、事業が将来にわたってサービスの提供を安定的にかつ継続していくための中長期的な経営の基本計画であります。内容は、現状の把握・分析、将来の予測を行い、基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組むというのが戦略であります。

今の上水道の経営戦略につきましては、平成 28 年度、29 年の 3 月に策定をしております。また、同じく 29 年 3 月にアセットマネジメントの策定をしております。また、下水道の経営戦略につきましても 29 年の 3 月に策定し、ストップマネジメントにおきましては 30 年の末に策定をされているという、上下水道の関係は以上でございます。

○議長（清水満） 青山議員。

○10 番（青山弘） 具体的にお聞きしたわけですが、その前に私が申し上げたことを復唱するように言われたので、内容がよく分からなかったです。でも、今の公営企業はそういうものをつくっていて、サービスが途切れないようにしなさいということでもいいですか。

○議長（清水満） 峯村町長。

[町長 峯村勝盛 登壇]

○町長（峯村勝盛） サービスが途切れないようにするというのは大原則でそのとおりですが、そのサービスの提供の仕方がいろいろと計画の中に入ってきている。一番大きなのは、料金をどうするかという問題でございます。

○議長（清水満） 青山議員。

○10 番（青山弘） 他にも公営企業会計を適用している水道事業と病院事業に加えて、公共の下水道、それから農業集落排水事業を公営企業会計に移行するように、これも要請というのが来ていると思うわけですが、これは何のために変更するのか。また、いつから移行するのかお尋ねいたします。

○議長（清水満） 森建設水道課長。

[建設水道課長 森佳也 登壇]

○建設水道課長（森佳也） 議員のおっしゃるとおりで、平成 27 年の 1 月に総務大臣の通知によりまして、31 年までが公営企業会計適用集中取組期間として位置づけられました。

その中で、特に資産規模が大きくて住民サービスを提供している下水道事業も公営企業会計にしろさいということ、その必要性が高まってきており、町もこの事業について踏み切ることになりました。移行の時期につきましては、32 年、来年の 4 月 1 日に移行する予定であります。以上です。

○議長（清水満） 青山議員。

○10 番（青山弘） 次に飯綱病院について、29 年度決算審査意見書の中で、監査委員から行政としても資金の援助ばかりでなく、医師・看護師等の獲得に積極的に関与するようにと総評されています。医師不足は解決されたのか。めどは立ったのか。まだ年度途中ではありますが、30 年度の病院事業会計はどのような状況かをお聞きいたします。大まかで結構であります。去年と比べて、特に収益的支出の部分がどうなっているかお尋ねいたします。

○議長（清水満） 大川病院事務長。

〔病院事務長 大川和彦 登壇〕

○病院事務長（大川和彦） ご説明申し上げます。最初に医師不足の状況でございますが、今現在、解決はしてございません。ただ、その前段で、その医師不足はどういうことかということ、を少しご説明申し上げたいと思います。

研修医制度、それから専門医制度等が行われているために、大病院であるとか、都市部の病院に医師が集まりやすいという状況がありまして、今、全国的にも医師の偏在が生じているということございまして、地方にドクターが集まりにくい状況があるということで、それが一つ医師不足ということになるわけでございますが、そこに医師の必要数というものが医療法で決められておりまして、その数字に対して充足しているかどうかというものを毎月はかつていくというルールになっております。

医師の必要数というものは、前年度の入院と外来の患者の総数、それから割り出すという計算式がございまして、それで割り出した数字でございますが、飯綱病院の場合は 12.4313 人必

要であると言われております。今現在は、1月末の数字でございますが9.06人ということで、3.3713人不足という状況がございます。これは常勤の医師と非常勤の医師を常勤換算いたしまして出した数字となっており、それで一つの目標値といたしましては、その70パーセント以上の医師を確保するというのを目標値として挙げております。その70パーセントはどういうことかと言いますと、医師の数が70パーセントを割りますと、診療報酬が一部削減されるという仕組みになっておりまして、同じ診療行為をいたしましても診療単価が下げられるというのが国で決められておりますので、最低限その70パーセントを確保したいという目標でやっているところでございます。医師の確保は、毎年重要課題と位置づけて行っているわけですが、非常に厳しい状況であります。

公立病院改革プラン、それから長野県の地域医療構想によりまして、その事業検討がされている中でも自治体と共に取り組むこととされており、当院に限らず県内のどの自治体病院においても同様の課題となっております。折しも2月19日、それから26日の信濃毎日新聞におきまして、県内の医師不足の状況が報道されておりましたが、長野県は全国38位ということで、医師が少数県という位置づけになっています。

医師確保につきましては、今までも何件も問い合わせがありまして、先生本人から、またはその紹介会社を通じてご案内がありました。しかしながら、なかなか就職につながらないというところがあるわけでございますが、先生の希望、勤務形態の多様性であるとか、金銭面の問題、それから生活環境の問題、診療科等々の問題があり、なかなかその条件が合わないので、採用に結び付かないという状況でございます。

県の取組といたしまして、30年度から地域医療人材拠点病院支援事業というのがスタートいたしました。当院には、長野市民病院さんから消化器内科、整形外科、泌尿器科の3科の先生を非常勤で派遣をいただいております。特に泌尿器科につきましては、当院は高齢者の方が多いという状況がありますので、大変盛っている状況でございます。

現在、長野県の医師確保対策室、いわゆる「ドクターバンク」というところ、それから国民健康保険団体連合会さん、こちらには医師の紹介センターというのが併設されているわけです。

けれども、こちらから常勤の先生と非常勤の先生各1名のご紹介をいただいております、2月にそれぞれの先生方と面談をいたしました。それで、その非常勤の先生が着任いただけるというお返事を先週いただきまして、4月1日からですが、週3日ないし4日の診療をしていただけるということで、まだ正式契約には至っておりませんが、もう公表して良い段階だと思えますのでお話し上げたいと思います。診療科につきましては、内科と総合診療科をやっているという女性の先生でございます。もう一人の先生は、現在、富山県にいらっしゃる先生で、この先生は常勤を希望していらっしゃいます。まだその先生は所属の大学の医局との問題がありまして、それが解決し次第お返事をいただくということで、返事待ちをしているという状況でございますので、若干、医師の数は確保につながってきているという状況でございます。

2つ目の会計の状況でございます。28年度、29年度と、少しずつでございますが経営改善ができておられると思っておりますが、平成30年度につきましては、1月末現在の決算見込みでは、些少ではありますが黒字になる予定と見込んでおります。それで、議員からお話しのありました債務超過の件につきましても若干申し上げたいと思っておりますがよろしいですか。

○議長（清水満） 青山議員。

○10番（青山弘） その次に質問させていただきます。医師不足の関係、これは良くなってきていると取ったわけですが、本当に何よりも良いことだと感じたところであります。

私、病院の事業会計で心配なところがありまして、それを今答えていただきそうになったわけですが、29年度の飯綱病院の事業会計貸借対照表で、資本合計4億1,000万ほど債務超過になっていると私は見たわけですが、普通の会社ですと、これで支払いが滞ると倒産ということになってしまいますので、すぐには潰れないにしても、お金が回っていかなくなり、普通の会社であれば不渡りを出せば倒産なわけです。

そこで、飯綱病院の会計は大丈夫なのかとお聞きしたかったわけです。そして、未収金ですが、これも2億7,700万というのが29年の決算では3億8,800万と増えてしまっていて、これは回収できるお金なのか、お答え願いたいと思います。

○議長（清水満） 大川病院事務長。

〔病院事務長 大川和彦 登壇〕

○病院事務長（大川和彦） お答え申し上げます。では、最初に債務超過について、議員おっしゃったとおり、資産と負債の状況から4億1,000万円ほどの債務超過となっております。これを解消するためには、現金残高を7億500万円程度にする必要があるということになりますが、平成29年度末の現金残高が2億9,500万円ほどとなっております、約4億円程度の資金が不足ということになります。ただ、その平成29年度の単年度収支を見ますと、1,200万円程度の赤字でございまして、本年度決算は先ほど申し上げたとおり現時点では黒字の見込みで経営努力をしているところでございますが、平成28年度から3年連続で改善傾向にあること、それからこの状況が継続されていけば、資金ショートという状況はならないと考えております。今後とも、引き続き収入増と現金の更なる確保を目指していきまして、債務超過の状況を改善していきたいと考えております。

先ほど議員もおっしゃいましたが、民間企業であれば債務超過ということになった場合には、融資の制限でありますとか、そのようなことが発生すると思われませんが、公営企業という性格上、直ちにその制限が発生しないということがありまして、公営企業法によって一般会計からの一定の繰入れが許されているということがあります。ですので、直ちに破たんするという事にはならないという仕組みになっております。

しかしながら、その状況に甘えているわけでは全くございません。その債務超過の状況は好ましくないということも承知しております。ですので、増収をするために先ほども申し上げましたとおり医師の確保も重要なことになってまいりますので、今後とも医師の確保と更なる経営努力を継続していくと考えております。

未収金の関係でございまして、これは診療報酬の収入できる時期が2カ月遅れということになっておりまして、1月分の診療報酬までは年度末に入金できるわけですが、2月分の診療報酬と3月分の診療報酬というのは年度をまたいだ4月と5月に入金するという仕組みでございまして、一時的に未収金計上をするということになっておりますので、1カ月当たり

1億2,000～3,000万円の診療報酬額がありますので、その分とご理解いただければと思います。
よろしく願いいたします。

○議長（清水満） 青山議員。

○10番（青山弘） それでは、次に水道会計について、本年10月に消費税が10パーセントに上がるわけですが、これに合わせて料金改定を考えているかという通告を出したわけですが、これについても2日の予算審議で同僚議員が質問し、町長のお答えは、消費税は上げるけれども今年については料金の値上げはしないということでした。また、水道会計の統一については、1,000万円ほどお金が掛かるけれどもやっていきたいというお答えをいただきました。そのようをお願いをしたいところであります。

最後に公営企業繰出金、病院を含むについてですけれども、公営企業繰出金の根拠規定17条2には、「次に掲げる地方公営企業の経費で政令で定めるものは、地方公共団体の一般会計または他の特別会計において、出資、長期の貸付け、負担金の支出その他の方法により、負担するものとする」と定められています。

1、その性質上当該地方公営企業の経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費。
例として、公共の消防のための消火栓に要する費用。

2として、当該地方公営企業の性質上能率的な経営を行っても、なおその経営に伴う収入のみをもって充てることが客観的に困難であると認められる経費となっていて、どんなに頑張っても赤字になってしまう費用のことだと思ってしまうわけですが、現在、牟礼・三水の水道会計には、他会計負担金、消火栓維持管理費として一般会計から繰り出しを行っております。17条には、収支均衡とは言いますが、どんなに頑張っても赤字になってしまうものは一般会計から公営企業繰出金を支出して収支を合わせて良いという解釈で良いのかお尋ねします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） お答えを申し上げます。私は、公営企業会計へのその通称赤字補填を繰り出すということはあまり好ましくないと基本的に思っておりました。したがって、今現実

的に 5,000 万、6,000 万ぐらいの繰入れを水道会計に起こしてきているわけでございますけれども、これがいわゆる許される部分のどういう解釈にするかというのは、正直言ってまだ議論を詰めたことはございません。しかし、続けていかなければ住民負担が一気に高くなるという半面そういう要素もありますから、そこら辺を慎重に考えたいというのが一点。

もう一点は、大きな設備投資が必要とされる浄水場建設等、こういうものに例えば 8 億、10 億の投資を一体どういう形でやれば良いのか。鉄道も公営企業でございますけれども、しなの鉄道は県が 100 億の出資を寄付にしてそれは取らないとか、例えば施設は町が造ってそれを長期で水道会計に貸し出すとか、いわゆる特別な優遇的な措置をすることによって、その企業の会計の圧迫にならないような状況にする。よく鉄道は、線路は公共の飯綱町がやって、上の動いていく電車は事業者が負担していくというやり方、いろいろな方法があると思いますので、そこら辺を研究する中で将来にわたって安定して良い水が供給できるような道を模索したいと思っています。

○議長（清水満） 青山議員。

○10 番（青山弘） いろいろお伺いいたしました。大変参考になったり勉強になったりしたところであります。以上で私の質問を終わらせていただきます。

○議長（清水満） 青山議員、ご苦労様でした。以上で午前中の日程を終了しました。

これより休憩に入りたいと思います。再開は 13 時 10 分でお願いします。

休憩 午後 12 時 16 分

再開 午後 1 時 10 分

◇ 風 間 行 男

○議長（清水満） 休憩前に引き続き、会議を再開します。

一般質問を続けます。

発言順位 4 番、議席番号 2 番、風間行男議員を指名します。風間行男議員。

なお、風間行男議員より演壇における資料等の掲示許可願いがありました。議長はこれを許

可したので報告します。

〔2番 風間行男 登壇〕

○2番（風間行男） 議席番号2番、風間行男です。通告に従い順次質問していきたいと思えます。

まず、オーガニックリゾート株式会社への観光施設の指定管理について、順次お伺いしたいと思います。

最初に、別荘管理委託事業、つつじヶ原・白樺台・高岡・からまつの丘・サニーハイランド地区における管理委託料基準額950万円の積算根拠をお伺いいたします。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えいたします。まず、別荘管理等の指定管理の関係の公募の説明をさせていただきます。

町は、天狗の館等の東高原観光施設の指定管理者の公募におきまして、指定管理者には別荘管理業務については参考価格で年額950万円を支払う。公衆利用ゾーン管理、いわゆる公園管理業務については年額500万円を支払うという条件で指定管理者を募集しているところでございます。指定管理料を支払うことを条件に指定管理者を募集することは決して珍しいことではありません。

町としては、これまで指定管理者に利益が出やすい温泉施設やゴルフ場運営は、売上げに応じて施設の貸付料的な納付金を納めさせ、逆に別荘管理業務や公園管理業務のような利益の出ない業務は、指定管理料を指定管理者に支払ってきました。平成21年度からこの条件で指定管理者を公募しております。これまで指定管理者の応募者数は決して多くはない状況ではございますが、競争性は確保されていると考えております。

別荘管理業務の内容でございますが、別荘所有者からの問い合わせの対応、別荘地内の巡視、道路沿いの草刈り、側溝上げ、別荘地内道路の落ち葉等の除去、あと交通に支障のある立ち木の枝払い、管理棟・ごみステーションの管理などがございます。

協定書におきまして、指定管理料の額は年度ごとに管理委託契約書により定めるとしておりますので、町は毎年度指定管理者から別荘管理業務の見積書の提出を受けて、管理委託契約を締結しております。

平成 30 年度別荘管理業務のオーガニックリゾートからの見積額は、公募の際に提示した金額と同額の税込み 950 万円で、見積額と同額で委託契約を締結しているところでございます。見積額積算の内訳でございますが、主なものは人件費が 620 万円ほど、労務管理費が 80 万円ほど、あと山ぼうし、つつじ、サニーの管理棟の光熱水費が 70 万円ほどとなっております。現在の指定管理者からは、四半期ごとに別荘管理の報告書の提出を受けて、完了検査の終了後、四半期ごとに委託料の支払いをしているところでございます。

平成 29 年度の管理報告書によりますと、春と秋は道路の落ち葉や枝を乗用ブロワーで吹き飛ばす作業が多く、別荘地内の道路沿いの草刈りは 6 月から 10 月に集中をしております。あと、側溝上げにつきましては春先が最も多くなっております。平成 29 年度の管理報告書によると、別荘地内の巡視は毎日実施しており、別荘管理の作業に従事した日数は年間で 113 日、従事者数は延べ 447 人となっております。以上でございます。

○議長（清水満） 風間議員。

○2 番（風間行男） 積算根拠を今お伺いしましたけれど、私は、積算根拠は草刈りの平米数を算出し、更に道路の延長等を出し、そこに基本単価を掛けて出すべきと考えます。さらに別荘内は木に覆われていて、平地と違い草の量がすごく少ないことが言えます。また、U字溝の詰まり箇所等是一部に限定されると思われまますので、手間が掛からないことからしても 950 万円は妥当かどうか。積算基準を見直す必要があると考えますがお伺いします。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えいたします。まず、先ほどお答えしたとおり、31 年度まではこの別荘管理業務は年額 950 万円を支払うという条件で公募をしておりますので、31 年度につきましては従来どおりとさせていただきますが、32 年度からの新協定の公募の際は

検討させていただきたいと思っております。以上でございます。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 次に、飯綱東高原エリア内公衆用利用ゾーン管理委託事業、飯綱保健休養地及び関連施設、管理棟いこいの森山村広場の場所と管理委託基準料額 500 万円の積算根拠をお伺いいたします。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えいたします。町は、霊仙寺湖周辺の公園管理業務についても、別荘管理業務と同様に毎年度指定管理者から公園管理業務の見積りの提出を受けて、毎年度、管理委託契約を締結しているところでございます。

業務の内容ですが、霊仙寺湖周辺の芝広場の芝刈り等の管理、公衆トイレの管理、霊仙寺湖周辺の山林の中に広がる遊歩道の管理、あと霊仙寺湖周辺の観光施設・道路付近の草刈りなどでございます。

平成 30 年度の公園管理業務のオーガニックリゾートからの見積額は、公募の際に提示した金額と同額の税込み 500 万円で見積額と同額で契約を締結しているところでございます。見積額の積算の内訳でございますが、主なものは人件費が 320 万円、トイレ等の光熱費が約 50 万円、燃料費が約 40 万円となっております。

現在の指定管理者からは、四半期ごとに公園管理の報告書を受け、完了検査の終了後、四半期ごとに委託料の支払いをしているところでございます。平成 29 年度の管理報告書によりますと、6 月から 10 月ぐらいまでは芝広場の芝刈りや霊仙寺湖周辺の観光施設や道路付近の草刈りが多くっております。春先・秋は、観光施設のオープンやクローズの準備、冬季は雪による施設の損壊を防ぐための除雪作業が主になっているところでございます。平成 29 年度の管理報告書によりますと、公園管理の作業に従事した日数は年間で 170 日、従事者数は延べ 622 人となっております。以上でございます。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 積算根拠が妥当かどうか私は疑問ですが、再度検討が必要ではないか。さらに先ほど説明がありましたが、適正な管理契約を結んでいるとおっしゃられましたが、標準基準額を示して500万でどうだという募集をしているわけですから、そこには競争性もなければ、予算の効率化、公平性、透明性の確保は困難だと考えますが、見直しのお考えをお伺いします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） お答えを申し上げます。やはり、議員のおっしゃるような見方も一つあると思います。今現実として課長から申しあげましたとおり、あの地域の別荘管理、非常に管理を徹底していただきますと別荘自体のグレードも上がって、いろいろな意味で良い評判になっていくわけですが、常駐者を1人置いて、それでいろいろな電話への対応、これから出掛けるけれども窓を開けて風を通しておいてほしいとか、また閉め忘れた窓を確認してきてほしいなど、非常に小まめなサービスを展開するとなれば人件費が非常に掛かる。その上に道路などのいろいろなものの整備、そういうものをセットとして取り組むという内容になっていますので、いわゆる入札なり見積りを出すときに仕様書みたいなものを作らないと比較の基がないわけですが、仕様書によって常時365日誰か1人付ける、年間4回は草刈りに出る、そういう項目を全部設けますと、例えば950万で収まるのか収まらないのか。今の話の500万円で収まるのか収まらないのか。その辺も少し検討させていただいて、新しい発注方法が良ければそういうことも議員の意見を取り入れて決めたいと思っておりますが、いずれにしてもこの両方とも32年の3月までは今の会社と契約をする、受けてもらうことを条件に契約をしておりますので、そのまま行かざるを得ないと思っておりますが、32年4月以降の指定管理においては別個に外して発注するか、込みで発注するか、また積算の基礎をどういうふうにするか、そこら辺を十分検討させていただいて、新しい世界に入っていきたいと思っております。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 先ほども少し聞きましたけれども、見積額を提示して基礎額に対しての契

約時の見積書の提出が必要かどうかお伺いしたい。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） お答えいたします。この指定管理料ですけれども、現在の協定によると管理委託契約を締結し、金額を決めて支払うことになっておりますので、今の状態だと見積書が必要になってしまうわけですけれども、例えば指定管理料を支払うということで公募していく形になれば、もうこれは指定管理料が完全に決まった状態で公募をすることになりますので、そういうときには見積書の提出は必要なくなると考えております。以上でございます。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 今まで同じだと思うわけですが、基準額決めて、これで皆さん受けてください、それでは私がやりますと手挙げてきたわけですから、そこに見積書が出るというのが私は不思議で仕方がない。何で必要があるのか。今の契約書を見ている、それが見当たらないのでお伺いします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 今、課長から事務的に話し申し上げましたけれども、いわゆる今の契約、東高原の指定管理契約の中には、復習になりますけれども別荘管理の関係と今の公園管理の関係で、500万と950万という提示をして受けているわけですから、もう金額は固定したようなものですけれども、あえて見積書を出していただいているという点については、そういうことはないと思いますが、もっと少ない金額で実施できるとか、または今年度、来年度においてはどうも大きな道路の何かがあって、とてもこの950万円では足りない、1,500万円ぐらい今年度については欲しいというような事情があれば、見積書の提出ということもあると思っています。その延長線上で一応見積りを取っていると解釈していただければと思うわけですが、普通の考えだと議員のおっしゃるとおりのような内容だと思います。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 町として、職員は別荘内の管理状況調査等を行っているか。行っていけばU字溝や草刈り、枝落ち、その他の管理状況を把握できると思いますが、資料2をご覧くださいますと、U字溝辺りがふさがっている。私は、同僚議員と5時間かけて別荘内を見て歩きました。その結果、問題箇所が数箇所散見されました。また、私が独自に別荘の住人に話を聞きましたところ、管理不足があることを指摘されておられました。

協定書第19条の実地調査、町は管理運営の状況を把握するために、必要があると認めるときは随時実地調査し、契約者に対して必要な報告または帳簿書類の提出を求めることができるとされていますが、町は調査義務があると思います。その辺はどうでしょう。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） お答えいたします。議員のおっしゃったとおり、協定書の第19条に町は管理運営の実施状況を把握するため、必要があると認めるときは随時実地調査をして指定管理者に対し、必要な報告または帳簿書類の提出を求めることができるとしております。

先ほどの答弁のとおり、別荘地内の管理につきましては、町は指定管理者から四半期ごとに別荘管理の報告書の提出を受け、報告について書類の審査を行って、現地の調査につきましては随時別荘地内の管理の状況を確認しているところでございます。

また、町民や別荘所有者から町に苦情等の連絡があった場合には、すぐに現場を確認して別荘管理を委託しているオーガニックリゾートに連絡しているところでございます。しかし、ただいまの風間議員からの別荘管理問題箇所のご指摘につきましては、真摯に受け止めさせていただきます。

町は、現況を確認した上で、ご指摘いただいた事項につきましては、指定管理者に対して連絡し注意をいたしまして、良好な別荘管理ができるよう強く指示してまいります。以上であります。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） この協定書の中の19条、今言われるように「必要があるとき」を削除する

ことによって、随時実地調査し、契約者に綿密な管理運営を促すことができると思いますが、改定のお考えがあるかについてお伺いします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 今、協定書を確認させていただきましたけれども、随時と同じ解釈ができると思う「必要と認めるときは」ということですので、町長が必要だと認めれば毎日でもとなると思いますので、31年度については契約の相手方は変わりませんが、そういうことで徹底していきたいと思います。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 次に、アジサイの管理についてお伺いします。行政報告では、春には植栽、秋には花摘みボランティアとして参加要請がありますが、委託管理に規定された第1条（1）に、アジサイの植樹及びそれに関わる準備、5番としてはアジサイの花摘み等の契約をされていますが、なぜボランティア要請が必要なのか私は大変不信感を抱きました。

さらに、アジサイの株の手入れ等をしっかりやっていたら、もっときれいな花が咲くと思います。資料3をご覧ください。大きい株の下にはたくさんの枯れた枝があり、草刈りがされたのか。アジサイ栽培管理業務の手抜きか、本当に契約どおり管理されているのか。オーガニックリゾート株式会社では委託管理は無理なのではないかと思いますがお伺いします。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） お答えいたします。まず、アジサイ園の管理委託の状況でございますが、オーガニックリゾートとの平成30年度の管理委託料は税込み59万4,000円で、委託内容につきましては、アジサイ園の草刈り、冬囲い、水やり、あと植樹の準備、花摘み等を委託しているところでございます。

町が指定管理者であるオーガニックリゾートに見積書を提出させ、年度ごとに管理委託契約を締結しているわけですが、なぜオーガニックリゾート1社から見積書を徴取したか

の理由でございますが、オーガニックリゾートは飯綱東高原観光施設の指定管理者であるため、資材や作業機械をアジサイ園のそばに保管できることと、アジサイの状況をよく確認できる状況であると判断いたしましたことから、町の財務規則第 120 条第 1 号に「契約の目的または性質により、契約の相手方が特定されるとき」に該当すると判断して、オーガニックリゾート 1 社から見積書を徴取し契約をしたところでございます。事業完了後は、オーガニックリゾートにアジサイ公園の管理報告書を提出させ、町は検査終了後、委託料の支払いをしているところでございます。

29 年度のアジサイの管理状況でございますが、5 月末から 11 月まで約 30 日間の作業を行いまして、延べ作業人数は 148 人。人数と作業時間を乗じた人時の合計は、平成 29 年度で 743 人時となっているところでございます。ただ、議員からアジサイ園の管理が行き届いていないという指摘につきましては真摯に受け止めさせていただきます。町は状況を確認した上で、ご指摘いただいた事項については指定管理者に対し連絡し、厳重に注意したいと思いますのでよろしく願いいたします。以上でございます。

○議長（清水満） 風間議員。

○2 番（風間行男） 次に資料 1 をご覧ください。平成 28 年から 30 年までの管理委託契約をしているのですが、この 3 年間でアジサイ植樹を約 3,500 本されたと思いますが、この 3 年間で枯れた本数は何本か。購入費用としては、28 年から 30 年までには 240 万ほど使っている。30 年度では 73 万余ですが、同僚議員と調べたところ管理不足により 7 割が枯れていた。更なる苗木の購入が必要と考えられるが、アジサイ園管理契約書第 3 条 2 項、受託管理者は、本件業務の一部または全部について、町の検査終了後その料金を適法な請求により町が支払うとなっておりますが、町の誰が検査されて結果を渡されたか。何ら問題は無かったのかお伺いいたします。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） お答えいたします。議員からのご指摘のとおり、町民の皆さんにアジサイの植栽にご協力いただいているところでございますが、アジサイの活着がよくない場

所が散見しているということについては、担当課としても大きな課題として考えていたところ
でございます。

アジサイを植栽した後の生育状況は担当課でも非常に心配しておりまして、植栽後は常に状
況を確認しているところでございます。町からアジサイ管理の委託をしているオーガニックリ
ゾートにも、植栽した後の水くれなどに十分注意するよう指導しておりますが、議員のおっし
ゃるとおり管理が問題なのか、それとも高温や干ばつなどの最近の気象が影響しているのか、
若しくはその土目が問題なのか、原因は特定できていないわけでございますが、確かにここ数
年、アジサイの活着がよくないというのは事実でございます。

「アジサイで地域を元気に」というスローガンで、町民と町が協働で平成 24 年度から「あじ
さいプロジェクト」がスタートしております。当初植栽したアジサイは見事に成長して、現在
は霊仙寺湖のアジサイを目当てに訪れる観光客が非常に増えておりまして、重要な町の観光資
源になりつつあります。

議員からご指摘された件につきましては十分に反省をいたしまして、町はアジサイの適正な
管理について、今後も検討してまいりたいと思っております。以上でございます。

○議長（清水満） 風間議員。

○2 番（風間行男） 先ほども少し質問したわけですが、何本ぐらい育っているのか。何本ぐら
い枯れたのかお分かりでしたらお願いします。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） 大変申し訳ありませんが数字的には把握しておりません。ただ、
状況を見ますと、やはりその植えた年によって非常に活着率が違っているというのは事実でご
ざいます。

平成 24 年度から始めたと言いましたが、平成 24 年、25 年は 90 パーセント以上、非常に高
い活着率でした。その後は年によってバラバラでございますが、議員のおっしゃっていると
おり、ここ 2、3 年は非常に活着率が悪くなっていると感じております。パーセントについまし

ては、大変申し訳ありませんが把握してございません。以上です。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） ここ3年間、非常に活着率が悪いというのは、オーガニックリゾートに指定管理を出してからですね。その検査を本当にされたのか。していれば把握していると思いますがその辺どうですか。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） どの時点で検査をするかということでございますが、当然植栽したときには職員が行っていますので全て確認をしております。ただ、枯れの状況、その秋にどのくらい活着していたかとかについては、申し訳ありませんが検査してございません。以上です。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 検査されていないということで、分からないのでこれ以上どうしようもないわけですが、せっかくお金を掛けてやっているのですから、きちんと検査して、契約内容どおりの業務をやっているか、是非検証していただきたいと思います。

次に、飯綱町観光施設管理者募集要項に先ほどから触れているところですが、指定管理業務のうち、別荘管理・飯綱東高原エリア内公衆利用ゾーン管理に関する経費の中の部分ですが、飯綱東高原観光施設及び飯綱町いこいの森山村広場、飯綱町指定管理者と公園管理業務に関わる管理、契約を締結し、管理委託を年度ごとに予算の範囲内で次のとおり支払います。それで、基準額が先ほど言われているように年額500万。これを改定してはと考えます。また、東高原休養地及び関連観光施設管理等、飯綱町は指定管理者と別荘管理業務に関わる管理契約を締結し、管理委託料を年度ごとに予算の範囲内で次のとおり支払います。基準額950万円を改定し、予算の効率化・公平性、透明性の確保をするために、別荘管理については初夏から秋にかけては土建業の仕事が少ないと聞きます。多くの参加者等が入札参加できるようにし、入札による管理委託を飯綱東高原エリア内公衆利用ゾーン、飯綱高原観光施設及び飯綱町いこいの森山村

広場は結べばよいと考えますがお伺いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 先ほども答弁申し上げたわけですが、議員が提案されるような契約方法も一つの選択だと思います。ただ、私も振興公社にいた時代に一部管理をしていたときがございましたけれども、トイレの管理にしても、この管理の団体が別になりますと、例えば天狗の館の管理を受けていたものがトイレの汚れに気が付いた。自主的に自分できれいにするような心掛けであればうれしいわけがございますけれども、これをうちの管理ではないということで、他にところに連絡すればまだ良い方ですが、そのような現象が時々ございます。

したがって、願わくは、私は中心的な天狗の館などを管理しているところがそちらの方面の管理もしてもらえれば、例えば1人が専属でやっていたら、その人が現場に出ているときに電話が掛かってきても担当ではない人たちでよく分からないとなるより、事務所に電話すれば誰かが出て対応してくれるということが、サービスにつながるだろうという思いもございます。

ただ、現実としての管理状況があまり好ましくない状況も写真で説明を受けました。そこら辺を踏まえる中で、再度の答弁でございますけれども、32年度以降、実質的には今年の6月、7月頃から事務的には募集をしていくことになると思います。その時点で募集要項も定めますので、そのような中で対応していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 次に、10年間で長野県下一番のアジサイ園を目標に2万本を目指すとなっております。今まで6年間で約1万本を植えてきましたが、先ほどの回答で土壌の不向き、水不足、管理不足で多くの苗が枯れた問題が山積していると思われませんが、業務内容に適合しているかを検証することが重要であると思います。アジサイづくりは、町はもっと力を入れて費用対効果が出る管理が求められていると思います。

そこで、私はアジサイの株、植栽の管理は造園業者等の入札による管理委託、草刈り、その他の管理については、アジサイに対する知識のある方の募集で管理委託等も考えますが、お考

えをお聞きします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 今、ご質問いただいている中で、やはり町の大きな飯綱東高原のメインの誘客のポイントは、アジサイでいこうということで取り決めて動いております。

確かに2万本という目標を持っているわけですから、苗を購入していくのは当然のこととしても、節約も良いですが、それなりきのプロジェクトでしっかりとした予算計上をする中で2万本達成を着々と進めていくことが、今お聞きしても大切なことだと思います。

多分、直接工事費と言いまして、水運ぶ材料から人夫賃、場合によれば散水車など、そういう直接工事費が例えば50万円くらいで、本来の設計をしていけば設計額は多分200万程度まで跳ね上がっていくと思われます。でもそれは、それだけの設計できちんと見ていってもらうのですから、それなりの成果が出てくるだろうと思っています。

今の任せるスタイルは、オーガニックさんが少し空いている手間の中で特別な人を雇うのではなくて、現有の皆さんの中で何とかというような延長線上にあったような気もします。また、造園業者さんに入っていただくというのも一つの大きな方法かと思えます。それも含めて、一つ検討させていただきたいと思えます。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 27年4月1日から天狗の館の指定管理期間が5年に延長されましたが、更に延長することで指定管理者自ら購入した備品の減価償却が終わることで計画的な管理が可能と思われますがお伺いたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 確かに私もその点はすぐ思い付きました。温泉で使うような、また観光施設で使うような備品・機械類というのは大体10年以下の償却で終わっていきます。5年で終わるものはほとんどなくて、5年から10年の間というような税の申告の期間でございますけれど

も、大体7年、8年というのが標準で示されている耐用年数でございます。そういう意味では、本当に設備投資をしても回収できる年月の指定管理を受けるということで、業者さんにとってもやりがいがあると言いますか、それなりの計算が立つと思います。

私、いつも役人的な発想で申し訳ないですが、一つの心配は、みんなの天狗の館というのは大きな意味で憩いの場であり、町民が本当に何回も行きたいと思っている施設、この施設を例えば10年間、Aというところに専属にお貸しするとした場合に、思うとおりのようなサービスの内容を展開していただければ誠にありがたいわけですが、この際しっかり儲けてしまう、そういうスタイルで営業をやるのと、住民の皆さんの福祉につながればというスタンスで営業をやるのとは若干違いが出てくるのではないかと思います。そこら辺の微妙なところを、短い期間でしたらある程度我慢して年数がきたら次に切り替えということになるわけですが、10年、15年ということになると、そういう面も反面心配される点もあるので、そういう心配の起きないように、先ほどのチェックではありませんけれども、契約内容にそういうものを組み込みながら、両者がウィンウィンの契約内容になるように頭を使って工夫していきたいと思ます。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 次に、施設修繕について、現行では20万円を基準としていますが、経年劣化だけでなく指定管理者による機械や施設の管理不足も否定できないと思われまます。基準額を引き上げることを検討できるかお伺いします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 受けていただける会社をもちろん信頼した中で20万円という設定をして、どちらかと言えば、食器やポットなど、そういう安い物のトータルが20万未満であるとか、一つの厨房の機器にしても、湯沸かし器みたいな5、6万の物が壊れてしまったからというような意味では、その20万以下という設定をさせていただいたわけですが、20万近い物であるのなら、私が経営者でいれば22万の見積りをもってやった方が良いというふうないろいろな考

えもあると思います。それを 30 にすれば 30、10 にすれば 10、やはり信頼関係の中で動いていくべきだと思います。

そういう中で、事業者にご負担していただく一つの目安の金額としては 20 万程度というのが、税制でも 20 万に満たない金額は単年度の経費として落として良いとなっています。そのような点で、20 万ぐらいを一つの目安として考えて良いのではないかと思います。今のところ現状で良いという考え方でおりますけれども、儲かったら応分の負担もしてもらっておりますので、この辺も今回の契約の切り替えのときの課題にして申し訳ないですけれども、他の温泉施設はみんな赤字で負担してあげているというのが、ほとんどのように首長さんから聞いております。そういう中では、オーガニックさんには逆にお金を納めてもらっておりますので、そこら辺も今後どう考えるか。そこら辺も含めた上で研究させていただきたいと思います。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） ゴルフ場利用税は、長野県が 1 人 1 日 500 円、地方税法の 76 条だそうですが、飯綱ゴルフ場の標準額も同額と確認できました。

県からのゴルフ場利用税交付金 1,900 万円ですが、飯綱ゴルフ場での納付金額は幾らか。また、利用者数は何人かをお伺いします。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） お答えいたします。まず、議員のおっしゃったとおり、町へ入ってくるゴルフ場の平成 29 年度ゴルフ場利用税交付金は 1,942 万 9,000 円でございますが、そのうちの飯綱高原ゴルフコース分のゴルフ場利用税交付金は 321 万 9,300 円でございます。

あと、ゴルフ場の利用者数でございますが、平成 29 年度は 1 万 2,251 人でございます。以上でございます。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 次に、予算書の関係になりますが、先輩議員から聞いた話では以前は指定管理者から議会に決算報告書が提出されたと聞くが、なぜ今は提出されなくなったかをお伺い

します。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） お答えいたします。まず、三セクの事業者につきましては、議会に決算状況等を報告する義務がございますので、現在もふるさと振興公社等については6月の定例会に報告しています。

オーガニックリゾートにつきましては、現在は完全な民間企業で指定管理者でございますので、議会に報告する義務というものはございません。ただ、議員、地域住民の代表の皆さんにお集まりいただいて、東高原の事業の内容についてご報告をしていただく場は年に1回設けておりますので、その際には、これまではオーガニックリゾート、スキー場等から事業内容についての報告等は受けているところでございます。以上であります。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） オーガニックリゾート株式会社から決算書の提出がもらえるよう契約変更で出せるのか、その辺はできないのか。というのは、出てこないと中身が全く見えません。だから、是非出していただけるようお願いしたいのですがいかがでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 私、いつも見ておりますけれど、役場には四半期ごとか毎月、温泉・ゴルフ場・観光施設全部の売上金、収支が報告されてきております。これはそういう協定になっていると思いますけれども、公にしていきますということについては、これは相手方が承諾をしない限りは難しいだろうと思います。

また、同時に議会に対しても、どういう関係で議会へ公に公表しなければならないかというものが出てこない限りは、それは立場としてはニチアスや長野国際カントリーなど、みんな同じ立場ですから、それぞれのところに決算の明細書出せと言っても、そういうわけにはいかないとはいろいろあると思います。そういう立場の会社であるということをご理解をいただきました

いと思いますが、町には報告を既に受けております。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 今言われたニチアスや長野国際カントリーは別物として、指定管理に出しているわけです。

次、お伺いしていきますけれども、それにも関連するのでお伺いします。指定管理者納付金が29年、30年度は650万で31年度は475万余となっていますが、ゴルフ場の経営が無くなったとすれば理解しにくい。ゴルフ場の売上納付金を差し引きすると175万円であり、これは少ないのではないかと思います、その辺はいかがでしょうか。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） お答えいたします。まず、予算計上額の算出の基礎でございますが、まずは650万円を基準に考えているわけでございますが、その中でオーガニックリゾートの天狗の館の利益分とゴルフ場の利益分、あと観光施設の利益分がございますので、その割合で率を出しまして、その中のゴルフ場の利益率を控除した額で予算計上をさせていただいたところでございます。以上でございます。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 売上高に対する金額算出表がありますが、売上高2億8,000万以下で650万の納付額になっておりますので、単純に計算すると大体ゴルフ場は7,000万ぐらいだと思います。これも不思議で仕方がないです。

次に続けてお伺いしますが、町長から今回の指定管理中途解約損失金算出根拠はこれまでの利益実績平均額とのことですが、今年度予算の納付金から考えても1,295万は私は高すぎるのではないかと思いますがお伺いします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 細かな数字はまた課長から申し上げますけれど、確かゴルフ場の総売上は

7,000 万程度だと記憶しております。そこから経費や人件費などを引いて、過去お願いしてからの 10 年ぐらいの利益は大体 1,000 万～1,400 万ぐらいの間で推移しておりました。

それは、ゴルフ場だけの利益で、いわゆるスタッフの給与計算をしてあげるとか、この全体の総経費と言いますか、総務費みたいなものをみんなの利益の中から分配するという形になります。その利益というのは、単純にゴルフ場の売上げから関係費用のゴルフ場だけのものを引いた費用が 1,200 万程度ということで、これは 10 年の平均でございます。

○議長（清水満） 風間議員。

○2 番（風間行男） 町は、今までにゴルフ場の建物や機械などに投資した修理費等を出して委託していますが、その経費はこの利用収益分から控除されてあるのか。それとも控除なしの補償額なのか。その辺をお伺いしたいです。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） ゴルフ場は指定管理に出しておりましたから、いわゆる機械、草刈機だとかもろもろの機械、また建物の本当であれば減価償却もあるわけですけど、そういう経費は一切会社では支払わない。

会社の経費として見ているのは、食堂の食材やスタッフ、グリーンを守るためのグリーンキーパーの費用、そういうものが費用になります。

○議長（清水満） 風間議員。

○2 番（風間行男） そうすると必要経費はみんな町で出していただいて、利益だけは自分のところとなりますが、これで住民に説明ができるかどうか再度お伺いします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 指定管理というのはそういうことで出しているのです。温泉も何もみんなそうです。だから、今議員がお話しになったとおり、温泉でも 20 万以上の設備・壁・天井を直す、畳を入れ替える、一切町で出してそれで受けていただいているオーガニックは、一番大きいのは

は人件費だと思います。あと、20万以下の備品等の費用、そういうものを引き算して収支をやってもらっているわけです。

収入が500円、600円という枠をはめてございますから、好きなように利用料を上げるというわけにはいかない制約があるわけですが、他の自治体もそのスタイルでほとんどの温泉はやっていますが、それであってもなかなか黒字にならないというのが今の公共施設の日帰り温泉経営の実態ではないかと思っています。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 温泉はそうかもしれませんが、ゴルフ場はこれだけの収益があるということですから、どうも納得しがたい補償金額だと思います。以上で私の質問は終わります。ありがとうございました。

○議長（清水満） 風間議員、ご苦労様でした。

ここで暫時休憩に入りたいと思います。再開は14時15分にします。

休憩 午後 2時 5分

再開 午後 2時15分

◇ 渡 邊 千賀雄

○議長（清水満） それでは休憩前に引き続き会議を再開します。

一般質問を続けます。

発言順位5番、議席番号12番、渡邊千賀雄議員を指名します。渡邊千賀雄議員。

[12番 渡邊千賀雄 登壇]

○12番（渡邊千賀雄） 議席番号12番、渡邊千賀雄です。通告によりまして順次質問いたします。

最初に水道事業の将来についてお伺いしたいと思います。昨年12月、水道事業を民営化するための水道法が改定されました。この内容は、地方自治体の水道事業の広域化や水道資産は地方公共団体が所有し、経営権を民間企業と契約するコンセッション方式ということで、この

導入を推進するものとされております。

それで、運営権を民間事業者に委ねることになり、民営化で担保されるのは企業の利益であり、安全性・安定性の後退や水道料金の値上げなどが危惧され、また、水道の広域化を推し進めることも考えられ、災害対応にも有効な地域分散型水道の否定にもつながると指摘されております。市町村主体で健全な運営が可能となる道をこそ目指すべきだと考えますが、町長の見解をお伺いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 町長に就任した当時も申し上げてきたわけですが、いわゆる水道を安定して安全な水を供給するという事は、自治体を運営する上では責務の一つだと考えます。その考えは今も変わってございません。したがって、議員が心配をされているような事態を招かないように進めていかなければならないと思っています。

ただ、今の立場としては、一概に民間に委ねることが水質を悪くすることはあっても良いことにはつながらないという、そこまでの発想は私には持ち得ておりませんが、どうやってきちんと責任を持って供給していくか、これは大事な事務の一つと心得ております。

○議長（清水満） 渡邊議員。

○12番（渡邊千賀雄） 町長も言われたように、現在の水道事業は町による公営企業で運営されておりますが、この公営企業の理念は効率的に経営し、かつ福祉を増進させるという基本原則であり、この理念の下で運営されていると思います。

水道は、こういう点で言えば福祉であり、公営企業には公共の福祉増進の努力を行う義務があるとされ、また、水は国民共有の貴重な財産であり、公共性の高いものであり、生存権に関わるものであると示されております。それが故に、地方自治体行政の仕事として取り組んでいくべきであると思います。

厚労省は、この改正水道法の施行日を10月1日にする方針を決めたようではありますが、改正水道法は、導入するかしないかは自治体の判断とされておりますもので、私は導入するべきで

はないと考えますが、先ほど町長もその点にも触れられたような感じもしますけれども、改めて町長の見解をお伺いしたいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 議員のおっしゃるとおりは非常に理解をしていますし、そういう方向でうまく行けば良い、知恵を絞らなければいけないと思っているわけですが、今度こそお知恵をお伺いしたいと思います。

いわゆる公営企業として、町が主体となって健全な経営の道を町長は探すべきということですが、これは大変難しい宿題をもらっているようで、「はい、分かりました。すぐ実施しましょう」というわけにはいかないぐらいに非常に問題が多い中身です。

私も常々、公営企業は利用者が応分の負担をして会計が成り立てば、もう文句なしにオーケーですが、余計な話ですみませんけれども、タクシーでいくら稼いでも年間 100 万円くらいだそうです。厚生年金だと思ったら、厚生年金はタクシーの基本料金が極めて安く設定されているために年金も 70～80 万、国民年金に少し棒振ったぐらいしか本当にこない。こういう中において水道料金や国保税など、このような料金を上げていくというのは、一面では経営上必要なことですが、一面そういう人たちのケアというのをどうやっていけば良いのか。そこら辺も含めた極めて素晴らしい道を模索しなければならないと思っています。

水道の関係の答申も出ておりますし、今年度、かなり突っ込んだ議論をやっていきたいと思っています。

○議長（清水満） 渡邊議員。

○12 番（渡邊千賀雄） 確かに自治体の仕事としては重要でありながら、かつ大変な面もあると思います。でも、その経営理念であります「効率的に運営し、かつ福祉を増進させる」、水道はやはり福祉の分野にも属するという立場で立ちながら、今の健全経営を目指すといったことが必要であり、求められていると思います。非常に道は厳しいかもしれませんが、その辺の経営理念と原則を握って離さないことが解決の道につながるのではないかと思うわけであ

ります。

ですから、今私も触れましたし、そしてまた町長もそれに近い発言をされました。そういう方針の下でこの水道行政を、「水を治めるものは天下を治める」といったことわざもありますが、命の水を供給しながら、そして共有の財産であるこの水を福祉の精神に沿いながら皆さんに供給していくという点で、この改正水道法は一つの道は開けてはいますが、やはりそういう経営理念の上に立てば、おのずから立場の方法が決まってくると思うわけです。

ですから、先ほども触れましたが水道は公営企業であり、地方自治体の大きな仕事であるという点にしっかり立って、水道行政を継続・発展させていくように求めて、そしてまたお願いしたいと思います。その辺に対する見解を改めてお願いします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 合併当時の大きな話題の2つがスキー場問題と水道問題でございました。

おかげさまで、皆さまのご指導をいただく中でスキー場についてはある程度の方向が見えました。私、いよいよ水道問題をしっかり手掛けなければいけないときに来ているという思いをしております。是非、そういう意味では皆さんのいろいろな知恵や工夫もいただきながら、そこにやはり給水人口の増、人口増ばかりではなくて水を使う企業の誘致や水源の確保についても先般申し上げましたけれども、長野市さんの水源を一部お借りするとか、信濃町、中野市、近隣の市町村からの提供を受けるとか、そういう効率的な運用を図る、または一部水力発電等々により関係の費用をそういう電力で生み出していくようなことも考えなければならないとか、単なる水道だけではなくて多面的な面での水道事業へのこの関わりをどういうふうにやれば良いか、そこら辺を総合的に捉える中で水道というものをこれから考えていきたいと思っていますので、いろいろな意味でご指導を頂戴したいと思います。

○議長（清水満） 渡邊議員。

○12番（渡邊千賀雄） そうした考えの下に、これからも水道行政をしっかり位置づけて取り組んでいただきたいと思います。思うわけでありませう。

次に、芋川日向地区の産廃処分場建設問題についてお伺いたします。芋川の前山地籍、日向地籍ですが、ここへの産業廃棄物最終処分場計画が既にご案内のように平成4年頃から度々取り沙汰されてきました。その都度、水資源や自然環境を守る立場から、関係住民等の一貫した建設反対により計画が進まずに断念させてきたところでもあります。

今回の計画も、今後12年間に24万立方メートルを埋め立てるということに対しても、下流の豊田地域の関係住民とも連携し、廃棄物処理場建設反対飯綱町芋川地区・中野市豊田地域連絡協議会を設置し、学習会や反対活動に取り組んできました。議会への反対請願や、また反対署名活動等で7,575名ほどの反対署名を集めて県にも提出されてきました。

しかし、こうした中で昨年12月25日付で事業計画者より長野地域振興局へ処分場建設の事業計画概要書が提出され、受理されております。こういうことで、この建設計画は新たな段階を迎えていると思うわけですが、こうした段階で町長のこの産廃処分場建設に対する見解を最初にお伺いしたいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 細かな点については担当課長から申し上げたいと思いますけれども、芋川地区の産廃問題については、議員おっしゃるとおり計画が持ち上がっては途中で頓挫するというのを繰り返してきております。この間、三水村時代の議会をはじめ、飯綱町になってからも議会としてはっきり反対であるという明確な意思表示がなされてきております。

今の法律上、法的に違反だから駄目だという中身のものの段階ではなく、私の今の立場としては慎重に対応していかなければならないという位置づけにはありますけれども、過去の問題の経過、また現地の状況、また一帯の地域の中にあえて町も赤線の部分を表示登記して町の名義にしてございます。というのは、飯綱町にとってあの地域の産業廃棄物については、今の時点では慎重な対応だけれども、決して好ましい場所だという選択にはならないという判断でございます。

したがって、県とも協議をする中で、町としては担当部局と十分な、その慎重な中にも住民

の意向、議会の意向を十分反映した形での対応をしていきたいと思っております。細かな点については課長からお願いしたいと思っております。

○議長（清水満） 梨本住民環境課長。

〔住民環境課長 梨本克裕 登壇〕

○住民環境課長（梨本克裕） 業者から出されました事業計画概要書の件でございますが、12月25日付で地域振興局が受理したということです。その後、町にも12月27日付で県が公表したものが縦覧という形で届いております。

それに対しまして、町においては事業計画概要書に対する意見書というものを1月23日付で県知事宛に提出しております。その主な中身ですが、周辺地域の範囲の中に最初は大字東柏原及び赤塩、赤東区が入っていなかったわけですが、これも含めてもらいたいという内容で出しております。

その他にも住民説明会の開催日時について、最初に業者で出されたものが2月の初旬頃から開催する予定になっておったわけですが、関係区長さん等とも連絡も取ったという話も聞いておりませんでしたので、その点も改めてもらいたいという意見を出してございます。

それに対して、県が業者へ県からの意見書ということで出されまして、赤東区も含めるとなりました。こちらとしては、お隣の信濃町さんについても含まれるのではないかということも一緒に書いたわけですが、信濃町さんも含まれる方向でございます。

説明会の開催日時につきましても、こちらの要望どおり3月から始まっております。第1回目3月3日の日曜日に開催されたわけですが、74名ほどの参加者の皆さんが出席したことも承知をしております。以上です。

○議長（清水満） 渡邊議員。

○12番（渡邊千賀雄） 今、芋川、それから豊田地域以外にも赤東地域、それから信濃町の一部もかかるといったことを言われました。これは現に開発予定地、建設予定地から半径1キロの円、直径2キロの範囲内に入る土地に対して説明をやるという今の県の条例に基づいての話だと思います。ですから、我々芋川地区はもちろん、そういう対象地域にしっかり説明していく

ことは計画者に求められるわけでありますが、この地域は先ほど町長も触れましたように歴史と経緯があるわけです。この間、町長を含め議会、そしてまた地元住民と本当に三者が反対の意思表示をしながら、今回まで来たという状況であります。

今回の事業者は、あそこの土地の取得には特殊性がありまして、不動産屋が持っているということなもので、自分の土地をいろいろ情報発信しながら交渉しているわけです。そういう中で、なかなか見つからないような中で、今回は自分の会社が子会社を立ち上げたという状況で今進めているわけです。ですから、やり方が以前と違ってまして、本当に業者も背水の陣で臨んでいるようなところもあります。そうしたことが、県へ概要計画を出したとそういったことにも表れていると思います。

今後、県の廃棄物の適正な処理の確保に関する条例によって、いろいろ手続きが行われながら判断されていくと思いますが、この条例は今までは地元の町村等の要するに首長さんだと思いますが、町村等の同意書が必要とされていた条例だったわけですが、平成21年に改正されてその同意書が意見書に変わったということです。ですから、意見を聞くという条例になっているという点で、同意書の代わりに意見書でありますから、非常に重要になると思うわけです。

そういう点で、町長にはこれまでの経緯を踏まえ、今の状況も踏まえながら、明確に受け入れ反対の意思表示をしながら対応していただきたいと思うわけですが、その辺の見解をお伺いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 町長と言いますか町の姿勢として、議員の質問ではノーという対応をしろということだと思いますけれども、本当は21年の条例改正前の町長の同意がなければ駄目だという方が非常に話が早くて分かりやすかったわけですが、意見ということなので非常に微妙な立場にあると思っております。

私、あの京急のゴルフ場問題でかなり苦勞をした歴史がございます。それもあの当時は意見でございましたけれど、その意見の中身は非常にグレードを求められます。何だか心配だから

反対ですというのでは話にならないので、どういう土地がどういう土地なのであるとか、どういう心配が予測されるとか、いわゆる信州大学の先生やもろもろの天然記念物に詳しい人など、いろいろな人のご意見・お知恵を拝借する中で分厚い意見書を作成いたしました。

多分、今度の意見書についても、担当課では最終的にかなり綿密なものを考えていると思いますが、確か3年ぐらい前ですか、議会にもお認めをいただいて300万ぐらいかけて、しかるべき第三者的なところで公害的なものが心配されるとまとめていただいた、あの場所での産廃最終処分場の可否についての報告書がございます。これもお金をかけて作っておいて良かったと思っていますが、そのようなものが理論的な意見書にも反映するのではないかと考えています。

議員がおっしゃるとおり非常に必要なものとは思いますが、町として、長野広域等々の中でしかるべき対応は十分施設の整備はしてきている予定もございますし、今、あの場所に少なくとも最終処分場を設置する、求める、その要望なり、必要性は無いということは今の時点ではっきり申し上げられると思います。

○議長（清水満） 渡邊議員。

○12番（渡邊千賀雄） 確かに今、町長が言われたように我々の生活から出るごみとか一般廃棄物は行政が責任を持って処理している。その話もこの間の説明会の中で出ました。ですから、町村は出るごみを責任持って片付けている。それ以外のものはこの地域には持ち込んでもらいたくない。ましてや、やはり説明会でも話が出たわけですが、今非常に放射性物質に対する感覚はものすごく鋭いものがあります。県の計画概要書によりますと8,000ベクレル以下ならという言い方で、その基準を良いような話をするらしいです。でも、説明会の中では「8,000ベクレルなんてとんでもない。今はもう100ベクレルでも問題だ。」というくらいにいろいろ研究されて、理性的に道理的に反対の意見を申し上げていました。ですから今、ごみ処理に対する、それから廃棄物に対する感覚も町民の間では非常にリアルなものがあります。

先ほど課長も触れられましたように、芋川地区では七十数名の参加の下で計画概要書の説明会が開かれました。真剣に話を聞きながら、その後、今言ったような質問と意見が出されて、

誰もが強い反対の意思と計画に反対するものでありました。これは、計画者もその辺はきつと分かったと思いますが、下流の豊田地域の皆さんの思いも同じだと思います。「ふるさと」の唱歌のイメージ、この奥信濃、そしてまた北信濃のイメージ。これを失わないためにも、また日本一のりんごの町のイメージダウンを防ぐ、風評被害を防ぐためにも、また希少動物や希少価値のあるそういったものが存在するかもしれない。そしてまた、豊かな自然を守っていくという、生きている我々の使命からしても、引き続いてこの産廃に対しては反対活動を強めながら、企業には断念してもらおうということを我々の責務として取り組んでいきたいと思いますが、町長も同じ考えだと思うわけですが、改めて考えをお聞きしたいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 議員としては私に決まり文句の一言を早く出せということだと思いますけれども、先ほど申し上げましたとおり、今の時点で飯綱町に必要な施設だとは思っておりませんので、そういう対応をしていきたいと思います。

○議長（清水満） 渡邊議員。

○12番（渡邊千賀雄） それで、今年1月に地元の役員の皆さん方が町長へ新年の挨拶を兼ねて伺い、町長にも十分そのことを伝えてあるものでご承知のはずだといったことも言われておりますもので、その辺も踏まえていただいて今後の対応をよろしく願いいたします。

それでは、次に児童虐待問題についてお伺いいたします。1月下旬に千葉県で痛ましい二度と繰り返してはならないと思われる児童虐待死亡事件が発生しました。二度と繰り返してはならない事件だと思います。

今、国を挙げて児童虐待が発生しないよう、また子供の人権問題としても、またその対応に誤りのないように、適正に行えるよう点検が求められていると思います。町内、またこの地域においても同様のことが言えるのではないかと思います。町内における児童虐待の発覚、解消、対応、相談は適切に行われているのでしょうか。その辺をまずお伺いいたします。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。最初に児童虐待の關係の児童でございますけれども、児童福祉法では18歳未満ということで定義をされておりまして、18歳になるまでは教育委員会で児童虐待があった場合には対応を行い、その後につきましては保健福祉課に引き継ぎを行いながら進めているということでございます。

今回の千葉県的事案によりまして、国からその緊急点検を2月14日時点で各保育園、それから小中学校、高校等に実施をしろということで通知が来まして点検を行ってございます。幸いにして緊急性がある事案はございませんでした。

ご質問の児童虐待の発覚、解消、対応、相談は的確に行われているかということでございますが、まず発覚につきましては、多くは学校からの通報によりまして教育委員会に来てございます。学校につきましては、児童・生徒の様子、例えば顔色だとか元気の無さ等で、担任教師が児童と話すことによりまして虐待の状況を把握し、教育委員会に通報がでございます。

また、近所の方からも来るという状況もございます。近所の方が、大声を出して叱っているというようなことから民生委員さんを通じたり、あるいは近所の方から直接教育委員会に通報が来たりする場合もございます。

通報につきましては今ほど申し上げたとおり、学校あるいは保育園、それから地域の住民の方、民生委員さん、それから中には警察が補導をして、児童相談所から来るケースもございます。そのようなことで通報があり発覚されます。

その対応につきましては、相談窓口を教育委員会に設けてございますので、児童虐待対応マニュアルというものがございますけれども、それに基づきましてケースごとに対応をしている状況でございます。

ですので、1つの事案で何回も相談があったり、赴いて児童あるいはご家庭と相談をしたりというケースがございますけれども、いずれにしましても、的確な対応を取りながら進めている状況でございます。

それで解消と言いますか、終結と言いますかでございますけれども、解消につきましては、

円満に解消ができれば良いわけですがけれども、なかなか児童虐待というのは円満に解消に至っていないというのが実情でございます。解消の実例としましては、お父さん、お母さんが離婚によりまして解消するケース、あるいは町外へ転出するケース、ただ町外に転出した場合には、転出先のそれぞれの市町村に引き継ぎをしていくという状況でございます。

また、高校を卒業してしまいますと児童福祉法から今度は一般になりますので、保健福祉課にバトンタッチをするという状況でございます。いずれにしましても、ケースごとにおきまして的確な対応を取っているという状況でございます。よろしく申し上げます。

○議長（清水満） 渡邊議員。

○12番（渡邊千賀雄） 今、適切な対応が取られたということでありまして、この地域にも児童虐待が発生しているということで非常に心痛める内容であります。それにつきまして、平成29年度の町の教育委員会事務局の事務の点検評価報告書によりますと、関係機関と連携した児童虐待相談及び対応として、相談件数が183件あったということです。そして、対応件数が12件という報告もありました。これは平成29年度ですが、これ以後と29年度含めて、解消、解決に向けてこの内容についてどう取り組んだのか。また、児童相談所、そして機関の体制等には問題点はなかったのかどうか、その辺についてもお伺いしたいと思います。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答えをしたいと思います。相談件数183件、対応件数12件ということでございますけれども、この183件につきましては、延べ相談件数ということで捉えていただければと思います。対応件数が平成29年度では12件ですけれども、本年度に入りまして1件発覚がありました。それで、13件を平成30年度で対応してまいりました。終結と言いますか、解消に至ったのは3件が解消に至っております。ただ、先ほども申しましたとおり、解消につきましては円満解消というわけではございませんで、この3件につきましては、離婚で1件、それから18歳になられた方がいらっしゃって、これが2件。この18歳になられた方は、就職先が決まったということで親元を離れて別に暮らしているということ、あるいは大学へ行

かれたということで3件、教育委員会の手からは離れているということでございます。ですので、現在10件の対応に当たっているというところでございます。

この対応について、どう取り組んだかということでございますけれども、ケースごとに会議を開きまして、その会議につきましては何回も行うという状況でございます。この児童虐待の取組につきましては、要保護児童対策地域協議会という協議会ができておりまして、関係機関で構成をしてございますけれども、最初に個別ケース検討会議ということで個別にどんな事案があってどんな支援をしていったら良いか、どこの関係機関と打ち合わせをしながら対応に当たっていったら良いかということで、これが一番大事なところでございます。それで、その上に実務者会議ということで、その児童虐待に関する関係機関を集めまして、その対応が良かったかどうか、今後どうしていったら良いかということで会議を開き、その上に代表者会議とありまして、これは関係機関の代表者が集まってそれぞれのケースがどうなっているのか。これは年1回の開催でございますけれども、そのように3段階で対応に当たっている状況でございます。

今ほどの13件ありましたケースにつきましては、それぞれ対応ごとにケース会議等々で行ってきまして、3件円満には解消できなかったわけですが、とりあえず教育委員会から手が離れるという状況でございます。

機関の体制等について問題はないかというところでございますけれども、このように3段階に分かれて検討を重ね、また最初の個別ケース検討会議では何回も何回も対応を重ねながら行っている状況で、この辺は問題ないかとこちらも考えているところでございます。

いずれにしましても、虐待がまた再発、あるいはエスカレート、あるいは最悪の事態にならないように何とか支援等を行ったり、関係機関と連絡調整を行ったりしているところでございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（清水満） 渡邊議員。

○12番（渡邊千賀雄） 今、関係機関等と連絡を取りながら取り組んでいるということで、この地域に児童相談所というのはあったり、機能したりしているのですか。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） もちろん、町にはございませんので県の児童相談所と連携しながら行っております。

○議長（清水満） 渡邊議員。

○12番（渡邊千賀雄） 今、その児童相談所の体制、それにまつわる職員が非常に少ないというのが全国的な傾向みたいですね。ですから、我々の地域でもこういった虐待、こういう事例が無いと信じているわけですが、今言われたように発覚しているということを知ると本当に胸の痛む思いがします。そういう児童相談所を充実させてもらうことも大事だと思いますし、関係機関等と連携を深く取りながら対応していくことが重要だと思います。

県の松本児童相談所によると、この県内でも虐待相談件数が増加傾向にあるという報告が出ております。虐待の背景には、家庭の経済的困難や社会的孤立、保護者自身の育った環境、ストレスの積み重なりなど、多様な要因が複雑に絡み合っていると指摘されております。子供の人権・権利擁護の視点が大切だと強調し、子供は社会の、そして地域の宝です。全ての大人はその宝を守り、そして育てる義務があるということだと言われております。ですから、今の児童相談所を充実したり、町として学校やそういう機関がしっかり連携を取り合ったりして、早期発見し取り組んでいただきたいと思います。そのことを求めておきたいと思うわけですが、見解がありましたらお願いします。

○議長（清水満） 馬島教育長。

〔教育長 馬島敦子 登壇〕

○教育長（馬島敦子） お答えします。この児童虐待については大変深刻な問題で、例えば虐待を受けている児童をその虐待している親と切り離せば、それで問題が解決するかという解決はしません。既に虐待を受けているお子さんは脳にダメージを受けていたり、それから心に深い傷を負ったりしていて、それがずっと成人してからもその影響を受けるということが医学的にも証明されています。そういった意味では、暴力から救えばそれで問題解決かという決し

てそうではないので、成人になってからも各機関の見守りが必要だと思っています。しかし、後手後手の対症療法ではやはりちがいが明かないわけで、今議員がおっしゃったように、そもそもそういう児童虐待を起こさないために教育委員会は、町は何ができるのかということは今私たちは考えています。

議員がおっしゃったように子供は地域の宝で、地域で育てていくということですが、実は昨日、飯綱町コミュニティスクールに参加して下さっている「おらほの学校応援団」のごく一部の方でしたけれども集まっていたいただいて、1年間のご苦労会のようなものをやりました。25名ほど集まってくださり、そこには議員も来てくださったわけですが、そこで地域の方のいろいろご意見やご提案、それからまた問題点などを指摘していただきました。こういう場面を見るにつけ、飯綱町は本当に地域の方が地域の子供を大切に思ってくれていると感じます。仕方なしにやるのではなく、皆さんが異口同音に、「私たちが子供から元気ももらっているんですよ」、「私は別に何か義務感でやっているのではなくて、自分でそれが楽しいからやっているんだ」と言ってくださって本当にありがたかったです。そしてまた、子供を守るためにこんなことをしたらという提案もいただきました。そういうものもこれから検討していきたいと思っています。

今、特に核家族が進んでいる中で、家庭だけ、また親だけで子育てするのは難しい。だから、地域の力を借りていくというのは大切なことだと思っています。

もう1つは、やはり子育て支援です。子供が小学生・中学生になって児童虐待が発覚した時点では、起こってしまってからでは、なかなか解決には結びつきません。やはり、赤ちゃんがお腹にいるときから、お父さんやお母さんに相談の機会、学習の機会を提供し、そういったものを行い、みんなと一緒に子育てについて話し合うような場を充実させていき、子育てを楽しみながら、喜びながらやっていけるような環境づくりに努めてまいりたいと思っております。今後も議会のご協力をお願いしたいと思います。

○議長（清水満） 渡邊議員。

○12番（渡邊千賀雄） 今、教育問題と絡めて子育てについても言及がありました。飯綱町とし

ても、教育環境や教育条件を非常に重視しながら整えてきている。そしてまた、学校教育に当たっても、加配を進めながら子供の教育には本当に気を十分に使いながらやっている町でもありますもので、今回の児童虐待が起きているということにも鑑みながら、町の教育行政含めてそういったことのないように、また充実した教育行政に取り組んでいただきたいと、そのことを求めて質問を終わります。以上です。

○議長（清水満） 渡邊千賀雄議員、ご苦労様でした。

◎散会の宣告

○議長（清水満） 以上で本日の一般質問を終了します。

お諮りします。

明日3月7日の本会議は、会議規則第9条第2項の規定により、会議時間を1時間繰り上げて午前9時に開くことにします。

ご異議ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認め、3月7日の本会議は午前9時に開くことに決定しました。

以上で本日の日程は全て終了しました。

本日はこれにて散会します。ご苦労様でした。

散会 午後 2時59分

平成31年3月飯綱町議会定例会

(第 4 号)

平成31年3月飯綱町議会定例会

議事日程（第4号）

平成31年3月7日（木曜日）午前9時開会

日程第 1 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（15名）

1番	清水 均	2番	風間 行男
3番	中島 和子	4番	目須田 修
5番	瀧野 良枝	6番	原田 幸長
7番	石川 信雄	8番	荒川 詔夫
9番	伊藤 まゆみ	10番	青山 弘
11番	樋口 功	12番	渡邊 千賀雄
13番	原田 重美	14番	大川 憲明
15番	清水 満		

欠席議員（なし）

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町 長	峯村 勝盛	副 町 長	合津 俊雄
教 育 長	馬島 敦子	監 査 委 員	山本 孝利
農業委員会長	清水 藤一	選挙管理委員長	三ツ井 吉次
総務課長	原 章胤	企画課長	徳永 裕二

税務会計課長	馬 島 豊	住民環境課長	梨 本 克 裕
保健福祉課長	山 浦 克 彦	産業観光課長	土 屋 龍 彦
建設水道課長	森 佳 也	教 育 次 長	桜 井 俊 次
飯綱病院事務長	大 川 和 彦	総務課長補佐	高 橋 秀 一

事務局職員出席者

事 務 局 長	高 橋 吉 人	事 務 局 書 記	荒 井 智 雄
---------	---------	-----------	---------

開議 午前 9時00分

◎開議の宣告

○議長（清水満） おはようございます。

傍聴者の皆さん、おいでいただきましてありがとうございます。

これより本日の会議を開きます。

本日は会議規則第9条第2項の規定により、会議時間を1時間繰り上げて行います。

本日の議事日程は、お手元に配布のとおりでございます。

◎一般質問

○議長（清水満） 日程第1、一般質問に入ります。

質問の順序につきましては、お手元に配布の一覧表のとおりであります。

一問一答方式による活発なわかりやすい質問、答弁を期待しております。

なお、質問事項はあらかじめ通告されておりますので、簡潔に発言されるようご協力願います。

◇ 伊 藤 まゆみ

○議長（清水満） 発言順位7番、議席番号9番、伊藤まゆみ議員を指名します。伊藤議員。

〔9番 伊藤まゆみ 登壇〕

○9番（伊藤まゆみ） おはようございます。議席番号9番、伊藤まゆみです。通告に従いまして、順次お聞きをしております。

まず、ネオニコチノイド系農薬の不使用による特別栽培についてお聞きをしております。ネオニコチノイド系農薬とは、最近多用されている農薬、殺虫剤の一種です。タバコの有害成分ニコチンに似ているので、ネオニコチノイド、新しいニコチン様物質という名前が付いています。

ニコチノイドの特性は、浸透性、残効性、効果が残るということですが、3つ目には神経毒性とされており、ミツバチを含む昆虫類、生態系、更に人間への影響が懸念されています。

ネオニコチノイド、これは「ネオニコ」と言われていますけれども、水溶性で植物の内部に浸透することから、浸透性農薬とも呼ばれています。また、条件により残効性が高くなり、地中に1年以上残留するという報告もあります。

ネオニコチノイドは浸透性のため、植物の茎や葉から吸収され、土壌にまかれれば根から吸収され、茎、葉、根、花、花粉、蜜、果実などに行き渡り、内部から殺虫効果を持ち続けるということです。洗っても落とすことはできません。

この間のミツバチの激減はこのためとの指摘もあります。ミツバチはネオニコチノイドに直接接触するより、蜜、花粉、水などに含まれるネオニコチノイドを口から摂取する方が、10倍以上毒性が強くなることが確認されています。

町内においても、JAの「農作物病虫害防除及び施肥基準」の中の、りんご、桃のページにネオニコチノイド系の農薬が記されています。カメムシによく効くとのことで、近年使われています。欧米では使用禁止や規制が進む中、日本では残留基準を緩和して使用されていますが、ネオニコチノイド系農薬を使用しないで米や果樹を栽培する農家も増えつつあります。

「日本一のりんごの町」を目指す町として、当町のりんごは、味は折り紙付きですので、ネオニコチノイド系農薬を不使用として、町としてりんごを含む農産物のブランド化としてその栽培を位置づけてはどうでしょうか。町長の見解をお聞きいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） お答え申し上げます。議員がご指摘のネオニコチノイド系の農薬、よく我々が使っている中では「ダントツ」という薬がありますけれども、それもその種の農薬になりますが、結論的に申し上げますと農協さんで桃やりんご、米など、それぞれ野菜などの防除暦を出してございます。それに沿って主に散布をしているというのが飯綱町の一般的な防除の仕方だと承知しております。それは、多分かなりの研究をされた中での防除暦の作成と思います。

したがって、議員のおっしゃっているようなことが心配されるという話をしている学者など、欧米の対応があることも承知をしておりますが、私は、現時点では日本のきちんとしたところで問題が無いということで発表している防除暦がある限りは、それに沿った形で進めて行けば良いのではないかと思います。そこに安心・安全な農産物、りんごだという、この売り込みも非常に大切なことだと思っております。しかし、今すぐにそれを切り替えて飯綱町独自の農薬、特に殺虫剤を防除暦の中に独自に入れたりしていくというのは、今の時点としては難しいと考えておりますが、細かい点は課長から申し上げます。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） お答えいたします。私からは、町農業技術者連絡協議会の対応について説明をさせていただきます。

農技連では、ミツバチやマメコバチなどの訪花昆虫を保護するために、防除時間は訪花昆虫の活動の少ない朝8時頃までに終わらせるように、あと防除剤の散布時期でございますが、それについては花が散ってから15日以後にするようにという広報を行っているところでございます。

また、31年度につきましても、先ほど伊藤議員からもお話しがあったとおり、JAながのの農作物病害虫防除基準にはネオニコチノイド系農薬が記載されておりますので、農技連でも、そういう訪花昆虫の保護のためにしっかりと広報をしてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（清水満） 伊藤議員。

○9番（伊藤まゆみ） この問題は、最近大変に、特に若いお母さん方の間で反響が大きくて、農民連の事務局にも是非とも出前講座ではありませんが、出てきて講演をして内容をよく説明してほしいということで、問い合わせが大変増えているということでもあります。

先ほども申し上げましたように浸透性が高くて、吸収されたものがずっと残り続けるというところが大変大きな問題であると思っております。是非ともこのところはJAの方々とは相談を

していただいて、検討していただきたいと思います。

他の地域でも使っている農薬だから使い続けても良いというものでは私はないと思います。町として、どのようなブランド化していくのかというところの中には、安全・安心は大変大きな位置を占めていると思います。この町へお味噌を造りにわざわざ来られている若いお母さん方もおられるくらいですので、都会に住む方々、消費者は特にこのことには大変大きな関心を持っておられます。そういう意味においても、いち早く取り組んで情報発信していくことは決してマイナスにはならないと私は考えています。

そしてまた、農薬を多く使う農家の子供さんへの農薬の影響というものも報告をされていて、他のお宅の子供さんよりも、やはり自閉症であるとか、ADHD、学習障がいなどの発達障がいはこの農薬使用量の増加に合わせてるように増えてきている。知能低下でありますとか、作業記憶の障がいを含めて、農薬が脳の働きに影響を及ぼすことが最近明らかになってきているという指摘もあるわけです。こういう指摘があるものをそのまま放置して使い続けていくということは、やはり子供たちへの影響を考えると大変に私は心配だと思います。今、私たちができることは何なのかと言えば、その心配をなるべく排除していくことではないかと考えています。

特にこのネオニコチノイド系の農薬というのは、神経毒性が先ほど申し上げましたが指摘をされており、興奮状態を引き起こして昆虫を死に至らしめるものです。国では安全としていますが、その検証はまだ不十分です。最近では、哺乳類の神経に対しニコチン様の作用を及ぼすという研究報告が出ておまして、特に胎児や小児では、低用量でも多様な発達毒性が確認されている。人体への影響がまだまだ不確かで、人体への影響が出てくるときにはもう遅いということにもなってくるわけです。特に発達途上にある子供たちへの影響が懸念されるとともに、生態系に大きな影響を及ぼすことが懸念されています。特に植物の受粉に関してはミツバチに負うところが大きいわけですが、7割から8割はミツバチが介して植物受粉をしているということですが、そのミツバチを含むハチ類が激減をしているというところで生態系が大変壊れてきていると、自然界に大きな影響を及ぼしているということも言われています。

そういう意味でも、私はやはりきちんとした安全性というものが確認されるまでは、この使

用を禁止するように国に求めていくべきではないかと考えますが、町長のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 基本的な考え方は検討していかなければならないというのは賛成ですけれども、議員からあった農薬を使っている農家の子供がというのは少し問題で、そういう話になれば農業をやる人がいなくなってしまいますよね。農薬というのは、そもそも殺菌剤でも殺虫剤でもそれぞれ何らかの害はあるのであって、本当は使わなければ一番いいことです。

今、ご指摘のその関係の農薬を使わなければ全然心配ないのかということは定かではありませんけれども、私は今、市販され散布しているということ自体は、国の制度の中では安心だということで販売をしているだろうと思いますもので、課長から申し上げましたとおり、それに代わるべき農薬で、しかも値段的にも同等、あるいは安い値段でそういう効果があるような農薬に置き換えていけるものであるのなら、大いに検討すべきだと思います。

だから、検討はいたしますが、国にどういう機関を通じてそのような薬をやめるように要請をしていくかは、それもまた関係の機関とチャンスがあれば相談をさせてもらって、そういう危険性について話を聞くような機会みたいなものも持ちたいと思っておりますが、ただ、心配があるようなものをそのまま使い続けて全然問題ありませんというスタンスではありません。先ほど申し上げましたような方向で進めたいと思います。

○議長（清水満） 伊藤議員。

○9番（伊藤まゆみ） 人間の健康や安全というものに関しては、やはり懸念をされればそこで立ち止まって考えるということが原則だろうと思います。今まで起きた大変大きな公害問題においても、被害が膨大にならない限りなかなか立ち止まって後ろを振り返り、根絶していくということにつながってこなかったという経緯が日本の中にはあります。

私は、本当に今子供たちが少子化と言われている中で、「宝である子供たち」と言うことが増えてきている現状を考えると、真に本当に宝として安全に育てていく環境をつくっていくとい

うのが、大人である私たちの務めだろうと考えています。

ましてや、「日本一のりんごの町」、「女性が一番住みたくなる町」を標榜して、今、第2次総合計画を進めている当町にとってみれば、前向きにしっかりと検討していただいて、でき得れば一歩足を出していくような方向性を打ち出していければ、大変大きな明日への光になるのではないかと考えていますので、前向きな検討を期待して次の問題をお聞きしてまいります。

認知症のケアにユマニチュード技法の普及をとということでお聞きをしております。

フランスで生まれた「ユマニチュード」と呼ばれる認知症ケアの哲学と技法が注目されています。介護や医療の現場では、今や当たり前前に導入されているようですが、在宅介護にはまだ普及していません。

ユマニチュードは見る、話し掛ける、触れる、立つの基本を組み合わせを行い、ユマニチュードの技法を取り入れることで、認知症の方の不安や恐怖を和らげ信頼関係を結ぶことができるとされています。

介護で大切なことは、相手と良い関係を結ぶことと、その人が持っている力を奪わないことです。ユマニチュードは技術なので、介護に当たるときの恥ずかしさや気後れなども、形から入ることで解消されるということです。言葉が通じなくても、目を見て体に触れながら介護することで、驚くほどスムーズに行えることもあるということです。特に立つというものは、1日20分立つ訓練を毎日行くと寝たきりになることを遅らせると言いますか、防ぐとまではいかないでしょうが、そのようなことがあるということで4つの基本を複雑に組み合わせれば組み合わせるほど効果があるともされています。

私は介護の経験がありますけれども、ともすれば疲れがたまって大きな声を出してしまったり、相手への敬意を損なったりすることもあったということもあります。介護が終わった後、そのことが心によどんでなかなか離れないということもあります。心のバランスが崩れてしまう方もおられます。そういうことを考えると、私はこのユマニチュードの技法というものを一般に広く普及していくことが大事ではないかと考えますが、この普及に取り組む考えを町長にお聞きいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） ユマニチュードのそういう技法をどうかということでございますけれども、若干調べさせていただきましたら、既に病院とか介護施設等で自主的に導入しているところもあるようでございます。いわゆる一つの技法として、私は悪いことではないし良いことだと思います。

ただ、いろいろな技法がある中でこの技法を行政として広く勧めていくというのは、これはどういうものかと思います。それは、それぞれの介護現場なり、病院の現場なり、既にその研修を受けに行くなど、いろいろな費用も掛かるだろうと思いますけれども、そういうものをそれぞれの団体が、この技法を一つの技法として学習してそれをやってみようという動きを取っていただければいいだろうと思います。

したがって、評価はしますけれども行政として具体的に取り組んでいくという方針は、今のところございません。私もよく分かっていないような初めて聞く言葉ですので、担当課長から現状の取組だけについては少し触れさせていただきたいと思います。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） お願いします。現状ですと、介護の現場ではユマニチュードと言わなくても介護職の資格取得では、パーソン・センタード・ケアという考えが介護の勉強で基本的な考えとしてあるということです。

その人の視点や立場に立って理解しながらケアを行うという、その介護現場の基本というその理念がありまして、そのことから現在の介護現場では介護職の実務者研修や実践者研修において勉強しているものと理解しております。

介護で今後ケアマネ部会や在宅介護連携の研修会などにおいて、そのユマニチュードを題材にして、また認知症もそうですが、一般の高齢者に対するケアの在り方について研究をしたいと考えております。

○議長（清水満） 伊藤議員。

○9番（伊藤まゆみ） 私は、介護や医療の現場で導入をされて、今、実際に行われていることは承知しております。これを是非とも在宅介護をしている介護者の皆さんへも普及してほしいということをお願いしたいわけです。

介護というものは大概の方が初めての経験。今まで元気だった家族が介護の状況になっていったときにどう対応して良いのかというところは、全く知らないところから入るという状況の中で、今、私が提案させていただいた介護保険についての内容とかの説明を、第1号被保険者になるときに説明をしていただいているような状況も生まれてきているとお聞きをしていますけれども、是非ともここをご家族の方へも普及をさせていただきたいと思います。

日中は確かに施設にお願いをするという場合も多くありますけれども、仕事を持たれていて、帰ってきた方を介護されたりという中においては大変大きな負担があるわけですが、技術を学ぶというところでお互いの信頼関係が構築されたり、また再構築をされたりという形の中で、なるべく負担が少なく良好な関係を保ちながらお家で暮らしていただける。家で暮らしたいというのがご高齢の皆さんの一番の願いですので、そこのところをお助けする技法というものを普及させていただきたいと思います。

特に男性の皆さんは、奥さんや家族の介護をするときにはやはりなかなか躊躇があるという話をお聞きします。これは技法ですので、形から入れば良いというところで、ある程度うまく流れに乗っていくことができるということでもあります。ただ単に気持ちだけで介護はできませんので、そこのところを是非とも取り組んでいただければありがたいと考えているわけですが、その点いかがでしょうか。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） お答えします。介護の現場で、「介護者の集い」という介護されている方の意見を聞いたり、勉強したりという会もごございます。その中で介護の技術についての必要性、こういう技法があるということをもたまた皆さんの中で持ちたいと考えております。

介護連携の研修会の皆さんも、ケアマネの方もいらっしゃいますので、どういう形で家族の方に伝えていくかというのを少し研究させていただきまして、家族会へもまた図っていきたいと思います。

○議長（清水満） 伊藤議員。

○9番（伊藤まゆみ） 今年度から介護者慰労金制度もつくっていただきました。大変に喜ばれていると私はお聞きをしています。そういう意味でも、町長はこの部門においては大変大きく理解を示していただいて、大きないろいろな施策を取ってきていただいているわけですが、やはり介護鬱でありますとか、その後の亡くなられた後のケアでありますとか、様々対応していかなければならない部分が多いとは思いますが、やはり様々な時を捉えて、このようなものもあるということで、是非とも関心のある方、これから介護をされていく方においても、受講できるような研修の場を設けていただけることは考えられないでしょうか。お聞かせください。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 今、担当課長から機会を見てそういう場を考えていきたいという答弁を申しあげましたので、そういう機会を設けるように今後努力していきたいと思います。

○議長（清水満） 伊藤議員。

○9番（伊藤まゆみ） これから団塊の世代が75歳を迎えるという状況の中で、その方々が介護保険を使うようになると、これから先の会計が大変心配であるということも事実ではありますが、それでも在宅の場合の方が給付費は抑えられるということは事実であります。ご家族の負担があまり大きくならないようにというところで、これから少し考えていただかなければいけない時代に入っていくのではないかと考えていますので、取組に期待を申し上げます。

次に、3番目の骨髄バンクの登録等に支援をとということでお聞きをいたします。本日も、ニュースなどでも話が挙がっておりますが、先日、競泳の池江璃花子選手が白血病であることを公表し闘病されています。それを聞いて、多くの人たちが保健所などを訪れて骨髄バンクに登録する様子が報道されました。

白血病の治療に骨髄移植が有効であることは知られていますが、骨髄バンクへの登録者が少ないのが現状です。骨髄には型があり、適合しないと骨髄提供はできません。登録は18歳から54歳まで、骨髄の提供は20歳から55歳までとされています。私は30代で医療機関に勤務をさせていただいたということもあり、大変興味があつて勉強もさせていただいて、骨髄バンクを知り登録をしました。今はもう55歳は過ぎましたので、対象の外になってしまいましたけれども、25年以上この対象者というものになったことはありませんでした。2人の娘も登録していますが、対象者になっても仕事の都合や条件が合わず提供にまでは至りませんでした。

そういう意味でも、いかに分母を増やすかということが大きな課題であろうと思います。長野県の登録者数は全国平均を大きく下回り、最も少ないとのこと。町でも移植により完治された方や、移植ができなかったのかもしれないかもしれませんが亡くなってしまった方を私は存じております。この骨髄バンクの登録、必要性を多く知らせて登録を勧める考えはおありでしょうか。お聞きいたします。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） 登録の必要性につきましては十分理解してございます。それで、現在はリーフレット、パンフレットにつきましては、本庁舎と三水庁舎、健康管理センターと町民会館にリーフレットを配布してございます。

また、骨髄バンクからいただいております申込書で「チャンス」というガイドがあるわけですが、これについては要求をしていますが今増刷しており間に合わないということで、間に合い次第、所定の場所に設置していきたいと考えております。

また、ホームページの関係では、ドナー登録を呼び掛けるページを現在設置しておりまして、そこから骨髄バンクのホームページへリンクするようにバナー設定してございます。ホームページからもご案内とその申込用紙が取れるという状態にはなっているということなので、またそちらの啓発もしていきたいと考えております。

また、広報紙ございますが、こちらでも掲示するように考えておりますので、よろしくお願

いしたいと思います。

○議長（清水満） 伊藤議員。

○9番（伊藤まゆみ） 白血病の治療には輸血が欠かせないということでもあります。献血も最近では協力者が減っているという状況のようでもあります。私ももう献血ができない状況になっておりますので、なかなか協力することができないわけですが、広く呼び掛けて協力を得ていくことが大変大事なことであろうというふうに思いますが、この取組についてお聞かせください。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） お答えします。献血につきましては、年2回、巡回という形でさせていただきます。過去に比べると受けていただく方が減ってきている状態もあります。より一層また啓発に努めていきたいと思っております。

それで、ドナーの登録も1日献血車が駐在できるような状態であれば、そこでドナー登録もできるということを日本赤十字社からお聞きはしてございます。ただ、携わる方が日本赤十字社の職員ではなくて、ボランティアさんが来てされるということなので、ある程度の規模で一定会場であれば、その場で登録申込みということもできるわけですが、飯綱町については今のところ巡回という形なので、それは難しいということでお答えいただいております。

○議長（清水満） 伊藤議員。

○9番（伊藤まゆみ） 骨髄バンクへの登録は、日赤の血液センターへ行けば献血をするとき一緒に登録をすることもできます。それぞれの保健所においては、登録ができるということになっておりますので、それほど遠い所ではありませんので、そのようなことも広く知らせていただいて、是非とも多くの方に協力をしていただければと思っています。

これは通告には入っていないわけですが、白血病は10代20代の癌の中で最も多い癌であるとのこと。学校の現場で命の学習というものが行われているわけですが、その中で献血や骨髄バンクについて学ぶことはできないのでしょうか。お聞かせいただけるとありがたいです。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。命の学習ということでございます。親子学習等、小学校・中学校等で行っておりますので、また来年度以降、学校とも相談しながら、またPTAとも相談しながら検討していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○議長（清水満） 伊藤議員。

○9番（伊藤まゆみ） 若い頃に学んだこと、特に命に関わること等は、やはり子供たちの中に長く残っていくと考えます。そしてまた、今の若い子供たちが他人のために役立つことをしたいという思いも強く持っておられると聞いていますので、取り組んでいっていただけると、これから先のところでの骨髄バンクへの登録や献血にもつながっていく可能性は高まるのではないかと考えますので、しっかりと学校やPTAの皆さんと話し合っていただければと期待をいたします。

次に、骨髄の提供には一定の期間、職場を休むなどが必要になります。家族や職場の協力が不可欠です。ドナーの負担軽減というものも必要になってくると思われれます。

長野県には、これに対する助成制度もあるということで、今年度幾つかの自治体を取り入れて取り組むということをお聞きしております。当町においてもドナーへの助成制度も必要だと考えますが、町長の見解をお聞きいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 山浦課長から申し上げましたとおり、普及などは一生懸命やっていきたいと思いますが、私いろいろな要望を聞いて補助金を支給するような事務を進めてきましたけれども、献血もボランティアですから、ドナーの提供でどのぐらいお金が掛かるのでしょうか、10日間20万くらい実質的に必要になるということになれば、県の補助もあると聞いておりますけれども、あと会社のご理解等々もあれば、実質的なご自分の負担というのはどのようになるのか。

もう1つは、ふるさと納税と同じように何とかドナーとして提供したいという気持ちが一番

大事だということで、多分ドナー登録をされていると思います。金額的に大した金額には、人数的にならないと思っておりますけれども、研究はさせてもらいますが、今すぐここで補助を出して大いにPRしていきたいという答弁の用意はございません。

○議長（清水満） 伊藤議員。

○9番（伊藤まゆみ） 先ほど申し上げましたとおり、他人ですね、血のつながりのない方への適合というものはなかなか難しいところがあることは事実ですので、本当にそんなにたくさんの方が対象になってくるというふうには今の段階ではまだ考えられないと思いますが、町としてもそこをきちんと支援していく思いはあるということの形の表れになっていくというふうに考えます。

以前、脳髄液減少症の子供さんに、町長の認めるところというような範囲内の中で3割分の医療費を助成していくという条例も、改正をしてつくっていただいたという経緯もございます。そういう意味においても、私は、飯綱町というものが大変子供たちへの支援というものは手厚くやっけていただいていますし、医療・福祉の関係についても本当に頑張っけていただいている町だと、他の自治体の皆さんに胸を張っけて言うわけですが、そういう意味においても是非前向きに検討していただい、あまり向こうへ行かないうちに実現していただけることを期待申し上げまして、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（清水満） 伊藤まゆみ議員、ご苦勞様でした。

暫時休憩に入ります。再開は9時55分でございます。

休憩 午前 9時39分

再開 午前 9時55分

◇ 瀧野良枝

○議長（清水満） 休憩前に引き続き会議を再開します。

一般質問を続けます。

発言順位7番、議席番号5番、瀧野良枝議員を指名します。瀧野良枝議員。

〔5番 瀧野良枝 登壇〕

○5番（瀧野良枝） 5番、瀧野良枝です。事前通告のうち、本定例会で既に回答のございました部分につきましては、割愛をしながら質問をまいります。

初めに、公共施設のマネジメント計画についてお尋ねをいたします。

通告をいたしました長寿命化、個別計画策定については、昨日の答弁で適切なタイミングで行うとのことでしたが、町が保有する公共施設で更新時期が重なるタイミングをずらして費用を分散させるためにも、長寿命化計画は早急に取りかかるべきかと思えます。

また、公共施設等総合管理計画では、財源不足による公共施設の統廃合の必要性について報告をされておりますが、昨日の答弁では廃止になった小学校や保育園については用途廃止や用途変更がされており、加えて「日和」や新規就農住宅などの建設により、保有施設数は以前より増加しているとのことでした。

保有数が増えた現在、更新費用を含む維持費の見通しについて改めて見解をお伺いいたします。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 議員お尋ねの質問でございますが、昨日も100施設から105という形で用途変更、用途廃止ということの中で、建物自体は除却していないということでございます。そのなようなことから見通しにつきましては、やはり今現在より増加傾向にあるということですので、よろしくお願ひしたいと思います。

維持運営費でございますけれども、それぞれ施設あるわけございまして、また施設の経過年数が非常にばらつきございまして、特に30年から40年経っている施設が105のうち3割に当たるということの中で、やはりその老朽化している施設については、この10年未満の施設に比べれば修繕費等がかさんでくる。通常のランニングコストと言いますか、それぞれ光熱費等々についてはその使い方によっては老朽化していても、当然、電気や水道等は同じ額になっておりますが、基本的には修繕費で加算というような形になります。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 総合管理計画では、「指定管理委託の検討など、町民主体の維持管理を進めていく。さらには維持管理を行っていくための財源を捻出するため、受益者負担の見直しを検討します」とあります。利用料への考え方は、公費負担と受益者負担の割合をその施設の利用価値、社会教育などの意味合いも含めて、町民料金などが設定されているかと思いますが、この施設の利用料に関する町の考え方並びに料金の適正化、利用料、特に電気料や冷暖房費の見直しなどの検討が行われているかについてお伺いします。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 施設の利用料に対する町の方針と考え方ということでございますが、施設の利用料につきましては、先ほど議員おっしゃるとおり、負担の公平性の原則から地方自治法に基づきまして受益者に負担を求めているということで、これまでの町の方針では施設を建てた場合、設置条例を提案するわけですが、その際に類似施設の動向を勘案しながら、経常的な維持管理費の一定の割合を負担していただくというような形で進めております。

それで、適正化、見直しの関係ですが、今まで使用料、利用料は条例で定めておりまして、例えば天狗の館、東高原の観光施設、これにつきましては経済動向等々によりまして、条例改正、料金改正を行ってきた経過がございます。ただ、その他の施設使用料につきましては、特段条例改正していないのが現状でございます。

それで、特殊な要件になります冷暖房等々につきましては、必要に応じてということですから、その利用者に負担を求めるといことで、今現在、冷暖房についても条例の中でうたわれておりますが、見直しについては行っていないという状況でございます。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 今後は、管理運営費の削減とともにこういった特に冷暖房費などの見直しも必要になってくるのではないかと考えております。

次に、今後計画されている公共施設の運営方針についてお伺いします。

この先、人口減少・高齢社会という人の変化、そしてインフラを含む公共施設の老朽化などの物の変化、税収は減り、社会保障の支出は増加の一途というお金の動きというストックサイクルの変化はご承知のとおりだと思います。

そして、人口が減っても道路や上下水道などのネットワーク系の生活インフラの総量は、そう減らすことはできないと思われまして、むしろ防災インフラは拡充の必要性があるかと思えます。また、現在でも、東高原の一部エリアから長年にわたって水道関係の要望書が上がってきており、町長もご承知だと思いますが、水道という生活インフラにすら不安を抱えている方もいらっしゃるという状況もあります。

そこでお尋ねいたします。定例会2日目の町長の答弁では、今後建設される公共施設を含めるランニングコストは全く心配がないということでございましたが、人口減少による税収や交付税が少なくなることにより、補助金等をつけることは厳しく慎重にならざるを得ないという答弁もございました。補助金等が削減されるかもしれないという状況であれば、なおさら今後予定されている公共施設の建設には住民同意が今まで以上に必要になるかと思えます。そのためには、全体的なまちづくりという視点と行財政の視点をクロスオーバーしていくこと、町として大きな方向性を住民に示すことが、より一層重要になるかと思えます。

町長にお尋ねいたします。全体的なまちづくりという視点と、今後計画している公共施設の建設について総合的な方針、またランニングコストの見通しについても、もう一度お聞かせいただければと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 大変、重要なお質問をいただきました。正しく今、一生懸命考えなければならぬ点、ご指摘の面が一点あると思えます。

公共施設の在り方について、今後の全体としての新しいその方針については、私は来年度に建設を予定しております就学前の子供たちを対象にした子育て支援センター、これは新たな施設として考えておりますけれども、もう今の時点でそれ以上に新たな公共施設と言われる箱物

的なものは当面計画がございません。その方向でいきたいと思います。

逆に、先ほど総務課長からは公共施設が5つほど増えたという話を申しあげましたけれども、今年度、いづなりリゾートスキー場、またゴルフ場のあの大きな管理棟の建物、それに付随するスキー場に大きく3つの建物がございます。そして、下にゴルフ場の管理棟がありそれで4つ。隣の飯綱福祉センター、この庁舎の向こうの古い庁舎、みんな1～2年で取り壊しになります。この大きなものが取り壊されていきますので、農家の新規就農者用の住宅というものが1つ2つ増えたということはございますけれども、今後、大きく箱物的なものが増えていくという状況ではないことはまず申し上げたいと思います。

もう1つは、その管理運営費が一体どういうふうに推移するのかということですが、新しく施設ができる子育て支援センターというようなものは、新たに管理運営費がプラスになってきますけれども、従来、東高原の観光施設は、それぞれ指定管理で受けていただいた方たちに水道光熱費等々は全部負担をしてもらっております。

したがって、町として考えなければならないのは減価償却に当たる部分を一体どうやって、手元に10億の資産があり、5億減価償却すれば、理屈で言えば5億の現金があつて5億の資産が残っているという計算になるので、この現金がなかなか残っているのはそうはいかないという現実がございますので、そこら辺を今後どういうふうに位置づけていくかという問題はあります。

あと、学校がそのまま利用されているのも、これは2年ぐらい先にはいろいろなテナントで入った皆さんたちに水道光熱費等々の負担をしてもらおうような方向を目指していきたい。だから、究極的に直売所なども新しく直売所はつくりますけれども、本体の負担は町がしますけれども、あとの管理運営はそれぞれの団体にお任せするということになります。そうすると、保育園、庁舎、深沢の多世代交流センター、あのようなものの維持管理がどのぐらい掛かって、どういうふうにしていくか。それは今、現有としてそういった建物を運営しておりますもので、ある程度の予測はできていると思っています。

そういうことを勘案しますと、少し大変な時代がすぐそこに来るといふ、私はそういう意味

の危機感はないですけれども、ただ議員がおっしゃるとおり、今はたまたま建物の話を申し上げただけで、橋梁、道路、水道管または浄水場、こういうもののインフラ整備というものは引き続きやっていかなければならないので、ここら辺の維持費、管理費、水道料どうするというのは、これからしっかり検討しなければならない大きな課題だと思っています。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 今、まちづくりの方針についてお伺いしましたが、まちづくりのマスタプラン、最上位にあるものが何度も出ておりますが総合計画であり、現在進行中の第2次飯綱町総合計画のテーマである「日本一のりんごの町」、「日本一女性が住みたくなる町」を目指して様々な施策が展開されていることと思います。また、財源面での流れとしては、地方創生推進交付金の事業が大きなウェイトを占めていることは言うまでもありません。

ここで、地方創生の大きな方針を示してきた総合戦略の理念、その目指すものを改めて確認をいたしますと、「地域の産業を元気あふれるものとするため、「ひと・もの・おかね」が町外に流出する現状を打破し、補助金等に頼ることなく、町外から町内に「ひと・もの・おかね・情報」が流入する仕組みを民主導で形成する」、「行政は民の力が最大限発揮されるよう、コーディネーターとしての役割を自覚し、地方創生の主役である民の活動を支える」とあります。

また、基本方針は「地域の未来を担う人づくり」、「資源を活かした力強い地域産業の構築」、「誰もが憧れる『ふるさと』の創造」、「『共動』による持続可能なまちづくり」。そして、以前、小澤元副町長にお聞きしたわけですが、国の基本方針にない概念で特別に飯綱町の方針に入っているのが「地域への愛と誇りを感じられる飯綱町らしさの確立」、これは基本方針の一番目に掲げられています。住民が地域に愛や誇りを感じて町の将来を思い描いていくことが一番大切であり、民主体の活動を行政が支え、最大限の能力を発揮できるようにコーディネートしていくのが地方創生の一番の肝であるということかと受け止めました。

総合計画では、行財政対策の項目において、「行政の役割として、子どもたちがまちづくりに対して意見を言える場を整え、若い世代の意見を町の施策に積極的に反映させます」という目標設定がございました。

そこで町長にお尋ねいたします。今の公共施設のマネジメントも含めてですが、今後、特に若い世代を含めた多くの住民の意見を聞く機会を設けるという予定はございますでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） お答えを申し上げます。最後のご質問の前に、確かに町総合戦略の中でうたっています、民の力を生かして、そして地元で金が回るような施策を進めたいという、これは正しくこの間、第二小学校の跡地利用を含めた事業チャレンジをやりましたけれど、本当にこの民の人たちが学校を使ってこういう事業をやりたいというプレゼンテーションを7組、昨年も確か5～6組のプレゼンテーションを受けましたけれど、あの中から多分、新しく起業する人たちが出てくるだろうと思いますけれど、そういう点ではそういう事業を進めていると感じていただければと思います。

そのときに3人の中学生から仕事というようなものについての発表がありました。私は聞いていて、今の中学生は素晴らしい意識の中で勉強しているなと感心しましたけれども、つくづく高校生も含めて若い人たち、20代30代の人と話というのを1年に定期的に聞くようなシステムを作った方が良くと思いました。

今は、例えば子供議会や子供の提案を町長に来てもらって聞いてほしいとか、そういう授業の一環でやるようなことで若い人たちの意見を聞くという場面があるわけですが、もっと飯綱町では、高校生または中学生、小学生と年に1回か2回は必ず町長と行政懇談会を行うとか、そういうことをやるようになっているというふうになるぐらいに、あの年代層の話というのは、提案されたことをすぐにやるかやらないかはともかくとして、非常に刺激を受けるとつくづく思いましたもので、そのような方向で聞くチャンスを作っていきたいと思います。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 今、お話にもありました以前の中学生議会に私も参加させていただきまして、本当にいろいろな提案があったということも覚えております。また、最近ではキャリア教育の関係で中学校に入らせていただいて、そのときに中学生が感じている仕事というもの、町

も含めた将来というものの感覚というのは本当に素晴らしいと思いました。

さらに先日の事業チャレンジ。大日方さんですか、総合戦略のときには確か高校生だったように感じていますが、大きくなったなというものと、その前にそういうことを感じてあの場にいたのだなということを考えると本当に素晴らしい。ただ選ばれて来たというよりは、本当に思いがあって、あのような所にいてくださったのだなと思うと心強いと感じました。

それで、そのように町長は年1回か2回、そういった場を設けていくという前向きな答弁いただきましたので、本当にありがたいと思っております。今までも現在も、いろいろな施策を決定する際に、各種の委員会には住民代表という方たちも出ていらっしゃると思いますが、あとは特定の団体の皆さんの代表者とか、少し決まったメンバーでということもあるわけですが、自治体によっては無作為に抽出した住民、裁判員制度ではないですけども、無作為に抽出した住民の方に日当をお支払いして、そこで討論をする。しかも、それが今、企画課でよくやられているような付箋にキーワードを書いていってどんどん貼っていく。そして、その似たキーワードを寄せていく。それぞれの意見をしている人同士が向き合うのではなくて、そのテーマに向かってみんなで意見を寄せていくという話し合い方も良いかなと思っております。また、そういった討論会を開催していただいたり、あと特にその若い世代に向けては、その年代に届きやすい媒体、メディアを使ったりすることが大事かと思えます。

先日、地域活動をしているある方にお聞きしたわけですが、30代以上であればFacebookというのが主流、いろいろな情報発信、情報収集はFacebookが主流ですが、20代においてはLINEというコミュニケーションアプリが主流になっていとお聞きしました。私も調べましたところ、LINEの機能の中で自治体において使われているものにアンケート機能を持たせてアンケートを取ったりとか、その中で公開の自由討論できたりという機能もございました。若者向けの広報、町のことを知ってもらおうという意味と、また広聴、広く意見を吸い上げていくというのをLINEというコミュニケーションアプリを使うのも一つの手だてかと思えますが、これについてはどうでしょうか。いかがでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 現場の企画の課長にも少し手伝ってもらいたいと思いますけれども、私は絶対そういう時代だと思います。SNSと言いますか、あの宣伝効果がすごい。NHKのテレビの宣伝効果も、りんごの放送があったらどんどん電話が掛かってきましたからすごいとは思いましたけれども、今即座にPRでき、また即座に皆さんから逆に情報をいただくという関係、正しくLINEとかFacebook。どういうふうにやり、どういうふうに処理をしていくかという体制は作らなければならないと思いますが、この間も広報を配っても、なかなか見ないとおっしゃっていましたが、あれには大変なお金かけて作っているわけだけでも、そういう媒体について今考えなければいけないと思います。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えいたします。町長が申し上げたとおりだと思いますけれども、先日も少しご質問をいただきました景観計画。31年度で住民の皆さんにもご意見を聞きながらやっていこうとしておりますけれども、そんな際にワークショップ等というお話もしましたが、今、瀧野議員からお話のありましたLINEを活用した、またそういったものを活用した住民からの意見聴取というのも考えてまいりたいと思います。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 先日、須坂の三木市長がFacebookで書いていたわけですがけれども、例えば、三木市長はすごくFacebookが使われるので、そこに住民の意見がかなり来るわけですがけれども、匿名性があるので、実際にその先を追ってけないのが少し難しい点だとおっしゃってました。ですから、やはり公開討論会というか、本当にその場で顔を合わせて話すという場面と、あと、ある意味少し匿名性で挙がってきたものというもののの中で、どの意見を取り入れるかというのはもちろん町長はじめ理事者の皆さんの判断だと思いますので、テーマに合わせてその媒体を変えていくというところが重要でないかと思っております。

関連して、よく若い世代の住民の方から、箱物ばかり造らないでその費用を教育や子育て支

援に充ててほしいというご意見をいただくことがあります。私自身は、それは財源が違うので別の用途には使えないということもあるから、別の方向でこう要望を出していきましょうという説明をすることもあります。この住民の率直な言い条に対して、「それは財源が違うんですよ」という一言で済ませてよい問題ではないだろうと思います。特に、先ほど若者に広聴・広報していくのが重要であるというお話をしましたが、実際に、言いづらいたが広報紙を見ないということを考えると、発信はしているけれども受信してもらえないということになると、誤解が生まれてそして共に将来の町をつくっていくというところがなかなか難しいのではないかと思います。特に、今後は住民と問題意識を共有してより良い将来を一緒に描いていくということが更に重要になる時代ではないかと思います。

それで、先般の町長の答弁で、緊急性なく何か建物を建設することはないということでしたし、公共施設等総合管理計画上でも十分に研究をされているかと思しますので、これから建設予定、次年度以降の建設予定である施設について、その意味合いと、住民がどのように関わっていくためのものであるかというのを、町民の皆さんと共有したいということで質問をさせていただきます。

それぞれの施設について3つの観点からお聞きいたします。まず、1番目に必要性。具体的には稼働率見込みなどの需要度、必要とされているという度合いと、官民間問わず近くに類似サービスが存在しないなどの非互換性、互換のできないものだということ。なぜ新しく建設する必要があるのかという必要性についてが1点。

次に機能性。例えばこれからの時代ですから多機能化、機能をたくさん持たせることによる利便性。異なった機能を複合化することによるコストの削減ですとか、ワンストップサービスの実現。また、環境に配慮した建物などの高機能性などの機能性の面。

そして、最後がその施設、建物ですとかそういったものの目指すビジョン。キーパーソンは誰なのか、ターゲットが誰なのか、どのような目標達成を目指しているのかという、以上3点を端的にご説明いただければと思います。

初めに庁舎についてですが、これは合併特例債ということで昨日は旧二村の一体感の醸成を

目指すものだという説明がありましたが、庁舎建設におけるこの3つの視点からの説明をお願いします。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） まず、庁舎の関係でございます。必要性でございますが、今、分庁方式で行っているという中で現庁舎が狭い。それと、この分庁舎方式ではやはり住民サービスがどうしても低下していく。2カ所に足を運ばなければいけないという中の住民サービスの低下。また、老朽化によります耐震の安全性に課題がある。また、維持管理にも課題があるということ。

それと、職員の関係になってくるわけですが、分庁方式から各課との連絡調整、連携に不足が生じてくる。そして、役場組織としての一体感の醸成、これを再構築していかなければいけないということの中で必要性が問われているというところでございます。

また、機能性につきましては、新しく南の方に新館ができるわけですが、一応2階建てでございますけれどもバリアフリー化、またはエレベーター、これは小さいお子さん、また足腰の弱い高齢者の皆さんへの配慮ということで、エレベーターの設置で機能性を持たしていく。

それと、先ほど議員がおっしゃられましたワンストップサービス。今、分庁ということでワンストップサービスをしていきたいわけですが、なかなか効率の上がない面があるということでワンストップサービスの充実ということ。

それと、先ほど申しました高い耐震性対応による安全性の向上。それと、災害等有事の場合に機能の果たせる庁舎ということを機能性ということで据えております。

また、目指すビジョンと言いますか、理想像でございますけれども、やはりこの安全・安心を確保した庁舎。また、先ほど申したエレベーター、またバリアフリー化等ということでワンストップサービス等々、人に優しく住民に親しまれる庁舎。それと、先ほど議員がおっしゃられました新エネルギー、環境に配慮したということで新エネルギーを一部導入していきたいという中で環境に配慮した庁舎。それと、やはり住民の皆さん、全ての皆さんがお使いになると

ということで、町のシンボルとなる庁舎というのが一つの目指す庁舎像という形で捉えております。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 庁舎に関しては、違う目的で訪れた人が異なる目的のサービスや情報に触れることでの相乗効果ですとか、機能集中によるその住民の移動の足、公共交通の利便性の向上という観点からもご検討いただければと思います。

次に、多世代交流施設についてですが、パワーリハビリ、カフェ、テナント、ボランティアセンター機能などを予定しているということをお聞きしました。

また、これから協力隊員を募集するとのことですが、同じく3つの観点からの説明をお願いします。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） それではお答えいたします。当町では、先ほど議員からお話のありましたとおり、平成27年10月に策定しました飯綱町総合戦略におきまして、『『共動』による持続可能なまちづくり』を基本目標の一つに掲げまして、目標達成に必要な施策項目の一つとして、その住み慣れた地域で安心して暮らせる基盤整備を位置づけてきました。

平成28年には、この施策を展開するために策定しました地域再生計画。これは地方創生の事業を進めるに当たって必ず策定しなければならない計画ですけれども、これが国の認定を受けたことによりまして、住み慣れた地域に住み続けられる町、小さな拠点形成事業をスタートしてきたという経過がございます。

この事業につきましては、町内に点在するその生活サービス機能を役場庁舎から牟礼駅までのエリアに集約しつつ、農業振興策ですとか健康増進策等を組み合わせて小さな拠点を形成しまして、その拠点と町内集落、それから隣接する長野市街地、これを効率的なコミュニティバスですとか、旅客運送と貨物運送の連携、貨客混載ですとか、買い物弱者支援等の機能を持った新たな公共交通体系、これにつきましても今、公共交通の計画なども策定しておりますけれ

ども、こういった新たな交通体系で結ぶことで、町内の生活サービスの機能のワンストップ化と公共交通の利便性を図り、住み慣れた地域に住み続けられる町の実現を目標として、この事業を進めているところでございます。

具体的には、この施設につきましては産業、これはテナントスペースなども予定しておりますけれども、あと福祉、健康増進の拠点、また若い世代とお年寄り世代の交流拠点としまして、定住・移住の促進を図る等の目的で整備をしているところでございます。

ビジョンということでございますけれども、施設の運営に当たりましては、今申し上げた飯綱町総合戦略ですとか、地域再生計画に基づきました多世代交流施設の管理運営計画を今策定しておりますけれども、その中で理念等を定めていくとしておりまして、基本理念につきましては、「子どもから高齢者まで、地域内外の多くの人々が集い、憩い、出会い、みんなの知恵と工夫と共働で使い、育てる多世代交流施設」。

また、基本方針というものも3つほどございまして、「町のハブとしてのたまり場」、それから「オープン利用の多目的施設」、また「町中になぎわいを生み出すエンジン」、こんな基本方針も掲げております。

この理念や方針に基づきまして、各施設、また部屋ごとに想定される利用内容なども今整理をしているところでございます。単なる公共施設ということではなくて、地域の皆さんですとか、商店の皆さんなどとの共働によりまして、周辺地域の活性化に取り組んでいく拠点として、理念にもあるように育てていく施設ということで、地方創生にふさわしい施設としてきたいと思っているところでございます。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） ご説明いただきましたが、多世代交流施設ということで、交流施設という名前で整備しただけですと、元々交流しているサークルなどの集会に使われるのみになってしまって、新たな交流や連携が生まれづらいということがないようにということを思っております。

この連携を生む仕掛けとしては、地縁のまとまり以外に住民の関心があるテーマや問題意識、

つまり「知る」という意味でのこの知縁のまとまりを、土地の方の地縁とクロスさせるという仕組みが必要かと思います。これは、私はワークセンターにおいても同じことを考えていますが、住民の多彩な興味に沿うような広さと、高度なニーズに対応できる専門性という深さの両方が今後の時代には求められていくのではないかと思います。

また、総合計画では、福祉の分野での行政の行動目標に、「全ての高齢者が安心して自立的に暮らすことができる環境を整備するため、地域包括支援センターを拠点として、介護や医療等の関係機関との連携強化を図り、高齢者の生活全般に関するあらゆる相談にワンストップで対応できる体制を構築します」とあります。これが、このセンターで使われることかと思いますが、先日、ある地域のお年寄りが自宅近くの町有地を雪が降る期間だけ借りたいと役場に申し出たところ、担当課から返事がなかなか来ず、困ったあげくに包括の方から、また地元の区長からと多方面から連絡を入れてもらって半年後によく借りられたという話を聞きました。その方は諦めずにいろいろな方向からアプローチを続けられたわけですが、そもそも例えば行政に言って進まなかったらどこに言ったらいいいのか分からないといった方たちは、きっと途中で諦めていたかもしれません。

例えば、マスターズ世代の皆さんの困り事は、全てもう地域包括。子育て中の困り事は全て子育て包括へとワンストップ窓口にしておくこと。そのために必要な人員があるのであれば補充すべきだと考えますが、これについてはいかがでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） これからの人事と言いますか、職員配置の在り方、それも本当に住民の皆さんにとっては便利だと思います。したがって、もう既定の概念を私ども理事者も取っ払って、新しいニーズに応えるような体制というものを根本から考えていかないと、今の包括のところに4人も5人も来て一体どうするのか、細かいこと言えば結局やめましょう、今のままで良いになってしまうわけですけど、おっしゃるとおり包括に何で建設に詳しい人がいるの、町有財産の管理に詳しい人がいるの、いなかったらそういう体制が即取れるようなシステムがで

きているとか、そういうことを準備しながら対応していかなければならないと思います。

ワンストップを目指しているのは、正しく今、総務課長から申しあげましたとおり、新しい庁舎のサービスというのもできるだけワンストップで済むように考えておりますので、今のご意見、大いに参考にさせていただき研究してみたいと思います。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 困り事のある方がいろいろな箇所を探して歩くというのではなく、ワンストップで対応していただくというのが大事かと思います。

次に、子育て支援センターについて先ほどもお話がありましたが、現在の子育て支援センターとワークセンター機能を統合するということですが、こちらについても3つの観点から簡潔にご説明をお願いします。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。子育て支援センターですけれども、今ほどありましたワークセンターも併せ持つということでございます。

必要性でございますけれども、子育て支援センターにつきましては、子育て支援施策から旧牟礼村時代では平成12年に南部保育園で開設をしております。それで、合併後の平成20年に現在の町民会館へ移転しまして、町全体の子育て支援を行っている状況でございます。また旧三水村では、特に村が主体ということではなくて、保護者が主体となって会をつくって子育て施策に当たっていたと聞いております。

町民会館で開設して10年が経過しますけれども、町民会館は間借りのために、施設的には子供にとっての施設とは言いがたくて、例えばトイレですとか、手洗い場ですとか、そういうところではやはり大人の施設であるということ。また、授乳、オムツ替え、相談スペースも無いという状況から、必要性を感じているところでございます。

また、現在のワークセンターにつきましては、平成29年度から開設をしまして、子育て中のお母さんに利用していただいておりますけれども、あのワークスペースあるいは託児のスペー

ス、駐車スペースが狭くてご利用を制限させていただいているということもございます。また、セミナーを行うわけですけれども、セミナーにつきましても人数制限をしているという状況でございます。

このような施設的な面が大変狭い。あるいは子供にとって優しくないというようなこと。また、現在子育てに悩んでいるお母さんなどの支援、相談、またお母さんたちのコミュニケーションの場、親育ちのセミナー、これに今以上に力を入れていきたいということで、やはり専用の施設が必要ではないかと考えまして、計画をするものでございます。

機能につきましては、今ほどから出ておりますけれども、子育て支援センターの機能、それとワークセンターの機能、それから、今出ました子育て世代の包括支援機能、こちらも併せ持ちたいと思っております。

また、ファミリーサポートセンター事業も行っておりますけれども、こちらも一緒にしまして、子育てに関してワンストップでこの施設でできるような体制を取っていきたいと思っております。

ビジョンでございますけれども、やはり子育て・親育ちの応援、それと子育て中のママさんのお仕事の後押しをするというようなビジョンで、この施設を考えていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） ただいま、親育ちのセミナーなどの充実も行われるということでございましたが、総合計画における子育て・親育ちの項目での個人の取り組む目標に、「男性の家事育児への積極的参画」が掲げられております。また、地域交流の分野でも、「男女が互いの人権を尊重し、共に助け合って暮らしていくため、家事や育児に積極的に携わる男性を支援する」とありました。

女性活躍のための重要なファクターである性別による役割意識、SDGsの5番目に掲げられているジェンダー平等の実現に向けても積極的な取組を期待いたします。

次に、三本松の農産物直売所についてですが、こちらについては住民の皆さんの関心も高く、

本定例会でも質問が集中しておりますので割愛をさせていただきますが、直売所、加工所の機能については多くの説明をいただいておりますが、道の駅としての機能を将来的に持たせた際の車中泊、騒音、ゴミの放置など、住宅地に近いということから危惧される問題についての対策も十分に取られますよう要望いたしまして次の質問へ行きます。

次に、若者定住住宅について、想定されるターゲット設定も含めて3つの観点からご説明をお願いします。

○議長（清水満） 森建設水道課長。

〔建設水道課長 森佳也 登壇〕

○建設水道課長（森佳也） 若者定住住宅ですが、必要性ということでは平成19年から22年にかけて、若者定住住宅33戸の整備をしました。また、現在、町営住宅を21戸持っているわけですが、どちらもほぼ満杯状態ということで、住民の方から問い合わせがありますが、「いっぱい入れません」というような回答になっております。そんなことから必要性は十分あると思います。

また、機能性ですが、何回も説明しておりますが、戸建てではなくて2軒を1つに抱き合わせたという長屋風の住宅でありまして、建築費の削減に努めてまいりました。

また、国の補助金をもらうということで、耐震性に優れた住宅で優良住宅の補助金を使いますので、耐震性に優れている。ただ、子育て世代をターゲットとしておりますので、3DKの2階建て約90平方メートルということで単身者向けではない。できれば、子育ての方に入っていただきたいというのがあります。

ビジョンと言いますか、これはもう最初の必要性と一緒に、若者の定住者と人口の増加を目指しております。以上です。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 子育て世代を対象にということですが、鹿児島県の鹿屋市というところでも同じく子育て支援住宅を整備しています。例えば、細かいところですが間取りにおいてもターゲットに合わせて、玄関収納にベビーカーを置けるスペースを考えたり、雨の日でも遊べる

縁側を設置したりするなど、きめ細かな設定がなされて、常に満室で入居待ちとのことでございます。いずれにしましても、今後建設予定のある新しい施設の真価が発揮されるか否かは、そこを舞台に住民がどのような活動を展開するかに懸かっているかと思えます。

次にまいります。財源確保の方策について、歳出削減の方策として職員による還元型インセンティブ予算事業の導入の考えはないかをお伺いします。これは、職員の努力によって予算を削減できた部分に関して、職員にインセンティブを持たせてアイデアを出してもらい、削減した事業費の一部に要求事業を出せるという取組です。

飯綱町総合計画によりますと、行財政対策での行政・共働の項目には、「事務事業の改善に関する職員の自由で独創的な発想による提案を奨励するなど、事務の効率化及び職員の資質向上を図ります」とあります。この職員の還元型インセンティブ予算事業については、どのようにお考えでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） お答えいたします。職員にやる気を出してもらうという観点では非常に面白いと思います。本当にそれを目指していろいろなアイデアを出してほしいくらいですが、今の職員の勤務体制を見ますと、少しフル回転しすぎているような職員が多くて、一定のやはり仕事を振り返るような時間を与えてやらないといけないという思いもあります。

本当に節約して予算に余裕が出れば新たな仕事にチャレンジしたいというのは、前向きで良いけれども、悪く言えばまたそれで仕事が増えるのはいささかだという考えも無きにしもあらずだと思っておりますが、

ゼロ予算のアイデアも一時非常によくやった時代もございました。ともかく議員のおっしゃるのは1つの技法であって、120人いる職員が本当にやる気になって仕事をやらしてもらえば、もうこれ以上のことはないのです、そういう意味での1つの方策として、また課長会か何かでしっかり話をしてみたいと思います。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 職員の勤務体制が厳しいということでございますので、頑張っていられればなおのこと、その職員の努力というものが住民の方に見える形にするという意味でも、こういったことも重要かと思えます。

そして、次に歳入確保の方策についてですが、飯綱町広告等の現状についてお伺いをします。様々な媒体を対象として広告収入を得ている自治体もありますが、飯綱町の広告収入としての現状はいかがでしょうか。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えします。広告収入でございますけれども、現在ホームページの有料バナー広告料、それから広報紙有料広告掲載料、また共通使用封筒の裏面、この有料広告料について収入があるわけでございますけれども、平成30年度につきましては、1月末現在で38万円ほどの収入となっております。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 地方自治機構が2010年に行いました自治体の収入増加に関する研究調査によりますと、広告収入を得ている自治体の中でパーセンテージが高いのが、先ほども出ましたホームページへのバナー広告です。

行政にとって、まず取りかかりやすいということはあるかと思いますが、最近ではバナー広告を出しても企業側で費用対効果を考えると翌年の継続については考えてしまうということも多いようです。企業としてもアクセスの良いところに広告を打ちたいというのは当たり前かと思えます。そうしますと飯綱町のホームページも利便性が高く町民のアクセスが多い、または町の魅力が多く発信されていて、外部からのアクセスも多いということも更に重要になってくるかと思えます。

それで、ホームページのバナーに続いて広告掲載が多いのが、先ほど出たような広報紙、封筒、その他イベントの協賛タイアップ。更に細かいものでは公用車、ごみ収集車、公共施設の壁面、バスのラッピング、職員の給与明細書、自治体指定ごみ袋などがあります。ちなみに先

日お話を聞いたわけですが、横浜市でこういった入札をして、一番人気なのが学校給食の献立表への広告だそうです。なぜかという、夕飯のメニューが重ならないように家庭ではメニューを確認することが多いということは、目にする機会が一番高いということで、実際に横浜市では、広報紙への広告よりも高額で入札をされているということだそうです。

ここまで細かいと自治体は金儲けをするべきではないという議論も出そうですが、他の自治体で行われているのに自分の町で行ってないというのは機会損失、財源の損失であるとも考えられます。

大都市と違って費用対効果を考えたの広告掲載となると、なかなか手が挙がる企業も限られてしまうとは思いますが、地元の企業若しくは飯綱町に思い入れのある企業が地域貢献をしたい気持ちの一つのアイテムとして、広告やネーミングライツを通して関わる窓口として活用していくという考えはいかがでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 私が役場入りしました頃は、封筒に一企業の名前を載せるなんて「何を考えている」ということで非常に怒られたわけですけど、正に今、平気で封筒や長野県の広報紙などにもいろいろな会社の宣伝が入っております。現状については徳永課長から申し上げたとおりでございます。

しかし、今度、西小学校のグラウンドをサッカーができるような良いグラウンドにすることを予算で申しあげましたけれど、何とか自動車会社の何とかスタジアムだとか、何とか球場だとかというのはございます。少し企業さんに呼び掛けて、「看板立てるから年間 50 万ぐらいどうでしょうか」とか、行政として一定の限度があると思いますけれども、いわゆる行政施設から一般に使う普通財産みたいに移行したようなものところへは、そういう宣伝みたいな広告料をいただくようなことも考えてもいいのではないかと考えています。

本当にいろいろなアイデアを使って、やはり財源不足の補填をしていく、それを考えていくことは全く異論ございません。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 例えば、ある一定の企業名が入って、「それは何なんだ」という町民の方もいるかと思いますが、それこそ目を付けてもらうポイントというか、そこに対して説明をしていくことで町民の皆さんと問題意識の共有ができるのではないかと思います。

そして、次にクラウドファンディングの活用についてですが、クラウドファンディングの活用方法として多いのは寄付型のタイプですが、ふるさと納税との違いは特定の事業プロジェクトに充当するという部分ではないかと思います。かつて、いづなリゾートスキー場のレストラン「トップハット」の改装に298万円という資金が集まったと聞いております。また、最近では、第二小学校の跡地に入る林檎学校醸造所さんが237万円達成されたと聞いております。

クラウドファンディングを町で行う意味としては、大きく3つの効果が考えられるかと思えます。1つ目は、地域の活性化のために個人が少額からでも携われる窓口を作ること。

2つ目は、その事業自体の住民の関心度を測るマーケティングとしての利用。例えば、町で6次産業化、その他商品のブランド化を考えた際に、パイロット版として事業をPRすることもできますし、そのクラウドファンディングによって関心が高ければ、寄付も集まって初期投資にも使えます。

3つ目としては、住民主体の活動支援としての活用。例えば、町の文化財などの指定がなくて修繕の優先度も低いけれども、地元住民の思いとして、今、金額を投じて守っておきたいものなどについて、町がクラウドファンディングのノウハウや活用ができる場を提供することによって住民の希望する事業を達成するという機能があるかと思えます。

その後に寄付が多かった、すなわち賛同者が多かったということはその事業の意義の大きさを表しますので、住民の皆さんの満足度も高く、更に町としては財源確保が必要なくなるということだと思います。クラウドファンディングの取組への可能性はいかがでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 確かにクラウドファンディング、いづなリゾートのときに行いました。

町から金を出すわけにいかない、しかしお金が必要だ。そういうことでクラウドファンディングに挑戦してみろということで取り組んできた経過がございます。

瀧野議員の要望は、町が主体になったクラウドファンディングということなのかどうかは、まだ定かでないですけれども、私は気持ちとして、行政が主体とした事業をやるのにクラウドファンディングを実施して応分の寄付をいただくという考えは今ございません。

正しく先ほどシールドを作るためとか、今度新しくこの間のチャレンジショップのようにお菓子やケーキを作るための施設整備をしたいという、その個々の人たちの設備資金、投資をするような費用について、その人たちがクラウドファンディングをやってみる。そのために少し教えることがあるとか、ご指導ができることがある、協力することができるのであれば、大いにそれは実施をしていきたいと思えます。

ふるさと納税でりんごや桃は申し訳ないけれどやりません。その代わりに、あの素晴らしい赤塩の景色を残すようにこのお金は使いたので寄付をしてくださいと言え、これはクラウドファンディングにしなくても一般の寄付を仰いでいけば良いと思っていますし、それはやるつもりでおります。繰り返しになりますけれど、個人の人たちの支援はしていきたいと思えます。

○議長（清水満） 瀧野議員。3分を切りましたので最後にまとめてください。

○5番（瀧野良枝） 最後の質問ですが、まちづくり会社についての説明を再三なされていますが、まちづくり会社の構想において、やはりスタートダッシュというか動き出しということで、自走していく、マネタイズしていくということが前面に出がちであるかもしれませんが、この走り出しだからこそ地域住民を巻き込んでいくことが大切であると考えます。

町として、どのように、またどの程度関わっていく、場合によってはイニシアチブを取っていくのか、改めて町長の見解を最後をお願いします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 私も同じように心配をしております。したがって、立ち上がり2～3年は町が主体である程度見ていかなければならないだろうと思っています。しかし、一定の自立が

できる見込み、見通しをその間に立てたいわけですが、立った後は民間主体に移行していきたいと考えています。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 小学校の跡地が今まで以上に地域住民の心のよりどころになることを期待いたしまして質問を終わります。

○議長（清水満） 瀧野議員、ご苦労様でした。

暫時休憩に入りたいと思います。再開は11時10分をお願いします。

休憩 午前10時53分

再開 午前11時10分

◇ 清 水 均

○議長（清水満） それでは休憩前に引き続き会議を再開します。

一般質問を続けます。

発言順位8番、議席番号1番、清水均議員を指名します。清水均議員。

〔1番 清水均 登壇〕

○1番（清水均） 弁士の後で聞きづらいと思いますが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

議席番号1、清水均です。通告に従ひまして質問させていただきます。

最初に、移住者を増やし人口減少時代の幸せな地域づくりについて順次お伺ひいたします。

住み慣れた県第1位は長野県と報道されております。地方の豊かさを示す際、美しい景観の心や豊かさ、人と人とのつながり、こうした地方の強みや素晴らしさを維持し高めていくことが大切なことであるが、それのみで住民の暮らしを持続的にいくものでは困難であります。これからも人が物と共に豊かな生活を営みながら暮らしていけるためには、やはりしっかりとした雇用や生活の流れを生み出していく必要があるのではないのでしょうか。

近年、若い世代において地方での暮らしに魅力を感じる人が増えており、低所得をある程度覚悟して地方に移住する人がおります。こうした若者の気質の変化により、個人に依存するこ

となく彼らが経済的にも一定の豊かさを手に入れるようなら、地域住民自らが富を生み出していかなければなりません。

「生活の流れを生み出すことによって、地方においてもそれぞれ地域が持続的に経済成長する道を自ら切り開くべき時代が到来していると言えよう」と、ある雑誌は取り上げております。しかし、県民手帳からではありますが、平成 20 年の飯綱町の人口 1 万 2,362 人から平成 30 年 1 万 788 人と 10 年間で 1,574 人減少し、率では 13 パーセント減少しました。

軒数については約 3,800 前後で推移しておりますが、一人暮らしや若者の流出が原因と思われます。これからも分かるように、飯綱町誕生以来人口は減少し続けております。過去 5 年間の自然増減、社会的増減はどのように推移したか。これまでの経過、現状、将来見通しなどについてどのように考えているか町長にお伺いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） お答え申し上げます。議員からの質問が非常に多くございますので、まとめてお答えをさせていただきますけれど、過去 5 年間で人数がどうなったかまとめてございます。まず、お亡くなりになったという自然減で実に 591 人、そして長野市等々への転出、この社会減で 232 人の減少。合わせて 5 年間で 823 人の人口減少が数字として出てきております。それが現状でございます。

そして、将来見通しはなかなか把握ができないわけですが、一つ言えることは団塊の世代がいよいよ 70、75、80 と進んでいく時代になりますので、当然、自然減はこのまま進んでいくだろうと思います。

あと、社会の増減、転出転入がどのように推移していくか。これは正しく人口対策、またいろいろな福祉、もろもろの総合政策が功を奏するか、全然うまくいかないか、それによって大きく変わってくると将来の見通しをしております。

○議長（清水満） 清水議員。

○1 番（清水均） 次に移ります。町は人口増加策を進めてきました。都会の町外からの移住者

の受入れ、別荘地や空き家を通じた移住者対策等を進めてきました。その結果、成果と現在をどのように評価し総括しているか。また、町としての独自策はあるか。今後の具体策は考えているか町長にお伺いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） ご存知のとおり、私は今、2期目の半分ぐらいのところへきておりますけれども、この間、地方創生総合戦略に基づいて、いわゆる福祉医療の充実、今現在は高校生まで医療費を無料にしてきました。今回もインフルエンザの注射を高校生まで上げたいということで提案してございます。

また、議会から提案のあった時間外保育の無料化。そして、この10月からは保育料、幼児教育が無料化にされるということ。そして、子育て支援対策としては、これも関係の皆さんにお集まりをいただく中で、いわゆる出産時におけるお祝い金的なものを申し上げる。そして、学校の就学、小学校・中学校・高校等々の時に一種のお祝い金を申し上げる。そして、高校・大学へ進みたいとなれば、奨学金制度を新たに創設して、返済もマックスで月額1万円を最大にする。なおかつ、こちらへ帰ってきて、飯綱町の住民として頑張ってもらうようなスタイルだと給付型というものも導入をしてきている。これは本当に近年にはない、そして近隣に比べても決して劣ることのない子育て支援対策。小学校・中学校の子供たちが、今年からでしたか、1万円ずつ教材費として支援をしている。そういう手を打ってきたわけですがけれども、人口の減少は一向に歯止めがならないという、私としては、大きな課題とは言いながらショックな数字でございます。

そんなことで現状の感じとしては、人口増対策というのは非常に難しいなと感じています。議員がおっしゃるとおり10年で1,000人を超える人口減少があったわけです。今、地方交付税が31億円交付されていますが、人口1人当たり約30万円。1,000人ということは3億円です。10年で30億円、10年で学校1つ分くらいずつ減額になってきてしまうという、非常に人口というのは財政という面でも大事なものだとして認識しております。今後、普通のやり方ではなかな

か増えることは難しいということで、少なくとも社会的増減、転出転入において同じになるか、願わくは転入してくる人たちが多く政策を展開していきたい。

分析してみますと、20代ぐらいの人たちがなぜ転出していってしまうかという問題が出てくるわけですが、どうも結婚、進学等で大学等へ行く、ここら辺が大きな原因でございます。しかし、残念なことにこちらに住所がある男性が結婚されて長野市の方に転出をされていくというケースも非常に多くございます。したがって、そこで一定の年数が経ったら飯綱町に帰ってきてまた暮らすというお考えの方もあるかと思いますが、向こうへ行って徐々に向こうの生活になじみ、良い土地があったから取得をしたとなると、もう帰ってくるあてはないというようなものが一つのパターンとしてよく見られました。

そのようなことで、そういう若者たちが結婚しても親と一緒に住む、住むというよりも5～6年、6～7年は親と別居して夫婦で生活をしたいという人たちの住宅整備を考えた方が良いかと思ひ、それでそのような展開をしているわけです。

良い実例としては、10年ほど前になりますけれども福井団地に若者定住住宅、県の住宅供給公社の設計施工で約30世帯分ぐらい造りました。すぐ満杯になりまして、その30世帯で18歳以下の子供さんが70人入ってきました。これは閉校していくときの小学校の全員に当たるような数でした。なるほど、やはり飯綱町には、いざと言えば若い人たちが住む場所が無いのかとそんな思いでやっております。

あと、若い人たちの話を聞くと、お買い物する良い場所が無い。これについても有名なツルヤさんやデリシアさんなど、いろいろなところと話をして誘致の話もしたことがございました。まだ少し人口が足りませんという非常に厳しいお返事をいただいた経過もございますけれども、そんなことでともかく厳しいわけですが、福祉の面は大分揃えてきた。医療・教育もかなりの充実している。そうすると後は住む所とお勤めをするような良い場所。今の直売所も農家が持ってきていただいたものを加工したり、いろいろなことをして販売したり、そういう就業の場所、ワークセンターの活躍に期待しておりますけれども、そういうものを総合的に整備して、何とか転入が多いという町にしていきたい、精いっぱい努力していきたいと思っております。

す。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 是非、よろしく願いいたします。次に移ります。

野村上にある移住住宅、体験用住宅ですが利活用の状況は。経済効果はあったか。体験を通して移住した人はいるかについて町長にお伺いいたします。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えいたします。今年度でございますけれども、2月末現在での利用日数が53日。利用者数でございますが43名という状況になっております。

利用される方は、主に1泊、2泊が多い状況で、大体2日から長い方は7日くらい利用される方もいらっしゃるわけですが、日数、利用者数とも前年を上回っている状況でございます。

また、この移住体験用住宅でございますが、平成28年度の後半から貸出しを開始しまして、この施設を利用した方のうち4世帯9名の方が、飯綱町に実際に移住しているという状況でございます。

また、今年度でございますけれども、旧牟礼西小学校の関係で千葉工大、それから金沢工大の学生さんにいろいろ関わっていただいております、これとは別にこの学生さんも移住体験住宅を活用していただき、その学生の活動の拠点としても活用をしているところでございます。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） この2月末というのは、29、30まで2年間ですか。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） 申し訳ございません。今年度の2月ということで、今年度4月からこの2月までで53日、43名という状況でございます。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 29年度の実績は延べ37日間、101名の利用があったということ聞いておりますが、今年度、少し少ないような感じになりますけれどもどうでしょうか。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えします。行政報告書では、29年度延べ37日間、101名ということで延べ人数になっておりまして、利用者数43名というのは実人数でございまして、お一人ではなくて家族で何日か泊まられてという場合もあります。今、手元に資料がありませんけれども、いずれにしても昨年より上回っている状況でございます。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 分かりました。是非、ご利用いただいて、残っていただけるようお願いしたいと思います。次に入りたいと思います。

皆さまざまご存知のとおり島根県の海士町というところがあるわけですが、この町は地方創生の優良事例としてよく知られております。本州から約60キロ、フェリーで3時間余りのところに位置する離島の町で一部を紹介いたします。

海士町は、2008年には財政再建団体になるところまで追い込まれたようです。2011年からは「ないものはない」の精神にのっとり、都会にはない自然や伝統的な文化や地元には産業がある。人口減少、超少子高齢化といった地域課題も教育資源だ。こうした問題は、日本が全国的に抱える問題でもあることから、地域高校は日本の未来を切り開く人材を育てる役割を補っているとのこと。島にある資源を生かした様々な取組を行い、数多くのIターンを引きつける地域となっております。転入者が転出者を上回る年も増えつつあります。

島にある高校は全国から生徒が集まってきます。また、町民を対象にした幸福度調査の回答者の75パーセントが現在の暮らしに満足していると、幸福度も非常に高いようであります。海士町は2016年に国が指定するSDGsの前から、持続可能なまちづくりを取組み続けている状況であります。島根県の海士町は、島にある資源を生かした様々な取組を行っております。参

考にしてはどうでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 海士町の話は、もう本当に全国的に有名で何回かお聞きをしております。

そして、高校の話もやはり同じく話題としてよく出てきます。

私、海士町の立地条件を考えると非常に厳しい立地条件で、それなりに海士町らしい発展策を考えたのだらうと思います。そういう意味では、飯綱町は極めて海士町よりも素晴らしい立地条件の中にあると思います。正に都心から長野駅まで1時間半、そして電車で20分、2時間足らずでこの素晴らしい場所へ来ることができる。しかも、豊かな農産物、非常に品質の高い農産物に囲まれて自然豊か、だからこの場所で子供を育てたいというお母さん方が多くいらっしゃるというのも一つの魅力として感じております。

したがって、それをどういうふうにプロデュースして実際のものとして展開していくのか。もう一つ、まだまだ行政として下手で自分自身もそういう意味で反省をしているわけですが、十分この良さを生かしきれていないという歯がゆさをつくづく感じております。したがって、海士町の真似ではなく、どういうスタイルであのような政策をつくったのか。そのプロセスというか過程みたいなものも、大きな意味で参考になるのではないかと思います。

今議会の冒頭の挨拶等々でも、盛んに最近、人口増対策というものに力を入れたいと申し上げてきましたけれども、正しく庁内の会議、横断的な会議の中でもう1回人口増に対するその知恵や取組をみんなで検討して、具体的な展開策をやっていきたいと思っています。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 飯綱町の良いところの発掘や新規産業を売り出してはどうだろうと思うわけですが、例えば長野から中心部まで20分ぐらいで行ける景色の良い場所に住宅を建てるとか、ICTやAIを活用した水農野菜作り、女性でも楽に作業ができるような農業等があります。どうでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 私も少し先走って答弁をしてしまったみたいな点もありましたけれども、本当に良い意味で位置条件を生かして、実は具体的な集落は申しませんが、集落の活性化委員会で当地域としては非常に住宅に適した、うちの集落はそういう集落だと認識しており、3カ所地主さんに了解をいただいた場所を今日は提案として持ってきたから、是非家を造りたいとか土地を買いたいという人があったら、是非そこを参考にあつせんして欲しいという申し出を受けました。

私、普光寺西部・東部へもよく行政懇談会にお邪魔をさせていただいておりますけれど、やはり東部は、場所が良い所は人口が増えています。しかし、良い場所の土地ということになれば、なかなか無いわけですが、普光寺辺りにもそういう良い適地があれば良い意味での住宅用地としての確保をしていく。上赤塩に居ようが高岡地区、東西黒川、芋川、倉井に居ようが、この豊かな景色景観、こういうものに恵まれた場所はどこに住んでも私は素晴らしい場所だと認識しておりますので、是非そういう意味でやりたい。

それと、今の野菜等々のお話、これもイチゴというのを信州大学工学部と大分具体的に積み上げてきて、実は信州大学、農水省は今年からスマート農業の展開ということで、いかにICT等を使った省力化でこれからの農業ということで、イチゴを題材として農水省に手を挙げたので、飯綱町で展開し、やろうということで腹を決めたわけですが、残念ながら農水省の選定からは落ちてしまったという報告を受けました。また再チャレンジをしたいと言っていますけれども、是非、極端に言えば、冬でもスカートで重いものを持たない農業、これからはしゃれた農業と言いますか、若い人たちが農業を嫌わず就農していただけるという意味でも、そういう農業というのをこれからやっていきたいと思っています。

今、現実としてもICTの関係は少し進めていますから、自動で田んぼに水が入られるようになるとか、スピードスプレーヤーが自動運転で消毒をするというような時代は、もう間もなくそこら辺に来ていると認識しております。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 是非、チャレンジをお願いしたいと思います。次に移りたいと思います。

移住者を町に呼び込むためには、飯綱町の住民自身がこの地域で暮らすことに幸せを感じ、愛着と誇りが持てるかどうかではないでしょうか。この点について、町長はこの地域の住民実態をどのように捉えているか。また、人口が減少しても元気で幸せな地域づくりをするための方策を考えているでしょうか。町長にお伺いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 幸せというのは、いわゆる価値観の問題だとつくづく思っています。地方創生事業でシードルを造るということや、そばのガレット、そばを使った料理ということでフランスのノルマンディーの方に行かせてもらった経験がございますけれども、あそこで農家の皆さんが実に幸せを感じて、先ほども瀧野さんの質問でありましたけれども、愛着というか誇り、それを持って生活していらっしゃいました。

いわゆるパリのど真ん中で暮らすよりも、2時間ばかり離れたノルマンディーのこの田舎でりんごとチーズを作りながら生活している私たちの方がよほど幸せだと腹からそう思って自慢しているのですから、私はこれが目指す飯綱町の幸せという感じがそこにあるのではないかという思いがございます。

今、日本人の方の価値観が変わってきまして、700万、800万円の給料よりも400万円でもいいから家族がみんな集まって食事をして、安全な作物を作り、そして時として星空を家族4人、5人で眺めて、そういうこと自体が幸せだという価値観の人が増えてきたような感じを受けております。そういう意味で、是非、幸せに思ってもらっている一番大事な基盤である豊かな自然等々をしっかり守るといような意味で、景観条例の研究をさせていただきたいということで今年度予算を上げさせていただきました。そういう取組をしていく中で、是非これからも飯綱町らしい幸せを感じていただきたい。

そして、人口が減少する中でどうやって幸せを維持していくのかという点については、現実問題としては非常に困った点は出てきます。先ほどのとおり、財政的な問題として今までは10

路線除雪していたわけですが、人口が半分になったから道路も半分しか除雪できないというわけにはいかないですから、そのような難しい点はあるわけです。また、地域で水路の維持をしていこうとしても、今は 100 人でシャベルを持って行くからできるけれども、高齢者にはなる、人数は半分しかいない、これでは一体どうやって地元で水路の維持をやっていけばいいかという問題も多々出てくると思います。

しかし、私はその時代に合わせて水路の維持管理も町の負担、地元の負担、これをもう一回整理をするような時代に来ているのではないかと。公民館事業ばかり、地域のお祭りの事業ばかり、こういうものをやはりその人口減少した中で維持していきたいというものであるのなら、そのやり方というものをやはり研究していかなければ、今のままのペースでやっていて人口が少なくなっても幸せだというふうに思っていれば、大したことはないというふうにおっしゃっている本や学者がいらっしゃいますけれど、実際問題そういうものを維持していくにはいろいろな苦労があると思っていますけれども、ただ、少なくなったからその分幸せも半分になるというようにならないよう精いっぱい努力したい思います。

○議長（清水満） 清水議員。

○1 番（清水均） 是非、そういうことでお願いしたいと思います。

次に、全国幸せ調査という取組があると最近雑誌で知りました。調査結果は、地域の幸せ、各人の幸せについて長野県は上位に位置しております。持続可能な開発目標 SDG s の 17 目標はご存知だと思いますのでここでは述べませんが、17 目標から幾つか選択し、町でも住民の幸せ調査を実施してはどうでしょうか。町長にお伺いいたします。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えいたします。議員おっしゃる幸せ調査とは多少ニュアンスは変わってくるかと思いますが、これまでも総合計画など様々な計画策定の機会を捉えまして、いわゆる住民満足度調査を定期的の実施しまして、町政に反映させてきているところでございます。町民の皆さんの幸せ調査であれば、まずはどのような目的でどのような形で実施す

るのかをしっかりと検討する必要があるかと思っております。

そこで、あくまでも一つの例ということでございますけれども、例えばその幸せ調査という観点でSDGsと関連させて取り組むということであれば、これまでの実施している満足度調査の視点だけではなく、SDGsの17項目の視点から現在の町の状況はどの程度達成、未達成なのかということ、調査ですとか、あるいは町民の皆さんとワークショップ形式で実施し、分析してみるということも検討させていただければと思っております。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 是非、そのようにお願いしたいと思います。

次は、三本松の農作物についてでございますが、三本松農産物直売所の内容についてお伺いいたします。先日の先輩議員の発言でダブるところがあると思いますが、飛ばすところもありますのでよろしくお願ひしたいと思います。

長野県には、道の駅的なものは約50カ所あるとのことですが、今回、三本松に建設予定の施設は道の駅ではないが、近未来の道の駅は災害時の救急医療対応や災害情報の発信など、防災の拠点としての機能充実が望ましいと言われております。そのためにはトイレ環境の整備やベビーコーナー、インバウンドの対応も必要と考えます。重要なことは、地方創生や地域活性化の拠点形成を目指す施設として構想を練り上げる必要があると思ひます。

そこでお伺ひいたします。昨日先輩議員が言われたわけですが、今傍聴に来ている方も聞きたいと思ひますので、1として、現在ある3カ所の直売所、さんちゃん、四季菜、ムーちゃんはどのような扱いになるのか。その関係性に問題はないのか。関係者との協議はどこまで進んでいるのか。どんな意見や要望が出されているのか。またその特徴づけを何にするか。もう一度、お願ひしたいと思います。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それでは答弁させていただきます。まず、三本松直売所付近一帯を建設予定地とする農業拠点施設の建設に関わる基本構想につきましては、本年度中に策定の

予定でございます。

そして、この三本松の直売所を含め、直売所さんちゃん、横手直売所四季菜、この3つの直売所を飯綱町ふるさと振興公社と観光協会事務局を統合した新しい法人が運営していく方向で進んでおります。

それぞれの今まで直売所を運営していただいていた組合の皆さんのお気持ちというのは非常に大切なものと思っておりますので、まずは組合の皆さんの意見をしっかり聞いて、農家の皆さんも、消費者の皆さんも、あと地域の皆さんも、皆さんが喜んでもらえるような直売所にしていきたいと思っております。

具体的には、直売所の代表の皆さんとはこれからも月1回定期的に打ち合わせをしながら作業を詰めていきたいと思っておりますし、もう一つは、直売所のその代表の方だけではなく、組合員全員の方に知ってもらえるようにということで、町が説明に行きますので、できるだけ早く説明会を開催してほしいと直売所の代表の方をお願いをしているところでございます。

あと、3つの直売所の特徴づけということでございますが、3つの直売所というのが、例えば直売所さんちゃんにつきましては、その売上げから見ても高品質なりんごを主力とした観光客が非常に多い店舗でございますし、横手直売所四季菜については、りんごや野菜をバランスよく販売する全方位的な店舗でございます。今度できる三本松の直売所につきましては、福井団地や長野市に非常に近いものですから、非農家の方が普段使いの野菜や果物を購入するような店舗という特徴づけを行うことで、3つの直売所を配置する必要性がより生まれてくるのではないかと考えているところでございます。以上でございます。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 是非、地元の方とよく連絡を取り合いながら進行させていってもらえればと思います。

次に、年間を通しての地元農産物の確保をどうするのか。そのために地元農業者にどんな協力を求めるのか。その参加希望等はどうか考えているか。例えば、昨日先輩議員からあったわけですが、雪室の利用や雪の中から掘り起こした雪中野菜、加工品等々いろいろあります。また、

全国からみかん産地との直結や土曜・日曜だけでも漁港と連携をして海産物コーナー等があれば良いと思いますが、町長にお聞きいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 確かに年間の運営というのが私は大事だろと思っています。しかしながら、りんごが終わった後の冬期間における飯綱町の農産物というのは非常に厳しい状況にございます。りんごや米は、ストックしていたものを少しずつ出すというのはもちろん出来ることですけれども、10月、11月のあのお客さんがりんごを求めて来る人数というのは非常にすごい人数で、農協さんのイベント、それぞれの直売所のイベント、駐車場に困るぐらいのお客さんの入場でございました。しかし、それが終わってしまった後ということになりますと厳しいと思います。

したがって、直売所というのは、青物の野菜が無いとどうもお客様が入らないというのは、私、今まで経験をしてきた中ではそのようなことを感じております。さりとて、どこの直売所だか分からないくらい千葉県産、愛知県産、そこら中の野菜が並んでいるという、スーパーマーケットみたいな直売所というのもいささかだという思いがあるわけです。ハウス栽培とかそういうことで非常に甘いトマト、または先ほどありましたけれど上村辺りにお願いして、ネズミの対策が大事なわけですが、雪の中に眠らせておいたキャベツなり、ニンジンなり、そういうものを販売していくとか、やはり相当な工夫をしないと通年人気のある直売所にはなり得ないと思っています。

実はあまりお米の加工品というのは取り組んでいない点もございまして、私はこういうことを言いました。「世の中は、12月の末はクリスマスから歳末商戦でどの店も一番混むときなのに、飯綱町の直売所というのはそういう時期はもう閉店に近いような雰囲気だね。だから、思い切って、切り餅ではないけれどここにしかない餅を徹底的に、餅はもう飯綱町の直売所に買いに行った方が良いでしょう」というようなことを言ったわけですが、特色のある加工品ということも考えていかなければ駄目だろと思っています。

議員の質問の中の友好都市、うちも千葉や埼玉に深くお付き合いをしている市や町がございますから、そういう東庄町や志木市、鶴ヶ島市など、そういう限定した中でのお付き合いの農産物の交換など、工夫しながら、ともかく通年栽培に向けていろいろな意味で協力や指導をしていきたいと思っています。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 是非、年間を通して農産物ができるような確保をお願いしたいと思います。

次に、この農産物直売所を拠点に、人とのつながり、観光、地域づくり、中山間地での暮らしの価値の再発見、町のブランド力向上などをどのように考えるか。

例えば、採る楽しみ。現在、検証実験しているイチゴ栽培を今度の新しい所の近くで進めるとか、その他の果実等を農産物直売所から歩いて行ける場所に植栽し楽しみを広げることにはできないか。その他に、他の地域には無いものをこれから時間掛けて作っていくか。信州大学、県立長野大学、研究機関のある業界と連携し、新種の開発をこの地域で長期的に進める考えはあるかどうか、町長にお伺いいたします。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えいたします。まず、三本松の道の駅のコンセプトでございますが、田舎の豊かさを体感してもらえそうな直売所と観光を掛け合わせた新しいビジネスを展開していきたいと考えております。

三本松の直売所というのはこれから道の駅構想があり、広い敷地の中で自由に配置とデザインできますので、議員のおっしゃられたとおり三本松の美しい景観を生かしながら、買い物だけでなく滞在できる楽しみも持たせることができると考えております。

今、議員から言われたようなイチゴの収穫体験とか果樹の収穫体験をやったらどうかというご提案でございますが、正に町でもそのようなことを考えております。やはり、今までは収穫体験をするときに一番問題であったのが、園地はあるけれどもそこに駐車場がなかったり、衛生的なトイレがなかったり、そこをお世話する人、アテンドする人がいなかったわけです。今

度の新しい道の駅というのは駐車場もあり、トイレもあり、果樹園があり、そして今度は観光協会の事務局の職員が常駐しますので、観光協会の事務局職員がお客さまをアテンドする、お世話をすることができますので、これからは議員のご提案いただいたような事業が展開できるのではないかと考えております。

あと、大学との連携でございますが、今、信州大学、長野県立大学と農政サイドでもいろいろと連携をいたしまして、農産物の利用や加工品の新たな活用・開発など、そういったものを進めておりますので、大学ともしっかりと連携をして進めてまいりたいと考えております。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 是非、そのようにお願いしたいと思います。時間が無いものですからどんどん進ませていただきます。

地産地消のレストランを新設し、米・そば等の良い食材を飯綱町に来て食べてもらうという考えはあるかどうか、町長にお伺いします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 現状の段階では軽食、軽いものを提供できるようなエリアは考えようというところで計画してございますけれど、今おっしゃるような本格的なレストラン・食堂等につきましては、私は正しく昨日述べましたとおり、いわゆる需要に応じて、これだけお客さんが要望しているならそば屋をつくれれば必ず入るという見通しの中で着工するのであれば着工していきたいと思っておりますが、当面は軽食程度という考え方でございます。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 分かりました。次に進ませていただきます。

次に、大きい3番として、天狗の館の利用増加策及び観光施設の利活用についてでございますが、牟礼温泉天狗の館の入館者数は平成20年の14万4,575人から平成29年の11万5,179人へと20パーセントぐらい減少傾向であります。

町としての対策をどのように考えているか。例えば、スキー場経営者との協力によるイベン

ト等の開催はできないものか、町長にお伺いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 私も天狗の館にはフロントにいた経験もございますけれども、確かに当初に比べれば入館者は減少していると思っています。

しかし、長野県民総人口がそっくり入るくらい、楽々200万人を超えるような大きな歴史を持ってきた天狗の館、私は非常に根強い人気があるというイメージがございます。その中で、今のスキー場との連携というお話でございますけれど、昨日も原田議員からそろそろいろいろと考えたらどうだというお話を伺いましたけれど、現実にも今、いづなリゾートで滑ったリフト券を持っていくと100円の割引をするというサービスを今も展開しているようでございますけれども、もう一歩進んだ展開というのを、これから是非、いわゆるプロである民間の知恵を生かした新しい体系、ゴルフ場とスキー場と温泉を通年で使えるような共通チケットを年3万円で売るとか、例えばそれは関係者が協力しなければできないことですが、恐らく新しいサービスの展開というのを考えているだろうと思います。

したがって、町がこれから協力できることは東高原全体のPRとか、または高齢者社会を迎えてあそこまでの足の心配、公共交通の心配をするとか、そういう分野でお手伝いをしていきたいと思っていますけれども、実践的な中身のサービスの展開については、是非、今度また天狗の館は今年1年終わりますと来年から新しい指定管理を募集してスタートするようになりますから、その相手方にもよりけりですが、その辺も含めて大いに連携をしていってほしい、東高原全体の観光施設を連結づけていってほしいと思っています。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 是非、そのようにお願いしたいと思います。

次に、天狗の館は入館者を増やすためには、シルバー料金、夕方からの特別料金の設定はできないか。

昨日、先輩議員の答弁に対し料金をアップという話を聞いたわけですが、今現在、食品ロス

が大変出ております。老人会で天狗の館に少し安い価格で申し込んだところ断られたとのであります。町の施設でもあるし、若い人たちとは違いそんなに食べるわけではない。お客さまに見合った食べ物を出して工夫していただき、楽しい1日を過ごしていただくことはできないか、町長にお伺いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 最近、バスの出迎えに止まる場所が少なくなったという要望、一種の苦情的なものをお聞きした経過がございます。

おっしゃるとおり指定管理で管理をしてもらっている。しかし、その中身の運営については、その会社に任せているわけです。したがって、今の具体的な事例については分かりませんが、多分収支があまり合わないということでお断りしたのではないかと思います。条例で入館料というのはマックスで600円に決めているわけで、入館料700円にさせてもらいますというわけにはいかないで、それだけは承知いただきたいと思います。600円より安くするのは構いません。安くしてもらってもいいですけど、多分、老人クラブの皆さんがノーだと言われたのは、行って少しお料理を食べてお昼に少しやりたいけれども3,000円ぐらいでお願いできないかというのを、それはお断りというような話になったのではないかと予想しますが、町の施設で指定管理をやってもらっているわけですが、そこら辺を理解して対応していただければありがたいと思います。

しかし、事業者の皆さんとしては、そんなことをしていたのでは全然職員の給料も払えない、その分を町が今度負担してくれるのなら考えてもいいと、多分そういう話に展開してくるだろうと思いますが、そこら辺が非常に難しいところですが、機会があれば経営者の方にも前向きなサービスをしてほしいという願いは、いくらでもしたいと思います。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 是非、そのようにお願いしていただいて、これから皆が楽しめるような館にしていただきたいと思いますのでよろしく申し上げます。

次に、テニスコート、グラウンドはほとんど使われておりません。新たな活用方法を考えているか。投資も必要ではないか。特にグラウンドは整備しないで料金だけは取るようなことをしたこともあるようですが、町長にお伺いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） テニスコートは今、全天候という仕様にしてあるわけですが、もう時代遅れのようにございまして、今は人工芝の上に砂をまいたコートが主流のようございしますが、テニスコートを一つ直すのに、まともに直せば200万～300万の費用です。20面ぐらいありますが、とても今の飯綱町の財政では対応することはできません。グラウンドも芝生にしたらという話があります。約1億何千万掛かるだろう。そして、その後の維持もなかなかお金が掛かるというお話を伺ってございます。

そういう点で考えると、ずるいかもしれませんが、民間の資金力で何とかお願いができないかと思っています。それにはやはり行政側としては、どういうサービスができる。しかし、お金の投資やそういうものについては、会社の方でお願いをしたい。その代わり、この間もありましたけれども貸し付ける契約の期間を10年なり、人工芝なら人工芝の耐用年数が終わるような年月までお貸ししましょうとか、そういう工夫をする中で人の力を借りて整備を考えると。今のところ直営で手を着けようという余裕はございません。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 以上で質問を終わらせていただきます。飯綱町に移住して良かった。新しい施設建設も期待し、高齢者でも安心して皆が集まり、生き生きと話し合い、健康で長生きし、子供からお年寄りまでが安心して暮らせる環境づくりを、町民の皆さまと行政と議会が力を合わせて飯綱町づくりを進めていければと思っております。

飯綱町全体が一步一步前進できるよう願いを込めて、質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（清水満） 清水均議員、ご苦労様でした。

以上で一般質問を終了します。

◎散会の宣告

○議長（清水満） お諮りします。

明日3月8日から3月21日まで14日間、本会議を休会したいと思います。

ご異議ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認め、明日8日から21日まで本会議を休会することに決定しました。

3月22日の本会議は、会議規則第9条第2項の規定により、開議時間を3時間繰り下げて午後1時に開くことにします。

ご異議ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認め、3月22日の本会議は午後1時に開くことに決定しました。

以上で本日の日程は全て終了しました。

本日はこれにて散会します。ご苦勞様でした。

散会 午後12時 8分

平成31年3月飯綱町議会定例会

(第 5 号)

平成31年3月飯綱町議会定例会

議事日程（第5号）

平成31年3月22日（金曜日）午後1時開会

- 日程第 1 諸般の報告
報告第2号 議員派遣結果報告
- 日程第 2 常任委員会審査報告
（1）予算決算常任委員会
（2）総務産業常任委員会
（3）福祉文教常任委員会
- 日程第 3 常任委員会付託案件に対する討論、採決
- 日程第 4 議案第 9号 平成30年度飯綱町からまつの丘地区汚水処理場管理事業特別会計補正予算（第1号）
- 日程第 5 議案第10号 平成30年度飯綱町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）
- 日程第 6 議案第11号 平成30年度飯綱町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）
- 日程第 7 議案第12号 平成30年度飯綱町介護保険事業特別会計補正予算（第3号）
- 日程第 8 議案第13号 平成30年度飯綱町飯綱公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）
- 日程第 9 議案第14号 平成30年度飯綱町スキー場事業特別会計補正予算（第3号）
- 日程第10 議案第28号 飯綱町特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第11 議案第29号 工事変更請負契約の締結について
- 日程第12 議案第30号 工事請負契約の締結について
- 日程第13 発議第 1号 飯綱町議会会議規則の一部を改正する規則案
- 日程第14 議員派遣の件
- 日程第15 閉会中の継続審査・継続調査の申し出について

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（15名）

1番	清水 均	2番	風間 行男
3番	中島 和子	4番	目須田 修
5番	瀧野 良枝	6番	原田 幸長
7番	石川 信雄	8番	荒川 詔夫
9番	伊藤 まゆみ	10番	青山 弘
11番	樋口 功	12番	渡邊 千賀雄
13番	原田 重美	14番	大川 憲明
15番	清水 満		

欠席議員（なし）

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町 長	峯村 勝盛	副 町 長	合津 俊雄
教 育 長	馬島 敦子	監 査 委 員	山本 孝利
農業委員会長	清水 藤一	選挙管理委員長	三ツ井 吉次
総務課長	原 章胤	企画課長	徳永 裕二
住民環境課長	梨本 克裕	保健福祉課長	山浦 克彦
産業観光課長	土屋 龍彦	建設水道課長	森 佳也
教育次長	桜井 俊次	飯綱病院事務長	大川 和彦
総務課長補佐	高橋 秀一		

事務局職員出席者

事務局長

高橋吉人

事務局書記

荒井智雄

開議 午後 1時00分

◎開議の宣告

○議長（清水満） 傍聴者の皆さん、おいでいただきましてありがとうございます。

皆さんご苦労様です。

これより本日の会議を開きます。

本日は会議規則第9条第2項の規定により、会議時間を繰り下げて行います。

本日の議事日程は、お手元に配布のとおりであります。

◎諸般の報告

○議長（清水満） 日程第1、諸般の報告に入ります。

報告第2号 議員派遣結果報告。

本報告につきましては、予めお手元に配布のとおり報告を受けておりますので、ご覧をいただきたいと思えます。

以上で諸般の報告を終わります。

◎常任委員会審査報告、質疑

○議長（清水満） 日程第2、常任委員会審査報告に入ります。

予算決算常任委員長より、お手元に配布のとおり報告を受けております。

議員全員による予算決算常任委員会で審査しておりますので、口述による委員長報告及び報告への質疑を省略いたします。

次に総務産業常任委員長の報告を求めます。荒川総務産業常任委員長。

〔総務産業常任委員長 荒川詔夫 登壇・報告〕

○総務産業常任委員長（荒川詔夫） 総務産業常任委員会審査報告を会議規則第77条の規定により報告します。

審査報告書に基づき、審査の経過及び結果を事件ごとに報告いたします。

それでは別紙をご参照ください。

総務産業常任委員会審査報告、平成 31 年 3 月 22 日、飯綱町議会議長 清水満様、総務産業常任委員会委員長 荒川詔夫。

本委員会に付託の事件は、審査の結果、下記のとおり決定したので会議規則第 77 条の規定により報告します。

議案第 2 号 新町建設計画の変更について、可決。

議案第 3 号 飯綱町牟礼駅前広場条例、可決。

議案第 4 号 飯綱町駐車場条例の一部を改正する条例、可決。

議案第 7 号 飯綱町給水条例の一部を改正する条例、可決。

議案第 16 号 平成 31 年度飯綱町からまつの丘地区汚水処理場管理事業特別会計予算、可決。

議案第 21 号 平成 31 年度飯綱町農業集落排水事業特別会計予算、可決。

議案第 22 号 平成 31 年度飯綱町飯綱公共下水道事業特別会計予算、可決。

議案第 23 号 平成 31 年度飯綱町住宅地造成事業特別会計予算、可決。

議案第 24 号 平成 31 年度飯綱町水道事業会計予算、可決。

請願第 1 号 政府に対し「消費税増税中止を求める意見書」の提出を求める請願、継続審査。

陳情第 1 号 全国知事会の「米軍基地負担に関する提言」の主旨に基づいて、地方自治の根幹を脅かす日米地位協定の見直しを国に求める意見者を提出する事を求める、継続審査。

陳情第 2 号 奥山等のスギ・ヒノキ放置人工林を、森林環境譲与税（仮称）で順次計画的に皆伐を進め、天然林に戻すことを求める陳情書、不採択。

陳情第 3 号 「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める陳情、不採択。

次に本委員会の審査の経過及び主な質疑、意見について報告します。

議案第 2 号 新町建設計画の変更について、

質疑①、交付税は人口割で決まってくるのか。1 人あたり 30 万円と聞いており、人口減少対

策として若者の増加対策だけではなく、高齢者も含めて移住等の対策を考えた方が良いのでは。

回答①、全てが人口ではなく、例えば学校数や児童数など、様々な項目から算定されている。

高齢者については、地方創生推進交付金の生涯活躍のまち推進事業で施策を推進している。

討論なし、採決の結果、全員賛成で可決とした。

議案第3号 飯綱町牟礼駅前広場条例、

質疑①、第4条のタクシー待機場、バス乗降場、送迎用自家用車場などの台数を教えてもらいたい。

回答①、タクシー用3台、バス乗降用1台、送迎車用17台、駐輪場約60台、障がい者等用駐車場2台。

質疑②、タクシー1台が1カ月1,400円、バス1台が1カ月3,000円の料金は、現在徴収しているのか。徴収していないのであれば、徴収することを各社に理解してもらっているのか。タクシーが常駐していない場合は、料金が掛からないのか。

回答②、現在はしなの鉄道の敷地での営業活動ということで、しなの鉄道が徴収しているが、町の所有となるため、今後は町でほぼ同額を徴収するもので、徴収者が代わるだけなので影響はない。タクシーが常駐していないから料金が掛からないということはない。

質疑⑤、送迎用のスペースに駐車された場合の罰則や対策はどのように考えているか。

回答⑤、罰則は設定していない。長く止められてしまった場合は、第1、第2駐車場で登録していない車へ張り紙をしているように同様の対策を実施していきたい。

質疑⑥、横断歩道は広場の西側にあるが、駅舎前は設置しないのか。

回答⑥、当初予定していたが、公安委員会との協議で設置できなくなった。

討論なし、採決の結果、全員賛成で可決とした。

議案第4号 飯綱町駐車場条例の一部を改正する条例、

質疑①、駅前駐車場に高齢者専用の駐車場は設けないのか。

回答①、今のところ考えていない。利用の実情等を見ながら検討していきたい。

意見②、設置について検討してほしい。

質疑③、施行日が4月1日ということだが、有料駐車場の町民への周知徹底はどのように行うのか。また、有料となることで年間の収入見込みはどのくらいか。

回答③、有料駐車場とする18台のうち、15台は以前あった有料駐車場において既に契約している方々なので、積極的に周知をすることは考えていない。駐車場の年間収入額は52万円ほどを見込んでいる。

討論なし、採決の結果、全員賛成で可決とした。

議案第7号 飯綱町給水条例の一部を改正する条例、

質疑①、今回の条例改正は水道事業に携る町職員のことについてか。

回答①、布設工事監督者は、必要な基礎教育と水道に関する実務経験年数との総合判断によって定められる。職員に限らず民間設計コンサル等についても同様。

討論なし、採決の結果、全員賛成で可決とした。

議案第16号 平成31年度飯綱町からまつの丘地区汚水処理場管理事業特別会計予算、

質疑①、現在、何戸接続しているか。

回答①、41戸である。

討論なし、採決の結果、全員賛成で可決とした。

議案第21号 平成31年度飯綱町農業集落排水事業特別会計予算、

質疑①、汚泥コンポストの利用状況はどのくらいか。

回答①、正確な量は不明。牟礼はある程度の利用があるが、倉井及び平出は微々たるものと考ええる。

質疑③、汚泥コンポストは野菜に有用だとされているので、積極的に用途を考えてほしいが、果樹には有効か。

回答③、汚泥コンポストは、窒素、りん酸、加里の成分が一定でなく、果樹にとっては窒素が多すぎて色づきが悪くなる。また、汚泥に薬剤を少量添加し乾燥させたもののため、単純に散布すると汚泥に戻りハエが集まる原因になる。深耕したり藁や草と発酵させたりして使用すれば良い。また、水田に使用すると有効とされている。

討論なし、採決の結果、全員賛成で可決とした。

議案第 22 号 平成 31 年度飯綱町飯綱公共下水道事業特別会計予算、

質疑①、国道 18 号の人孔高さ調整工事には国からの補助金等はないのか。

回答①、補助金等はない。町下水道は、占有者として国道に下水道を入れさせていただいている立場であり、国道の工事で道の形状が変わり、それに合わせて占有物件の位置を変える必要がある場合、占有者である町が自らの負担で行うことと定められている。なお、国に支払う占有料は 0 円としていただいている。

討論なし、採決の結果、全員賛成で可決とした。

議案第 23 号 平成 31 年度飯綱町住宅地造成事業特別会計予算、

質疑なし、討論なし、採決の結果、全員賛成で可決とした。

議案第 24 号 平成 31 年度飯綱町水道事業会計予算

質疑②、三水会計に浄水場施設改良経費が計上してあるが、今後、三水地区の水源をどこに求めているか。また、良い水を供給するための水道事業の施策を聞かせていただきたい。

回答②、三水浄水場の水源は鳥居川と舟岳水源、清水窪水源で、日向浄水場の水源は土橋の深井戸である。今後については、現在 4 つほど検討中であるが、1 つとして土橋地区において信濃町、中野市と広域的な協力関係を結べないか模索している。また、自前で場所を変えて新しい井戸を掘りたいとの考えもある。三水浄水場では浄水処理方法を改め、高性能な膜ろ過処理も考えていきたい。また、浄水量を減らすため、牟礼地区の水を一部地域だけでも引けないか検討している。

意見③、三水浄水場が大規模改修することになると多額の費用が掛かる。他に水源を求めるか、信濃町あるいは土橋付近に新しい井戸を掘るか検討しているということだが、そろそろ結論を出さないとならないのではないかと。

質疑⑥、飯綱町でまだ石綿管を使っているところはあるのか。

回答⑥、牟礼地区は固定資産台帳上では 1.7 km、三水地区も 1.8 km が残っている。

質疑⑦、石綿管から铸铁管に全部更新するのに何年度くらいまでかかるのか。

回答⑦、現在、町経営戦略において平成 38 年度を目標とした計画があるが、早急に詳細な計画を策定し、1 年でも早く耐震管に更新したいと考えている。なお、三水地区では 31 年度に倉井釜淵地区、32 年度に風坂地区を更新する予定でいる。

討論なし、採決の結果、全員賛成で可決とした。

請願第 1 号 政府に対し「消費税増税中止を求める意見書」の提出を求める請願、
継続審査申出書提出。

陳情第 1 号 全国知事会の「米軍基地負担に関する提言」の主旨に基づいて、地方自治の根幹を脅かす日米地位協定の見直しを国に求める意見者を提出する事を求める、
継続審査申出書提出。

陳情第 2 号 奥山等のスギ・ヒノキ放置人工林を、森林環境譲与税（仮称）で順次計画的に皆伐を進め、天然林に戻すことを求める陳情書、

意見①、陳情内容には不明な箇所があり反対である。具体的には、①間伐をすることにより地表に日が当たり、針葉樹の根茎が大きく張ることで災害防止となる。また、熊の糞やリスの餌により、ドングリ等の種から広葉樹が出てくる。②下層植生の無い林は、皆伐することで土砂崩落が更に大きくなる可能性が大きい。③皆伐した山林の広葉樹の植林は、ニホンジカ等の動物の餌になるため、育つまで保護するか母樹林が無い限り、灌木、笹、つるが繁茂した林になる。④放置してある山林は、鹿、熊等の野生動物による皮剥ぎにより枯死し、自然間伐となり、針・広混交林の山林となるため。

意見②、閉会中の継続審査とすべきである。

継続審査採決、賛成少数で否決とした。

討論なし、採決の結果、賛成少数で不採択とした。

陳情第 3 号 「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める陳情、
説明者、長野地区労働組合連合会事務局長 阿藤氏。

質疑①、中小企業とは、どの範囲を指しているか。

回答①、私たちが考えるには、中小零細企業、個人自営業者までを含めたものであり、大き

な利益を出しているような大企業は当然想定していない。賃金が上がると経営を圧迫してしまう範囲を想定している。

質疑②、小規模企業がそこまでの労働賃金を払って経営ができるのかが疑問。特に中小企業は時給 821 円が限界ではないか。それを上げると経営ができないのではないか。

回答②、フランスの例では、社会保障費の事業主負担の軽減。16 パーセントの最低賃金の引き上げを行った韓国では、中小企業向けの人件費の直接支援。アメリカでは、中小企業への減税という形で支援しつつ、この 3 国は最低賃金を引き上げてきている。当然、そのような措置が無ければ、危惧されているように中小企業は経営が難しくなる。セットで強く求めていかなければならないと思っている。

反対討論、全国一律となれば、生活格差もある中で中小企業や農家の臨時季節雇用主にとって時間給 1,000 円は大変。したがって、全国一律ではなく、生活圏にあった時間給にさせていただきたい。よって、今回の陳情には反対である。

賛成討論、労働力が地方から流出し、都市部で若者人口が増加しているのは最低賃金が高い都府県である。外国人労働者も高い賃金と仕事を都市部に求め、地方から出て行ってしまう。地域間格差の是正と最低賃金の引き上げが必要。政府が言うように 3% ずつ引き上げていくことが妥当であり、政治的決断で労働環境改善と地域経済の向上を目指すべきである。

採決の結果、賛成少数で不採択とした。

以上で本委員会の審査報告を終了いたします。

○議長(清水満) 報告を終結し、これより総務産業常任委員長に対する質疑を行います。

質疑のある方おられますか。目須田議員。

○4番(目須田修) 4番、目須田です。最後のページの陳情第3号には、説明者が明記されております。そこでお伺いします。

その前のページの陳情第1号、陳情第2号、これはある意味、プロの説明不足によるものでこの結果が出たのではないかと察します。説明者は議員以外にいましたでしょうか。

○議長(清水満) 荒川委員長。

○総務産業常任委員長（荒川詔夫） 目須田議員からの質問について、経過の事実を説明させていただきます。

残念ながら、陳情第1号、陳情第2号に当たっては、説明者は当日出席されませんでした。

以上でございます。

○議長（清水満） 他に質疑ある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め質疑を終結します。荒川委員長、ご苦労様でした。

続いて、福祉文教常任委員長の報告を求めます。石川福祉文教常任委員長。

〔福祉文教常任委員長 石川信雄 登壇・報告〕

○福祉文教常任委員長（石川信雄） 福祉文教常任委員会審査報告を会議規則第77条の規定により報告します。

審査報告書に基づき、審査の経過及び結果を事件ごとに報告いたします。

福祉文教常任委員会審査報告、平成31年3月22日、飯綱町議会議長 清水満様、福祉文教常任委員会委員長 石川信雄。

本委員会に付託の事件は、審査の結果、下記のとおり決定したので会議規則第77条の規定により報告します。

議案第5号 飯綱町国民健康保険税条例の一部を改正する条例、可決。

議案第6号 飯綱町社会体育等施設条例の一部を改正する条例、可決。

議案第17号 平成31年度飯綱町訪問看護ステーション特別会計予算、可決。

議案第18号 平成31年度飯綱町国民健康保険事業特別会計予算、可決。

議案第19号 平成31年度飯綱町後期高齢者医療特別会計予算、可決。

議案第20号 平成31年度飯綱町介護保険事業特別会計予算、可決。

議案第25号 平成31年度飯綱町病院事業会計予算、可決。

請願第2号 75歳以上の医療費負担の原則2割化に反対する意見書採択についての請願、不採択。

次に本委員会の審査の経過及び主な質疑、意見について報告します。

議案第5号 飯綱町国民健康保険税条例の一部を改正する条例、

質疑①、限度額の上限が上がったことにより影響を受ける世帯は。

回答①、現段階の調定で9世帯が3万円の増額と思われる。

質疑②、軽減の恩恵を受けられる世帯はどのくらいあるか

回答②、軽減なしから2割軽減になる世帯が12世帯。2割から5割軽減になる世帯が6世帯。

合わせて18世帯が軽減の恩恵を受ける世帯と思われる。しかし、6月にならないと所得が確定しないので、本算定が終わるまでは確定ではない。

質疑③、最近の飯綱町の国保税は安い方とされているが現状はどうか

回答③、平成29年度の1人当たり調定額が86,662円であり、77市町村中50位に位置し、平均よりも低い状況。平成30年度は県が示す標準税率を基に税率改定を行ったが、年金や農業所得等低所得者の割合が増す中、29年度とおよそ同額で増額幅は0.4%であり、昨年とほとんど変わらない額となっている。

討論なし、採決の結果、全員賛成で可決とした。

議案第6号 飯綱町社会体育等施設条例の一部を改正する条例、

質疑①、この条例で旧牟礼西小学校グラウンドを外したというのは、町民が跡地活用後のグラウンドが使いえなくなるということか。

回答①、旧牟礼西小学校グラウンドについては、町民も利用できるよう使用料を含め新たに規定を作る予定。

質疑③、旧三水第二小学校のグラウンドの利用計画はあるか。

回答③、主に駐車場として利用する予定。

質疑⑤、旧牟礼西小学校グラウンドの事業について、t o t oが採択されなかった場合は翌年送りにするということだが、その場合、町民が利用したいときにはどこへ申し込めばよいのか。

回答⑤、教育委員会事務局へ申し込んでもらえばよい。

討論なし、採決の結果、全員賛成で可決とした。

議案第 17 号 平成 31 年度飯綱町訪問看護ステーション特別会計予算、

質疑①、繰入金はどこからの繰入れか。

回答①、訪問看護ステーションの財政調整基金からの繰入れである。

討論なし、採決の結果、全員賛成で可決とした

議案第 18 号 平成 31 年度飯綱町国民健康保険事業特別会計予算、

住民環境課、質疑②、基金繰入金が 0 円の理由は。

回答②、前年度繰越金が 5,000 万円見込めることと、国保税軽減部分である保険基盤安定負担金額の増加をみこし、当初予算では基金を崩さなくてもよいと判断したため。

保健福祉課、質疑③、特定健診の受診率や保健指導の実施率が一定の基準に満たないと、保険者努力支援制度の交付金を受けられないということだが、今年度の受診率、指導実施率をどこまで伸ばしたいと考えているか。

回答③、平成 30 年度の受診率は直近で 41%。10 月の法定報告まで今後も伸びる見込みだが、平成 29 年度の受診率は確定しており 47.3%であるため、50%を目標としたい。保健指導実施率については、平成 29 年度は 64.8%であった。目標の 60%を上回ったが今後も維持していきたい。平成 30 年度の実施率は現在整理中。

質疑④、特定健康診査等事業費には、農協が 1 人あたり 600~800 円程度の補助をしているが、どのように会計処理されているか。

回答④、1 人あたり 800 円の補助を受けており、諸収入としている。実施に際して健診の通知に明記している。

意見⑤、可能であれば、1 人あたり 800 円の補助をしていることを記載し、周知してほしい。

討論なし、採決の結果、全員賛成で可決とした。

議案第 19 号 平成 31 年度飯綱町後期高齢者医療特別会計予算、

質疑②、保険料特例の廃止によってこれから影響を受ける方は。

回答②、9 割軽減対象者は 8 割軽減になる。該当者は 368 人で、9 割の年間保険料 4,000 円

が8割になると8,100円となり、差額4,100円の増額となる。よって、368人の4,100円で、およそ150万円の増額となる。なお、8.5割軽減は31年度も継続のため影響なし。

討論なし、採決の結果、賛成多数で可決とした。

議案第20号 平成31年度飯綱町介護保険事業特別会計予算、

質疑①、29年度決算と31年度予算に7,400万円の差があるのはなぜか。

回答①、30年度の決算内容を分析する中で明らかにし、詳細は行政報告書で報告する。

質疑②、社協からの派遣職員が1名減となり、包括支援センターの予算が減額とのことだが、人員の補充はできるのか。また、主任ケアマネ資格者の後継者確保の予定は。

回答②、派遣職員の減については、4月から育休明けの職員が勤務の予定。臨時嘱託職員については、退職した者の補充を現在募集している。主任ケアマネは計画的な資格取得を進めている。

討論なし、採決の結果、全員賛成で可決とした。

議案第25号 平成31年度飯綱町病院事業会計予算、

質疑①、損益勘定留保資金とはどこにあるか。

回答①、現預金残高。

質疑②、窓口未収金はどのくらいか。

回答②、600万前後。

質疑⑤、看護師の確保の状況はどうか。

回答⑤、厳しい現状である。

質疑⑥、薬剤師の確保の状況はどうか。

回答⑥、病院薬剤師のなり手が少なく、こちらも厳しい現状である。

質疑⑧、看護師修学資金で、飯綱町の人ほどのくらい利用し現状はどうか。

回答⑧、飯綱町の人に限らず、10名程度の利用があった。現状は2名の利用がある。

討論なし、採決の結果、全員賛成で可決とした。

請願第2号 75歳以上の医療費負担の原則2割化に反対する意見書採択についての請願、

説明者、長野地区社会保障推進協議会 小野高聡氏。

質疑①、後期高齢者医療制度を維持していくには、どうしたら良いとお考えか。

回答①、貯蓄の多い方々は生活に事欠かないが、年金だけの所得に頼っている方々にとっては日々の生活に困窮している状況であり、これを解決するには、国民健康保険との関連及び税制上の仕組みを変えるか、国庫負担金を増やすか、税の使途についての配分割合を変えるしかないのではないか。

質問②、飯綱町の3割負担、1割負担の人数は。

回答②、2月末では合計で2,178名。1割負担が2,110人で3割負担は68名。

反対討論、社会保障給付費が増加して、それに伴う公費負担が増している。十分な財源があれば良いのだが、国庫負担金の財源不足分を国債で補っている。保障給付費の増えた分は、国の借金が増えていく。この借金も大変な状態である。国も議論の最中であり、これを見守りたい。よって反対である。

賛成討論、先の説明にあったように1割負担が94.5%、3割負担が5.5%。現在でも貧困と言われる高齢者は27%もあり、今後更に増えると予測される。国債発行についてはチェックしていかなければならないが、社会保障については憲法にもきちんと記されている。安全安心な生活を守っていく上でも採択して国へ意見書を上げていくべきと考える。

反対討論、後期高齢者医療制度を維持していく上では、応能負担の考え方から若干の負担はやむを得ない。生活困窮者の負担が大ならば、救済策については別途の方策を整備していったら良い。よって反対である。

賛成討論、国の予算の使い方によっては医療費も無料になるのではないか。資本主義社会にあっても軍のない国がある。飯綱町の住民も多くは1割負担者であるので賛成である。

採決の結果、賛成少数で不採択とした。

以上で本委員会の審査報告を終了いたします。

○議長（清水満） 報告を終結し、これより福祉文教常任委員長に対する質疑を行います。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑を終結します。石川委員長、ご苦労様でした。

◎常任委員会付託案件に対する討論、採決

○議長（清水満） 日程第3、常任委員会付託案件に対する討論、採決に入ります。

常任委員会付託案件に対する討論、採決の順序につきましては、各案件の議案番号順に行います。

議案第2号 新町建設計画の変更についてを議題とします。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終結し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決です。

本案は、委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第2号 新町建設計画の変更については、委員長の報告のとおり可決されました。

○議長（清水満） 議案第3号 飯綱町牟礼駅前広場条例を議題とします。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終結し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決です。

本案は、委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第3号 飯綱町牟礼駅前広場条例は、委員長の報告のとおり可決されました。

○議長（清水満） 議案第4号 飯綱町駐車場条例の一部を改正する条例を議題とします。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終結し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決です。

本案は、委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第4号 飯綱町駐車場条例の一部を改正する条例は、委員長の報告のとおり可決されました。

○議長（清水満） 議案第5号 飯綱町国民健康保険税条例の一部を改正する条例を議題としま

す。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終結し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する福祉文教常任委員長の報告は可決です。

本案は、委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第5号 飯綱町国民健康保険税条例の一部を改正する条例は、委員長の報告のとおり可決されました。

○議長（清水満） 議案第6号 飯綱町社会体育等施設条例の一部を改正する条例を議題とします。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終結し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する福祉文教常任委員長の報告は可決です。

本案は、委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第6号 飯綱町社会体育等施設条例の一部を改正する条例は、委員長の報告のとおり可決されました。

○議長（清水満） 議案第7号 飯綱町給水条例の一部を改正する条例を議題とします。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終結し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決です。

本案は、委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第7号 飯綱町給水条例の一部を改正する条例は、委員長の報告のとおり可決されました。

○議長（清水満） 議案第8号 平成30年度飯綱町一般会計補正予算（第8号）を議題とします。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終結し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する予算決算常任委員長の報告は可決です。

本案は、委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[起立多数]

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第 8 号 平成 30 年度飯綱町一般会計補正予算（第 8 号）は、委員長の報告のとおり可決されました。

○議長（清水満） 議案第 15 号 平成 31 年度飯綱町一般会計予算を議題とします。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。伊藤議員。

〔9 番 伊藤まゆみ 登壇・討論〕

○9 番（伊藤まゆみ） 議席番号 9 番、伊藤まゆみです。議案第 15 号 平成 31 年度飯綱町一般会計予算の可決に賛成の立場で討論を行います。

現在、審議中の国家予算は 101 兆 4,564 億円と 7 年連続で過去最大となっています。アベノミクスの破綻を隠すための毎月勤労統計のデータの水増しが発覚し、大きな問題となり、国内外に不信が広がっています。

消費税の増税には、元日銀副総裁から、今行うべきではないとの表明がされ、中小企業や商店、国民からの延期、中止を求める声が大きくなっています。

平成 31 年度飯綱町一般会計予算は、86 億 4,000 万円という大きなものになりました。懸案であった庁舎建設、町民、ことに地元住民の関心の高い三水第二小学校、牟礼西小学校の跡利用の具体化、農家の方たちの関心の高い三本松への直売所建設、子育て支援センター、マレットゴルフ場の建設も予定されています。全て建設後、町民とともに育てていくことの必要な施設となります。滞りなく進捗することを期待します。

これまで進まれてきた子育て支援の充実、教育環境の整備、生活支援の充実など、町長の政治姿勢を補強するものとなっており評価できます。

指定管理者への東高原ゴルフ場分の損失補償額の算出根拠は、町民にきちんと説明できるものとするべきと考えます。

以上、賛成の討論といたします。

○議長（清水満） 次に原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。風間議員。

〔2番 風間行男 登壇・討論〕

○2番（風間行男） 賛成討論を行います。議案第15号 平成31年度飯綱町一般会計予算に賛成の討論を行います。

今予算は、長年にわたり町民の要望に応えた内容です。しかし、総務産業常任委員会において、オーガニックリゾート株式会社への補償金1,295万円は再度検討するとの条件で賛成します。

また、庁舎建設、三本松に道の駅、直売所、加工所施設等の建設、道路の新設改良費、保育園・学校にクーラー設置とあります。人口1万人を切る前の予算で子供たちにツケを回さない予算と考えます。

よって、賛成討論とします。

○議長（清水満） 次に原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終結し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する予算決算常任委員長報告は可決です。

本案は、委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第 15 号 平成 31 年度飯綱町一般会計予算は、委員長の報告のとおり可決されました。

○議長（清水満） 議案第 16 号 平成 31 年度飯綱町からまつの丘地区汚水処理場管理事業特別会計予算を議題とします。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終結し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決です。

本案は、委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第 16 号 平成 31 年度飯綱町からまつの丘地区汚水処理場管理事業特別会計予算は、委員長の報告のとおり可決されました。

○議長（清水満） 議案第 17 号 平成 31 年度飯綱町訪問看護ステーション特別会計予算を議題とします。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終結し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する福祉文教常任委員長の報告は可決です。

本案は、委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第 17 号 平成 31 年度飯綱町訪問看護ステーション特別会計予算は、委員長の報告のとおり可決されました。

○議長（清水満） 議案第 18 号 平成 31 年度飯綱町国民健康保険事業特別会計予算を議題とします。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終結し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する福祉文教常任委員長の報告は可決です。

本案は、委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第 18 号 平成 31 年度飯綱町国民健康保険事業特別会計予算は、委員長の報告のとおり可決されました。

○議長（清水満） 議案第 19 号 平成 31 年度飯綱町後期高齢者医療特別会計予算を議題とします。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。伊藤議員。

〔9 番 伊藤まゆみ 登壇・討論〕

○9 番（伊藤まゆみ） 議席番号 9 番、伊藤まゆみです。議案第 19 号 平成 31 年度飯綱町後期高齢者医療特別会計予算の可決に反対の立場で討論を行います。

後期高齢者医療制度は、収入の少ない 75 歳以上の方々を対象としたもので、制度開始当初から制度の維持には無理があることが指摘されていた制度です。

2 年ごとの見直し時にその都度保険料が引き上げられてきましたが、9 割軽減が 8 割軽減となり、加入者 2,178 人のうち 368 人、16.9 パーセントが 2 倍の負担となります。年金は下がり、食品の値上げや燃料の高止まりが続き、医療費も減ることはありません。

私は、制度そのものにも反対してきましたが、町として軽減特例の削減で影響を受ける方々への支援策が行われないことも反対の理由の一つです。

以上、討論を終わります。

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終結し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する福祉文教常任委員長の報告は可決です。

本案は、委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第 19 号 平成 31 年度飯綱町後期高齢者医療特別会計予算は、委員長の報告のとおり可決されました。

○議長（清水満） 議案第 20 号 平成 31 年度飯綱町介護保険事業特別会計予算を議題とします。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終結し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する福祉文教常任委員長の報告は可決です。

本案は、委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第 20 号 平成 31 年度飯綱町介護保険事業特別会計予算は、委員長の報告のとおり可決されました。

○議長（清水満） 議案第 21 号 平成 31 年度飯綱町農業集落排水事業特別会計予算を議題とします。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終結し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決です。

本案は、委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第 21 号 平成 31 年度飯綱町農業集落排水事業特別会計予算は、委員長の報告のとおり可決されました。

○議長（清水満） 議案第 22 号 平成 31 年度飯綱町飯綱公共下水道事業特別会計予算を議題とします。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終結し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決です。

本案は、委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第 22 号 平成 31 年度飯綱町飯綱公共下水道事業特別会計予算は、委員長の報告のとおり可決されました。

○議長（清水満） 議案第 23 号 平成 31 年度飯綱町住宅地造成事業特別会計予算を議題とします。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終結し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決です。

本案は、委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第 23 号 平成 31 年度飯綱町住宅地造成事業特別会計予算は、委員長の報告のとおり可決されました。

○議長（清水満） 議案第 24 号 平成 31 年度飯綱町水道事業会計予算を議題とします。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終結し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する総務産業常任委員長の報告は可決です。

本案は、委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第 24 号 平成 31 年度飯綱町水道事業会計予算は、委員長の報告のとおり可決されました。

○議長（清水満） 議案第 25 号 平成 31 年度飯綱町病院事業会計予算を議題とします。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終結し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する福祉文教常任委員長の報告は可決です。

本案は、委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第 25 号 平成 31 年度飯綱町病院事業会計予算は、委員長の報告のとおり可決されました。

○議長（清水満） 請願第 2 号 75 歳以上の医療費負担の原則 2 割化に反対する意見書採択についての請願を議題とします。

これから本案について討論を行います。

委員長報告は不採択であります。

まず、本案に賛成者の発言を許します。大川議員。

〔14 番 大川憲明 登壇・討論〕

○14 番（大川憲明） 75 歳以上医療費負担の原則 2 割化反対する意見書に賛成する討論を行います。

本年から、後期高齢者医療 75 歳以上の医療費負担を現行の 1 割から 2 割にするという議論が内閣府や財務省、厚生省で開始されております。これに対し、高齢者や医療関係者等から慎重な意見が相次いで出されております。

委員会の中でも、日本の医療費はこれから高齢者が増加し医療費が増加すると考えられるので、現行のままでは国の財政が維持できないのではないかという意見も出されました。

もう一度よく考えてもらいたいと思います。国では、消費税を導入する際に医療・福祉のため必要な財源と言って導入してきました。しかし、現実はどうなっているのでしょうか。福祉・医療に回されているのでしょうか。また、百年大丈夫だと言われて改正された公的年金が毎年毎年減少しております。一体、その時の百年大丈夫と言った改正はどうなったのでしょうか。

そういうことを考えたとき、現在、長野県の後期高齢者医療の人数は3割負担の方は1万8,852人で全体の5.5パーセント、1割負担の方は32万6,336人で94.5パーセントであります。そして、飯綱町の現状は、2月の時点で3割負担は68名、1割負担は211名という報告がありました。

こういうことを聞いて、私は審議があった後、二日間かけて75歳以上の方の48名、そして68歳から74歳の方の17名、この人たちにこの意見書を説明しながら意見をお聞きしました。そこで言われたことは、68歳から74歳の方からは「我々も年々歳を取っていく。できる仕事もできなくなってくる。そうすると徐々に年金に頼らなければ生活をしていけない。そのときに医療費が1割から2割に上がったとなれば、医療にもかかりにくくなっていくだろう。」といった心配の聲が聞かれました。

また、75歳以上の方からは、「もし、日本中の方が医療費を2割以上にしたならば、高齢者の生活保護者は年々増加するのではないか。」との意見も聞かれました。

そのあと、委員会において不採択になってしまったと話したところ、「飯綱町議会は議会改革が進んでいると言うが、しかし皆さんは飯綱町の町民にどのような生活向上のための施策をやったのか。本来の議員の仕事はそういうことではないか。国の財政問題は、国の機関と国会議員が真剣に考えればいい。町会議員は、地元の声を国へ届けたり町へ届けたりするのが本当の仕事ではないか。それを忘れるようだから飯綱町の議員がまだよく見えない。議員活動が見えないと言われている。」と強く言われ、そういうことを考えたときに私はこの意見書の提出は賛成したいと思います。

○議長（清水満） 次に反対者の発言を許します。青山議員。

[10 番 青山弘 登壇・討論]

○10 番（青山弘） 議席番号 10 番、青山弘です。私は、請願第 2 号 75 歳以上の医療費負担の原則 2 割化に反対する意見書採択についての請願の採択に反対の立場で討論いたします。

後期高齢者医療制度の財源構成は、税金の負担が 5 割、現役世代からの後期高齢者支援金、健康保険、それから国民健康保険からの拠出が 4 割、そして 75 歳以上の人納める保険料が 1 割となっています。こうした負担割合の中で、財源の 5 割を占めている公費の部分については、税収だけでは足りなくて赤字の国債で補われているのが現状であります。つまり、将来世代が背負わなければいけない借金が毎年次々投入されているのが現状であります。

健康保険組合連合会、健保連です。それから全国社会保障保険協会、それから日本経済団体連合会、日本商工会議所、日本労働組合総連合会の被用者 5 団体も 75 歳以上の後期高齢者の医療費一部負担を早急に原則 2 割に引き上げることを求める要望書を厚生労働大臣に提出しております。

また、医療専門サイトの「3M」というものがありますが、これは医師を対象に出しているサイトになりますが、後期高齢者の医療費における自己負担額を原則 2 割に引き上げることについてのアンケート調査を行いました。開業医の 53.4 パーセント、それから勤務医の 71.0 パーセントが 2 割負担にするべきだという回答であります。

また、日経ビジネスの行った世代間の公平性に関する意識調査、年金や医療、介護保険制度について、高齢者を優遇し過ぎかとストレートに尋ねたところ、「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」と回答したのが、20 代で約 8 割、30 代も 8 割を超えています。40 代でも 7 割、50 代で 6 割、60 代と 70 代でも 5 割以上です。

75 歳以上の高齢者医療費の負担を現役世代と将来世代が負っているのは間違いなく、負担を負っている皆さんが不公平感を強く持っています。世代間の負担の公平性を図るべきであり、今以上に現役世代、そして将来世代に負担を強いることにつながるような請願には賛成できません。

以上、採択に反対の討論といたします。

○議長（清水満） 次に本案に賛成者の発言を許します。渡邊議員。

〔12番 渡邊千賀雄 登壇・討論〕

○12番（渡邊千賀雄） 議席12番、渡邊千賀雄です。私は、この75歳以上の医療費負担の原則2割化に反対する意見書採択について、賛成の討論を行います。

誰もが高齢者となり老後の現実を考えると、老後の負担は低く安心して医療を受けられるように考えております。そういう点で言えばこの請願に賛成であります。

公的年金の受給額が毎年減少する中で、その影響もあり、一人暮らしの高齢者の約半数は生活保護基準を下回り、高齢世帯の27パーセントが貧困状態になっている状況にあります。そして、この地域の日本共産党の地区委員会でアンケートを取りました。その結果を見ますと、「暮らし向きは非常に苦しい」が半数以上であります。その苦しい原因を伺うと「年金の減額」が1番であり、2番には「介護保険料の増額」、3番目には「消費税の増額」、そしてその次に「医療費の増加」というのがあります。ですから、今でさえ生活が苦しいその原因に医療費が高いという状況であります。そのような状況の中で、医療負担を2割化にすることは追い打ちをかけることになると思います。

そういう点で言えば、国として老後を誰もが安心して暮らせるような、医療を受けられるようなことをやっていくべきであり、こうした請願には賛成であります。

○議長（清水満） 次に本案に反対者の発言を許します。目須田議員。

〔4番 目須田修 登壇・討論〕

○4番（目須田修） 4番、目須田です。請願第2号 75歳以上の医療費負担の原則2割化に反対する意見書採択についての請願に反対の立場で討論します。

国の財政は大いに問題あり、認めざるを得ません。そもそも、現状の保険制度では財政的に無理があります。日本の医療保険制度をこのまま維持していくためには、健康であるために各自自己管理が必要であります。若者に金銭的負担をお願いしてはなりません。

医療を受けるものの負担増は、皆が少しずつ努力することによってやむを得ない措置と考え

ております。

○議長（清水満） 次に本案に賛成者の発言を許します。伊藤議員。

〔9番 伊藤まゆみ 登壇・討論〕

○9番（伊藤まゆみ） 議席番号9番、伊藤まゆみです。請願第2号 75歳以上の医療費負担の原則2割化に反対する意見書採択についての請願の採択に賛成の立場で討論を行います。

特別会計予算の討論の折にも述べましたが、所得の少ない75歳以上の方々の医療制度を維持していくためには、国がそれなりに支えなければ成り立ちません。75歳以上の高齢者の25パーセントが貧困層であり、総務省の平成29年度家計調査報告では、高齢者夫婦無職の世帯では毎月5万5,000円不足して、預貯金を取り崩していると報告されています。また、後期高齢者世帯の貯蓄無し層が15パーセントを超えています。

常任委員会審査の折に明らかになりましたが、長野県の加入者34万5,188人のうち、1割負担は94.5パーセント、飯綱町では2月末で96.9パーセントです。影響は大変大きいものと考えます。

窓口負担の増は受診抑制につながり、重篤化してからの受診は、医療給付費の増加につながります。町がこれまで力を入れ取り組んできた予防医療の充実にも相いれない事態となります。

国は、国民の中に分断を強いる中で非正規雇用の若者が増える中、結婚できない人が増え、少子化が進んでいます。子育て中の世代は、子供たちが学ぶために預貯金を充て、自分たちの将来についての貯蓄が無くなるということにもつながっています。

日本国憲法前文には、国民主権が明記され、国民が全力を挙げて憲法の崇高な理想と目的を達成することを誓うとされています。これは、国民に権力を持つ国が憲法に基づいて行動することを監視するよう義務づけているものです。第25条には、「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」とされています。地方議会の議員は、住民の命と暮らしを守るため、安心して住み続けられる地域を守るため、国がそれに反する施策を行おうとするときは、私は意見書を提出していくべきだと考えています。

議員の皆さんの賢明な判断を期待して討論といたします。以上です。

○議長（清水満） 次に本案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に本案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終結し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

この請願に対する福祉文教常任委員長の報告は不採択です。

請願第2号 75歳以上の医療費負担の原則2割化に反対する意見書採択についての請願を採択することに賛成の方は起立願います。

〔起立少数〕

○議長（清水満） 起立少数です。

したがって、請願第2号 75歳以上の医療費負担の原則2割化に反対する意見書採択についての請願は、不採択と決定いたしました。

○議長（清水満） 陳情第2号 奥山等のスギ・ヒノキ放置人工林を、森林環境譲与税（仮称）

で順次計画的に皆伐を進め、天然林に戻すことを求める陳情書を議題とします。

これから本案について討論を行います。

委員長の報告は不採択であります。

まず、本案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に本案に反対者の発言を許します。荒川議員。

〔8番 荒川詔夫 登壇・討論〕

○8番（荒川詔夫） 議席番号8番、荒川詔夫です。陳情2号について、反対の立場で私の考えの一端を申し述べさせていただきます。

主な反対の理由を簡潔に申し上げますと、まず1点、陳情者の出席が無い場合陳情書に不明

な箇所が散見されたにもかかわらず、質することができず、不明な内容に賛意を示すことができなかったことでもあります。

2点目として、開発した山林の広葉樹はニホンジカ等の動物の餌になったり、母体樹林が無い限り灌木、笹、ツルが繁茂したり、災害のリスクが発生する等々の意見に同意できたことです。

3点目としまして、山林の手入れについて、私も幼少時から携わった経験を通し、陳情書のとおり天然林への復元は難しい等々、体験上を踏まえ判断いたしました。

よって、総合勘案いたしまして反対の立場で討論いたしました。以上です。

○議長（清水満） 次に本案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に本案に反対者の発言を許します。目須田議員。

〔4番 目須田修 登壇・討論〕

○4番（目須田修） 陳情第2号 奥山等のスギ・ヒノキ放置人工林を、森林環境譲与税で順次計画的に皆伐を進め、天然林に戻すことを求める陳情書に反対の立場で意見を申し上げますが、委員会に自分が出席できない立場であることが非常に残念であります。しかも、意見①からしますと完ぺきではありません。若干、自分の森づくりの経験からして情報は不適切です。

そういう意味も含めまして、あまりにも討論が煮詰まっていない。こういう形が見えます。山林、森づくり、そして特に日本は針葉樹林を作ることが森づくりと勧められておりますが、国策としては決して勧められるようなことではありません。

よって、より深い、広い討論を望み反対討論とします。

○議長（清水満） 次に本案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に本案に反対者の発言を許します。目須田議員。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終結し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

この陳情に対する総務産業常任委員長の報告は不採択です。

陳情第2号 奥山等のスギ・ヒノキ放置人工林を、森林環境譲与税（仮称）で順次計画的に皆伐を進め、天然林に戻すことを求める陳情書を採択にすることに賛成の方は起立願います。

〔起立少数〕

○議長（清水満） 起立少数です。

したがって、陳情第2号 奥山等のスギ・ヒノキ放置人工林を、森林環境譲与税（仮称）で順次計画的に皆伐を進め、天然林に戻すことを求める陳情書は、不採択とすることに決定しました

○議長（清水満） 陳情第3号 「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める陳情を議題とします。

これから本案について討論を行います。

委員長の報告は不採択であります。

まず、本案に賛成者の発言を許します。原田議員。

〔13番 原田重美 登壇・討論〕

○13番（原田重美） 13番、原田です。最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める陳情書に対して採択に賛成の立場で討論を行います。

最低賃金は、年々改善されてはきているわけではありますが、日本においても近年、非正規労働者が増え、低所得世帯あるいは若者たちの生活保障は必ずしも十分ではありません。

我が国でも地方の人口減少に歯止めがかからない、これはかなり深刻な問題であります。この背景は、地方の都市機能の不十分さなど様々あるわけですが、いわゆる賃金が低く、中央との格差が拡大していることも若者たちが地方に定着しない大きな理由であります。環境の改善が必要なわけで、我々が住んでいる長野県においても同様でありまして、例えば15歳の子供たちが25歳になったときの定着率というのは、長野県の場合は1を割っておりまして0.75ぐらいというデータもあります。とにかく対応していかなければいけないと思っているところ

でございます。

確かに、最低賃金のアップというのは、中小零細企業とか農業者の皆さんには負担になるという見方も一定の理解をするわけでございますが、今回の陳情では、国の強い支援対策を求めており陳情の趣旨は妥当と考えます。労働環境の改善のために議会は皆で採択していきましよう。よろしく申し上げます。以上です。

○議長（清水満） 次に本案に反対者の発言を許します。風間議員。

〔2番 風間行男 登壇・討論〕

○2番（風間行男） 2番、風間行男ですが、反対の討論を行います。陳情第3号に対して、最低賃金の改善と中小企業支援を求める意見書では、中小企業、大企業問わず、全国一律時給1,000円となっておりますが、零細企業では死活問題です。中小企業への国からの支援も望めません。

問題は、大企業の正規社員の雇用が少なく、非正規労働者の拡大です。大企業に正規社員の雇用拡大を求めるべきです。さらに、大企業が下請けの中小企業に値引きの強要、買ったたき、賃上げの妨げとなっている不当な取引慣行を無くす対策を徹底する必要があります。

最低賃金を大幅に上げる前に中小企業に向けた減税と社会保険料の負担軽減をし、支援しやすい環境を整える要望がありません。単に時給1,000円とすることで問題解決はできないと思います。

よって、反対討論といたします。

○議長（清水満） 次に本案に賛成者の発言を許します。渡邊議員。

〔12番 渡邊千賀雄 登壇・討論〕

○12番（渡邊千賀雄） 議席12番、渡邊千賀雄です。私は、地域からの経済好循環の実現に向け、最低賃金の改善と中小企業支援策の拡充を求める意見書案に賛成の立場で討論いたします。

昨年の3月議会でも同様の意見書を採択しております。この辺は記憶に新しいところだと思います。

最低賃金を引上げることは、日本経済を立て直す道でもあると思います。ですから、昨年だけでも73の地方議会が意見書を提出しております。そういう点からしても、今回の陳情書には

賛成であります。以上であります。

○議長（清水満） 次に本案に反対者の発言を許します。原田議員。

〔6番 原田幸長 登壇・討論〕

○6番（原田幸長） 議席番号6番、原田幸長でございます。私は、陳情第3号の陳情に反対の立場で討論いたします。

最低賃金は、最低賃金審議会、これは公益代表、労働者代表、使用者代表の各同数の委員で構成されておりまして、そこにおいて最低賃金が決定されます。また、地域別最低賃金は、労働者の生計費、労働者の賃金、通常の事業の賃金支払い能力を総合的に勘案して定められるものでございます。

長野県の最低賃金は、746円であり、改定前と比べますと18円増となります。最低賃金は改善されてきていると思います。さらに、安倍総理は同一労働、同一賃金を目指し、積極的な法改正に向けた指針をまとめる方針です。こうした動きは注視していくべきですが、請願項目にある「政治決断で最低賃金をすぐに1,000円以上に引き上げる」ということは性急であります。

よって、この陳情に反対の討論とさせていただきます。

○議長（清水満） 次に本案に賛成者の発言を許します。荒川議員。

〔8番 荒川詔夫 登壇・討論〕

○8番（荒川詔夫） 議席番号8番、荒川詔夫です。陳情第3号について、賛成の立場で意見を述べさせていただきます。

ご承知のとおり、この3号の陳情書は当常任委員会では採決の結果が不採択になりました。私は、この結果を踏まえると、立場上、賛意を示すことに非常に苦渋の選択を迫られたことも事実であります。しかし、私の社会観等を踏まえると、賛意を示すことが私の信念を通すことになり、以下のとおりその一端を申し上げます。

確かに、意見のあったとおり最低賃金が引き上がれば中小企業及び農家等、雇用者の支払賃金負担は増え、一時は負担増が余儀なくされることはそのとおりだと思います。しかし、大きな視点で捉えると、国内の全労働者の4割を非正規社員等が占め、年間賃金は200万円未満で

働いており、ワーキングプアに陥っています。このことにより、貧富の格差社会が拡大している昨今とも言えます。これらの結果、低賃金のひずみにより消費意欲の低下が生じ、社会問題として俎上しているわけでございます。

なお、最低賃金が引き上がることは多くの労働者への賃金再分配率にも関わりが生じ、多くの労働者の賃金が引き上がれば消費拡大につながり、経済好循環社会が形成され、やがては自己にも恩恵が生ずると確信しております。今般の陳情内容は、中小企業支援拡充をセットで求めているので的を得ていると思います。

以上を踏まえ、賛成の討論といたします。

○議長（清水満） 次に本案に反対者の発言を許します。瀧野議員。

〔5番 瀧野良枝 登壇・討論〕

○5番（瀧野良枝） 5番、瀧野良枝です。陳情第3号の採択に反対の立場で討論いたします。

議員必携によりますと請願書並びに陳情書の採択に当たっては、願意が妥当であるか、実現の可能性があるかなどが判断基準とされ、実現の可能性についてはその緊急性や重要性及び財政事情などからみて、ごく近い将来に実現可能性があるものを言い、厳格に解釈しなければならないとあります。

本陳情書において、非正規雇用労働者の増加やワーキングプアという状況は深刻な問題であり、最低賃金の改善という趣旨は理解できるものの今すぐ1,000円に引き上げるべきという時間的な問題と、次に続く中小企業への支援策の部分に関する実現可能性とにタイムラグがあると思われ、ただ一律に最低賃金を1,000円に引き上げることにより、中小企業等の経営を圧迫する事態になりかねないと危惧します。

本町においても、企業への明確な支援策が無い中での賃金の引上げは企業経営を圧迫させ、ひいては働く場の減少につながり、地域の労働力を流出することにもなりません。

以上の理由から本陳情の採択に対して反対をいたします。

○議長（清水満） 次に本案に賛成者の発言を許します。目須田議員。

〔4番 目須田修 登壇・討論〕

○4番（目須田修） 陳情第3号 「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める陳情に賛成の立場で討論をいたします。

まず、中小企業の経営云々、金銭的な問題のように解釈されている方が多いのですが、現状はそういう問題ではありません。

今、東京をはじめとして人材確保に非常に苦労しております。東南アジア、中国、韓国、台湾からの人材はありません。特に、コンビニ、スーパーマーケット、ホテル、レストラン等で働いてくださる低賃金の外国人労働者は、ベトナム、ネパール、ここまでになってしまいました。インドネシア、タイ、マレーシア、ミャンマー、インド、この方々は、パソコンというレベルの中での職業しか求められておりません。

よって、今や日本の中小企業の人材が困難なのです。これが現場です。それにはどうしたら良いか。日本人を含めて最低賃金を上げ、労働条件を良くすることで日本の産業が回ると信じております。日本の国のものの考え方、お金だけではなく、会社は、企業は、社員、労働者で成り立つということを肝にもう一度銘じ、雇用と被雇用者の問題、大企業と中小企業との問題、経営者と労働者の問題、このことをよく吟味して、最低賃金だけでも上げる方向で進めてほしいと思います。賛成の立場での討論でした。

○議長（清水満） 次に本案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に本案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終結し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

この陳情に対する総務産業常任委員長の報告は不採択です。

陳情第3号 「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める陳情を採択することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、陳情第3号 「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める陳情は、採択とすることに決定しました。

○議長（清水満） 暫時休憩に入りたいと思います。再開は3時とします。

休憩 午後 2時45分

再開 午後 3時00分

○議長（清水満） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

ただいま、渡邊千賀雄議員ほか4名から発議第2号 地域から経済好循環の実現に向け最低賃金の改善と中小企業支援策の拡充を求める意見書案が提出されました。

お諮りします。

これを日程に追加し、追加日程第1として議題にしたいと思います。

これにご異議ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認めます。

発議第2号を日程に追加し、追加日程第1として議題とすることに決定しました。

資料配布のため、暫時休憩といたします。

休憩 午後 3時 1分

再開 午後 3時 2分

◎議案第9号の質疑、討論、採決

○議長（清水満） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

日程第4、議案第9号 平成30年度飯綱町からまつの丘地区汚水処理場管理事業特別会計補正予算（第1号）を議題とします。

本案について質疑を行います。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了します。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終了し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第9号 平成30年度飯綱町からまつの丘地区污水处理場管理事業特別会計補正予算（第1号）は、原案のとおり可決されました。

◎議案第10号の質疑、討論、採決

○議長（清水満） 日程第5、議案第10号 平成30年度飯綱町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）を議題とします。

本案について質疑を行います。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了します。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終了し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第 10 号 平成 30 年度飯綱町国民健康保険事業特別会計補正予算（第 3 号）は、原案のとおり可決されました。

◎議案第 11 号の質疑、討論、採決

○議長（清水満） 日程第 6、議案第 11 号 平成 30 年度飯綱町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 1 号）を議題とします。

本案について質疑を行います。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了します。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終了し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[起立多数]

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第 11 号 平成 30 年度飯綱町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 1 号）は、原案のとおり可決されました。

◎議案第 12 号の質疑、討論、採決

○議長（清水満） 日程第 7、議案第 12 号 平成 30 年度飯綱町介護保険事業特別会計補正予算（第 3 号）を議題とします。

本案について質疑を行います。

質疑のある方おられますか。

[「なし」の声あり]

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了します。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

[「なし」の声あり]

○議長（清水満） 次に賛成者の発言を許します。

[「なし」の声あり]

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終了し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[起立多数]

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第 12 号 平成 30 年度飯綱町介護保険事業特別会計補正予算（第 3 号）は、原案のとおり可決されました。

◎議案第 13 号の質疑、討論、採決

○議長（清水満） 日程第 8、議案第 13 号 平成 30 年度飯綱町飯綱公共下水道事業特別会計補正予算（第 3 号）を議題とします。

本案について質疑を行います。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了します。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終了し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第 13 号 平成 30 年度飯綱町飯綱公共下水道事業特別会計補正予算（第 3 号）は、原案のとおり可決されました。

◎議案第 14 号の質疑、討論、採決

○議長（清水満） 日程第 9、議案第 14 号 平成 30 年度飯綱町スキー場事業特別会計補正予算（第 3 号）を議題とします。

本案について質疑を行います。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了します。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終了し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第 14 号 平成 30 年度飯綱町スキー場事業特別会計補正予算（第 3 号）は、
原案のとおり可決されました。

◎議案第 28 号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（清水満） 日程第 10、議案第 28 号 飯綱町特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用
弁償に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇・説明〕（議案第 28 号）

○総務課長（原章胤） 議案第 28 号 飯綱町特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関
する条例の一部を改正する条例について、追加の議案書及び議案の提案説明書 1 ページ上段並
びに新旧対照表をご覧ください。

議案第 28 号につきましては、地域おこし協力隊員の報酬をそれまでの月額 16 万 6,000 円か
ら 20 万 8,000 円以内に、また集落支援員の報酬月額 16 万 6,000 円を 16 万 6,000 円以内に改正

するものであります。

改正の理由でございますが、地域おこし協力隊員及び集落支援員に係る活動経費は、国の支援があり、特別交付税で措置されます。地域おこし協力隊員の報酬費等につきましては、算定基準により上限が 200 万円でありましたが、一定の条件を満たす場合、例えば専門性の高いスキルや交通条件等の悪い地域で活動する場合など、算定基準が 250 万円まで認められることになりました。

また、集落支援員につきましては算定基準の改正はございませんが、勤務日数について週 3 日、4 日とかなる場合も想定されることにより、「以内」を追加するものであります。

施行期日は、平成 31 年 4 月 1 日であります。以上、よろしく申し上げます。

○議長（清水満） 本案について質疑を行います。

質疑のある方おられますか。目須田議員。

○4 番（目須田修） 「特別な能力」という一言が加わっていますが、どのような能力を想定されているのでしょうか。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えいたします。専門性の高いということですが、主には経験を有する方ですとか、そういった方を採用するという場合に上限が 250 万円とされましたので、それを適用させていただきたいという予定でございます。

経験を有する方を専門性の高いスキルという言い方を総務課長から説明させていただきました。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4 番（目須田修） 経験という非常に曖昧な抽象的な表現ですが、それが特別な能力ということと直接結びつくのかどうか説明ください。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えいたします。地域おこし協力隊員の場合、ある程度、「こういうことで募集を掛けます」ということで履歴書を出していただいて、その履歴書を基に私どもが採用、不採用ということを理事者中心に決めていく。その段階で募集した内容に対して専門性を有しているか、経験を有しているかということをも十分判断をさせていただいて、採用しているという状況でございます。

今回、どちらかと言いますと高いスキルや経験を有する地域おこし協力隊もそうですが、もう一方の交通条件が不利である、要は自家用車が無ければ活動ができないといった交通条件が不利な地域については上限を引き上げられることが認められておりまして、原則、今来ていただいている地域おこし協力隊員につきましては、自分で自家用車も準備をいただいていることなども考えますと、交通条件でも自家用車が無ければ不便な地域、どちらかと言いますとそちらの方で報酬を引上げさせていただきたいと思っております。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 本来の理由づけとずれておりますが、必要なものは交通費の補助ということならば、そういう条件にしてください。特別な能力という付け替えは不自然と思われませんがどうですか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 今、課長から説明をさせましたけれども、例えば中には東京で「東京バナナ」の開発に携わってきた人と言え、特別な能力のある人だと解釈しても良いではないですか。

不便と言ったら失礼ですけれども、赤塩焼をやっている彼については、焼物という能力もあるけれども住んでいる地域の交通の便等々が不便で、日頃の買い物をするにも不便な場所にいる等については二十万幾らまで上げさせていただきたいということで、それについては交付税措置があるので、精いっぱいそういう解釈をして広く地域おこし協力隊を集めたいという狙いだと思っただけであればありがたいです。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 企画担当にお伺いします。うちの町の議長を除いた議員の平均報酬は幾らですか。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） 手当を除いてですけれども213万8,000円ほどになるかと思います。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 私、議員としてプライドがあります。私たちも特別な能力と信じて仕事に就いております。この数字と新しい協力隊の数字を比較して、私たちが劣っているという部分を証明してください。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 議員がどういう趣旨でご質問をいただいているか少し私には計り知れないものがございませぬけれども、議員においては議会議員という活動をしていただくための報酬を特別の報酬審議会で議論して決めていただいております。

そして今、ご提案している地域おこし協力隊というのは非常勤の特別な者の報酬についてお願いをしているわけですが、これにつきましては他の委員さん等々の半日幾らとか、または年俸で幾らとか、幾つもの業種があつて、これはその職種に応じた金額を支払いたいということで、議会にお諮りをして決定していただいております。

したがって、私はどちらの活動がどのくらいの評価に値する、しかも金額にしてみればどうかというのは答えるべき物差しは持っておりませぬ。

○議長（清水満） 他に質疑のある方おられませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了します。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終了し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第 28 号 飯綱町特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例は、原案のとおり可決されました。

◎議案第 29 号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（清水満） 日程第 11、議案第 29 号 工事変更請負契約の締結についてを議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇・説明〕（議案第 29 号）

○企画課長（徳永裕二） それでは議案書をお願いします。議案第 29 号 工事変更請負契約の締結について、次のとおり工事変更請負契約を締結したいので、地方自治法第 96 条第 1 項第 5 号及び飯綱町議会の議決に付すべき契約及び財産の取得または処分に関する条例第 2 条の規定により、議会の議決を求めます。

1 としまして、工事名でございますが、平成 30 年度住み慣れた地域に住み続けられる町形成事業飯綱町多世代交流施設建築工事。

2 としまして、工事場所ですが、飯綱町大字普光寺 920 番地。

3 としまして、請負金額でございますが、変更前が 1 億 8,856 万 8,000 円、うち消費税が 1,396 万 8,000 円。変更後でございますが、1 億 9,431 万 3,600 円、うち消費税が 1,439 万 3,600 円。

4としまして、契約の相手方は、住所 長野市三輪7丁目6番1号、氏名 長電建設株式会社、代表者 代表取締役 宮下和彦。

平成31年3月22日提出、飯綱町長 峯村勝盛。

次に、議案の提案説明書1ページ中段をお願いしたいと思います。

1の工事名でございますが、ただいま申し上げたとおりでございます。

2の主な変更内容でございますが、建築場所を確認した油分含有土砂搬出に伴う購入土埋め戻し工の増工、埋め戻し箇所表層改良工の増工及び工事中止に伴う固化材処分費増工などがございます。

変更内容につきましては、以前の補正予算の際、また議会全員協議会などでも説明をしてみました。建築場所において油分を含んだ土砂が確認されたことに伴いまして、これを搬出処理した後の埋め戻し、それから埋め戻しに伴い緩んだ地盤の改良、また既に一部着手しておりました土壌改良の材料を一旦取り除いた際の処分費、こういったものを建築工事に追加するものでございます。

3の関係法令でございますが、記載のとおりでございます。

以上、ご審議の上、お認めいただきますようよろしくお願いいたします。

○議長（清水満） これから質疑を行います。

質疑のある方おられますか。大川議員。

○14番（大川憲明） この契約の変更ですけれども、建てる前に土地の検査をしたと言ったと思いますが、設計するに当たって土地の地盤検査は行ったのですか。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） ボーリング調査は実施しております。

○議長（清水満） 大川議員。

○14番（大川憲明） そうなれば、運悪く油の部分を抜けたということですか。そうすると、図面を描いた設計士さんたちは最初から知らなかったということですか。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） ボーリング調査の際には油を含んでいる土砂のことは分からなかったというものですし、付近に臭いとかがあれば分かると思いますが、そういったこともその時点では確認できなかったということでございます。

○議長（清水満） 他にありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了します。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終了し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第 29 号 工事変更請負契約の締結については、原案のとおり可決されました。

◎議案第 30 号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（清水満） 日程第 12、議案第 30 号 工事請負契約の締結についてを議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇・説明〕（議案第 30 号）

○教育次長（桜井俊次） それでは議案第 30 号をお願いします。追加の議案書及び追加の議案の提案説明書 1 ページ下段をお願いします。

最初に議案書をお願いします。議案第 30 号 工事請負契約の締結について、次のとおり工事請負契約の締結をしたいので、地方自治法第 96 条第 1 項第 5 号及び飯綱町議会の議決に付すべき契約及び財産取得または処分に関する条例第 2 条の規定により、議会の議決を求める。

- 1、契約の目的、飯綱町立小学校・中学校空調設備設置機械設備工事。
- 2、工事場所、飯綱中学校・牟礼小学校・三水小学校。
- 3、契約の方法、一般競争入札。
- 4、契約金額、4,503 万 6,000 円。うち消費税、333 万 6,000 円。
- 5、契約の相手方、住所 長野市大字南長池字古新田 369 番地 5、氏名 株式会社マナテック、代表者 代表取締役 岩田昇。

平成 31 年 3 月 22 日提出、飯綱町長 峯村勝盛。

続きまして、議案の提案説明書 1 ページ下段をお願いします。

工事名につきましては、議案書のとおりでございます。

2 の事業内容でございますけれども、小中学校へのエアコンの設置で牟礼小学校 14 教室、三水小学校 21 教室、飯綱中学校 23 教室を実施する工事内容でございます。なお、エアコンの設置工事につきましては、エアコン本体の機械設置工事と電気工事に分けて発注となりますので、今回はエアコン本体の設置の機械設置工事となります。

3 の契約方法、4 の契約金額、5 の相手方、6 の関係法令につきましては、先ほどの議案書のとおりでございます。

ご審議のほど、よろしく願いいたします。

○議長（清水満） これから質疑を行います。

質疑のある方おられますか。大川議員。

○14 番（大川憲明） 小学校も中学も両方とも耐震工事などいろいろなことをやって間もない建物ですから、図面はありますよね。その図面を見て、例えば H 鋼が入っている所を除くように

指示して、この予算で増工はあり得ないですよ。工事に立ち会ってみたら、そこにH鋼が入っていたから取らないと取り付けられない、そうしたら耐震性が落ちるからということは無いですよね。こういう図面を見せてやればそういうことは起きないです。そこまでやって発注したものと考えますがよろしいですか。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。増工があるかどうかということで、今、この場では増工が無いと言い切ることはできません。

ただし、議員おっしゃるとおり飯綱中学校はまだ造ったばかりですので、設計書があります。それから、小学校につきましては大規模改修を行った設計書がございますので、それを設計者に渡しまして設計をしていただいておりますので、そういうことで発注をしておりますのでよろしくをお願いします。

○議長（清水満） 大川議員。

○14番（大川憲明） 今の説明だと設計者にはその図面を渡してあるということで、そうなれば、万が一、間違いがあつて工事をしなければならないということになると、その増工の責任は設計者になりますよね。もし、仮に増工が起きた場合は、増工分は設計量から差し引くということにしてもらいたいと思います。以上です。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） 今のご質問の件ですけれども、これで施工していく段階でそういうことになりましたら設計者と協議をしてまいりたいと思います。よろしくをお願いします。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 7番、石川信雄でございます。今回の入札に関しまして、入札経過調査をお示しいただいているわけですが、今回の入札で、これは4,170万～5,800万と差がありますけれども、この入札に関して機種限定、また機器の能力を限定して入札されたのかお伺いし

たいと思います。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。機種を選定あるいはスペック等でございますけれども、金抜き設計書には機種を選定とスペックは記載させていただきます。ただ、それと同等品ということで入札は行っています。

○議長（清水満） 渡邊議員。

○12番（渡邊千賀雄） 12番、渡邊千賀雄ですが、入札経過には載っておりますが、こういう事業に地元の業者が参加できる体制を考えてもよかったと思いますが、そういう配慮はされたかどうか。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） 業者選定は企画課で行っておりますが、このエアコンの本体の機械設置工事につきましては、管工事という工種で入札をしてございます。

管工事につきましては、一級の管工事施工技術者という技術職が必要ということで、このくらの金額になりますと技術者を要している業者ということで選定をさせていただいております。ただし、下請け業者は町内業者を使っていただくようなことで仕様書にもお願いしてございますので、町内業者は入札には参加できなかったわけですが、下請けで入ってもらうことを考えております。よろしく申し上げます。

○議長（清水満） 他にありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了します。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終了し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、議案第 30 号 工事請負契約の締結については、原案のとおり可決されました。

◎発議第 1 号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（清水満） 日程第 13、発議第 1 号 飯綱町議会会議規則の一部を改正する規則案を議題とします。

本案について趣旨説明を求めます。議席番号 13 番、原田重美議員。

〔13 番 原田重美 登壇・説明〕（発議第 1 号）

○13 番（原田重美） 議席番号 13 番、原田重美でございます。それでは、発議書を朗読します。

発議第 1 号、平成 31 年 3 月 22 日、飯綱町議会議長 清水満殿。

提出者 飯綱町議会議員 原田重美。

賛成者 飯綱町議会議員 伊藤まゆみ、同じく荒川詔夫、同じく石川信雄、同じく風間行男、同じく青山弘。

飯綱町議会会議規則の一部を改正する規則案。上記の議案を別紙のとおり地方自治法第 112 条の規定により提出します。

一部改正の詳細につきましては、発議書裏面をご覧ください。

提案理由をご説明申し上げます。

一部改正をする箇所につきましては、飯綱町議会会議規則第 2 条「欠席の届出」、第 1 項の一部を改正するものです。

改正内容でございますが、飯綱町議会会議規則は標準町村議会会議規則を準用し、欠席の事由については「事故のため」としております。「事故のため」とは、病気その他の理由により、その職務を行ない得ない、行わない一切の場合を言いますが、この表記が分りづらいため、欠席の理由を「疾病、出産、育児、家族の看護又は介護、配偶者の出産、災害、その他やむを得ない事由」に明文化し、議会活動と家庭生活が両立しやすい環境を整えることで、女性や若者など、多様な層からの議員の輩出を促し、議員のなり手不足解消の一助にしようという狙いでございます。よろしくご審議をお願いします。

○議長（清水満） これから質疑を行います。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了します。原田重美議員、ご苦労様でした。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終了し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、発議第1号 飯綱町議会会議規則の一部を改正する規則案は、原案のとおり可決されました。

◎発議第2号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（清水満） 追加日程第1、発議第2号 地域からの経済好循環の実現に向け最低賃金の改善と中小企業支援策の拡充を求める意見書案を議題とします。

本案について趣旨説明を求めます。議席番号12番、渡邊千賀雄議員。

〔12番 渡邊千賀雄 登壇・説明〕（発議第2号）

○12番（渡邊千賀雄） 議席番号12番、渡邊千賀雄です。

発議第2号、平成31年3月22日、飯綱町議会議長 清水満殿。

提出者 飯綱町議会議員 渡邊千賀雄。

賛成者 飯綱町議会議員 目須田修、同じく石川信雄、同じく伊藤まゆみ、同じく原田重美。

地域からの経済好循環の実現に向け最低賃金の改善と中小企業支援策の拡充を求める意見書案、上記の議案を別紙のとおり会議規則第14条に規定により提出いたします。

それでは、提案理由を申し上げます。

配布された意見書のとおり、労働者の4割が非正規雇用化し、平均賃金は2000年に比べ15パーセントも目減りし、地域別最低賃金は地域間格差も大きく、若い労働者の都市部への流出を招いています。

安倍首相は、最低賃金水準の低さを認め、引き上げを進めると述べ、2010年に行われた雇用戦略対話では、政・労・使による三者合意が成立し、景気状況に配慮しつつ2020年までに全国平均1,000円を目指すとしています。

日本の最低賃金は、低水準と地域間格差が特異点であり、先進諸国のグローバル・スタンダードに近づけるためには、最低賃金の地域間格差を是正し、全国一律最低賃金制への改正と金額の引上げが必要です。

公正取引ルールを確立し、中小企業への具体的な支援策を拡充しながら、最低賃金を引き上げる必要があります。人間らしく生活できる水準の最低賃金を確立し、それを基軸として生活保護基準、税金の課税最低限度等を整備することで、誰もが安心して暮らせる社会をつくることを求める意見書を提出するものであります。

よろしくご審議をお願いします。以上です。

○議長（清水満） これから質疑を行います。

質疑のある方おられますか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 質疑なしと認め、質疑を終了します。渡邊千賀雄議員、ご苦労様でした。

これから本案について討論を行います。

まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 次に賛成者の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 討論なしと認め、討論を終了し採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○議長（清水満） 起立多数です。

したがって、発議第2号 地域からの経済好循環の実現に向け最低賃金の改善と中小企業支援策の拡充を求める意見書案は、原案のとおり可決されました。

◎議員派遣の件

○議長（清水満） 日程第14、議員派遣の件を議題とします。

お諮りします。

会議規則第121条の規定によって、別紙のとおり議員を派遣したいと思います。

ご異議ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認めます。

したがって、別紙のとおり議員を派遣することに決定しました。

◎閉会中の継続審査・継続調査の申し出について

○議長（清水満） 日程第 15、閉会中の継続審査・継続調査の申し出についてを議題とします。

総務産業、福祉文教、予算決算の各常任委員会、議会運営委員会、議会報編集調査特別委員会の各委員長から、会議規則第 75 条の規定によって、お手元に配布した申出書のとおり、閉会中の継続審査及び継続調査の申し出がございます。

お諮りします。

各委員長から申し出のとおり、閉会中の継続審査及び継続調査とすることにご異議ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（清水満） 異議なしと認めます。

したがいまして、申し出のとおり決定しました。

◎町長あいさつ

○議長（清水満） 以上で本日の日程はすべて終了しました。

各位のご協力によりまして、本定例会に付された事件はすべて終了しました。

ここで、峯村町長より発言を求められていますので、これを許可します。峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 平成 31 年 3 月定例議会の閉会にあたり一言ご挨拶申し上げます。

3 月 1 日に開会いたしました今議会におきまして、本日追加提案いたしました案件も含め、全ての議案に対しまして原案どおりのご決定を賜り厚く御礼申し上げます。

一般会計予算は、総額 86 億 4,000 万円と合併後最大の予算規模となりました。庁舎建設や旧小学校の跡利用に伴う工事など、大きな事業が集中したこともありますが、会期中にご意見をいただきました財政運営には万全を期すとともに、予算執行に当たりましては最小で最大の効果が出るような対応をしていく所存であります。議員各位の一層のご指導、ご助言を願うもの

であります。

私は、今会期中に幾つかの感動を受ける機会がございました。

1つは3月2日に開催いたしました企業チャレンジの審査会であります。7人の方が旧小学校を利用した新たな事業を提案されたものですが、それぞれ興味のある提案であり、若い人たちの活力を感じました。昨年のチャレンジも含め、いよいよ具体的に利用が始まると思います。また、中学生や高校生の仕事に対する意見発表もありましたが、これも素晴らしいものでした。

もう1つは、3月9日の夜、奈良本地区で開催された行政懇談会であります。地区の人たちの参加も多くありましたが、主体的に話を進めてくれたのは地元の若い人たちでした。奈良本の世帯数や年齢構成など踏まえた上で、地域の活性化に具体的に取り組みたいことを意見として発言しておりました。組長さんをはじめ、年配の皆さんが若い人に意見を出しやすいような雰囲気、状況を作っていることも心地よく感じました。自分たちで、できること、地域でできること、そして行政として取り組んでほしいことなど、いろいろありました。皆さんの熱い思いを感じた印象深い懇談会でした。

毎年の卒業式におきましても、保育園、小学校、中学校、そして高校とそれぞれ感動を覚え、応援していかなければと決意を新たにいたしました。

飯綱町には、まだまだ若い人材や何とかしようとするエネルギーがたくさんあります。平成31年度一般会計、各特別会計は若い人たちの夢を育て、ひいては町民全体の福祉向上になるような執行を職員とともに進めていく所存であります。重ねて格別なるご理解を願うものであります。

結びに、代表監査員、農業委員長、選挙管理委員長の皆様にはご多様なところ説明員としてご出席賜り御礼を申し上げます。

先日、職員の人事異動の内示を行いましたが、4月から新体制の中で平成31年度事業スタートいたします。

議員各位には一層のご理解ご支援を願いますとともに、体調管理には十分ご注意をいただきますよう申し上げます、閉会の挨拶といたします。誠にありがとうございました。

◎閉議及び閉会の宣告

○議長(清水満) 以上をもちまして会議を閉じ、平成31年3月飯綱町議会定例会を閉会します。
ご苦労様でした。

閉会 午後 3時52分

予算決算常任委員会審査報告

平成 31 年 3 月 22 日

飯綱町議会議長 清 水 満 様

予算決算常任委員会委員長 風 間 行 男

本委員会に付託の事件は、審査の結果、下記のとおり決定したので会議規則第 77 条の規定により報告します。

記

事件番号	件 名	審査の結果
議案第 8 号	平成 30 年度飯綱町一般会計補正予算（第 8 号）	可決
議案第 15 号	平成 31 年度飯綱町一般会計予算	可決

次に本委員会の審査の経過及び主な質疑について報告します。

○議案第 8 号 平成30年度飯綱町一般会計補正予算（第 8 号）

質 疑：なし

討 論：なし

採決の結果：全員賛成で可決とした。

○議案第15号 平成31年度飯綱町一般会計予算

3 月 4 日の本会議において、議長より上記議案について審査の付託を受けました。

予算決算常任委員会では、2 小委員会で分割審査し、3 月 18 日開催の委員会において、各小委員長より詳細な報告を受けました。

最初に、総務産業小委員会の荒川小委員長より報告があり、終了後に質疑を行いました。本報告に記載すべき質疑はありませんでした。

次に、福祉文教小委員会の石川小委員長より報告があり、終了後に質疑を行いました。本報告に記載すべき質疑はありませんでした。

反対討論：なし

賛成討論：来年度予算は、86億4,000万円という大きな予算案となった。懸案であった庁舎建設、町民、殊に地元の方の関心の高い三水第二小学校、牟礼西小学校の跡利用の具体化、農家の方たちの関心の高い三本松への直売所の建設、また子育て中や女性の方々の関心の高い子育て支援センターの建設も予定されている。全てこれから町民の皆さんとともに育てていく必要のある施設となる。活性化に大きくつながる事業であり、滞りなく進捗することに期待する。子育て支援の充実、教育環境の充実、生活支援の充実など、これまでの町長の政治姿勢を補強するものとなっており評価できる。しかし、飯綱東高原ゴルフ場の指定管理者への損失補償額は、町民にきちんと説明できる明快なものにすべきと考える。以上、これからの予算の執行に期待して賛成討論とする。

採決の結果：全員賛成で可決とした。

以上

総務産業常任委員会審査報告

平成 31 年 3 月 22 日

飯綱町議会議長 清 水 満 様

総務産業常任委員会委員長 荒 川 詔 夫

本委員会に付託の事件は、審査の結果、下記のとおり決定したので会議規則第 77 条の規定により報告します。

記

事件番号	件 名	審査の結果
議案第 2 号	新町建設計画の変更について	可 決
議案第 3 号	飯綱町牟礼駅前広場条例	可 決
議案第 4 号	飯綱町駐車場条例の一部を改正する条例	可 決
議案第 7 号	飯綱町給水条例の一部を改正する条例	可 決
議案第 16 号	平成 31 年度飯綱町からまつの丘地区汚水処理場管理事業特別会計予算	可 決
議案第 21 号	平成 31 年度飯綱町農業集落排水事業特別会計予算	可 決
議案第 22 号	平成 31 年度飯綱町飯綱公共下水道事業特別会計予算	可 決
議案第 23 号	平成 31 年度飯綱町住宅地造成事業特別会計予算	可 決
議案第 24 号	平成 31 年度飯綱町水道事業会計予算	可 決
請願第 1 号	政府に対し「消費税増税中止を求める意見書」の提出を求める請願	継続審査
陳情第 1 号	全国知事会の「米軍基地負担に関する提言」の主旨に基づいて、地方自治の根幹を脅かす日米地位協定の見直し	継続審査

	を国に求める意見者を提出する事を求める	
陳情第2号	奥山等のスギ・ヒノキ放置人工林を、森林環境譲与税（仮称）で順次計画的に皆伐を進め、天然林に戻すことを求める陳情書	不採択
陳情第3号	「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める陳情	不採択

次に本委員会の審査の経過及び主な質疑、意見について報告します。

○議案第2号 新町建設計画の変更について

質疑①：交付税は人口割で決まってくるのか。1人あたり30万円と聞いており、人口減少対策として若者の増加対策だけではなく、高齢者も含めて移住等の対策を考えた方が良いのでは。

回答①：全てが人口ではなく、例えば学校数や児童数など、様々な項目から算定されている。高齢者については、地方創生推進交付金の生涯活躍のまち推進事業で施策を推進している。

質疑②：高齢者の移住はどのくらいあるか。

回答②：公表されている数字で移住者は15人と把握しているが、年代別では把握していない。

質疑③：面積が減少しているが、減少した場所と減少した理由は。こういった機会は結構あるものか。

回答③：国土調査において、旧三水地区と信濃町の境界を確定したため減少したもの。頻度は国土調査の結果次第なので何とも言えない。

質疑④：測量し直したら面積が変わったというものか。

回答④：そのとおり。

討 論：なし

採決の結果：全員賛成で可決とした。

○議案第3号 飯綱町牟礼駅前広場条例

質疑①：第4条のタクシー待機場、バス乗降場、送迎用自家用車場などの台数を教えてもらいたい。

回答①：タクシー用3台、バス乗降用1台、送迎車用17台、駐輪場約60台、障がい者等用駐車場2台。

質疑②：タクシー1台が1ヶ月1,400円、バス1台が1ヶ月3,000円の料金は、現在徴収しているのか。徴収していないのであれば、徴収することを各社に理解してもらっているのか。

タクシーが常駐していない場合は、料金が掛からないのか。

回答②：現在はしなの鉄道の敷地での営業活動ということで、しなの鉄道が徴収しているが、町の所有となるため、今後は町でほぼ同額を徴収するもので、徴収者が代わるだけなので影響はない。タクシーが常駐していないから料金が掛からないということはない。

質疑③：第 20 条の使用料等の還付はどういうことを想定しているのか。

回答③：公用又は公共の用に供するため、若しくは災害などで使えなくなった場合を想定している。

質疑④：駅南側の山を削り、バスの乗降場を設置する予定であったがどうなっているか。工事の横断面を見せてもらいたい。

回答④：今回の駅前広場条例の適用範囲は、町道から北側の部分。質問の箇所のバス乗降場は平成 31 年度予算には計上していない。そのため、今ある横断面は仮に作成したものであるが、それで良ければご覧いただきたい。

質疑⑤：送迎用のスペースに駐車された場合の罰則や対策はどのように考えているか。

回答⑤：罰則は設定していない。長く止められてしまった場合は、第 1、第 2 駐車場で登録していない車へ張り紙をしているように同様の対策を実施していきたい。

質疑⑥：横断歩道は広場の西側にあるが、駅舎前は設置しないのか。

回答⑥：当初予定していたが、公安委員会との協議で設置できなくなった。

質疑⑦：障がい者等用駐車場が広場と東側に 2 台分設置されているが、送迎用ではなく駐車場のなか。

回答⑦：そのとおり。

討 論：なし

採決の結果：全員賛成で可決とした。

○議案第 4 号 飯綱町駐車場条例の一部を改正する条例

質疑①：駅前駐車場に高齢者専用の駐車場は設けないのか。

回答①：今のところ考えていない。利用の実情等を見ながら検討していきたい。

意見②：設置について検討してほしい。

質疑③：施行日が 4 月 1 日ということだが、有料駐車場の町民への周知徹底はどのように行うのか。また、有料となることで年間の収入見込みはどのくらいか。

回答③：有料駐車場とする 18 台のうち、15 台は以前あった有料駐車場において既に契約している方々なので、積極的に周知をすることは考えていない。駐車場の年間収入額は 52 万円ほどを見込んでいます。

討 論：なし

採決の結果：全員賛成で可決とした。

○議案第 7 号 飯綱町給水条例の一部を改正する条例

質疑①：今回の条例改正は水道事業に携る町職員のことについてか。

回答①：布設工事監督者は、必要な基礎教育と水道に関する実務経験年数との総合判断によって定められる。職員に限らず民間設計コンサル等についても同様。

討 論：なし

採決の結果：全員賛成で可決とした。

○議案第 16 号 平成 31 年度飯綱町からまつの丘地区汚水処理場管理事業特別会計予算について

質疑①：現在、何戸接続しているか。

回答①：41 戸である。

討 論：なし

採決の結果：全員賛成で可決とした。

○議案第 21 号 平成 31 年度飯綱町農業集落排水事業特別会計予算について

質疑①：汚泥コンポストの利用状況はどのくらいか。

回答①：正確な量は不明。牟礼はある程度の利用があるが、倉井及び平出は微々たるものと考えられる。

質疑②：汚泥コンポストの利用を増やす方策は考えられないか。

回答②：何年かに 1 度、農林水産省からコンポスト成分の分析検査を受け、適正であるとして了承を受けている。啓発策として、チラシを作り配布すること及び各地区の管理組合に出向き、利用促進の啓発をしていきたい。

質疑③：汚泥コンポストは野菜に有用だとされているので、積極的に用途を考えてほしいが、果樹には有効か。

回答③：汚泥コンポストは、窒素、りん酸、加里の成分が一定でなく、果樹にとっては窒素が多すぎて色づきが悪くなる。また、汚泥に薬剤を少量添加し乾燥させたもののため、単純に散布すると汚泥に戻りハエが集まる原因になる。深耕したり藁や草と発酵させたりして使用すれば良い。また、水田に使用すると有効とされている。

討 論：なし

採決の結果：全員賛成で可決とした。

○議案第 22 号 平成 31 年度飯綱町飯綱公共下水道事業特別会計予算 について

質疑①：国道 18 号の人孔高さ調整工事には国からの補助金等はないのか。

回答①：補助金等はない。町下水道は、占用者として国道に下水道を入れさせていただいている立場であり、国道の工事で道の形状が変わり、それに合わせて占用物件の位置を変える必要がある場合、占用者である町が自らの負担で行うことと定められている。なお、国に支払う占用料は 0 円としていただいている。

討 論：なし

採決の結果：全員賛成で可決とした。

○議案第 23 号 平成 31 年度飯綱町住宅地造成事業特別会計予算

質 疑：なし

討 論：なし

採決の結果：全員賛成で可決とした。

○議案第 24 号 平成 31 年度飯綱町水道事業会計予算

質疑①：三水地区は牟礼地区に比べ人口が少ないのに営業費用が高額になるのはなぜか。

回答①：メーター交換に係る費用に加え、公用車購入費が含まれているため費用が多くなっている。

質疑②：三水会計に浄水場施設改良経費が計上してあるが、今後、三水地区の水源をどこに求めているか。また、良い水を供給するための水道事業の施策を聞かせていただきたい。

回答②：三水浄水場の水源は鳥居川と舟岳水源、清水窪水源で、日向浄水場の水源は土橋の深井戸である。今後については、現在4つほど検討中であるが、1つとして土橋地区において信濃町、中野市と広域的な協力関係を結べないか模索している。また、自前で場所を変えて新しい井戸を掘りたいとの考えもある。三水浄水場では浄水処理方法を改め、高性能な膜ろ過処理も考えていきたい。また、浄水量を減らすため、牟礼地区の水を一部地域だけでも引けないか検討している。

意見③：三水浄水場が大規模改修することになると多額の費用が掛かる。他に水源を求めるか、信濃町あるいは土橋付近に新しい井戸を掘るか検討しているということだが、そろそろ結論を出さないとならないのではないか。

意見④：信濃町、中野市から水を分けてもらうことはランニングコスト等を考えると良いことだと思う。

質疑⑤：給水収益について、三水地区と牟礼地区ではなぜこれほど差があるのか。

回答⑤：三水地区と牟礼地区では人口が違うため給水量も違う。また、牟礼地区は民間企業からの収益も多い。

質疑⑥：飯綱町でまだ石綿管を使っているところはあるのか。

回答⑥：牟礼地区は固定資産台帳上では1.7km、三水地区も1.8kmが残っている。

質疑⑦：石綿管から铸铁管に全部更新するのに何年度くらいまでかかるのか。

回答⑦：現在、町経営戦略において平成38年度を目標とした計画があるが、早急に詳細な計画を策定し、1年でも早く耐震管に更新したいと考えている。なお、三水地区では31年度に倉井釜淵地区、32年度に風坂地区を更新する予定でいる。

質疑⑧：公営企業会計は、基本的に繰入れなしで黒字にしていくことが基本だと思うが、繰出金を料金に反映させたとき、どの程度の料金を上げないといけないか計算したことがあるか。

回答⑧：計算はしていないが、30%程度上げないと町からの繰入金をゼロにすることはできない。

意見⑨：今までは企業会計の借金が多かったが最近減ってきている。その反面、一般会計が増えてきている。今後も水道会計は将来を見据え、自分たちで黒字になるような努力をしていかなければならないと思う。

討 論：なし

採決の結果：全員賛成で可決とした。

○請願第1号 政府に対し「消費税増税中止を求める意見書」の提出を求める請願

「継続審査申出書提出」

○陳情第 1 号 全国知事会の「米軍基地負担に関する提言」の主旨に基づいて、地方自治の根幹を脅かす日米地位協定の見直しを国に求める意見者を提出する事を求める

「継続審査申出書提出」

○陳情第 2 号 奥山等のスギ・ヒノキ放置人工林を、森林環境譲与税（仮称）で順次計画的に皆伐を進め、天然林に戻すことを求める陳情書

意見①：陳情内容には不明な箇所があり反対である。具体的には、①間伐をすることにより地表に日が当たり、針葉樹の根茎が大きく張ることで災害防止となる。また、熊の糞やリスの餌により、ドングリ等の種から広葉樹が出てくる。②下層植生の無い林は、皆伐することで土砂崩落が更に大きくなる可能性が大きい。③皆伐した山林の広葉樹の植林は、ニホンジカ等の動物の餌になるため、育つまで保護するか母樹林が無い限り、灌木、笹、つるが繁茂した林になる。④放置してある山林は、鹿、熊等の野生動物による皮剥ぎにより枯死し、自然間伐となり、針・広混交林の山林となるため。

意見②：閉会中の継続審査とすべきである。

継続審査採決：賛成少数で否決とした。

討 論：なし

採決の結果：賛成少数で不採択とした。

○陳情第 3 号 「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める陳情

説明者：長野地区労働組合連合会事務局長 阿藤 氏

質疑①：中小企業とは、どの範囲を指しているか。

回答①：私たちが考えるには、中小零細企業、個人自営業者までを含めたものであり、大きな利

益を出しているような大企業は当然想定していない。賃金が上がると経営を圧迫してしまう範囲を想定している。

質疑②：小規模企業がそこまでの労働賃金を払って経営ができるのかが疑問。特に中小企業は時給 821 円が限界ではないか。それを上げると経営ができないのではないか。

回答②：フランスの例では、社会保障費の事業主負担の軽減。16%の最低賃金の引き上げを行った韓国では、中小企業向けの人件費の直接支援。アメリカでは、中小企業への減税という形で支援しつつ、この3国は最低賃金を引き上げてきている。当然、そのような措置が無ければ、危惧されているように中小企業は経営が難しくなる。セットで強く求めていかなければならないと思っている。

反対討論：全国一律となれば、生活格差もある中で中小企業や農家の臨時季節雇用主にとって時間給 1,000 円は大変。したがって、全国一律ではなく、生活圏にあった時間給にしたい。よって、今回の陳情には反対である。

賛成討論：労働力が地方から流出し、都市部で若者人口が増加しているのは最低賃金が高い都府県である。外国人労働者も高い賃金と仕事を都市部に求め、地方から出て行ってしまう。地域間格差の是正と最低賃金の引き上げが必要。政府が言うように3%ずつ引き上げていくことが妥当であり、政治的決断で労働環境改善と地域経済の向上を目指すべきである。

採決の結果：賛成少数で不採択とした。

以上

福祉文教常任委員会審査報告

平成 31 年 3 月 22 日

飯綱町議会議長 清 水 満 様

福祉文教常任委員会委員長 石 川 信 雄

本委員会に付託の事件は、審査の結果、下記のとおり決定したので会議規則第 77 条の規定により報告します。

記

事件番号	件 名	審査の結果
議案第 5 号	飯綱町国民健康保険税条例の一部を改正する条例	可 決
議案第 6 号	飯綱町社会体育等施設条例の一部を改正する条例	可 決
議案第 17 号	平成 31 年度飯綱町訪問看護ステーション特別会計予算	可 決
議案第 18 号	平成 31 年度飯綱町国民健康保険事業特別会計予算	可 決
議案第 19 号	平成 31 年度飯綱町後期高齢者医療特別会計予算	可 決
議案第 20 号	平成 31 年度飯綱町介護保険事業特別会計予算	可 決
議案第 25 号	平成 31 年度飯綱町病院事業会計予算	可 決
請願第 2 号	75 歳以上の医療費負担の原則 2 割化に反対する意見書採択についての請願	不採択

次に本委員会の審査の経過及び主な質疑、意見について報告します。

○議案第 5 号 飯綱町国民健康保険税条例の一部を改正する条例

質疑①：限度額の上限が上がったことにより影響を受ける世帯は。

回答①：現段階の調定で9世帯が3万円の増額と思われる。

質疑②：軽減の恩恵を受けられる世帯はどのくらいあるか

回答②：軽減なしから2割軽減になる世帯が12世帯。2割から5割軽減になる世帯が6世帯。合わせて18世帯が軽減の恩恵を受ける世帯と思われる。しかし、6月にならないと所得が確定しないので、本算定が終わるまでは確定ではない。

質疑③：最近の飯綱町の国保税は安い方とされているが現状はどうか

回答③：平成29年度の1人当たり調定額が86,662円であり、77市町村中50位に位置し、平均よりも低い状況。平成30年度は県が示す標準税率を基に税率改定を行ったが、年金や農業所得等低所得者の割合が増す中、29年度とおおよそ同額で増額幅は0.4%であり、昨年とほとんど変わらない額となっている。

質疑④：軽減判定は各市町村で異なるのか。

回答④：法律改正に基づいた改正のため、当町に限った改正ではない。

討 論：なし

採決の結果：全員賛成で可決とした。

○議案第 6 号 飯綱町社会体育等施設条例の一部を改正する条例

質疑①：この条例で旧牟礼西小学校グラウンドを外したというのは、町民が跡地活用後のグラウンドが使いなくなるということか。

回答①：旧牟礼西小学校グラウンドについては、町民も利用できるよう使用料を含め新たに規定を作る予定。

質疑②：昨年作った規定にグラウンドと体育館という表記はなかったが、そこにはグラウンドと体育館が含まれるということか。

回答②：体育施設という表記の中にグラウンドと体育館が含まれている。

質疑③：旧三水第二小学校のグラウンドの利用計画はあるか。

回答③：主に駐車場として利用する予定。

質疑④：その駐車場の管理者は誰になるのか。また、そこを使いたいときにはどこに申し込めばよいのか。

回答④：現在は教育委員会事務局へ申し込んでもらえばよい。

質疑⑤：旧牟礼西小学校グラウンドの事業について、t o t o が採択されなかった場合は翌年送りにするということだが、その場合、町民が利用したいときにはどこへ申し込めばよいのか。

回答⑤：教育委員会事務局へ申し込んでもらえばよい。

討 論：なし

採決の結果：全員賛成で可決とした。

○議案第 17 号 平成 31 年度飯綱町訪問看護ステーション特別会計予算

質疑①：繰入金はどこからの繰入れか。

回答①：訪問看護ステーションの財政調整基金からの繰入れである。

討 論：なし

採決の結果：全員賛成で可決とした

○議案第 18 号 平成 31 年度飯綱町国民健康保険事業特別会計予算

□住民環境課

質疑①：国民健康保険税の滞納繰越分 800 万円とあるが、昨年と比べてどうか

回答①：実際の調定額はもっとあるが、収納できる見込み金額を計上している。また、収納係が過年度分でどうしても徴収不可のものを不納欠損として調定額を減額することもあるため、収納見込額を昨年と同様に見込んで計上している。

質疑②：基金繰入金が 0 円の理由は

回答②：前年度繰越金が 5,000 万円見込めることと、国保税軽減部分である保険基盤安定負担金額の増加をみこし、当初予算では基金を崩さなくてもよいと判断したため。

□保健福祉課

質疑③：特定健診の受診率や保健指導の実施率が一定の基準に満たないと、保険者努力支援制度の交付金を受けられないということだが、今年度の受診率、指導実施率をどこまで伸ばしたいと考えているか。

回答③：平成 30 年度の受診率は直近で 41%。10 月の法定報告まで今後も伸びる見込みだが、平成 29 年度の受診率は確定しており 47.3%であるため、50%を目標としたい。保健指導実施率については、平成 29 年度は 64.8%であった。目標の 60%を上回ったが今後も維持していきたい。平成 30 年度の実施率は現在整理中。

質疑④：特定健康診査等事業費には、農協が 1 人あたり 600～800 円程度の補助をしているが、どのように会計処理されているか。

回答④：1人あたり800円の補助を受けており、諸収入としている。実施に際して健診の通知に明記している。

意見⑤：可能であれば、1人あたり800円の補助をしていることを記載し、周知してほしい。

討 論：なし

採決の結果：全員賛成で可決とした。

○議案第19号 平成31年度飯綱町後期高齢者医療特別会計予算

質疑①：後期高齢者医療広域連合納付金の行政報告書と予算では、20人くらいの人数の差が出ているがなぜか。

回答①：行政報告書は平均の人数であり、後期高齢者広域連合へ納めている金額の人数は、同連合の試算した数値を用いているため間違いはなく、実数字であり、いただいた保険料をそのまま納付しているだけなので立替えもなく、支払い人数は一致している。

質疑②：保険料特例の廃止によってこれから影響を受ける方は。

回答②：9割軽減対象者は8割軽減になる。該当者は368人で、9割の年間保険料4,000円が8割になると8,100円となり、差額4,100円の増額となる。よって、368人の4,100円で、およそ150万円の増額となる。なお、8.5割軽減は31年度も継続のため影響なし。

討 論：なし

採決の結果：賛成多数で可決とした。

○議案第20号 平成31年度飯綱町介護保険事業特別会計予算

質疑①：29年度決算と31年度予算に7,400万円の差があるのはなぜか。

回答①：30年度の決算内容を分析する中で明らかにし、詳細は行政報告書で報告する。

質疑②：社協からの派遣職員が1名減となり、包括支援センターの予算が減額とのことだが、人員の補充はできるのか。また、主任ケアマネ資格者の後継者確保の予定は。

回答②：派遣職員の減については、4月から育休明けの職員が勤務の予定。臨時嘱託職員については、退職した者の補充を現在募集している。主任ケアマネは計画的な資格取得を進めている。

質疑③：いきいきサロンの開催日を増やし、介護予防事業の総合事業にあてるとのことだが、出演者がほとんどボランティアで賄われている地区がある一方で、組の役員で行われている地区もある。現状をどう考えるか。

回答③：組の役員さんには、組織の在り方や総合事業を理解していただくよう説明したい。

質疑④：認知症対策関連で、GPS設置の補助金はないのか。

回答④：要綱があり予算計上はしているが、利用実績はない。見守りとして、「ささえ愛ネットワーク」の登録をしている方はいる。行方不明になったときには、メール配信により早期発見・保護ができるよう対応している。

討 論：なし

採決の結果：全員賛成で可決とした。

○議案第 25 号 平成 31 年度飯綱町病院事業会計予算

質疑①：損益勘定留保資金とはどこにあるか。

回答①：現預金残高。

質疑②：窓口未収金はどのくらいか。

回答②：600 万前後。

質疑③：繰入金で減額されるものはどういったものか。

回答③：自治体の考え方による。

質疑④：予算書上の損益計算書は赤字となっているが。

回答④：現時点で黒字の予定である。予算上は予定損益であるため、収益を少なく費用を大きくとっている。

質疑⑤：看護師の確保の状況はどうか。

回答⑤：厳しい現状である。

質疑⑥：薬剤師の確保の状況はどうか。

回答⑥：病院薬剤師のなり手が少なく、こちらも厳しい現状である。

質疑⑦：言語聴覚士はいるか。必要性はあるか。

回答⑦：いない。必要性は低い。

質疑⑧：看護師修学資金で、飯綱町の人ほどのくらい利用し現状はどうか。

回答⑧：飯綱町の人に限らず、10 名程度の利用があった。現状は2名の利用がある。

質疑⑨：建物や構築物の老朽化が進んでいるが修理の予算は要求しているか。

回答⑨：あらかじめ把握しているものは予算要求している。

討 論：なし

採決の結果：全員賛成で可決とした。

○請願第 2 号 75 歳以上の医療費負担の原則 2 割化に反対する意見書採 択についての請願

説明者：長野地区社会保障推進協議会 小野高聰氏

質疑①：後期高齢者医療制度を維持していくには、どうしたら良いとお考えか。

回答①：貯蓄の多い方々は生活に事欠かないが、年金だけの所得に頼っている方々にとっては日々の生活に困窮している状況であり、これを解決するには、国民健康保険との関連及び税制上の仕組みを変えるか、国庫負担金を増やすか、税の使途についての配分割合を変えるしかないのではないかと考えます。

質問②：飯綱町の 3 割負担、1 割負担の人数は。

回答②：2 月末では合計で 2,178 名。1 割負担が 2,110 人で 3 割負担は 68 名。

反対討論：社会保障給付費が増加して、それに伴う公費負担が増している。十分な財源があれば良いのだが、国庫負担金の財源不足分を国債で補っている。保障給付費の増えた分は、国の借金が増えていく。この借金も大変な状態である。国も議論の最中であり、これを見守りたい。よって反対である。

賛成討論：先の説明にあったように 1 割負担が 94.5%、3 割負担が 5.5%。現在でも貧困と言われる高齢者は 27% もおり、今後更に増えると予測される。国債発行についてはチェックしていかなければならないが、社会保障については憲法にもきちんと記されている。安全安心な生活を守っていく上でも採択して国へ意見書を上げていくべきと考える。

反対討論：後期高齢者医療制度を維持していく上では、応能負担の考え方から若干の負担はやむを得ない。生活困窮者の負担が大ならば、救済策については別途の方策を整備していったら良い。よって反対である。

賛成討論：国の予算の使い方によっては医療費も無料になるのではないかと考えます。資本主義社会にあっても軍のない国がある。飯綱町の住民も多くは 1 割負担者であるので賛成である。

採決の結果：賛成少数で不採択とした。

以上

別紙会議の経過を記載し、その相違ないことを認め、ここに署名する。

飯綱町議会議長

6 番

7 番

8 番